

**NEC**

ISDNターミナルアダプタ  
Aterm®IR450/D (PC-IR450D1A)  
Aterm®IR450 (PC-IR450S1A)

# 導入 マニュアル

Aterm®

®

SD/RD  
LAN

NEC  
Aterm®IR450

NEC

NEC

NEC

## 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波傷害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

## 輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり外国の規格等には準拠しておりません。本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品に関し海外での保守サービス及び技術サポート等は行っておりません。

## ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載、無断複写することは禁止されています。
- (2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました但、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。
- (4) 本装置の故障、誤作動、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害等の純粋経済損失につきましては、当社はいっさいその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

Windows、Windows NT は米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

Netscape Navigator は米国 Netscape Communications Corporation の登録商標です。その他、各会社名、各製品名は各社の商標または登録商標です。

STAC LZS<sup>®</sup> は米国 Hi/fn 社から技術導入しています。

©NEC Corporation 1999

日本電気株式会社の許可なく複製、改変などをおこなうことはできません。

# はじめに

このたびは、AtermIR( エータームアイアール )450シリーズをお買い上げいただきましてありがとうございます。

AtermIR450シリーズは、アナログポートとデータポートを搭載したISDNターミナルアダプタ(以下TA)に、HUB(ハブ)とルータ機能を搭載した新しいタイプのマルチユースTAです。本書では、AtermIR450シリーズの設置から、ISDN回線や通信機器の接続や、設定のしかたを説明しています。なお、各機種に共通の記述に関しては、以下「Aterm」といいます。

・AtermIR450/D( 型名 PC-IR450D1A )      ・AtermIR450( 型名 PC-IR450S1A )

本書には、ご使用になられる方々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本装置を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。その表示と図記号の意味は次のようになっています。

## 安全に正しくお使いいただくための表示について ...



**危険：**人が死亡するまたは重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



**警告：**人が死亡するまたは重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



**注意：**人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみ発生が想定される内容を示しています。



**お願い：**本装置本来の性能を発揮できなかったり、機能停止をまねく内容を示しています。

### 絵表示の例

⊙記号は禁止の行為であることを告げるものです。



図の中に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

本装置を使用する前に、「安全に正しくお使いいただくために( ~ ページ)を必ずお読みください。また、本書は読んだあとも大切に保管してください。

# 安全に正しくお使いいただくために

## 危険

### アルカリ乾電池ご使用上の注意

アルカリ乾電池内部の液が入ったときは、失明などの障害のおそれがありますので、こすらずに、すぐきれいな水で十分洗ったあと、直ちに医師の治療を受けて下さい。



## 警告

### アルカリ乾電池ご使用上の注意

電池の(+)と(-)を逆にして使用しないでください。充電やショートなどで異常反応を起こしたりして、電池を漏液、発熱、破裂させるおそれがあります。



新しい電池と一度使用した古い電池、種類の異なる電池などを混ぜて使用しないでください。特性の違いから、電池を漏液、発熱、破裂させるおそれがあります。



電池のアルカリ液をなめた場合には、すぐうがいをして医師に相談してください



この電池は充電式ではないので、充電すると液もれ、破損のおそれがあります。



ショート、分解、加熱、火に入れるなどしないでください。  
アルカリ性溶液がもれて眼に入ったり、発熱、破裂の原因となります。



万一、アルカリ性溶液が皮膚や衣服に付着した場合にはきれいな水で洗い流し、眼に入ったときは多量のきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。



電池を入れるとき、電池の外装ラベルをはがしたり、傷つけないでください。電池がショートし、漏液、発熱、破裂するおそれがあります。



## 警告

### 設置場所について

#### 風呂場、シャワー室への設置禁止



風呂場やシャワー室などでは使用しないでください。漏電して、火災・感電の原因となります。

#### 水のかかる場所への設置禁止



水のかかる場所で使用したり、水にぬらすなどして使用しないでください。漏電して、火災・感電の原因となります。

### 電源について

#### 商用電源以外の禁止



AC100Vの家庭用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となります。

差し込み口が2つ以上ある壁の電源コンセントに他の電気製品の電源プラグを差し込む場合は、合計の電源値が電源コンセントの最大値を超えないように注意してください。火災・感電の原因となります。

#### 電源コードの取扱注意



電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら、ご購入店またはNECサービスステーションに修理をご依頼ください。

#### ぬれた手での操作の禁止



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

#### たこあし配線の禁止



本装置の電源コードは、たこあし配線にしないでください。たこあし配線にするとテーブルタップ等が過熱・劣化し火災の原因となります。

 警告

もしもこんなときは

発煙への対処



万一、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してから、ご購入店またはNECサービスステーションに修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

水が装置内部に入った場合の対処



万一、内部に水などが入った場合は、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、ご購入店またはNECサービスステーションにご連絡ください。そのまま使用すると漏電して、火災・感電の原因となります。

異物が装置内部に入った場合の対処



本装置の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどの、異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万一、異物が入った場合は、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、ご購入店またはNECサービスステーションにご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。特に、お子様のいる家庭ではご注意ください。

電源コードが傷んだ場合の対処



電源コードが傷んだ(芯線の露出・断線など)状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、ご購入店またはNECサービスステーションに修理をご依頼ください。

## 警告

### 破損時の対処



万一落としたり、破損した場合は、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、ご購入店またはNECサービスステーションに修理をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

### 禁止事項について

#### 分解・改造の禁止



本装置を分解・改造しないでください。火災・感電の原因となります。

#### ぬらすことの禁止



本装置に水が入ったりしないよう、またぬらさないようご注意ください。漏電して火災・感電の原因となります。

#### ぬれた手でのご操作の禁止



ぬれた手で本装置を操作したり、接続したりしないでください。感電の原因となります。

### その他のご注意

#### 異物を入れないための注意



本装置の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

## 注意

### 設置場所について

#### 火気のそばへの設置禁止



本装置や電源コードを熱器具に近づけないでください。ケースや電源コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

#### 温度の高い場所への設置禁止



直射日光の当たるところや、温度の高いところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。

#### 油飛びや湯気の当たる場所への設置禁止



調理台のそばなど油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

#### さかさま置きの禁止



本装置をさかさまに置かないでください。

#### 不安定な場所への設置禁止



ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。また、本装置の上に重い物を置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

#### 通風孔をふさぐことの禁止



本装置の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。次のような使い方はしないでください。

- ・あお向けや逆さまにする
- ・収納棚や本棚などの風通しの悪い狭い場所に押し込む
- ・じゅうたんや布団の上に置く
- ・テーブルクロスなどを掛ける



## 注意

### 重ね置き禁止

本装置を重ね置きしないでください。重ね置きすると内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

## 電源について

---

### プラグの取扱注意

電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。

抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。

電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

移動させる場合は、本体の電源スイッチを切った後、電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続線ははずしたことを確認の上、行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



### 長期不在時の注意

長時間ご使用ならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、停電用乾電池も取りはずしてください。

### 電源プラグの清掃

電源プラグとコンセントの間のほこりは、定期的(半年に1回程度)に取り除いてください。火災の原因となることがあります。

### アース線の取り付け

万一、漏電した場合の感電事故防止のため、必ずアース線を取り付けてください。

## 注意

### 禁止事項について

#### 乗ることの禁止



本装置に乗らないでください。特に、小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。壊れてけがの原因となることがあります。

### 雷のときの注意

雷が鳴りだしたら、電源コードに触れたり周辺機器の接続をしたりしないでください。落雷による感電の原因となります。



### アルカリ乾電池ご使用上の注意

下記のことを必ず守ってください。乾電池の使い方を間違えると液もれや破損のおそれがあり、機器の故障やけがなどの原因となります。  

- ・使用推奨期限内の単3アルカリ乾電池をお使いください。  
(アルカリ以外のマンガン乾電池などでの動作保証はしていません。)
- ・停電がなくても、1年に1度の割合で新しい電池と交換してください。長期間のあいだ電池を装着したままでご使用になると電池が漏液するおそれがあります。
- ・電池を保管する場合及び廃棄する場合は、テープなどで端子部を絶縁してください。他の電池や金属製のものと混ぜると、漏液、発熱、破裂のおそれがあります。
- ・電池は直射日光・高温・高湿の場所を避けて保管してください。電池を漏液させるおそれがあります。また、電池の性能や寿命を低下させることがあります。
- ・使い切った電池はすぐに器具から取り出してください。  
過放電、高温放置による電池の液もれでの装置の故障については、当社は保証いたしかねます。
- ・電池に直接ハンダ付けをしないでください。
- ・電池を取りはずした場合は、小さなお子さまが電池をなめたり、あやまって飲むことがないようにしてください。電池は幼児の手の届かないところへおいてください。

## STOP お願い

### 設置場所について

---

本装置を安全に正しくお使いいただくために、次のような所への設置は避けてください。

- ・ほこりや振動が多い場所
- ・気化した薬品が充満した場所や、薬品に触れる場所
- ・ラジオやテレビなどのすぐそばや、強い磁界を発生する装置などが近くにある場所
- ・高周波雑音を発生する高周波マシン、電気溶接機等が近くにある場所

### 電源を入れるときのお願い

---

本体の電源を入れるときは電話機の手話器を置いたままにしてください。

### 禁止事項について

---

動作中に接続コード類がはずれたり、接続が不安定になると誤動作の原因となります。動作中は、コネクタの接続部には絶対に触れないでください。

### 日頃のお手入れ

---

汚れたら、乾いた柔らかい布でふきとってください。汚れのひどいときは、中性洗剤を含ませた布でふいたあと、乾いた布でふきとってください。化学ぞうきんの使用は避けてください。ベンジン、シンナーなどの有機溶剤、アルコールは、絶対に使用しないでください。変形や変色の原因となることがあります。

# 目次

はじめに.....	I
安全に正しくお使いいただくために.....	II
<b>1 特長と通信可能な形態.....</b>	<b>1</b>
1-1AtermIR450の特長.....	2
1-2通信可能な形態.....	6
<b>2 設置前の準備.....</b>	<b>9</b>
2-1同梱品の確認.....	10
2-2各部の名称とはたらき.....	12
2-3ディップスイッチについて.....	17
Atermを工場出荷時の状態に戻すには.....	17
2-4INSネット64について.....	19
Atermで利用のできるINSネット64のサービス.....	20
INSネット64加入の手続き.....	21
電話番号でアナログ機器を呼び分けるには.....	24
2-5インターネットについて.....	28
インターネットに必要なもの.....	28
<b>3 接続のしかた.....</b>	<b>31</b>
3-1設置のしかた.....	32
設置の前の確認.....	32
設置.....	33
3-2停電時のための準備.....	34
停電モードを使う.....	34
節電モードを使う.....	35

3-3ケーブルの接続のしかた .....	36
INSネット64をAtermに接続する... .....	38
電源をAtermに接続する... .....	41
電話機やファクスを接続する... .....	43
パソコンのシリアルポートと接続する... .....	45
パソコンの10BASE-Tポートと接続する... .....	47
パソコンのUSBポートと接続する... .....	50
<b>4 Windows98/Windows95でアナログ機能・TA機能・ルータ機能を利用する ...</b>	<b>53</b>
4-1設定をはじめ前の準備 .....	53
4-1-1 設定をはじめ前に .....	54
各機能を利用するための設定の流れ... .....	55
4-1-2 CD-ROMの使い方 .....	56
ユーティリティのインストール... .....	56
4-1-3 らくらくウィザードとは .....	59
らくらくウィザードの機能... .....	59
らくらくウィザードの使い方.. .....	60
らくらくウィザードによるアナログ機能の設定について... .....	61
らくらくウィザードによるTA機能の設定について... .....	61
らくらくウィザードによるルータ機能の設定について... .....	61
4-2アナログ機器( 電話機 )を利用する .....	63
4-2-1 電話機を使う前の確認 .....	64
接続したアナログ機器を確認する... .....	64
4-2-2 アナログポートの設定 .....	65
らくらくウィザードでアナログ機能を設定する... .....	65
4-2-3 電話機を使う .....	71
外線電話をかける... .....	71
外線電話をうける... .....	72
内線電話をかける... .....	73
内線電話をうける... .....	73
通信中の外線電話を他の内線電話へ転送する... .....	74
疑似キャッチホンを使う... .....	76
4-3TA機能を利用してインターネットへダイヤルアップ接続する .....	79

4-3-1 TA機能で接続をはじめ前の確認 .....	80
4-3-2 TA機能でインターネットへ接続するための設定 .....	81
① プロバイダの確認 .....	81
② ダイアルアップネットワークの確認(らくらくウィザードの起動の前に) ..	82
③ ネットワークプロトコルの確認(らくらくウィザードの起動の前に) ..	84
④ らくらくウィザードでTA機能を設定する ..	87
⑤ TA機能でインターネットに接続する ..	91
4-4 ルータ機能を利用してインターネットへダイヤルアップ接続する .....	95
4-4-1 ルータ機能を利用する上での基礎知識 .....	96
インターネットのさまざまな接続形態 ..	98
4-4-2 ルータ機能で接続をはじめ前の確認 .....	99
4-4-3 ルータ機能でインターネットへ接続するための設定 .....	100
① プロバイダの確認(らくらくウィザードの起動の前に) ..	102
② パソコンのネットワークプロトコル(TCP/IP)の確認 ..	103
③ らくらくウィザードでUSBドライバをインストールする ..	106
④ らくらくウィザードでルータ機能を設定する ..	110
⑤ パソコンのネットワークプロトコル(TCP/IP)の設定 ..	118
⑥ パソコンとAtermとの通信を確認する ..	121
⑦ ルータ機能でインターネットに接続する ..	123
4-4-4 LAN上に2台目のパソコンを追加する .....	130
2台目のパソコンを追加する手順 ..	131
4-4-5 USBポートのさまざまな使い方 .....	132
USBポートと10BASE-Tポートを通して、「ファイルとプリンタの共有」機能を使う ..	132
ユーティリティによるUSBドライバのインストール / アップデート ..	138
ユーティリティを使わないUSBドライバのインストール ..	143
USBポートの利用 ..	157
ユーティリティによるUSBドライバのアンインストール方法 ..	158
ユーティリティを使わないUSBドライバのアンインストール方法 ..	159
USBについてのQ&A ..	161
<b>5 Windows NT4.0でアナログ機能・TA機能・ルータ機能を利用する .....</b>	<b>165</b>
5-1 設定をはじめ前の準備 .....	165
5-1-1 設定をはじめ前に .....	166

各機能を利用するための設定の流れ...	167
5-1-2 CD-ROMの使い方 .....	168
ユーティリティのインストール.....	168
5-2アナログ機器( 電話機 )を利用する .....	171
5-2-1 電話機を使う前の確認 .....	172
接続したアナログ機器を確認する.....	172
5-2-2 アナログポートの設定 .....	173
らくらくユーティリティで設定する.....	173
5-2-3 電話機を使う .....	177
外線電話をかける.....	177
外線電話をうける.....	178
内線電話をかける.....	179
内線電話をうける.....	179
通信中の外線電話を他の内線電話へ転送する.....	180
疑似キャッチホンを使う.....	182
5-3TA機能を利用してインターネットへダイヤルアップ接続する .....	185
5-3-1 TA機能で接続をはじめ前の確認 .....	186
5-3-2 TA機能でインターネットへ接続するための設定 .....	187
① プロバイダの確認.....	187
② Atermをモデムとしてセットアップ.....	188
③ リモートアクセスサービスの設定.....	193
④ プロバイダの設定.....	198
⑤ TA機能でインターネットに接続する.....	203
5-4ルータ機能を利用してインターネットへダイヤルアップ接続する .....	207
5-4-1 ルータ機能を利用する上での基礎知識 .....	208
インターネットのさまざまな接続形態.....	210
5-4-2 ルータ機能で接続をはじめ前の確認 .....	211
5-4-3 ルータ機能でインターネットへ接続するための設定 .....	212
① プロバイダの確認.....	213
② ネットワークプロトコル( TCP/IP )の設定.....	213

③ パソコンとAtermとの通信を確認する...	216
④ WWWブラウザでAtermを設定する...	217
⑤ ルータ機能でインターネットに接続する...	220
5-4-4 LAN上に2台目のパソコンを追加する .....	227
2台目のパソコンを追加する手順...	228

## 6 Macintoshでアナログ機能・TA機能・ルータ機能を利用する ..... 229

6-1設定をはじめる前の準備 .....	229
6-1-1 設定をはじめる前に .....	230
各機能を利用するための設定の流れ...	231
6-1-2 CD-ROMの使い方 .....	232
ユーティリティのインストール...	232
6-2アナログ機器(電話機)を利用する .....	235
6-2-1 電話機を使う前の確認 .....	236
接続したアナログ機器を確認する...	236
6-2-2 アナログポートの設定 .....	237
らくらくユーティリティで設定する...	237
6-2-3 電話機を使う .....	242
外線電話をかける...	242
外線電話をうける...	243
内線電話をかける...	244
内線電話をうける...	244
通信中の外線電話を他の内線電話へ転送する...	245
疑似キャッチホンを使う...	247
6-3TA機能を利用してインターネットへダイヤルアップ接続する .....	249
6-3-1 TA機能で接続をはじめる前の確認 .....	250
6-3-2 TA機能でインターネットへ接続するための設定 .....	251
① プロバイダの確認 .....	251
② ソフトウェアの確認...	251
③ TCP/IPソフトウェアの設定 .....	253



④ PPPソフトウェアの設定.....	255
⑤ TA機能でインターネットに接続する.....	262
6-4 ルータ機能を利用してインターネットへダイヤルアップ接続する .....	269
6-4-1 ルータ機能を利用する上での基礎知識 .....	270
インターネットのさまざまな接続形態.....	272
6-4-2 ルータ機能で接続をはじめる前の確認 .....	273
6-4-3 ルータ機能でインターネットへ接続するための設定 .....	274
① プロバイダの確認.....	275
② ネットワークプロトコル(TCP/IP)の設定.....	275
③ WWWブラウザでAtermを設定する.....	276
④ ルータ機能でインターネットに接続する.....	279
6-4-4 LAN上に2台目のパソコンを追加する .....	282
2台目のパソコンを追加する手順.....	283
用語解説 .....	284
索引 .....	287





# 1 特長と通信可能な形態

AtermIR450の特長と、様々な通信環境を説明しています。

1-1 AtermIR450の特長

1-2 通信可能な形態

Windows®98はMicrosoft® Windows®98 operating system の略です。

Windows®95はMicrosoft® Windows®95 operating system の略です。

Windows NT®4.0はMicrosoft® Windows NT® operating system version4.0の略です。

1	特長と通信可能な形態
2	設置前の準備
3	接続のしかた
4	Windows98 Windows95
5	WindowsNT4.0
6	Macintosh

# 1-1 AtermIR450の特長

AtermIR450は、「ターミナルアダプタ(TA)機能」「ルータ機能」「HUB」「DSU( DSU内蔵の機種のみ)」を備えた新しいタイプのTAです。

USBポートによるLAN接続が可能のため、従来必要であったLANカード/アダプタを必要としない画期的な接続方法による「ルータ機能」の利用が可能です。

以下、各機種に共通な記述に関しては「Aterm」とします。

## 幅広い拡張性

TA機能( アナログ・データ)に加え、新たにルータ機能( USB・LAN接続での自動ダイヤルアップ接続)が追加されました。

これにより1台のパソコンしかインターネットに接続できなかった環境から、USB、10BASE-Tポートを利用することにより、インターネットへの複数のパソコンからの同時接続へと、拡張性に富んだご利用ができます。

## 通信回線やアナログポートの使用状況がひと目でわかる

### バックライト液晶ディスプレイ搭載

発信中の電話番号、通信料金やデータ通信の状態などを絵文字(ピクトグラム)や文字によるメッセージで表示します。

## 128kbps マルチリンク PPP 通信とBOD機能

INSネット64の2つのBチャンネルを使って、128kbpsの速度で通信できるMultilink Protocol (MP)方式や、通信データ量に応じてチャンネル数を自動的に変更できるBOD( Bandwidth On Demand)機能を利用することができます。

## 同期64kbpsと非同期57.6kbpsの高速通信

データポートから、非同期/同期PPP変換による同期64kbpsと非同期57.6kbpsの高速なインターネットアクセスができます。

## 充実した電話機能

極性反転に対応した高性能なアナログポートを3つ装備しています。内線通話/転送、グローバル着信選択、疑似キャッチホンなどの豊富な電話機能のほかに、フレックスホン(INSキャッチホン、着信転送、三者通話、通信中転送) INSボイスワープ、INSナンバー・ディスプレイ、i・ナンバーにも対応しています。

## 安心の停電モード

不意の停電にもアナログAポートに接続した電話機による通信ができる停電モードを搭載しています。この機能は単3アルカリ乾電池(6本)で動作します。

## アナログ機能を使用したとき

### INS ネット 64 付加サービスに対応

フレックスホン、INSボイスワープなどのINSネット64の付加サービスに対応しています。

### 多彩な回線番号設定

i・ナンバー利用時には、2つの電話番号により発着信時の通信機器を指定することができ、また、ダイヤルインサービス利用時には、最大3つの電話番号を設定できるので、複数の通信機器で回線番号を使い分けすることができます。さらに、グローバル着信時の通信機器を指定することができるので、回線番号を有効に利用することができます。

### 内線通話が可能

3つのアナログポートのそれぞれに電話機を接続することにより、それぞれの電話機どうして通話することができます。

### 着信時の動作設定

アナログ機器を複数台接続しているときに、どのアナログ機器に優先して着信させるかを設定できます。

### 疑似キャッチホン

INS ネット 64 の付加サービスの契約なしで、通話中に別の相手から着信があったときに、通話中の相手を保留にし、別の相手の着信を受けることができます。フレックスホンのINSキャッチホンと同じような機能です。

### 電話機を使った設定が可能

電話機でいろいろなアナログ機能を設定することができます。

1 特長と通信可能な形態

2 設置前の準備

3 接続のしかた

4 Windows98  
Windows95

5 WindowsNT4.0

6 Macintosh

## データ機能を使用したとき

### 多彩な通信モードをサポート

非同期 / 同期PPP変換による同期64kbpsと非同期57.6kbpsの高速なインターネット接続のほか、128kbps マルチリンク通信など、多彩な通信モードを使用することができます。

### らくらくユーティリティによる簡単な設定

Windows98/Windows95、Windows NT4.0や、Macintoshの画面上から、簡単に設定が行えます。

## ルータ機能を使用したとき

### USBポートの仮想LANポート機能

USBポートに接続されているパソコンを、EthernetのLANに収容する機能があります。10BASE-Tポートのパソコンと同様、USBポートのパソコンもLANに収容することができます。通信プロトコルは、IPプロトコルです。

### DHCPサーバ機能で、パソコンのIPアドレスを自動設定

LANに接続しているパソコンのIPアドレスを自動的に割り振るDHCPサーバ機能を搭載しています。DHCPサーバ機能を使用すると、LANに接続している各パソコンのIPアドレスを、各パソコンに設定しなくても自動的に設定されます。

### 複数のPCでインターネットへ同時アクセス。(アドバンスドNAT)

接続時にプロバイダ側から割り当てられる一つのグローバルIPアドレスを、つないだ各パソコンへ自動的にプライベートIPアドレスへと変換します。それにより、一つの端末型ダイヤルアップ契約でも、複数のパソコンから同時に、専用線感覚でインターネットアクセスができます。

10BASE-Tポート(1ポートはカスケード切り替えスイッチ付き)に外付けHUBを増設すれば最大32台までのパソコンを収容可。

### DNSフォワーディング機能

Atermには、接続しているパソコンから送出された名前解決要求を、適切なサーバを選択して自動転送します。プロバイダによってDNSが異なる場合も、自動的に解決します。

## LAN型ダイヤルアップ接続も可能

プロバイダにLAN型ダイヤルアップ接続することも可能です。この場合、LAN上に接続されている複数台のパソコンに対して、プロバイダから指定されるグローバルIPアドレスを設定して通信します。

## リモートアクセスサーバ機能

リモートアクセスサーバ機能が搭載されています。これにより、遠隔地のパソコンからAtermに接続して、LAN上のパソコンと同様にLANの一員となることができます。

## 安心の「コネクションマネージャ」

不必要な通信を最小限に止めるため、基本的なフィルタリング機能が搭載されていますが、使用する環境やアプリケーションによっては、意図していない自動接続をしてしまうのがルータ機能の心配なところです。「コネクションマネージャ」を使用することで、パソコンの画面から、自動発信を簡単に止めることができますので、安心してルータ機能を利用することができます。

## WWWブラウザでAtermの設定、回線切断が可能

LAN上のパソコンからAtermを使用するとき、WWWブラウザから簡単に設定ができます。また、プロバイダなど接続先の設定や回線の切断もWWWブラウザから行えます。

## 圧縮機能をサポートして更にスピードアップ(STAC LZS<sup>®</sup>機能)

Aterm対向で使用する場合にPPPプロトコル上でデータを圧縮する方式のひとつで、IPパケットのヘッダ部とデータ部を圧縮し、通信時間を削減することができます。

また、データ圧縮を行うか行わないかを通信相手と自動的に取り決めることができます。

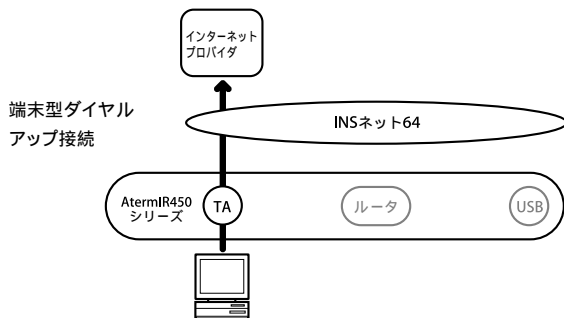
接続先もSTAC LZS<sup>®</sup>をサポートしている必要があります。なお、Aterm以外との対向接続や送受信するデータの内容によっては圧縮が行われない場合があります。

# 1-2 通信可能な形態

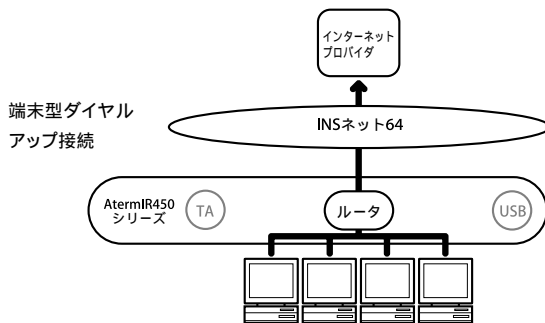
Atermは、多彩な機能を組み合わせて、自由な通信環境を構築できます。

ここで説明している例は、ISDN回線(INSネット64)を使用しているときのみ可能です。

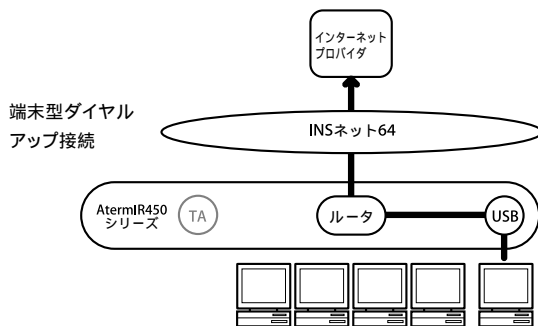
TA機能を利用してデータポートからの端末型ダイヤルアップ接続



ルータ機能を利用して10BASE-Tポートからの端末型ダイヤルアップ接続

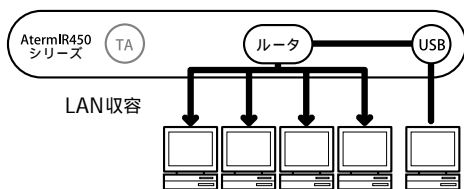


ルータ機能を利用してUSBポートからの端末型ダイヤルアップ接続

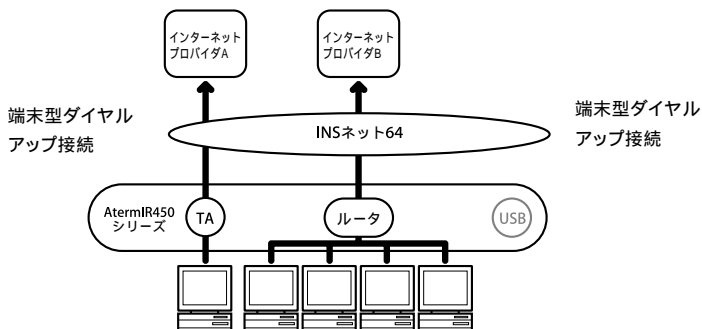




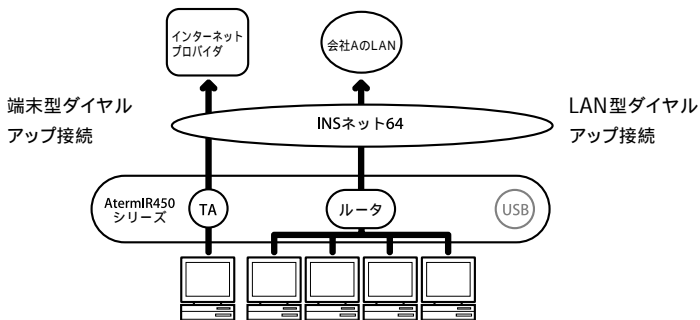
## USBポートのLANへの収容



TA機能とルータ機能を利用して、異なる2か所へ端末型ダイヤルアップ接続



TA機能とルータ機能を利用して、  
端末型ダイヤルアップ接続とLAN型ダイヤルアップ接続の同時接続



1 特長と通信可能な形態

2 設置前の準備

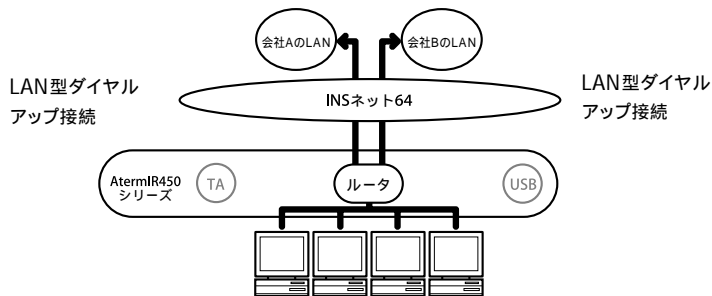
3 接続のしかた

4 Windows98  
Windows95

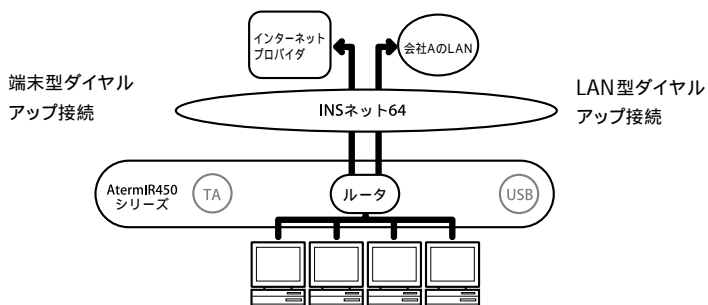
5 WindowsNT4.0

6 Macintosh

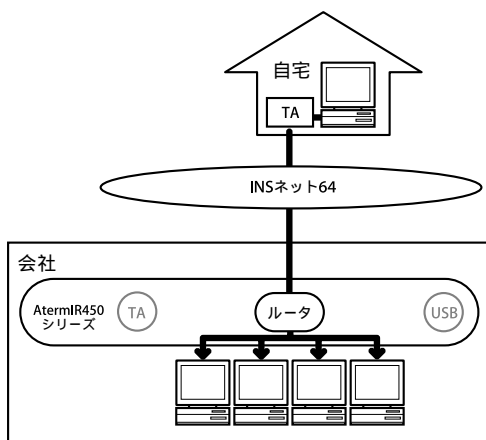
ルータ機能を使用して、異なる2か所へ同時にLAN型ダイヤルアップ接続



ルータ機能を使用して、同時に端末型ダイヤルアップ接続とLAN型ダイヤルアップ接続



リモートアクセスユーザのLAN利用



1 特長と通信可能な形態

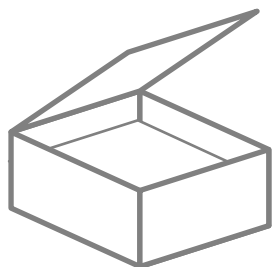
2 設置前の準備

3 接続のしかた

4 Windows98  
Windows95

5 WindowsNT4.0

6 Macintosh



## 2 設置前の準備

Atermを設置、接続する前に確認していただきたいことや、知っておいていただきたいことを説明しています。

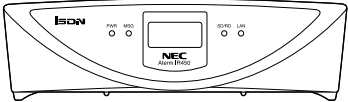
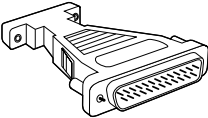
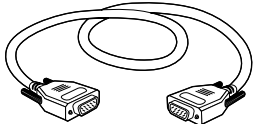
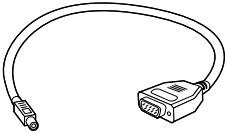
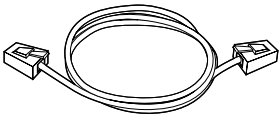
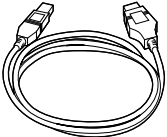
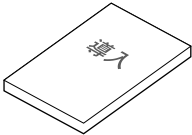
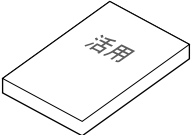
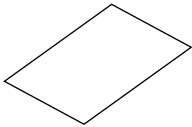
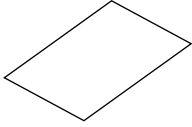
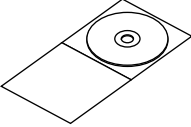
- 2-1 同梱品の確認
- 2-2 各部の名称とはたらき
- 2-3 ディップスイッチについて
- 2-4 INS ネット 64 について
- 2-5 インターネットについて

Windows®98はMicrosoft® Windows®98 operating system の略です。  
Windows®95はMicrosoft® Windows®95 operating system の略です。  
Windows NT®4.0はMicrosoft® Windows NT® operating system version4.0の略です。

## 2-1 同梱品の確認

梱包箱を開いたら、まず次のものがそろっていることを確認してください。もし、不足しているものがありましたら、購入された販売店に連絡してください。

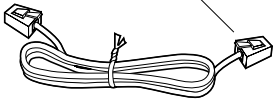
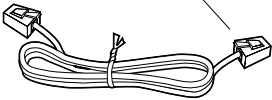
### AtermIR450シリーズ共通品

<p>本体</p> 	<p>D-SUB25 ピン変換コネクタ</p> 	
<p>RS232C ケーブル(D-SUB9 ピン)</p> 	<p>Mac 変換ケーブル</p> 	
<p>LAN ケーブル</p> 	<p>USB ケーブル</p> 	
<p>導入マニュアル</p> 	<p>活用マニュアル</p> 	
<p>ユーザー登録ガイド</p> 	<p>保証書</p> 	<p>CD-ROM</p> 

## CD-ROMに入っているもの

- ・ IR450らくらくウィザード  
(Windows98/Windows95)
- ・ IR450らくらくユーティリティ  
(Windows98/Windows95、Windows NT4.0、Macintosh対応)
- ・ IR450コネクションマネージャ  
(Windows98/Windows95、Windows NT4.0、Macintosh)
- ・ IR450らくらくバージョンアップ
- ・ モデム定義ファイル  
(Windows98/Windows95、Windows NT4.0)
- ・ CCLファイル  
(ARA/Open Transport対応)
- ・ UUIメールEXユーティリティまたは、  
電子メール着信通知・UUIメールユーティリティ
- ・ IR450 USBドライバ  
(Windows98/Windows95 OSR2.5対応)など

## 機種によって異なる品(回線ケーブル)

AtermIR450(DSUなし)	AtermIR450/D
<p>Sバスケーブル (8極モジュラ)</p> 	<p>INSケーブル (6極モジュラ)</p> 

1 特長と通信可能な形態

2 設置前の準備

3 接続のしかた

4 Windows98  
Windows95

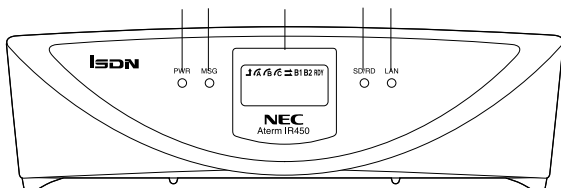
5 WindowsNT4.0

6 Macintosh

## 2-2 各部の名称とはたらき

各部の名称とそれぞれのはたらきを説明しています。

### 前面からみたところ



#### 液晶ディスプレイ

液晶ディスプレイには、回線や通信機器の使用状況および設定時の内容などが、絵文字(ピクトグラム)やメッセージで表示されます。

#### PWR(POWER)ランプ

- 電源が入っているときに、緑色が点灯します。
- 乾電池で動作しているときは、緑色が速く点滅(1秒間に2回)します。
- 乾電池の残量が少なくなると、緑色が遅く点滅(1秒間に1回)します。

#### MSG(MESSAGE)ランプ

- 電子メール着信通知、UUIメールが到着しているときは、オレンジ色に点滅します。

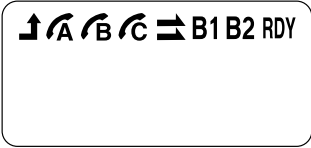
#### SD/RD(Send Data /Receive Data)ランプ

- パソコンからデータポートを使用して、Atermにデータが送られているときは、緑色に点滅します。
- Atermからパソコンにデータを送っているときは、赤色に点滅します。

#### LANランプ

- LANのパケット信号を受信しているときに、点灯します。
- LANランプは、10BASE-Tポートのパケット信号の受信時に点灯します。
- USBポート上のパケット信号があっても点灯しません。

絵文字(ピクトグラム)について




着信転送が設定してあるときに、表示されます。



アナログ(A、B、C)ポートに接続している通信機器が使用中のときに、表示されます。



データ通信中表示されます。



1つのBチャンネルで通信中(64kbps)

2つのBチャンネルで通信中(128kbps)

**B1 B2**

ISDN回線のB1チャンネルを使用しているときはB1が、B2チャンネルを使用しているときはB2が表示されます。

**RDY**

Atermとパソコンが接続され、パソコンのER(Equipment Ready)信号がオンのときに、表示されます。

1 特長と通信可能な形態

2 設置前の準備

3 接続のしかた

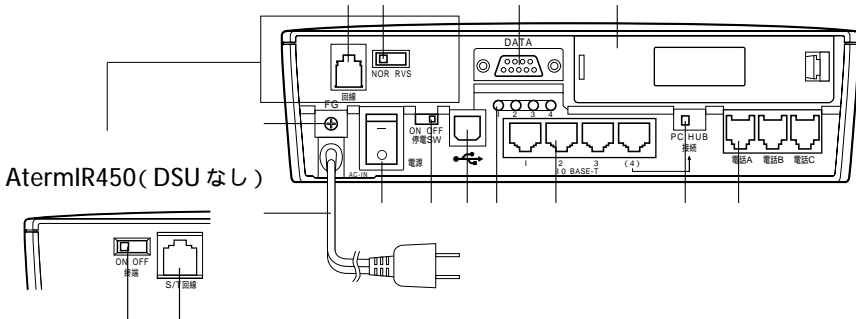
4 Windows98  
Windows95

5 WindowsNT4.0

6 Macintosh

## 背面からみたところ

## AtermIR450/D



## INS回線コネクタ

添付の回線ケーブルを使用して、INSネット64回線と接続するコネクタです。

## INS回線リバーススイッチ

INSネット64の極性を反転させるとき(同期がとれないとき)に切り替えます。

## データポート(RS-232C)

添付のRS-232Cケーブルを使用して、パソコンに接続するコネクタです。

## S点ユニットカバー

S点ユニットを取り付けるときに、このカバーをはずします。

## アース線接続端子


アース線を取り付けるための端子です。

アース線は付属していません。別途用意してください。

## 電源コード

AC100Vの家庭用電源コンセントに接続するコードです。

## 電源スイッチ

電源をオン/オフにするスイッチです。オンにするときは「」側を押します。

## 停電モード切替スイッチ

停電したときに、乾電池による動作にするかどうかを設定するスイッチです。

乾電池は付属していません。一般市場品(単3アルカリ乾電池)を購入してください。

## USBポート

添付のUSBケーブルを使用してパソコンのUSBポートに接続するコネクタです。

1 特長と通信可能な形態

2 設置前の準備

3 接続のしかた

4 Windows98  
Windows95

5 WindowsNT4.0

6 Macintosh



## 10BASE-T ポート状態表示LED 1～4

点灯の場合は、ポートが継続的にリンクパルスを受信している状態を示します。

## 10BASE-T ポート 1～4

10BASE-T でパソコンと Aterm を接続するポートです。

パソコンを2台以上接続する場合は、別途LANケーブル(ストレートケーブル)を用意してください。また、パソコンを5台以上接続する場合は、別途HUBを用意する必要があります。

## カスケード切替スイッチ

10BASE-T ポート4を使い、Atermを他のHUBとカスケード接続するときに10BASE-Tの極性を反転させるスイッチです。HUBとカスケード接続する場合には、このスイッチをHUB側にします。

## アナログポート(A、B、C)

電話機、ファクス、モデム、などを接続するコネクタです。

アナログAポートは、停電中でも乾電池によって使用できます。

## 終端抵抗切替スイッチ

終端抵抗を設定するスイッチです。

## S/T回線コネクタ

添付の回線ケーブルを使用して、DSUと接続するコネクタです。

1 特長と通信可能な形態

2 設置前の準備

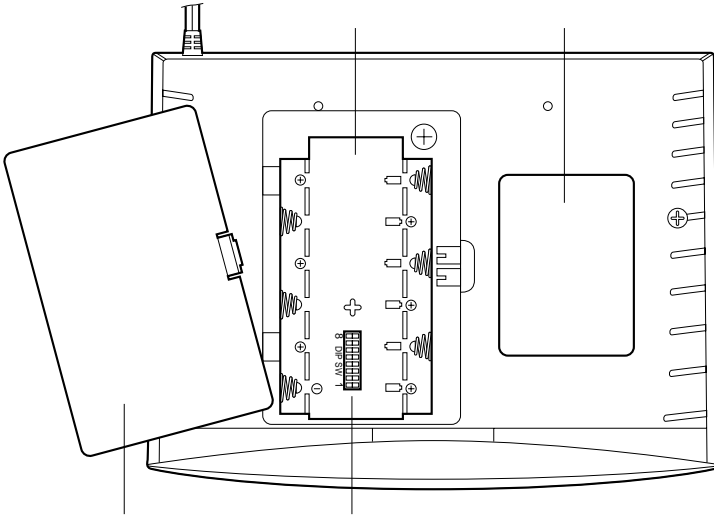
3 接続のしかた

4 Windows98  
Windows95

5 WindowsNT4.0

6 Macintosh

## 底面からみたところ



## 電池ホルダー

停電モードでもAtermを使用したいときに、単3アルカリ乾電池(6本)を入れるホルダーです。

## 品名ラベル

Atermの認証番号や製造番号などが記載されています。

## 電池カバー

ツメの部分を押しながら、カバーを持ち上げるようにしてはずします。

## ディップスイッチ

OCNエコノミー、節電モードなどに設定するときや、Atermを工場出荷時の状態に戻すときに使用します。

1 特長と通信可能な形態

2 設置前の準備

3 接続のしかた

4 Windows98  
Windows95

5 WindowsNT4.0

6 Macintosh

## 2-3 ディップスイッチについて

OCNエコノミー、節電モードなどに設定するときや、工場出荷時の状態に戻すときには、ディップスイッチを変更する必要があります。Aterm底面の電池カバーを開けると、ディップスイッチ(DSW)が見えますので、次の場合は、設定を変更してください。

(1) 節電モードに設定する場合 ●●参照▶ 「3-2 停電時のための準備」34 ページ

(2) OCNエコノミーを利用する場合

●●参照▶ 活用マニュアル「7-10 ルータ機能を利用したその他の接続」

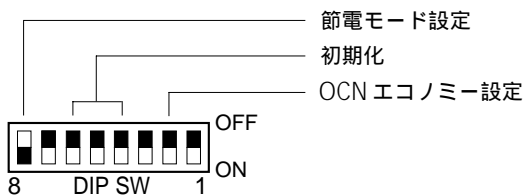
(3) Aterm の設定を工場出荷時の状態に戻す(初期化する)場合(下記参照)

その他の場合は、工場出荷時(購入時)の位置で使用してください。



電源を入れたままでディップスイッチの1から6を変更したときは、電源を入れなおしてください。

ディップスイッチ(黒塗りが工場出荷時です)



### Atermを工場出荷時の状態に戻すには...

手順

以下の手順で設定します。

- 1 電源を切ります。
- 2 ディップスイッチの4、5、6をONにします。
- 3 電源を入れ、約30秒後電源を切ります。
- 4 ディップスイッチを戻し、再度電源を入れると工場出荷時に戻ります。



工場出荷時に戻すその他の方法(詳しくは、各ページを参照してください)

ATコマンドを使用する

初期化コマンド「ATZ98」を入力します。

●●**参照**▶ 活用マニュアル「9 ATコマンド」

1 特長と通信可能な形態

2 設置前の準備

3 接続のしかた

4 Windows98  
Windows95

5 WindowsNT4.0

6 Macintosh

## 2-4 INSネット64について

INS ネット 64 とは、NTT 東日本・NTT 西日本の ISDN 回線サービスのことで、INS ネット 64 には、従来のアナログ回線と比べて、次のような特長があります。

INS ネット 64 について詳しくは、INS ネット 64 の窓口にお問い合わせください。

### 高速64kビットのデジタル回線で高品質な通信が可能

1秒間に64kビット(64kbps)の情報をデジタルな情報のため高品質な通信ができます。さらに、64kビットの通信を2本まとめ最高で128kビットの通信も可能です。

### 1回線で2回線分

INS ネット 64 には、B チャネル(64kbps)2本、D チャネル(16kbps)1本で構成されています。

1つのBチャネルで電話をしながら、もう1つのBチャネルでインターネットを利用することもできます。

### 3つの通信モード

INS ネット 64 で提供している通信モードは、通話、デジタル通信、パケット通信の3種類があります。

### INSネットで提供される多彩なサービス

INS ネット 64 では、基本サービスと、従来のアナログ回線と同様な付加サービスのほか、多彩なネットワーク機能をもつINS ネット 64 特有のサービスがあります。Aterm では、これらのサービスを利用することにより、様々な機能をご利用いただけます。次ページにAterm で利用のできるサービスの一覧がありますので参考にしてください。

サービス内容の詳細は、INS ネット 64 の窓口にお問い合わせください。

## Atermで利用のできるINSネット64のサービス...

Atermで利用のできるINSネット64のサービスの一覧です。(平成11年10月現在)  
マニュアル参照ページにはそのサービスの簡単な説明と、Atermでの利用方法について説明してあります。

サービス名	Atermで利用の可否	マニュアル参照ページ
発信者番号通知サービス		・「INS ネット 64 加入の手続き ...」次ページ ・活用マニュアル「5-3 発信者番号通知サービスの利用」
料金情報通知サービス		
通信中機器移動サービス	x	
サブアドレス通知サービス		・活用マニュアル「5-1 外線電話をかける」 ・活用マニュアル「5-2 外線電話をうける」
ユーザ間情報通知サービス		・「INS ネット 64 加入の手続き ...」次ページ ・活用マニュアル「8-1 電子メール着信通知・UUメール・遊遊メール」
通信中着信通知サービス		・「INS ネット 64 加入の手続き ...」次ページ
i・ナンバー		
ダイヤルインサービス		・「電話番号でアナログ機器を呼び分けるには」24 ページ
グローバル着信		
INSナンバー・ディスプレイ	(Aポートのみ)	・活用マニュアル「5-6 INSナンバー・ディスプレイの利用」
フレックスホン	INSキャッチホン	・活用マニュアル「5-4 フレックスホンの利用」
	三者通話	
	通信中転送	
	着信転送	
INSボイスワープ		・活用マニュアル「5-5 INSボイスワープの利用」
INSボイスワープセレクト		
INSなりわけサービス	x	
OCNエコノミー	(ルータ機能のみ)	・活用マニュアル「7-10 ルータ機能を利用したその他の接続」

INSネット64のサービスには、有料サービスも含まれますので、サービスの詳細につきましては、INSネット64の窓口でご確認ください。

その他、INSネット64のサービスに対するAtermの最新サポート状況につきましては、インターネットホームページ「AtermStation」(<http://aterm.cplaza.ne.jp/>)などで確認してください。

## INSネット64加入の手続き...

Aterm では INS ネット 64 の契約をする必要があります。

INS ネット 64 を新規に申し込む場合は、最寄りの INS ネット 64 の窓口にて備え付けの「INS ネット 64 お申込票」に記入します。

なお、代表取扱やダイヤルインなど、各種付加機能申込みの場合は、「INS ネット 64 サービス付加機能受付票」にも記入します。

### 「INS ネット 64 お申込票」記入方法

「INS ネット 64 お申込票」に添付の「INS ネット 64 お申込票のご記入方法」を参考に指定された太枠内を記入してください。

次ページより記入例がありますのであわせて参考にしてください。



注意 i・ナンバーに関しては、INS ネット 64 の窓口にご相談ください。

細枠内の項目については、INSネット64の窓口の担当者がお尋ねして記入します。次のようにご指定ください。

#### 接続する通信機器

通信機器の名称	: AtermIR450( DSU なし )の場合は、「PC-IR450S1A」と指定 AtermIR450/D の場合は、「PC-IR450D1A」と指定
メーカー	: NEC
数量	: 1
機器工事	: お客さま
認証番号	: 本体裏面の品名ラベルに記載されている認証番号を指定

#### ご確認項目

##### \*\*\* 必須項目 \*\*\*

インタフェース形態及び : 「P-MP 常時」をおすすめします。「P-P」は使用できません。  
レイヤ1 起動種別

発信者番号通知サービス : 「通常通知( 通話ごと非通知 )」をおすすめします。  
発信時、自分の電話番号を相手に通知しない場合は、「通常非通知( 回線ごと非通知 )」にします。この場合、識別着信、ステイルスコールバック等の機能が利用できなくなります。

ユーザー間情報通知サービス : 「着信許可」をおすすめします。  
「着信拒否」にした場合、電子メール着信通知、UUIメール、ユーザー間情報通知の機能の利用ができなくなります。

##### \*\*\* 付加機能項目 \*\*\*

通信中着信通知サービス : 指定することをおすすめします。  
( 無料 ) 指定しない場合、データポート使用中にリソースBOD、電子メール着信通知、UUIメールの着信ができなくなります。  
INS キャッチホンを契約する場合には、指定する必要があります。

ダイヤルインサービス : Atermに接続したアナログ機器( 電話機など )を別々の電話番号で呼び分けたい場合に指定します。  
( 有料 ) 付加機能欄に追加番号数、グローバル着信利用を指定します。追加番号数は、呼び分けるアナログ機器より1つ少ない数を指定します。  
アナログ機器の呼び分けについては、24 ページ「電話番号でアナログ機器を呼び分けるには」を参照してください。

INS ナンバー・ディスプレイ : アナログ回線からの着信をAtermやナンバー・ディスプレイ対応電話機に表示させる場合に指定します。  
( 有料 ) 詳細は、活用マニュアルの「5-6 ナンバー・ディスプレイの利用」を参照してください。

フレックスホン : INS キャッチホンや着信転送等を利用する場合に指定します。  
詳細は、活用マニュアルの「5-4 フレックスホンの利用」を参照してください。

1 特長と通信可能な形態

2 設置前の準備

3 接続のしかた

4 Windows98  
Windows95

5 WindowsNT4.0

6 Macintosh





## 電話番号でアナログ機器を呼び分けるには...



電話番号で、アナログポートを呼び分けるためには、次の2通りの方法があります。

INS ネット 64 の i・ナンバーを契約する

INS ネット 64 のダイヤルインサービスを契約する

条件が異なりますので、それぞれの説明をお読みください。

### INSネット64のi・ナンバーでアナログ機器の呼び分けをする場合

 i・ナンバーの契約必要  Atermの設定必要

INS ネット 64 の i・ナンバーの契約が必要です(月々の利用料金がかかります)

INS ネット 64 の i・ナンバーは INS ネット 64 の契約時に申し込むことができます。

i・ナンバーの契約をすると1本のINSネット64の契約でも、2つの電話番号をもつことができます。そのため、相手がかけたときの電話番号(i・ナンバー情報)ごとに、着信するポートを特定することができます。1つ目の電話番号(契約者回線番号)がi・ナンバー情報1、2つ目の電話番号(ダイヤルイン番号)がi・ナンバー情報2となります。



i・ナンバーとは

発信者がダイヤルした電話番号を、着信側交換機でポート番号に変換して着信側の通信機器に通知。電話番号とポート番号と通信機器を対応させることにより、特定の通話先を呼び出すなど、電話番号に応じた通信機器やサービスの使い分けができます。使い分けが可能な電話番号の数は1回線で2番号(契約者回線番号を含む)です。



i・ナンバーは1回線あたり2番号までの契約です。3つのアナログポートをそれぞれ別番号でなりわけることはできません。3つのアナログポートをそれぞれ別番号でなりわける場合は、ダイヤルインサービスをご利用ください。



INS ネット 64 の契約時に i・ナンバーの契約をしてください。



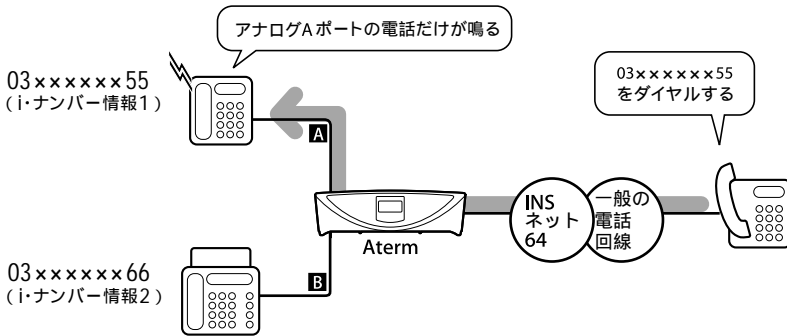
添付CD-ROM内の各ユーティリティで設定する方法と、電話機で設定する方法があります。ユーティリティで設定する場合は各OSにより設定方法が異なります。4章以降の各OSのページを参照して設定してください。電話機で設定する場合は活用マニュアル「4 電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)」を参照して設定してください。

### i・ナンバーで電話機とファクスを呼び分ける場合の例

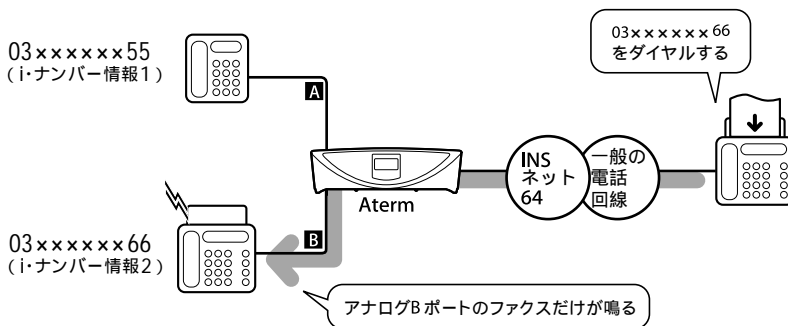
下図のようにアナログポートを呼び分ける場合には、次の設定をする必要があります。

アナログポート	アナログポート接続機器	割り当てる電話番号	
A	電話機(工場出荷時のまま)	i・ナンバー情報1	03xxxxxx55
B	ファクス/モデム	i・ナンバー情報2	03xxxxxx66
C	使用しない		

03xxxxxx55(i・ナンバー情報1)への着信:アナログAポートの電話機のみが鳴ります。



03xxxxxx66(i・ナンバー情報2)への着信:アナログBポートのファクスのみが鳴ります。



1 特長と通信可能な形態

2 設置前の準備



3 接続のしかた

4 Windows98  
Windows95

5 WindowsNT4.0

6 Macintosh

## INSネット64のダイヤルインサービスでアナログ機器の呼び分けをする場合

 ダイヤルインサービスの契約必要  Atermの設定必要

INSネット64のダイヤルインサービスの契約が必要です(月々の利用料金がかかります)

INSネット64のダイヤルインサービスの契約はINSネット64の契約時に申し込むことができます。ダイヤルインサービスの契約をすると契約者回線番号の他にダイヤルイン番号が割り当てられます。この契約者回線番号とダイヤルイン番号の数だけアナログ機器を呼び分けることができます。

契約時には「グローバル着信」を「利用」の契約にします

グローバル着信を利用すると、契約者回線番号の着信には、ターミナルアダプタ(TA)に接続した機器をすべて呼び出すようになりますが、Atermにはアナログポートごとに「グローバル着信」を利用するかどうか選択できる機能があるため、契約者回線番号の着信についても特定のアナログポートを呼び出すことができます。

例えば、2つのアナログ機器の呼び分けをする場合には、契約者回線番号と1つのダイヤルイン番号で呼び分けをすることができます。



グローバル着信とは

ダイヤルインサービスをご利用になる際に、併せてご利用のできる無料の付加サービスです。

ダイヤルインサービスは、着信の際に「着信番号情報(今何番に電話がかかってきているか)」を通知することによって、特定の機器を識別します。

グローバル着信は、契約者回線番号での着信は着信番号情報を通知せず、ダイヤルイン番号での着信は着信番号情報が通知されます。これにより、着信番号情報の有無によって機器を呼び分けることができます。



INSネット64の契約時にダイヤルインサービスの契約をしてください。同時に「グローバル着信」を「利用」の契約をしてください。



添付CD-ROM内の各ユーティリティで設定する方法と、電話機で設定する方法があります。ユーティリティで設定する場合は各OSにより設定方法が異なります。4章以降の各OSのページを参照して設定してください。電話機で設定する場合は活用マニュアル「4 電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)」を参照して設定してください。

1 特長と通信可能な形態

2 設置前の準備

3 接続のしかた

4 Windows98  
Windows95

5 WindowsNT4.0

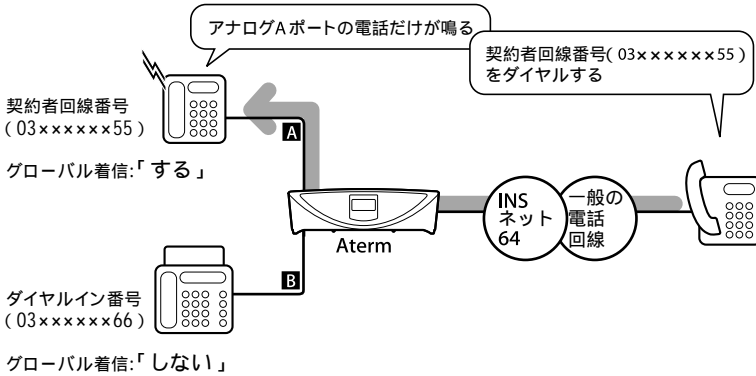
6 Macintosh

## ダイヤルインサービスで電話機1台とファクス1台を呼び分ける場合の例

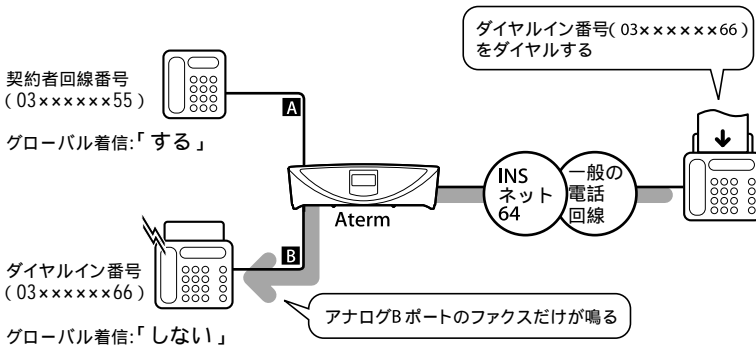
下図のようにアナログポートを呼び分ける場合には、次の設定をする必要があります。電話には契約者回線番号を割り当て、ファクスにはダイヤルイン番号を割り当てます。

アナログポート	アナログポート接続機器	グローバル着信	電話番号
A	電話機(工場出荷時のまま)	着信する(工場出荷時のまま)	契約者回線番号:03xxxxxx55
B	ファクス / モデム	着信しない	ダイヤルイン番号:03xxxxxx66
C	使用しない		

契約者回線番号への着信:アナログAポートの電話機のみが鳴ります。



ダイヤルイン番号への着信:アナログBポートのファクスのみが鳴ります。



ダイヤルイン番号を設定したポートに「グローバル着信する」の設定をした場合、そのポートは、契約者回線番号、ダイヤルイン番号の両方で着信します。

1 特長と通信可能な形態

2 設置前の準備

3 接続のしかた

4 Windows98  
Windows95

5 WindowsNT4.0

6 Macintosh

## 2-5 インターネットについて

インターネットは、コンピュータ(ネットワーク)同士をつなげる技術(通信プロトコルであるTCP/IP)を利用して、世界規模での通信を可能にしたネットワークシステムです。

### インターネットに必要なもの...

#### プロバイダへの加入

初めてインターネットを利用するには、インターネットサービスプロバイダ(以下プロバイダ)への加入手続きが必要です。通常、プロバイダへの加入手続きのしかたは、次の2通りがあります。

申込み方法の詳細については、パソコン関連の雑誌などを参考にするか、またはプロバイダへ直接問い合わせてください。

#### (1)書面による手続き

プロバイダから申込み書を取り寄せ、必要事項を記入して郵送します。「ユーザーID」と「パスワード」を入手するまでには通常1～2週間かかります。

#### (2)オンライン(通信)による手続き

パソコンを使って通信による加入手続きを行います。これをオンラインサインアップといい、「ユーザーID」と「パスワード」を短時間で入手できます。

加入手続きが済むと.....

プロバイダへの加入手続きが済むと、次の項目について記載された用紙が送られてきます。

- ・ ユーザID (ダイヤルアップ接続用ID)  
「ユーザID@ドメイン名」という構成のユーザIDもあります
- ・ パスワード (ダイヤルアップ接続用パスワード)
- ・ DNS(ドメイン・ネーム・サーバ)のIPアドレス
- ・ ドメイン名
- ・ メールアカウントのID(ダイヤルアップ接続用IDと同じ場合もあります)
- ・ メールアカウントのパスワード(ダイヤルアップ接続用パスワードと同じ場合もあります)
- ・ アクセスポイントの一覧表 など

上記の項目は、インターネットへの接続時に入力する必要がありますので大切に保管してください。



プロバイダとの接続形態は、一般的に「端末型ダイヤルアップ接続」「LAN型ダイヤルアップ接続」「専用線IP接続」があります。

「端末型ダイヤルアップ接続」は、接続するたびに異なるIPアドレスが割り当てられます。通常、1台のパソコンからインターネットに接続するときには、「端末型ダイヤルアップ接続」を選択します。

「LAN型ダイヤルアップ接続」は、申込み台数に応じてIPアドレスが割り当てられる接続です。

「専用線IP接続」は、プロバイダとの間を専用回線でつないでインターネットに常時接続するときを選択します。Atermでは、OCNエコノミーのみをサポートしています。

## 必要なソフトウェア

インターネットを利用するために必要なソフトウェアとして、次の表に示すものが必要となります。

	Windows98/Windows95	Windows NT4.0	Macintosh
TCP/IPソフトウェア	標準装備	標準装備	標準装備
PPPモジュール注1			MacOS7.6以上で標準装備
WWWブラウザ注2	必要に応じて入手してください		

注1： データポートからの通信で使用します。

注2： ホームページを見たい場合や、Atermの設定をWWWブラウザから行う場合に必要です。ほとんどの場合、パソコンに標準装備されています。

次に代表的なブラウザソフトを紹介します。

- ・マイクロソフト インターネット エクスプローラ (Microsoft Internet Explorer)
- ・ネットスケープ ナビゲータ (Netscape Navigator)

WWW ブラウザは、雑誌やパソコン通信などからも入手できます。

PC-9801シリーズのWindows95を使用して、COMポート1にAtermを接続している方へ

シリアルポートドライバの作成日によっては、アップデートする必要があります。このアップデートを行わないと、通信速度を38.4kbps以上にすることができず、たとえば非同期の57.6kbpsや同期の64kbpsで通信するときに、正常な通信を行えません。

このアップデートを行う前に、まず次の方法でシリアルポートドライバの作成日付を確認してください。

- 1 Windows95を起動し、タスクバーの **スタート** [検索] [ファイルやフォルダ]の順に選択します。
- 2 ハードディスクを選択し、検索ファイルに「SER8251F.VXD」を入力し、実行します。
- 3 SER8251F.VXD(シリアルポートドライバ)の更新日時が、95/11/18よりも古い場合には、次の方法で最新のシリアルポートドライバを入手し、アップデートしてください。

・ ホームページ

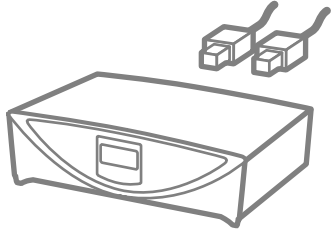
<http://www.microsoft.com/japan/win95/modules/pc98.htm/> から「シリアルポート(i8251FIFOモード)仮想デバイスドライバのアップデート」(S8251UPD.exe)を選択

ホームページのアドレスは変更されることがあります。

詳しくは、NECパソコンインフォメーションセンターまで問い合わせてください。

**こちらのサービスは現在行われておりません。**





## 3 接続のしかた

Atermの設置、接続のしかた、設定をはじめの前について説明しています。

- 3-1 設置のしかた
- 3-2 停電時のための準備
- 3-3 ケーブルの接続のしかた

Windows®98はMicrosoft® Windows®98 operating system の略です。  
Windows®95はMicrosoft® Windows®95 operating system の略です。  
Windows NT®4.0はMicrosoft® Windows NT® operating system version4.0の略です。

# 3-1 設置のしかた

## 設置前の確認...

設置を行う前に次のことを確認してください。条件が合っていないとAtermを使用することはできません。

INSネット64に回線が切り替わっていますか？

Atermは、アナログ回線に接続しても使用できません。

アナログ回線の場合には、INSネット64への切り替えを行ってください。

手続きは、INSネット64の窓口で行っています。

INSネット64に切り替わる日時は、あらかじめINSネット64の窓口で確認してください。

購入されたAtermはDSU内蔵機種ですか？

AtermIR450( DSUなし )には、DSUが内蔵されていません。あらかじめ販売店等でDSUを購入してください。接続は「AtermIR450( DSUなし )」にINSケーブルを接続する」39ページを参照してください。

Atermの設置場所と回線用コンセントまでの距離は3m以内ですか？

( AtermIR450/D )

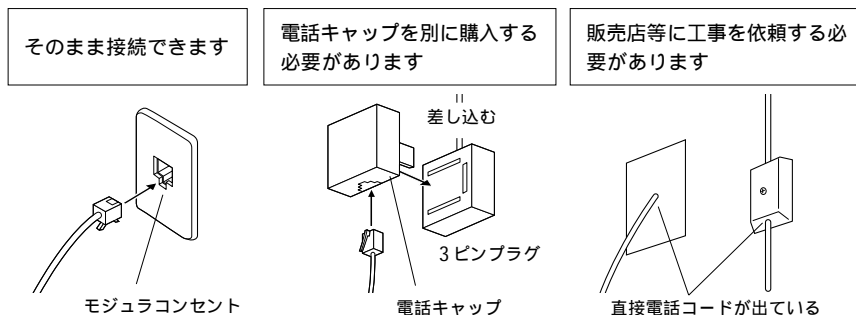
添付の回線ケーブルは3mです。添付の回線ケーブルでは長さが足りない場合は、別途長い回線ケーブルを用意してください。

回線用コンセントはモジュラタイプですか？

( AtermIR450/D )

回線用コンセントの形状によっては、そのまま接続できない場合があります。

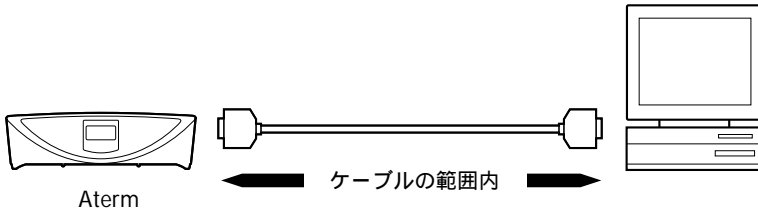
設置と接続の前に回線用コンセントの形状を確認してください。



## 設置...

Atermは、風通しの良い水平で安定した場所に設置してください。

また、パソコンと接続するには、添付のケーブルの範囲内に設置するようにしてください。



1 特長と通信可能な形態

2 設置前の準備

3 接続のしかた

4 Windows98  
Windows95

5 WindowsNT4.0

6 Macintosh

## 3-2 停電時のための準備

Atermには停電したときに、アナログAポートに接続された電話機を使えるようにする機能(停電モード)があります。この機能を利用するためには、市販の単3アルカリ乾電池(6本)を購入しセットする必要があります。

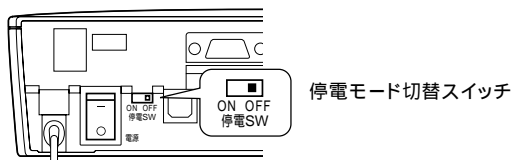
停電時に使えるのは、アナログAポートに接続されている電話機などの機器のみです。

### 停電モードを使う...

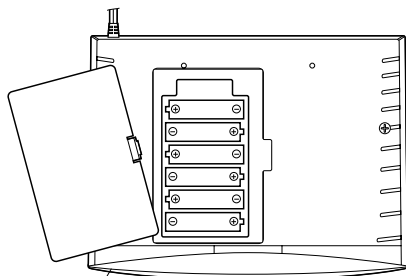
手順

以下の手順で設定します。

- 1 電源が切れている( が押された )状態で、Aterm背面の停電モード切替スイッチが「OFF」になっていることを確認します。



- 2 電池カバーを開け、極性に注意して乾電池を入れます。



乾電池の+、-を正しく入れてください。

電池カバー

- 3 電池カバーを閉じ、停電モード切替スイッチを「ON」にします。

注意

- ・ご使用の「乾電池の注意をよく守ってください。
- ・アルカリ乾電池は、「安全に正しくお使いいただくために」の注意事項をよくお読みの上、ご使用ください。



単3アルカリ乾電池の連続動作可能時間の目安(節電モード使用時)

連続待ち受け時間	約4時間
連続通話時間	約2時間

アルカリ乾電池の性能や、接続されている機器の状況により時間は異なります。

## 節電モードを使う...

節電モードとは、停電時に通話電流を少なくし、乾電池の動作可能時間を延ばすことができるモードです。

ただし、節電モードを設定すると、電話機によってはダイヤル発信や通話ができなくなったり、呼出音(リンガ)が鳴らなくなる場合があります。この設定をした後は、必ず電話が使えることを確認してから使用してください。

手順

以下の手順で設定します。

- 1 電池カバーをあけます。
- 2 乾電池が入っているときははずします。
- 3 ディップスイッチの8を次のように設定します。



8を「OFF」側にすると通話電流を少なくします。  
(初期設定は「ON」側です。)

- 4 乾電池を入れ、電池カバーを閉じます。



電池は、周囲湿度の上昇や、使い切ったままでのご使用継続等の原因により、液もれする場合がありますので3ヶ月に1回程度、電池カバーを開けて電池の外観の点検を行うことを推奨します。また、1年に1回の割合でアルカリ電池は交換してください。なお、この交換を忘れることを防止するため、アルカリ電池は停電時にセットすることをお勧めします。

1 特長と通信可能な形態

2 設置前の準備

3 接続のしかた

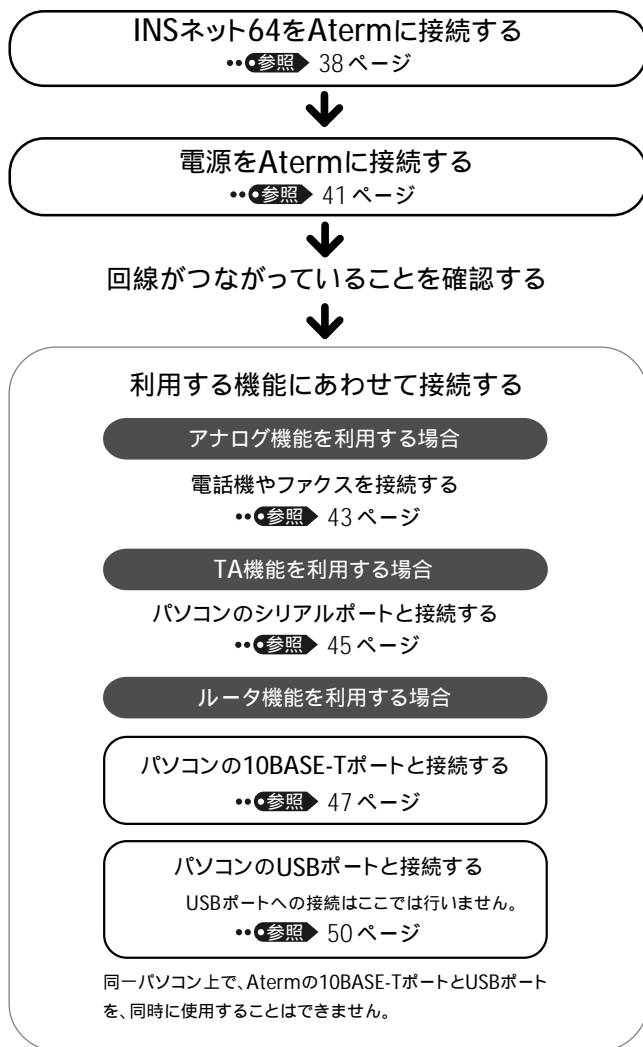
4 Windows98  
Windows95

5 WindowsNT4.0

6 Macintosh

## 3-3 ケーブルの接続のしかた

各機器との接続は、使用する機能に合わせて接続します。次ページの接続全体図を参考に各ページで接続してください。



S点ユニットでISDN通信機器を増設する場合は、活用マニュアルの「付録」-「別売りオプション」を参照してください。

- 1 特長と通信可能な形態
- 2 設置前の準備
- 3 接続のしかた
- 4 Windows98  
Windows95
- 5 WindowsNT4.0
- 6 Macintosh

接続全体図

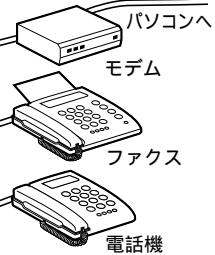
AtermIR450/D



使用する機能にあわせて接続する

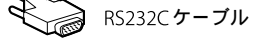
アナログ機能を利用する場合

電話機やファクスを接続する



TA機能を利用する場合

パソコンのシリアルポートへ接続する



ルータ機能を利用する場合

パソコンの10BASE-Tポートへ接続する



パソコンのUSBポートへ接続する



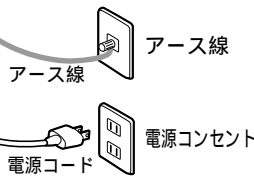
詳細は次ページ(必須)

INSネット64をAtermに接続する



詳細は41ページ(必須)

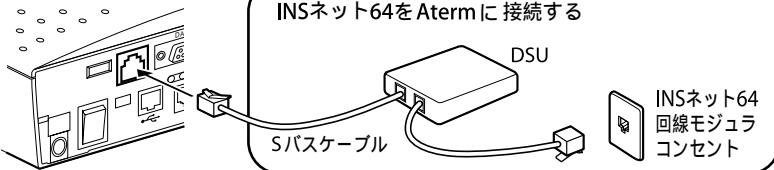
電源をAtermに接続する



AtermIR450(DSUなし)

詳細は39ページ(必須)

INSネット64をAtermに接続する



## INSネット64をAtermに接続する...

Atermの機種別にINSケーブルの接続のしかたを説明します。



INS回線ケーブルやSバスケーブルはLANケーブルと形が似ています。間違いないように注意してください。

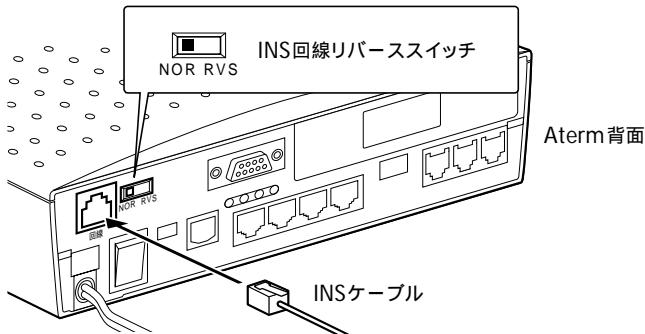
### AtermIR450/DにINSケーブルを接続する

AtermのINS回線コネクタと、INSネット64のモジュラコンセントを接続します。接続には、添付のINSケーブル(3m)を使用してください。

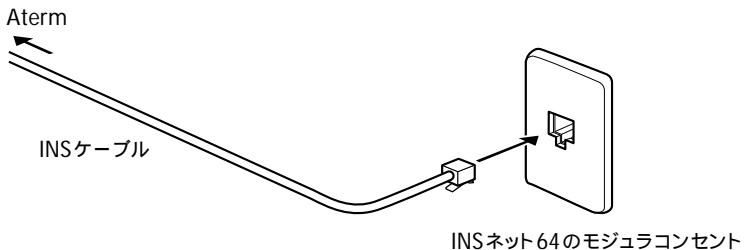


以下の手順で接続します。

- 1 INSケーブルを、AtermのINS回線コネクタに接続し、INS回線リバーススイッチが「NOR」側であることを確認します。



- 2 Atermに接続したINSケーブルをINSネット64のモジュラコンセントに接続します。





## AtermIR450( DSUなし )にINSケーブルを接続する

AtermのS/T回線コネクタとDSU、INS ネット64のモジュラコンセントを接続します。接続には、添付のSバスケープル(3m)を使用してください。

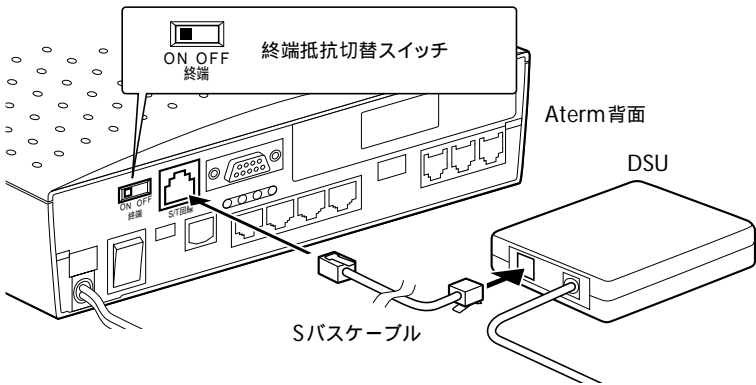
AtermIR450( DSUなし )を購入された方は、販売店等よりDSUを購入してください。2台以上接続する場合は、次ページも参照してください。

### 手順

以下の手順で接続します。

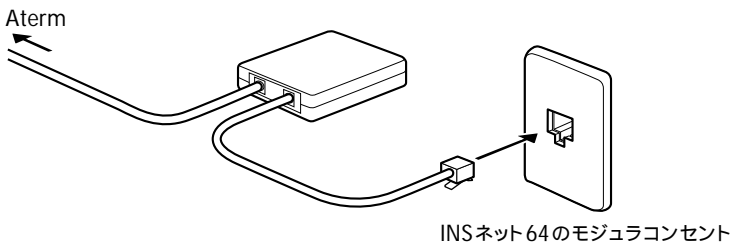
#### 1

AtermのS/T回線コネクタとDSUをSバスケープルで接続し、Atermの終端抵抗切替スイッチが「ON」側であることを確認します。



#### 2

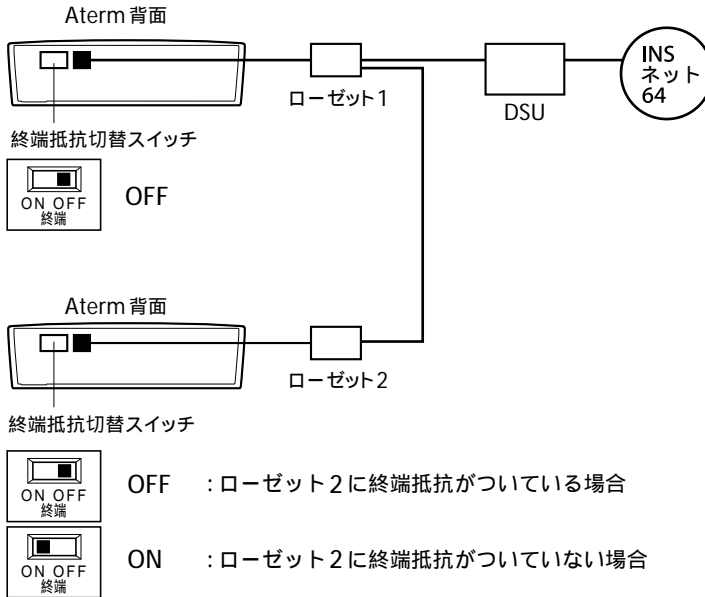
DSUのINSケーブルを、INS ネット64のモジュラコンセントに接続します。



AtermIR450( DSUなし )を2台以上接続するとき

ローゼットを下图のように接続します。

ローゼットとDSU間の配線工事は、「工事担当者」の資格が必要となる場合があります。  
詳しくは、販売店等に相談してください。



終端抵抗とは

DSUから最遠端のローゼットまたはISDN機器に入れる抵抗です。回線の送受信線それぞれに入れて、信号波形を正常に保ちます。



終端抵抗は、DSU またはINS ネット 64 のモジュラコンセントから最遠端の1台のみに設定してください。

1 特長と通信可能な形態

2 設置前の準備

3 接続のしかた

4 Windows98  
Windows95

5 WindowsNT4.0

6 Macintosh

## 電源をAtermに接続する...

アース線および電源の接続のしかたを説明します。

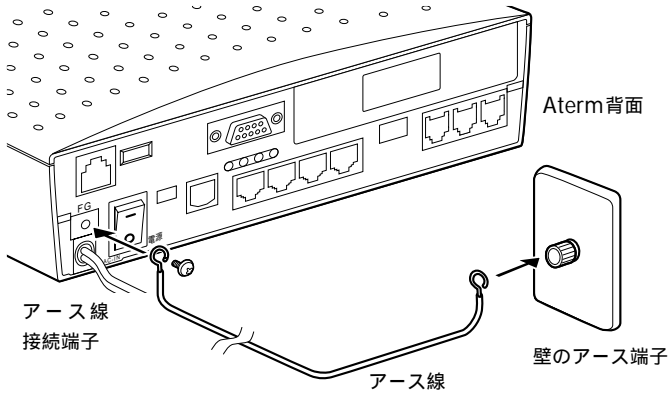
アース線は添付していませんので、別途用意してください。

アース線は、万一の落電などの電撃事故が発生した場合に人身への損傷を防止するためのものです。

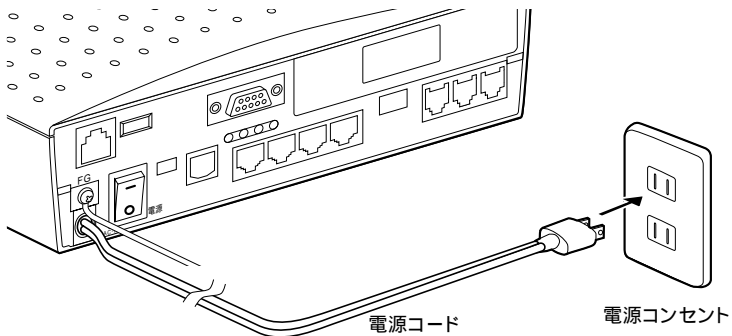
手順

以下の手順で接続します。

1 Atermのアース線接続端子と、壁のアース端子をアース線で接続します。



2 Atermの電源プラグを電源コンセント(AC100V)に接続します。



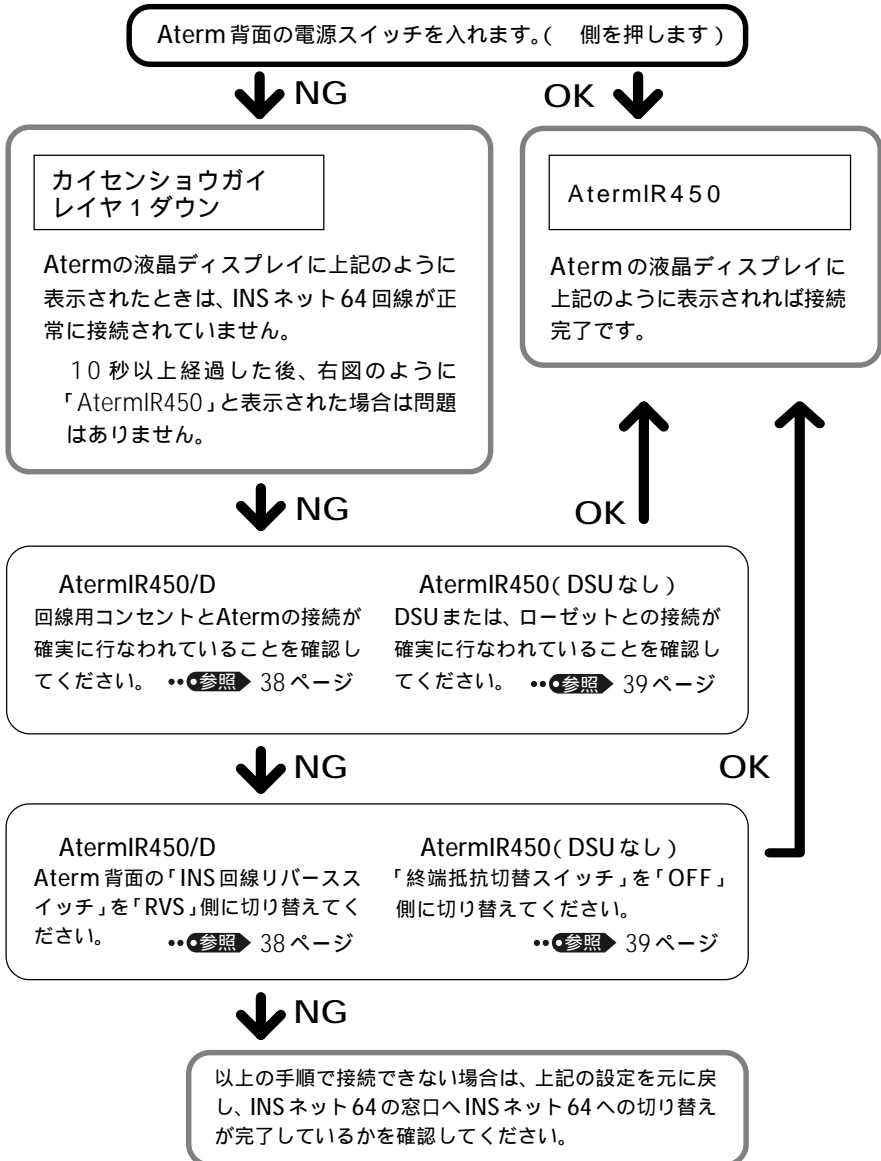
注意

電源は、パソコンなどのスイッチと連動しているコンセントを使用しないで、壁などの電源コンセントを使用してください。パソコンに接続した場合、パソコンの電源が切られるとAtermが停電モードになり乾電池で動作するので、乾電池を消耗します。注意してください。

- 1 特長と通信可能な形態
- 2 設置前の準備
- 3 接続のしかた
- 4 Windows98  
Windows95
- 5 WindowsNT4.0
- 6 Macintosh

## INSネット64回線が正しくつながっていることを確認する

INSネット64と、アース線、電源を接続したら、Aterm 背面の電源スイッチを入れ、Aterm の液晶ディスプレイの表示を確認することで、Atermが正しくINS ネット64 回線とつながっていることを確認します。



## 電話機やファクスを接続する...

Atermのアナログ機能を使用する場合に接続します。

アナログポートに接続できるのは、電話機・ファクス・モデムなどです。

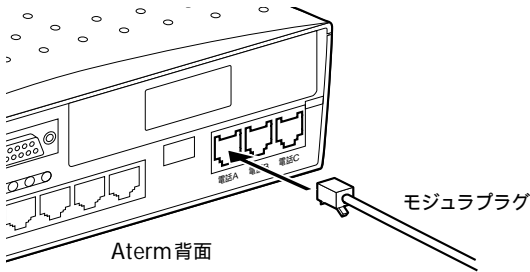
端末審査協会の適合マーク「」または「」が付いている通信機器を接続してください。

手順

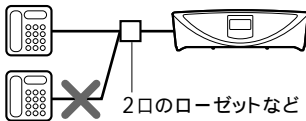
以下の手順で接続します。

1

電話機・ファクス・モデムなどのモジュラプラグを順に、Aterm背面のアナログAポートからBまたはCポートに接続します。

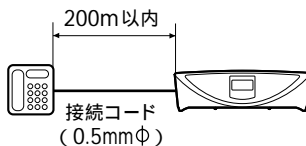


ナンバー・ディスプレイ対応の電話機は、アナログAポートに接続する必要があります。その他のアナログポートに接続した場合、ナンバー・ディスプレイの機能を利用できません。



1つのアナログポートに接続できる機器は1台のみです。

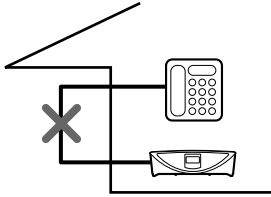
2口のローゼットなどを使用して2台以上接続しないでください。



接続コードの長さは、太さ0.5mmφの線を使って200m以内にしてください。接続する機器の種類によっては、さらに短くなる場合があります。

- 2 接続した機器の回線切替スイッチを「トーン」(「PB」と表示されている場合もあります)に設定します。

設定方法は、使用している機器の取扱説明書を参照してください。



モジュラケーブルや回線ケーブルは、絶対に屋外を通さないでください。雷などによる傷害の原因になります。

1 特長と通信可能な形態

2 設置前の準備

3 接続のしかた

4 Windows98  
Windows95

5 WindowsNT4.0

6 Macintosh

## パソコンのシリアルポートと接続する...

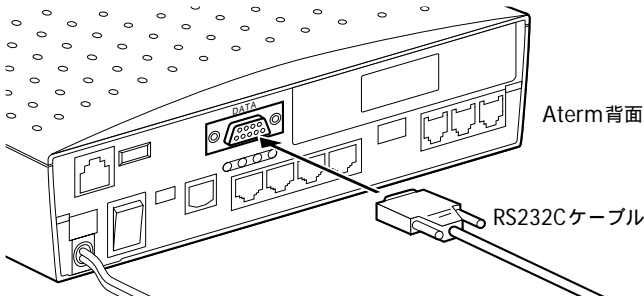
Atermに添付のCD-ROM内のユーティリティやAtermのTA機能を使用する場合に接続します。

Atermのデータポートと、パソコンのシリアルポートを接続します。  
接続には、添付のRS232Cケーブル(1m)を必ず使用してください。

手順

以下の手順で接続します。

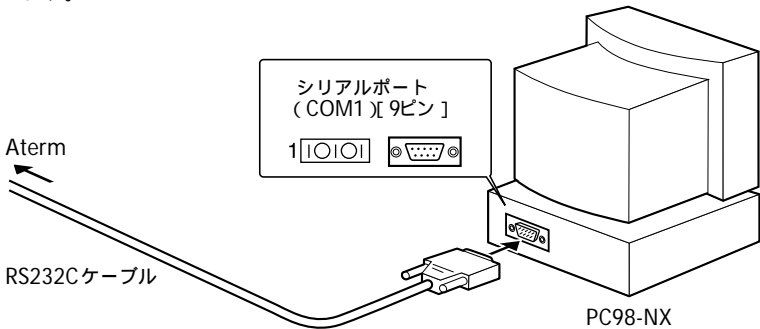
- 1 Atermのデータポートに、添付のRS232Cケーブルを接続します。



- 2 上記のRS232Cケーブルの反対側をパソコンに接続します。

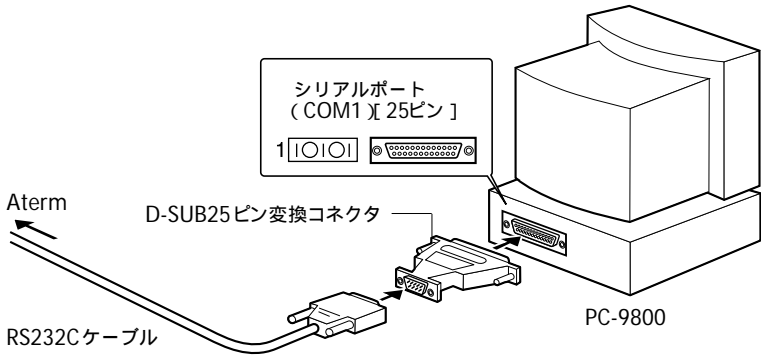
PC98-NXシリーズなどや、DOS/V機の場合( D-SUB9ピン )

Atermに接続したRS232Cケーブルを、パソコンのシリアルポートに接続します。



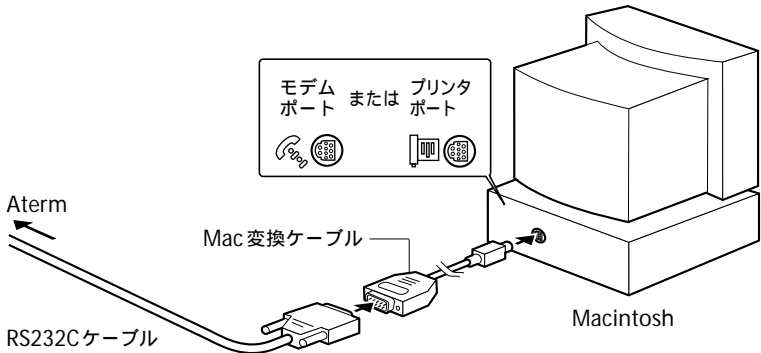
## PC-9800シリーズの場合( D-SUB25ピン )

添付のD-SUB25ピン変換コネクタをパソコンのシリアルポートに接続し、その後Atermに接続したRS232Cケーブルを接続します。



## Macintoshの場合

添付のMac変換ケーブルをパソコンのモデムポートまたは、プリンタポートに接続し、その後Atermに接続したRS232Cケーブルを接続します。



パソコンによっては、専用ケーブル、アダプタ等が必要な場合があります。詳しくは、販売店に相談してください。

1 特長と通信可能な形態

2 設置前の準備

3 接続のしかた

4 Windows98  
Windows95

5 WindowsNT4.0

6 Macintosh



## パソコンの10BASE-Tポートと接続する...

Atermのルータ機能を使用する場合に接続します。

Atermのアナログ機能やTA機能しか利用しない方は、接続する必要はありません。

Atermの10BASE-Tポートを利用するには、パソコンに10BASE-Tポートがあることが必要です。10BASE-Tポートがないパソコンの場合は、別途LANカード/アダプタ等を取り付ける必要があります。取り付け時は、パソコンやLANカード/アダプタ等の取扱説明書に従って正しく取り付け、設定して下さい。



LANケーブルはINS回線ケーブルやSバスケーブルと形が似ています。間違えて接続するとAtermは正しく動作しません。間違いのないように注意してください。

### パソコンを1台～4台接続する場合

Atermの10BASE-Tポートと、パソコンの10BASE-Tポートを接続します。

接続には、添付のLANケーブル(3m)を使用してください。

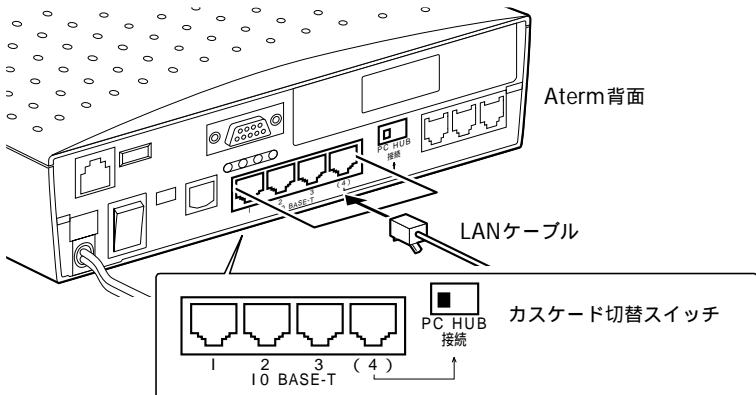
パソコンを5台以上接続する場合は次ページをお読みください。

手順

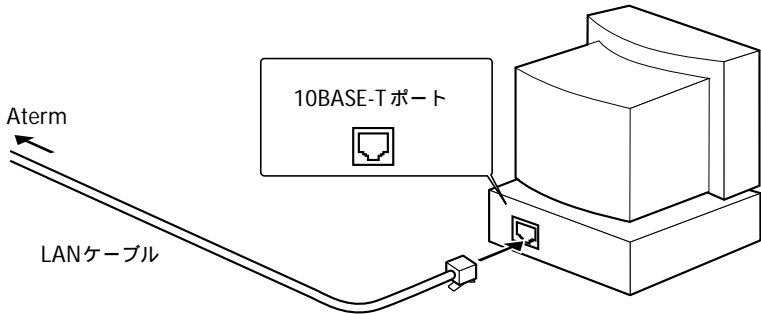
以下の手順で接続します。

1

Atermの10BASE-Tポートに、添付のLANケーブルを接続(1～4の10BASE-Tポートのうち、どのポートに接続してもかまいません。)し、カスケード切替スイッチが「PC」側にあることを確認してください。



- 2 Atermに接続したLANケーブルをパソコンの10BASE-Tポートに接続します。パソコンによってポートの向きが異なります。よく確認して接続してください。



パソコンが複数台あるときには、別途LANケーブルを購入して、各ポートにそれぞれ接続します。LANケーブルは、ストレートケーブルを購入してください。詳しくは販売店に相談してください。パソコンを5台以上接続する場合は、次を参照してください。

## パソコンを5台以上接続する場合

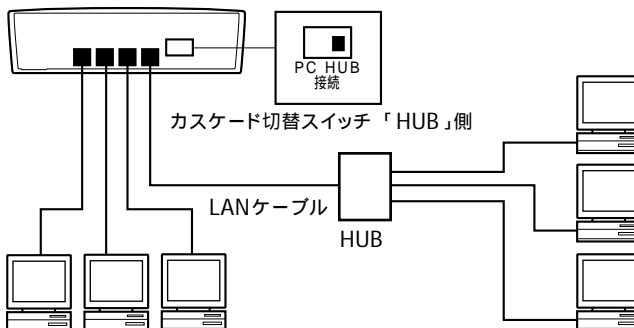
パソコンを5台以上接続する場合は、別途HUBを購入してください。

パソコンを1台～4台までを接続する場合は前ページをお読みください。

### 手順

以下の手順で接続します。

- 1 カスケード切替スイッチを「HUB」側に切り替えます。
- 2 Atermの10BASE-Tポート4とHUBのポートをLANケーブルで接続します。LANケーブルは、ストレートケーブルを使用してください。
- 3 パソコンとHUBのポートを接続します。



1 特長と通信可能な形態

2 設置前の準備

3 接続のしかた

4 Windows98  
Windows95

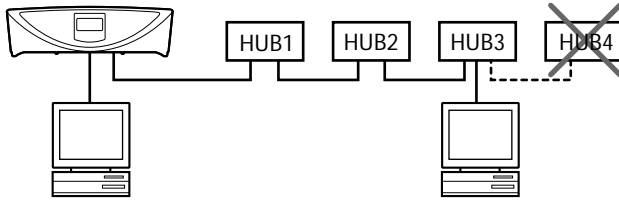
5 WindowsNT4.0

6 Macintosh

## Atermに複数台のHUBを接続する

Atermに複数台のHUBを接続する(このような接続をカスケード接続といいます)場合、次のような制限があります。

カスケード接続では、Atermを含めてHUBの数が4台以内となるようにする必要があります。例えば下図においてHUB1～HUB3までは接続可能ですが、HUB4は、Atermから数えて5段目になるため接続できません。



1 特長と通信可能な形態

2 設置前の準備

3 接続のしかた

4 Windows98  
Windows95

5 WindowsNT4.0

6 Macintosh

## パソコンのUSBポートと接続する...

Atermのルータ機能を使用する場合に接続します。

ここでは、AtermのUSBポートと、パソコンのUSBポートを接続する方法についてを説明しますが、実際のUSBケーブルの接続は、「らくらくウィザード」の指示に従ってください。

実際のUSBポートの接続は、「らくらくウィザード」をお使いください。

USBポートを使用する際の詳細な説明は、「4-4-5 USBポートのさまざまな使い方」132ページを参照してください。

AtermのUSBポートを利用するには、下記の条件を満たしたパソコンに、Aterm専用のUSBドライバソフトウェアをインストールする必要があります。詳細は「らくらくウィザードでUSBドライバをインストールする」106ページを参照してください。

### AtermのUSBポートに接続するための条件

- USBポートを備えたパソコンであること
- Windows98/Windows95をインストールしたパソコンであること
- Windows95のバージョンは、4.00.950C(OSR2.5)であること



Aterm専用のUSBドライバソフトウェアは、Windows98 Second Editionをサポートしていません。(平成11年10月現在)

今後のサポート状況につきましては、インターネットのホームページ「AtermStation」(<http://aterm.cplaza.ne.jp/>)などで確認してください。



同一のパソコン上で、AtermのUSBポートと10BASE-Tポートを同時に使用することはできません。

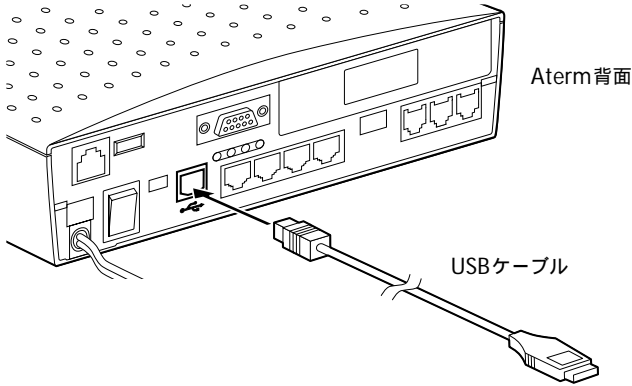
Aterm USB LAN Driverは、他のLANボードまたはLANカード等との同時使用はできません。Aterm USB LAN Driverを使用する際は、他のLANボードまたはLANカードのドライバを「使用しない」にしてください。詳しくは「らくらくウィザードでUSBドライバをインストールする」106ページを参照してください。

AtermのUSBポートと、パソコンのUSBポートを接続します。  
接続には、添付のUSBケーブル(2m)を使用してください。

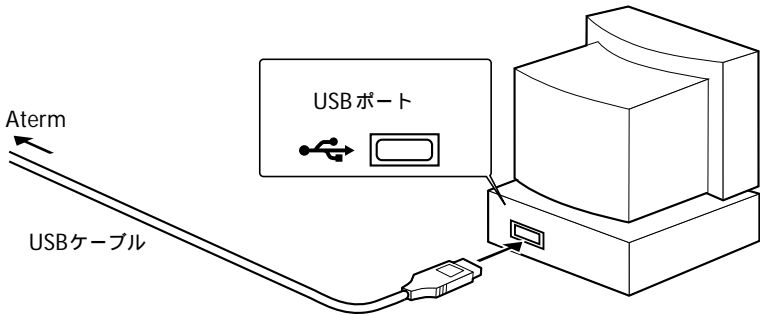
手順

以下の手順で接続します。

1 AtermのUSBポートに、添付のUSBケーブルを接続します。



2 Atermに接続したUSBケーブルをパソコンのUSBポートに接続します。



注意

- ・USBポートは、TAのデータポートとしての使用はできません。
- ・サスペンドモードおよびMS-DOSモードでの使用はできません。
- ・停電モードでは使用できません。
- ・PC-9821シリーズとのUSB接続はできません。PC-9821シリーズでAtermを使用する場合は、別途LANカード/アダプタ等を用意して、10BASE-Tポートを使って接続してください。

1 特長と通信可能な形態

2 設置前の準備

3 接続のしかた

4 Windows98  
Windows95

5 WindowsNT4.0

6 Macintosh



USB (Universal Serial Bus) とは、パソコンと周辺機器を接続する外部バスとして考えられた規格で、次のような特徴があります。

- (1) 最高12Mbpsの転送速度
- (2) USBの信号ピン数は電源数を含め4ピンしか使用していないため、ケーブルも細くパソコンとの配線が容易
- (3) ハブを介して最大127台まで接続できる
- (4) 5Vを給電するため、消費電力の少ない機器の電源が不要になる
- (5) パソコンの電源が入っていても抜き差し可能なホットインサージョン機能がある

1 特長と通信可能な形態

2 設置前の準備

3 接続のしかた

4 Windows98  
Windows95

5 WindowsNT4.0

6 Macintosh

# Windows98 Windows95

## 4 Windows98/Windows95で アナログ機能・TA機能・ルータ機能を利用する

---

### 4-1 設定をはじめる前の準備

Atermのアナログ機能、TA機能、ルータ機能を利用する前の準備について説明しています。

4-1-1 設定をはじめる前に

4-1-2 CD-ROMの使い方

4-1-3 らくらくウィザードとは

Windows®98はMicrosoft® Windows®98 operating system の略です。

Windows®95はMicrosoft® Windows®95 operating system の略です。

Windows NT®4.0はMicrosoft® Windows NT® operating system version4.0の略です。

---

## 4-1-1 設定をはじめる前に

Atermの各機能を利用するには設定が必要です。設定はパソコンのOSにより異なりますので、使用するOSに従って設定を行います。ここでは、Windows98/Windows95について説明します。



Atermは、アナログ機能、TA機能、ルータ機能の3つの機能を持っています。  
アナログ機能は、Atermの購入後に特別な設定をしなくてもAtermのアナログポートが動作するように設定されています。

TA機能とルータ機能を利用するためには、次ページのような手順でAtermを設定する必要があります。



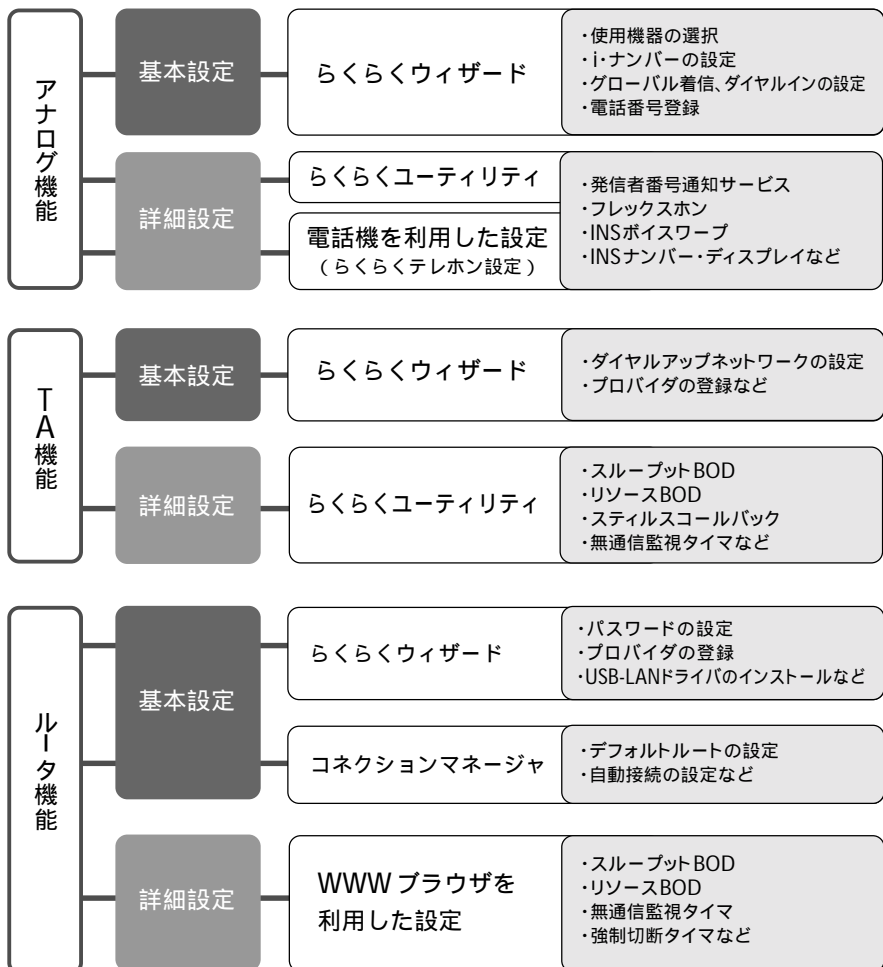
## 各機能を利用するための設定の流れ...

インターネットへダイヤルアップ接続するにはらくらくウィザードを使用します。  
各機能を詳細に設定したい場合は、らくらくユーティリティやWWWブラウザを利用した設定で行います。

アナログ機能の設定は電話機を使った設定(らくらくテレホン設定)でもできます。

らくらくウィザードや、らくらくユーティリティは添付のCD-ROMに入っています。次ページ「4-1-2 CD-ROMの使い方」で、ユーティリティをインストールしてください。

基本設定はパソコン1台からインターネットへダイヤルアップ接続するための設定です。まずは、基本設定でインターネットへの接続を確認してください。



## 4-1-2 CD-ROMの使い方

添付のCD-ROMの使い方について説明します。

添付のCD-ROMには、次のようなソフトウェアが収録されています。

### CD-ROMに入っているもの

- ・ IR450 らくらくウィザード  
(Windows98/Windows95)
- ・ IR450 らくらくユーティリティ  
(Windows98/Windows95、Windows NT4.0、Macintosh 対応)
- ・ IR450 コネクションマネージャ  
(Windows98/Windows95、Windows NT4.0、Macintosh)
- ・ IR450 らくらくバージョンアップ
- ・ モデム定義ファイル  
(Windows98/Windows95、Windows NT4.0)
- ・ CCL ファイル  
(ARA/Open Transport 対応)
- ・ UUI メール EX ユーティリティまたは、  
電子メール着信通知・UUI メールユーティリティ
- ・ IR450 USB-LAN ドライバ  
(Windows98/Windows95 OSR2.5 対応) など

### ユーティリティのインストール...

ここでは、添付のCD-ROMに入っているWindows98/Windows95で使用するユーティリティのインストールを行います。

インストールされるユーティリティは、下記の通りです。

IR450 らくらくウィザード

IR450 らくらくユーティリティ

IR450 らくらくバージョンアップ

IR450 コネクションマネージャ

USB-LAN ドライバのインストール/アップデート

USB-LAN ドライバのアンインストール

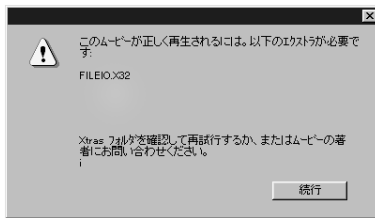
## 手順

以下の手順でインストールします。

- 1 Windows98/Windows95がインストールされているパソコンの電源を入れます。
- 2 添付の「AtermIR450ユーティリティ集」CD-ROMをドライブにセットします。「AtermIR450 ユーティリティ集」の案内画面が自動的に表示されます。

CD ROM をパソコンのCD ROM ドライブにセットすると、お客様のパソコンによっては、以下のエラーメッセージが表示される場合がありますが、ユーティリティの動作に問題はありません。**続行** ボタンを押すと、「AtermIR450 ユーティリティ集」の案内画面が表示されます。

CD-ROM を入れても案内画面が表示されないときは、次ページの「ファイル名を指定してインストールする」の操作を行ってください。



## 注意

1度インストールした後で、新たに再インストールするときは、[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]で[AtermIR450ユーティリティ]を削除してから行ってください。

- 3 **らくらくユーティリティ(Windows95/98/NT4.0用のインストール)** ボタンをクリックします。  
しばらくすると[ようこそ]画面が表示されます。
- 4 **次へ** ボタンをクリックします。
- 5 [製品ライセンス契約]画面が表示されますので、内容をよく読んだあと、同意された場合は、**はい** ボタンをクリックします。以降は、[セットアップ]の内容に従ってインストールを行ってください。

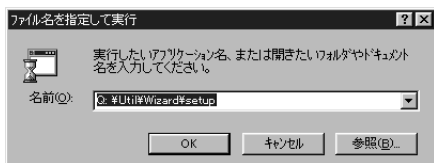
## ファイル名を指定してインストールする

メニュー画面が表示されない場合は、次の操作を行ってください。

手順

Windows98/Windows95の場合

- 1 Atermに添付のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。
- 2 タスクバーの **スタート** [ファイル名を指定して実行]の順に選択します。
- 3 [ファイル名を指定して実行]の画面が表示されます。  
名前の入力欄に、半角の文字で次のように入力します。  
Q: ¥ Util ¥ Wizard ¥ setup  
Q:はCD-ROMのドライブ名です。(ドライブ名は機種によって異なります)  
**OK** ボタンをクリックします。



- 4 セットアップ画面が表示されます。  
**OK** ボタンをクリックします。
- 5 **セットアップ** ボタンをクリックします。  
インストール先を変更するときは、**ディレクトリ変更** ボタンをクリックして画面の指示に従って入力してください。  
インストールが始まります。
- 6 インストールが終了したら **OK** ボタンをクリックします。  
[AtermIR450 ユーティリティ]というグループが作成されます。  
各ユーティリティを起動する場合には、**スタート** [プログラム]  
[AtermIR450 ユーティリティ]の中から、選択して起動します。

# 4-1-3 らくらくウィザードとは

らくらくウィザードとは、アナログ機能、TA機能、ルータ機能の設定をパソコンの画面から簡単に行うことができるユーティリティです。

Windows98/Windows95対応のパソコンのみ使用できます。

## らくらくウィザードの機能...

らくらくウィザードにより、次のことを行うことができます。

### アナログ機能

各アナログポートを使用する/使用しないの設定(初期値:使用する)

各アナログポートに接続している機器の種類の設定(初期値:電話機)

i・ナンバー、またはダイヤルインサービスのグローバル着信を利用し、電話番号での各ポートを呼び分ける設定

### TA機能

パソコンのモデムとしてAtermの登録

ダイヤルアップネットワークの環境構築(プロバイダの設定)と登録

BIGLOBEへのオンラインサインアップ

### ルータ機能

USB-LANドライバの登録・置換(USBを利用する場合のみ)

Atermの設定(パスワード設定、IPアドレスの設定、DHCPの使用有無および割り当て範囲)

Atermに接続先を登録(プロバイダの設定を含む)

BIGLOBEへのオンラインサインアップ

TA機能及びルータ機能を使用するお客さまは、一度「らくらくウィザード」を使用して環境を構築してください。アナログ機能については、必要に応じて利用してください。

## らくらくウィザードの使い方..

ここでは、らくらくウィザードを起動し、設定が完了するまでの手順を機能毎に分けて説明します。

### RS232Cケーブルの接続の確認をする

らくらくウィザードを起動する前には必ず、添付のRS232CケーブルでAtermとパソコンを接続してください。

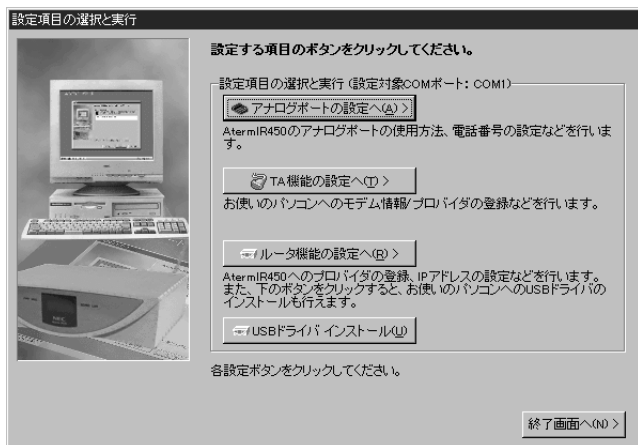
接続方法は、「パソコンのシリアルポートと接続する ...」45 ページを参照してください。

### らくらくウィザードを起動する

タスクバーの **スタート** [プログラム] [AtermIR450ユーティリティ] [IR450らくらくウィザード] を選択します。

### らくらくウィザードによって設定する機能の選択

らくらくウィザードを起動すると次の画面がでます。ここで、設定する機能を指定します。以降では、各機能ごとに分けて説明します。



指定しなかった機能については、再度らくらくウィザードを使用して、設定することができます。

## らくらくウィザードによるアナログ機能の設定について...

らくらくウィザードでは、次のような環境のアナログ機能の設定をすることができます。

アナログ機器を接続していないアナログポートが1つでもある場合

アナログポートにファクス/モデムを接続する場合

INS ネット 64 の i・ナンバーを申し込み、i・ナンバー情報で機器を呼び分ける場合

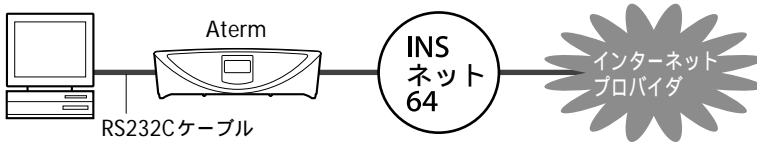
INS ネット 64 のダイヤルインサービスを申し込み、電話番号で機器を呼び分ける場合

必ずしもらくらくウィザードで設定する必要はありません。

## らくらくウィザードによるTA機能の設定について...

らくらくウィザードでは、次のような環境で Aterm の TA 機能が動作するように設定することができます。

データポートを使用してパソコンをインターネットへ接続する



らくらくウィザードは、上記のような接続環境において、Windows98/Windows95のダイヤルアップネットワークを使って、インターネットに接続できるようにします。

## らくらくウィザードによるルータ機能の設定について...

らくらくウィザードは、次のような接続環境において、Windows98/Windows95のパソコンを LAN (10BASE-T ポートまたは USB ポート) からインターネットに接続できるように設定します。

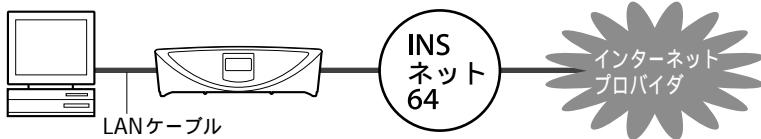
このらくらくウィザードでは、インターネットへの接続先を1つ、Atermを1台、パソコン (Windows98/Windows95) 1台の環境で動作させることができますようにします。

このらくらくウィザードでは、Atermを新規のLANに設置するように作られています。

はじめて Aterm のルータ機能を使用する場合は、一度、「らくらくウィザード」によって Aterm のルータ機能を設定させ、インターネットへの接続確認を行ってください。その後、お客様固有の設定を行ってください。

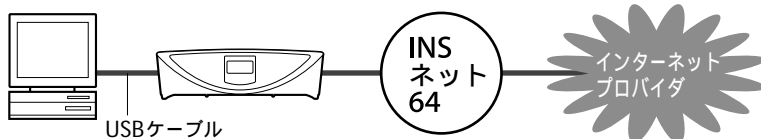
### 10BASE-Tポートを使用して1台目のパソコンをインターネットへ接続する

インターネットへの接続先を1つ、Aterm1台、パソコン(Windows98/Windows95)1台



### USBポートを使用して1台目のパソコンをインターネットへ接続する

インターネットへの接続先を1つ、Aterm1台、パソコン(Windows98/Windows95)1台



## らくらくウィザードでUSBドライバのインストールについて

Atermは、新方式「Aterm USB LAN Driver」の採用により、パソコンにUSBポートがあれば、LANに收容することができます。この機能を利用すると、LANボードのないパソコンでもLANに接続可能になります。らくらくウィザードではこの「Aterm USB LAN Driver」を簡単にインストールすることができます。

**注意**

Aterm USB LAN Driverは、他のLANボードまたはLANカード等との同時使用はできません。Aterm USB LAN Driverを使用する際は、他のLANボードまたはLANカードのドライバを「使用しない」にしてください。詳しくは「らくらくウィザードでUSBドライバをインストールする」106ページを参照してください。

**重要**

ケーブルを接続するタイミングは、10BASE-TケーブルはらくらくウィザードによるAtermの設定が完了した後に、USBケーブルはらくらくウィザードの指示に従って接続してください。

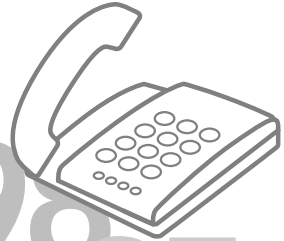
2台目以降のパソコンを追加する際には...

「4-4-4 LAN上に2台目のパソコンを追加する」130ページを読んで接続してください。

既存のLANに導入するには...

Atermを既存のLANに導入する場合には、活用マニュアルの「7-2 既存のLANにAtermを導入する」を読んで接続してください。





# Windows 98 Windows 95

## 4 Windows98/Windows95で アナログ機能・TA機能・ルータ機能を利用する

### 4-2 アナログ機器(電話機)を利用する

Atermのアナログポートの設定、ならびに接続した電話機の使い方について説明しています。

- 4-2-1 電話機を使う前の確認
- 4-2-2 アナログポートの設定
- 4-2-3 電話機を使う

Windows®98はMicrosoft® Windows®98 operating system の略です。  
Windows®95はMicrosoft® Windows®95 operating system の略です。

## 4-2-1 電話機を使う前の確認

Atermのアナログポートに接続した電話機を、使う前に確認する内容について説明します。  
電話機の接続方法は、「電話機やファクスを接続する」43ページを参照してください。



ナンバー・ディスプレイ対応の電話機は、アナログAポートに接続する必要があります。その他のアナログポートに接続した場合、ナンバー・ディスプレイ機能は利用できません。

停電時にも使いたい電話機は、アナログAポートに接続する必要があります。この場合、あらかじめAtermに乾電池をセットし、停電モード切替スイッチを「ON」側にしておく必要があります。

乾電池のセットや停電モード切替スイッチに関しては、「3-2 停電時のための準備」34ページを参照してください。

### 接続したアナログ機器を確認する...

アナログポートに接続した機器を確認します。次の場合には設定が必要です。

すべてのアナログポートに電話機が接続されている場合は、あらかじめAtermを設定する必要はありません。

接続するアナログ機器の中にファクスやモデムが含まれる場合

接続するアナログ機器が1～2台の場合

i・ナンバーやダイヤルインサービスをご利用の場合

Atermのアナログ機能を設定するためには、次の方法を利用します。

パソコンのデータポートが使えるとき

らくらくウィザードで設定する

次ページに進んでください。

Windows98/Windows95では、らくらくユーティリティでも設定ができます。

パソコンのデータポートが使えないとき

電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)で設定する

●●**参照** 活用マニュアル「4 電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)」

Atermのアナログポート着信の工場出荷時設定は、すぐに電話機を使用できるように、「すべてのアナログポートに電話機が接続されている」ことを想定して設定されています。

## 4-2-2 アナログポートの設定

アナログポートに接続する機器について設定を行います。

すべてのお客様が、必要な操作ではありません。詳しくは前ページを参照してください。

### らくらくウィザードでアナログ機能を設定する...

らくらくウィザードでは、次のような環境のアナログ機能の設定をします。

- ・アナログ機器を接続していないアナログポートが1つでもある場合
- ・アナログポートにファクス / モデムを接続した場合
- ・INSネット64のi・ナンバーを申し込み、i・ナンバー情報で機器を呼び分ける場合
- ・INSネット64のダイヤルインサービスを申し込み、電話番号での機器を呼び分ける場合

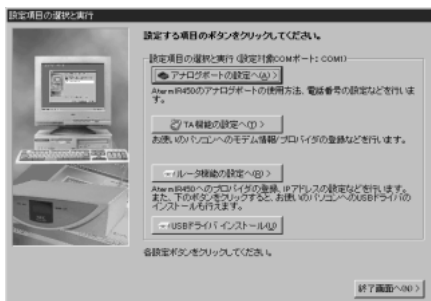
上記に該当する場合は、らくらくウィザードを起動しアナログ機能の設定をします。

上記以外のアナログ機能の変更をする場合、らくらくユーティリティまたは、電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)を使って設定値を変更します。

#### 手順

以下の手順で設定します。

- 1 らくらくウィザードを起動する前には必ず、RS232CケーブルをAtermとパソコンとの間で接続してください。  
接続方法は、「パソコンのシリアルポートと接続する」45ページを参照してください。
- 2 **スタート** [プログラム] [AtermIR450ユーティリティ] [IR450らくらくウィザード]を選択します。
- 3 らくらくウィザードが起動されます。  
ここで、**アナログポートの設定へ** ボタンをクリックします。



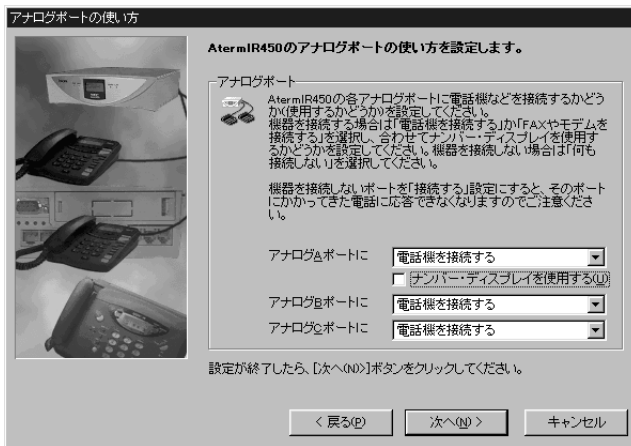
ここからの説明では、アナログ機能の設定でポイントとなる画面の説明をします。設定を進めていくと以下の画面が表示されますので、指示に従い設定してください。

**point 1** [アナログポートの使い方]画面では、次の通り設定します。

電話機を接続しているポートは、[電話機を接続する]を選択します。

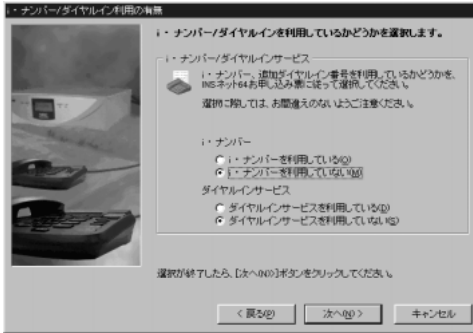
アナログ機器を接続していないポートは、[何も接続しない]を選択します。

ファクス、モデム、ファクス付電話機を接続しているポートは、[FAX/モデムを接続する]を選択します。



**point 2** [ i・ナンバー / ダイヤルイン利用の有無 ]画面では、次の通り設定します。

「INSネット64のお申込票」などで i・ナンバー / ダイヤルインサービスを利用しているかどうか契約内容を確認してから、それぞれ「利用している / 利用していない」を選択します。



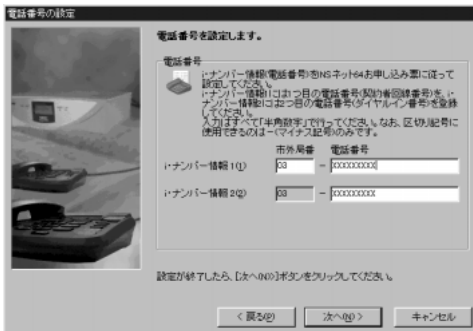
[ i・ナンバーを利用している ]にチェックマークを付けた場合、point3へ進みます。

[ i・ナンバーを利用していない ] [ ダイヤルインサービスを利用している ]にチェックマークを付けた場合、point4へ進みます。

[ i・ナンバーを利用していない ] [ ダイヤルインサービスを利用していない ]にチェックマークを付けた場合、point6へ進みます。

**point 3** [ 電話番号の設定 ]画面では、次の通り設定します。

i・ナンバーの契約内容を確認し、それぞれ[ i・ナンバー情報1 ] [ i・ナンバー情報2 ]に入力します。[ 次へ ] ボタンをクリックし、point5へ進みます。



**point 4** [ 電話番号の設定 ]画面では、契約者回線番号とダイヤルイン番号、グローバル着信の有無を、「INSネット64のお申込票」などで確認して設定します。

次ページの図を参考にしてください。

[ 契約者回線番号 ]は市外局番から半角数字で入力します。

「INSネット64のお申込票」などで、グローバル着信利用の契約を確認し、グローバル着信を「利用する/しない」を選択します。

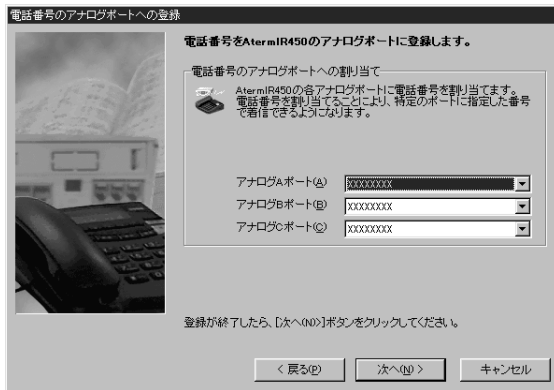
「ダイヤルイン番号」は、電話番号を半角数字で入力します。ダイヤルイン番号が1つの場合は[ダイヤルイン1番]の欄に入力します。

グローバル着信、ダイヤルインの詳細は、「電話番号でアナログ機器を呼び分けるには」24ページを参照してください

**point 5** [電話番号のアナログポートへの登録]では各アナログポートに電話番号の割り当てを行います。各電話機をi-ナンバーまたは、ダイヤルイン番号で呼び分けるときに設定します。

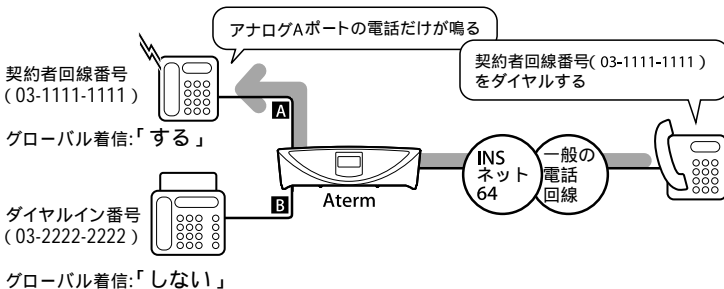
それぞれのアナログポートに割り当てる電話番号をプルダウンメニューの中から選択します。

[次へ] ボタンをクリックし、point7へ進みます。



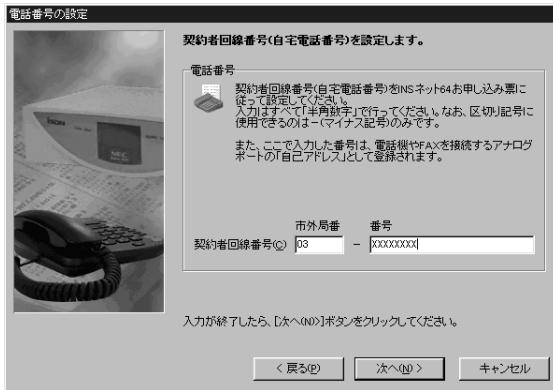
### グローバル着信とは

下図のような電話機1台、ファクス1台を別々の電話番号で呼び分ける場合、アナログAポートに契約者回線番号「03-1111-1111」、アナログBポートにダイヤルイン番号「03-2222-2222」をそれぞれ入力します。また、契約者回線番号で呼び出すポート(下図のような環境の場合は、アナログAポート)に「グローバル着信する」を選択します。



## point 6

- [ 電話番号の設定 ]画面では、契約者回線番号を設定します。  
 [ 契約者回線番号 ]は市外局番から半角数字で入力します。



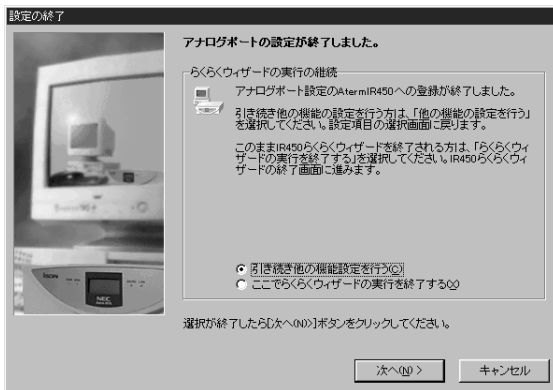
## point 7

終了時、次の画面が表示されます。

以上でアナログポートの設定が終了です。

TA機能、ルータ機能の設定を引き続き行う場合は、[引き続き他の機能設定を行う]にチェックマークを付け、[次へ]ボタンをクリックします。またこのとき各機能のウィザードの説明もあわせて参照してください。

- TA機能 ●●参照▶「らくらくウィザードでTA機能を設定する」87ページ  
 ルータ機能 ●●参照▶「らくらくウィザードでルータ機能を設定する」110ページ





## 4-2-3 電話機を使う

アナログポートに接続された電話機でよく使われる以下の機能について説明します。

- 外線電話をかける・うける
- 内線電話をかける・うける
- 疑似キャッチホン

ここで説明されないアナログポートの機能は、活用マニュアルの「5 電話機(アナログ通信機器)を使う」を参照してください。

### 外線電話をかける...

アナログポートに接続された電話機から、外線電話へのかけかたを説明します。

アナログポートに接続した電話機についての詳細は、電話機の説明書をご覧ください。

手順

以下の手順で外線電話で通話します。

- 1 受話器をあげます  
「ツー」という発信音が聞こえ液晶ディスプレイに使用しているアナログポート名が表示されます。
- 2 相手の電話番号をダイヤルします  
ダイヤル後、約5秒後(ダイヤル桁間タイムの設定によります)に発信します。  
電話番号の後に続けて(＃)を押すと待たずにすぐ発信できます。
- 3 通話が終わったら受話器をおきます。

番号を間違えたときは

受話器を置いて、手順1からやりなおしてください。

Atermの液晶ディスプレイ

AtermIR450

アナログAポートに接続した電話機の受話器をあげた場合

アナログ A ハッシン  
0312345678

アナログAポートから発信した場合の例

アナログ A セツダン  
016 10円

切断理由を表示 今かけた通話料金を表示

液晶ディスプレイに表示される切断理由の詳細は、活用マニュアルの「10-6 切断理由表示・診断情報表示・生成源表示一覧」を参照してください。

## 外線電話をうける...

外線電話を受けるときの手順を説明します。

### 手順

以下の手順で外線電話と通話します。

- 1 電話がかかってきたら、受話器をあげて通話します。

Atermに外から電話がかかってくると、Atermの液晶ディスプレイに情報が表示されます。

相手先電話番号は、相手先の環境によっては、表示されないことがあります。詳細は、活用マニュアルの「5-3 発信者番号通知サービスの利用」を参照してください。

- 2 通話が終わったら受話器をおきます。

#### Atermの液晶ディスプレイ

アナログ チャクシン  
03 × × × × × × × ×

アナログポートに着信があった場合

アナログ A セツダン  
016

アナログAポートに接続した電話機  
の受話器を置いた場合

4  
Windows98  
Windows95

1 準備

2 アナログ機能

3 TA機能

4 ルータ機能

## 内線電話をかける...

3つのアナログポートに接続した電話機のうち、2台の電話機間で通話することができます。

手順

以下の手順で通話します。

1

受話器をあげます。

2

Ⓜ Ⓝ 「呼び出す電話機の番号」を続けて押します。

アナログAポートの電話機：①

アナログBポートの電話機：②

アナログCポートの電話機：③

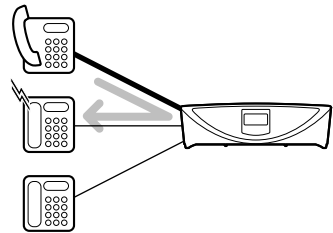
例  
アナログAポートに接続されている電話機からアナログBポートに接続されている電話機を呼び出す場合

Ⓜ Ⓝ ②と押します。

アナログAポートの電話機

アナログBポートの電話機

アナログCポートの電話機



3

呼び出し音が鳴り、相手が受話器をあげれば通話ができます。

4

通話が終わったら受話器をおきます。



- ・呼び出したいアナログポートが使われているときは、利用できません。
- ・停電時は利用できません。



- ・INSネット64に接続していない状態でも、内線通話機能は利用できます。
- ・内線通話中に外線から着信があると、ブツブツと音がして着信を通知します。フッキングをすると外線通話ができます。
- ・ダイヤル後、すぐに発信させるには最後にⓂを押します。

## 内線電話をうける...

外線電話をうける場合と同じです。前ページ「外線電話をうける...」を参照してください。

4  
Windows98  
Windows95

1  
準備

2  
アナログ機能

3  
TA機能

4  
ルータ機能

## 通信中の外線電話を他の内線電話へ転送する...

外線からかかってきた電話やファクスを、他のアナログポートの電話機またはファクスに転送することができます。

### 転送先の相手と通話してから転送を開始する場合

#### 手順

以下の手順で通話します。

- 1 外線と通話中に1回フッキングします。
- 2 **#** **\*** 「呼び出す電話機の番号」を続けて押します。  
 「呼び出す電話機の番号」は、アナログポート毎に次のように決まっています。  
 アナログAポートの電話機：①  
 アナログBポートの電話機：②  
 アナログCポートの電話機：③
- 3 転送先では呼び出し音が鳴り、転送先の相手が受話器をあげたら、外線電話を転送することを伝えます。
- 4 転送元の受話器をおきます。  
 これにより、外線相手と転送相手が通話できます。

### 転送先の相手と通話しないで転送を開始する場合

#### 手順

以下の手順で通話します。

- 1 外線と通話中に1回フッキングします。
- 2 **#** **\*** 「呼び出す電話機の番号」を続けて押します。  
 「呼び出す電話機の番号」は、アナログポート毎に次のように決まっています。  
 アナログAポートの電話機：①  
 アナログBポートの電話機：②  
 アナログCポートの電話機：③
- 3 電話機の受話器から、転送先の呼び出し音が聞こえたら受話器をおきます。  
 転送先の相手が受話器をあげると、話していた外線相手が、転送先の相手と通話できます。




- ・ 転送する先のアナログポートが使われているときは利用できません。
- ・ 同一回線にバス接続されている、別のTAに接続された電話機への転送はできません。
- ・ 停電時には、転送機能は利用できません。
- ・ 転送中(相手を呼出中)にフッキングすると、Atermは相手の呼出を中断し、元の通話状態にします。
- ・ 転送手順の途中(例えばフッキング【#】をダイヤル)で受話器を置くと誤操作と判断し「呼び返し」が起こります。いったん受話器を上げて転送しなおしてください。
- ・ フッキング後、次の操作をしないでしばらくすると自動的に元の通話状態に戻ります。



フッキングとは、電話機のフックを軽く押しはなすことをいいます。フッキング検索時間より長くフッキングを行うと、通話中にその通話が切断されます。

## 疑似キャッチホンを使う...

 Atermの設定必要

INS ネット 64 の付加サービスの契約なしで、疑似的にキャッチホン(話し中にかかってきた電話を受ける)ができます。月々の付加使用料はかかりませんが、Bチャンネルを2本使用するため、下記の制限があります。

- ・INS ネット64のB1、B2チャンネルを両方使うので、その間、他のポートは使用できません。
- ・疑似キャッチホン中は、内線通話以外の通信はできません。


疑似キャッチホンを使うためには、次のいずれかの方法で、Atermを設定する必要があります。それぞれの設定方法を説明します。

らくらくウィザードでの設定はできません。



### 電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)

(Atermと接続したプッシュ式電話機から受話器をあげてダイヤルします)

	(*) (*) (1) (*)	アナログAポート	(1)	(*)	(0)	(2)	(*)	(2)	(#)	(#)
受話器を		アナログBポート	(2)							
あげる		アナログCポート	(3)							

### らくらくユーティリティでの設定

タスクバーの **スタート** [プログラム] [AtermIR450ユーティリティ] [IR450らくらくユーティリティ]の順に選択  
 [IR450らくらくユーティリティ]画面のアナログポートボタン 設定したいポートのタグ  
疑似キャッチホンにチェック

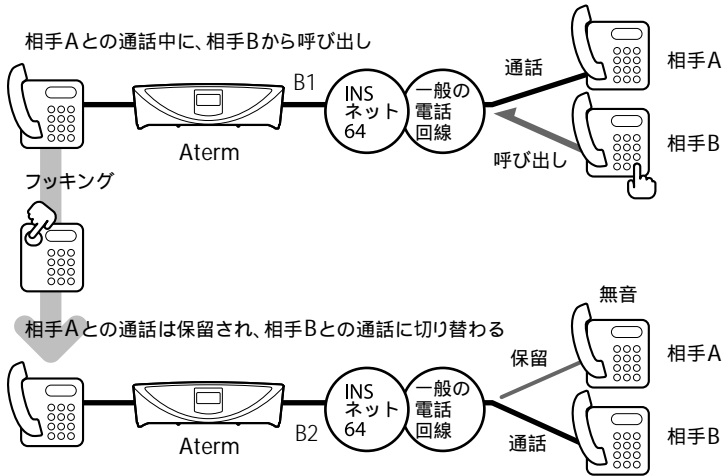
設定の詳細は、活用マニュアルの「1らくらくユーティリティ」、「4電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)」を参照してください。

疑似キャッチホンの操作手順は、次の通りです。

### 手順

以下の手順で通話します。

- 1 相手Aと通話中に新たな相手Bから着信があると、受話器から、「ブブツ」という音が聞こえます。
- 2 電話機から1回フッキングすると、相手Bとの通話ができます。相手Aは、保留されます。(無音となります。)



- 3 通話相手を切り替えるときは、もう一度フッキングします。







# Windows 98 Windows 95

## 4 Windows98/Windows95で アナログ機能・TA機能・ルータ機能を利用する

### 4-3 TA機能を利用してインターネットへ ダイヤルアップ接続する

TA機能を利用して、インターネットへ接続するまでを説明しています。

4-3-1 TA機能で接続をはじめる前の確認

4-3-2 TA機能でインターネットへ接続するための設定

Windows®98はMicrosoft® Windows®98 operating system の略です。  
Windows®95はMicrosoft® Windows®95 operating system の略です。

## 4-3-1 TA機能で接続をはじめる前の確認

Atermでは、インターネットにパソコンを接続する方法として、以下の2つの方法を使用することができます。

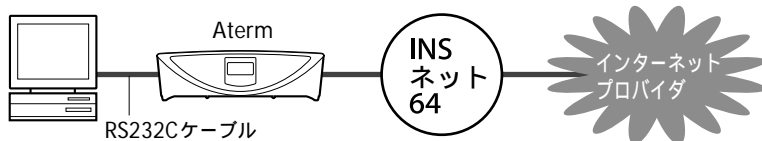
TA機能による接続

ルータ機能による接続

ここではTA機能について説明します。

ルータ機能については、「4-4 ルータ機能を利用してインターネットヘダイヤルアップ接続する」95ページを参照してください。

**AtermのTA機能では、1台のパソコンをインターネットに接続することができます。**



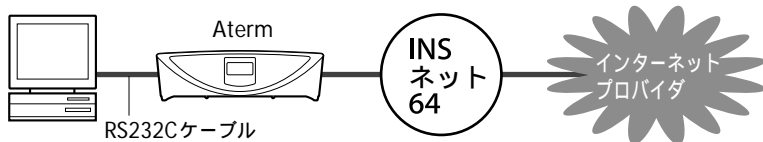
### Atermとパソコンとの接続を確認

TA機能は、AtermのデータポートとパソコンをRS232Cケーブルで接続してインターネットに接続します。

接続の方法は、「パソコンのシリアルポートと接続する」45ページを参照してください。

## 4-3-2 TA機能でインターネットへ接続するための設定

AtermのTA機能とWindows98/Windows95のダイヤルアップネットワークを使って、1台のパソコンからインターネットに接続できるようにする手順について説明します。



### Windows 98/Windows95 の設定手順

インターネットへ接続するための手順は、次の通りです。

- ① プロバイダの確認
- ② ダイヤルアップネットワークの確認(らくらくウィザードの起動の前に)
- ③ ネットワークプロトコルの確認(らくらくウィザードの起動の前に)
- ④ らくらくウィザードでTA機能を設定する
- ⑤ TA機能でインターネットに接続する

### ① プロバイダの確認...

インターネットへ接続するには、接続サービスを提供するプロバイダへの加入が必要です。詳しくは「2-5 インターネットについて」28ページで確認してください。

また、接続するアクセスポイントと、通信速度(回線速度)をプロバイダの案内で確認してください。

プロバイダへ加入されていない方は、らくらくウィザードを使ってBIGLOBEへ加入することもできます。ぜひこの機会にBIGLOBEへ加入してください。

## ②ダイヤルアップネットワークの確認(らくらくウィザードの起動の前に)...

インターネットに接続するために必要なダイヤルアップネットワークを確認します。

**手順** 以下の手順で確認します。

- 1 デスクトップの[ マイコンピュータ ]アイコンをダブルクリックします。  
マイコンピュータ画面が表示されます。
- 2 [ダイヤルアップネットワーク]アイコンを確認します。



### ダイヤルアップネットワークが

- 表示されている場合 : 「ネットワークプロトコルの確認」84ページに進んでください。
- 表示されていない場合 : 次の「ダイヤルアップネットワークのインストール」を行ってください。

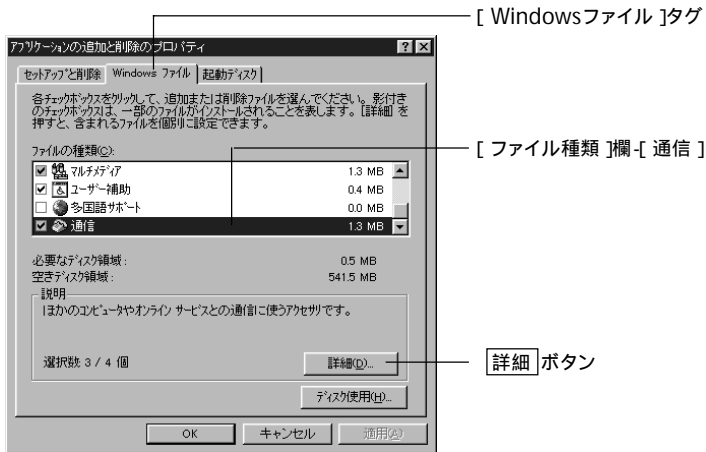
### ダイヤルアップネットワークのインストール

インターネットに接続するために必要なダイヤルアップネットワークのインストールをします。

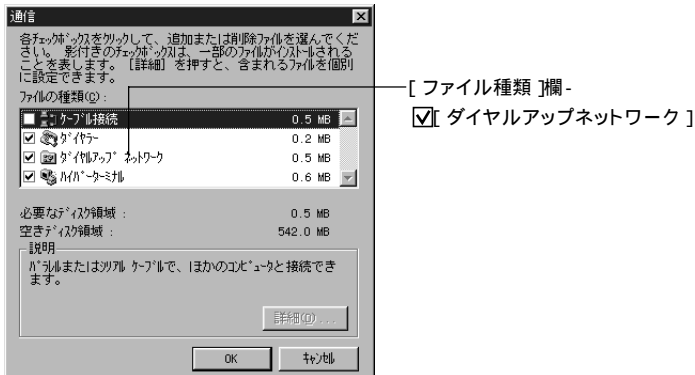
**手順** 以下の手順で確認します。

- 1 Windows95のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。
- 2 タスクバーの **スタート** [設定] [コントロールパネル]の順に選択します。
- 3 [コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。

- 4 [ Windows ファイル ] タグをクリックします。  
 [ ファイル種類 ] 欄の [ 通信 ] を選択します。  
 [ 詳細 ] ボタンをクリックします。



- 5 [ 通信 ] 画面が表示されます。  
 [ ファイル種類 ] 欄の  **ダイヤルアップネットワーク** をクリックしてチェックマークを付けます。  
 [ OK ] ボタンをクリックします。



- 6 [ アプリケーションの追加と削除のプロパティ ] 画面に戻ります。  
 [ OK ] ボタンをクリックします。  
 これで、「ダイヤルアップネットワーク」がインストールされました。  
 一度、パソコンを再起動してください。

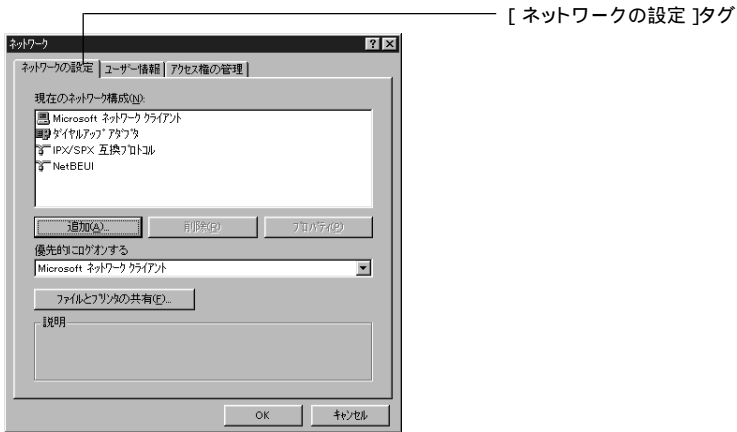
### ③ ネットワークプロトコルの確認(らくらくウィザードの起動の前に)...

インターネットに接続するために必要なネットワークプロトコルを確認します。

手順

以下の手順で確認します。

- 1 タスクバーの **スタート** [設定] [コントロールパネル]の順に選択します。
- 2 [コントロールパネル]の[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。
- 3 [ネットワークの設定]タグで[Microsoft ネットワーク クライアント]と[TCP/IP]が表示されていることを確認します。



「Microsoft ネットワーク クライアント」と「TCP/IP」が

表示されている場合 : 「らくらくウィザードでTA機能を設定する」  
87ページに進んでください。

表示されていない場合 : 次ページの「ネットワークプロトコルのインストール」を行ってください。

4  
Windows98

1  
準備

2  
アナログ機能

3  
TA機能

4  
ルータ機能

## ネットワークプロトコルのインストール

ネットワークプロトコルのインストールでは、「Microsoft ネットワーク クライアント」と「TCP/IP」を追加します。

手順

以下の手順で追加します。

1

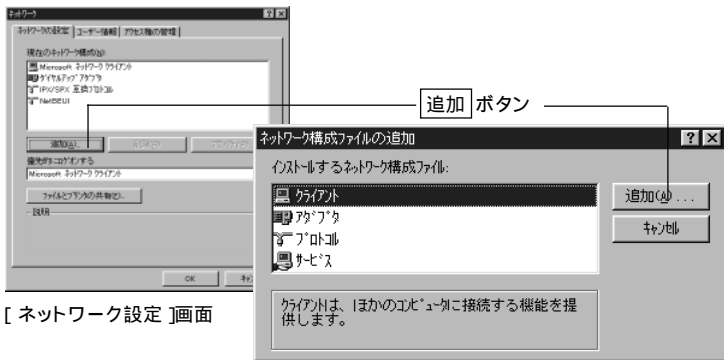
Microsoft ネットワーク クライアントの追加

[ ネットワークの設定 ] タグより、**追加** ボタンをクリックします。

[ ネットワークの設定 ] タグが表示されていない場合は、[ コントロールパネル ] の [ ネットワーク ] アイコンをダブルクリックします。

[ ネットワーク構成ファイル追加 ] 画面が表示されます。

[ クライアント ] を選択し、**追加** ボタンをクリックします。



[ ネットワーク設定 ] 画面

[ ネットワーク構成ファイル追加 ] 画面

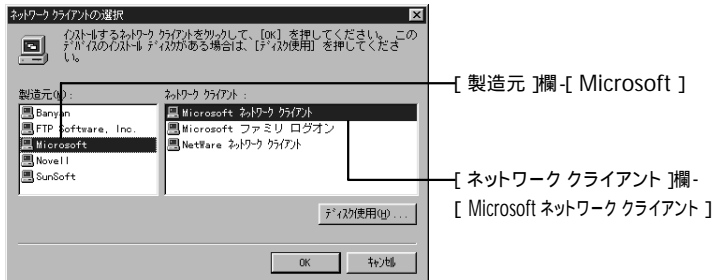
2

[ ネットワーククライアントの選択 ] 画面が表示されます。

[ 製造元 ] 欄で [ Microsoft ] を選択します。

[ ネットワーククライアント ] の欄で [ Microsoft ネットワーク クライアント ] を選択します。

**OK** ボタンをクリックします。



4  
Windows98  
Windows95

1  
準備

2  
アナログ機能

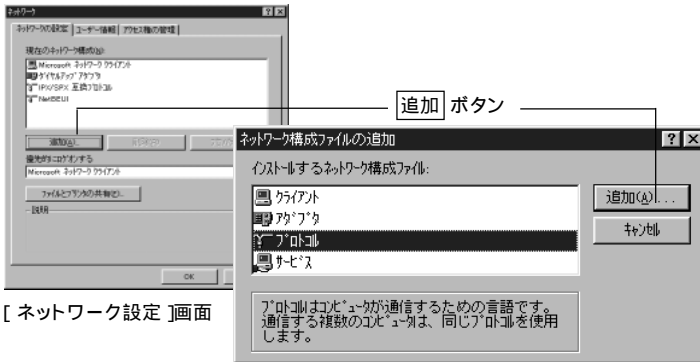
3  
TA機能

4  
ルータ機能

- 3 [ ネットワークの設定 ] タグに戻ります。  
 [ Microsoft ネットワーク クライアント ] が追加されていることを確認してください。

#### TCP/IP プロトコルの追加

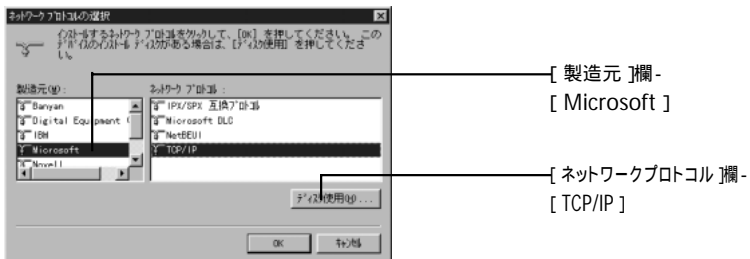
- 4 [ ネットワークの設定 ] タグより、**追加** ボタンをクリックします。  
 [ ネットワーク構成ファイル追加 ] 画面が表示されます。  
 [ プロトコル ] を選択し、**追加** ボタンをクリックします。



[ ネットワーク設定 ] 画面

[ ネットワーク構成ファイル追加 ] 画面

- 5 [ ネットワークプロトコルの選択 ] 画面が表示されます。  
 [ 製造元 ] 欄で [ Microsoft ] を選択します。  
 [ ネットワークプロトコル ] 欄で [ TCP/IP ] を選択します。  
**OK** ボタンをクリックします。



[ 製造元 ] 欄 -  
[ Microsoft ]

[ ネットワークプロトコル ] 欄 -  
[ TCP/IP ]

- 6 [ ネットワークの設定 ] タグに戻ります。  
 [ ネットワークの設定 ] タグで **OK** ボタンをクリックします。  
 「再起動しますか」と表示されますので、**はい** ボタンをクリックします。  
 パソコンが再起動されます。

以上でインストールは完了です。



## ④らくらくウィザードでTA機能を設定する...

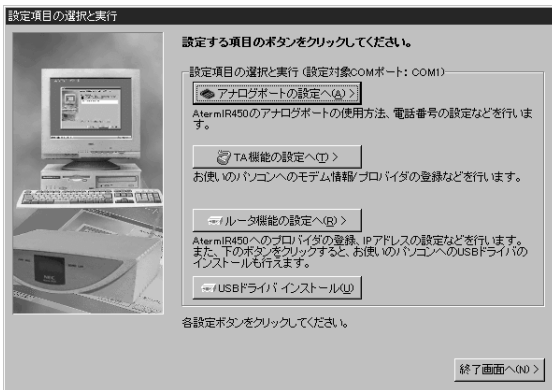
ダイヤルアップネットワークの確認、ネットワークプロトコル(TCP/IP)の確認をした後、引き続きらくらくウィザードで設定を行います。

すでにダイヤルアップネットワーク、ネットワークプロトコル(TCP/IP)を組み込んでいる方で、AtermのTA機能を使用したい方は、ここからお読みください。

手順

以下の手順で設定します。

- 1 らくらくウィザードを起動する前には必ず、RS232CケーブルをAtermとパソコンとの間で接続してください。  
接続方法は、「パソコンのシリアルポートと接続する」45ページを参照してください。
- 2 **スタート** [プログラム] [AtermIR450ユーティリティ] [IR450らくらくウィザード]を選択します。
- 3 らくらくウィザードが起動されます。  
ここで、**TA機能の設定へ** ボタンをクリックします。



4  
Windows98  
Windows95

1 準備

2 アナログ機能

3 TA機能

4 ルータ機能

ここからの説明は、TA機能の設定でポイントとなる画面の説明をします。設定を進めていくと以下の画面が表示されますので、説明に従い設定してください。

**point 1** [プロバイダの選択]画面では、次の通り設定します。

TA機能で接続するインターネットのプロバイダを選択します。

[BIGLOBEにオンライン・サインアップする]

プロバイダに加入されていない方は、ぜひこの機会にBIGLOBEにご加入ください。[BIGLOBEにオンライン・サインアップする]にチェックマークを付け、画面に従って設定してください。

[すでに加入しているプロバイダを使う]

すでにBIGLOBEに加入されている方、あるいは他のプロバイダを利用する方は、[すでに加入しているプロバイダを使う]にチェックマークを付けてください。

**次へ** ボタンをクリックするとpoint2へ進みます。

[設定を行わない]

ここで、TA機能として接続しない場合は、[設定を行わない]にチェックマークを付けてください。

**次へ** ボタンをクリックするとpoint3へ進みます。



**point 2** [ 接続先の設定 ]画面では、次の通り設定します。

[ BIGLOBE を利用する ]を選択した場合

BIGLOBE への「ログインID」、「パスワード」を入力します。

パスワードには「&」記号は、使用できません。

利用するプロバイダの情報を設定します。

プロバイダ情報

BIGLOBE を利用する(A)

東京(03) [同欄44-129%]

電話番号(B) 03 - 5796-9020

登録名(C) BIGLOBE

ログインID(D) USERID

ログインパスワード(E) \*\*\*\*\*

プライマリDNS(F) 193.205.007.225

セカンダリDNS(G) 193.205.064.129

「ログインID」  
「パスワード」

入力が終わりましたら、[次へ(H)]ボタンをクリックしてください。

<戻る(B) 次へ(H) > キャンセル

表示されるプロバイダ情報はすでに変更されている場合もあります。その場合、プロバイダの案内に従って設定し直してください。

[ BIGLOBE を利用する ]を選択しない場合

次の項目をプロバイダからの登録証などを参照して入力します。

[ 電話番号 ]: プロバイダの最寄りのアクセスポイントを入力します。

[ 接続先名 ]: プロバイダなどの名称を元に入力してください

[ ログインID ][ ログインパスワード ]: ダイアルアップ接続用の「ユーザーID」と「パスワード」を入力します。

パスワードには「&」記号は、使用できません。

[ DNS ]: プロバイダの案内に従って設定します。

利用するプロバイダの情報を設定します。

プロバイダ情報

BIGLOBE を利用する(A)

03 - XXXXXXX

登録名(C) フタバ伊

ログインID(D) USERID

ログインパスワード(E) \*\*\*\*\*

プライマリDNS(F) 000.000.000.000

セカンダリDNS(G) 000.000.000.000

「アクセスポイント」

「接続先名」  
「ユーザーID」  
「パスワード」

入力が終わりましたら、[次へ(H)]ボタンをクリックしてください。

<戻る(B) 次へ(H) > キャンセル

4 Windows98  
Windows95

1 準備

2 アナログ機能

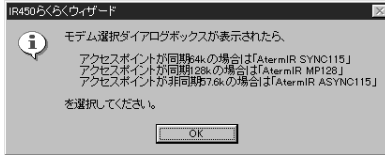
3 TA機能

4 ルータ機能

[すでに加入しているプロバイダを使う]を選択した場合には、次の設定もあわせて行います。

「モデム選択ダイアログボックスが表示されたら、」の画面が表示されます。

**OK** ボタンをクリックします。



[モデムの選択]画面が表示されます。

プロバイダの設定にあわせて使用するモデムを選択し、**OK** ボタンをクリックします。



選択するモデムは、プロバイダのアクセスポイントにより異なります。不明な場合は、加入したプロバイダに問い合わせてください。

アクセスポイントの条件	選択するモデム
非同期	AtermIR ASYNC115
64Kbps 同期	AtermIR SYNC115
128Kbps マルチリンク PPP	AtermIR MP128

**point 3** [モデム定義ファイル・ダイヤルアップ接続の登録]画面が表示されます。

**実行** ボタンをクリックします。登録が始まります。

以上でらくらくウィザードでの設定は終了です。

## ⑤ TA機能でインターネットに接続する...

### プロバイダとの接続を確認する

ここでは、実際にプロバイダのアクセスポイントに電話をかけてインターネットに接続します。

手順

以下の手順でインターネットに接続します。

1 [マイコンピュータ] [ダイヤルアップネットワーク] IR450らくらくウィザードで設定した、接続するプロバイダの名前に付いているアイコンをダブルクリックします。

2 アイコンの名前の[接続]画面が表示されます。

「ユーザ名」と「パスワード」を入力します。

プロバイダから指定された、ダイヤルアップ接続用の「ユーザーID」と「パスワード」を入力します。

入力には、半角英数字を使います。大文字、小文字の区別もプロバイダからの情報等の資料にあわせてください。

[パスワードの保存]をクリックしてチェックマークをつけると、次回から入力する必要はありません。

「ユーザーID」

「パスワード」

[パスワードの保存]

3 [接続] ボタンをクリックします。

パソコンからプロバイダに電話をかけ、接続されると「ユーザ名」と「パスワード」の確認が行われます。確認が正常に終了するとプロバイダのホストコンピュータに接続され、パソコンのタスクバーに[ダイヤルアップネットワークモニタ]アイコンができます。



[ダイヤルアップネットワークモニタ]アイコン

## 4 WWWブラウザを起動します。

「インターネットエクスプローラ」や「ネットスケープナビゲータ」などのアイコンをダブルクリックします。

## 5 見たいホームページのアドレス(URL)たとえばhttp://aterm.cplaza.ne.jp/)

を入力し、リターンキーを押します。  
ホームページを見ることができます。



参考

Atermをお買い上げいただいたお客様を対象にユーザ登録を行なっています。登録していただいたお客様には、Atermをご使用のお客様へのサービスの一環といたしまして、電子メールによる新製品情報、バージョンアップの案内を中心に、さまざまな情報提供やキャンペーン、イベントなどの特典・サービスを提供して参ります。

是非ユーザ登録を行なってください。

登録はインターネットホームページ「AtermStation」にて行なっています。

事前にご用意いただくもの

1. Aterm本体(機種名、製造番号)
2. 電子メールアドレス(最も一般的に使用しているアドレス)
3. Atermを使用するINSネット64の契約者回線番号

4  
Windows98  
Windows95

1  
準備

2  
アナログ機能

3  
TA機能

4  
ルータ機能

## 接続を切断する

### 手順

以下の手順で回線を切断します。

- 1 ファイルメニューから[ 終了 ]を選んでWWWブラウザを終了します。
- 2 タスクバーの[ ダイアルアップネットワークモニター ]アイコンをダブルクリックします。
- 3 **切断** ボタンをクリックします。

回線が切断されます。

正常に切断されると、Atermの液晶ディスプレイに「データセツダン」が約5秒間表示されます。



**切断** ボタンをクリックしないと、WWWブラウザを終了しても通信回線はつながったままになっています。インターネットの接続をやめるときは、必ず [ ダイアルアップネットワーク ] 画面の **切断** ボタンをクリックしてください。



切断ボタンをクリックしてもAtermの液晶ディスプレイにデータ送信中のピクトグラム( ≡ B1 B2 )のどちらかが表示されているときは、通信回線がつながったままになっています。そのまま放置すると通信費用がかかり続けます。このようなときは、AtermとINSネット64を接続している回線ケーブルを一度抜いて通信回線を強制的に切断してください。

回線ケーブルを抜くとAtermのすべての通信が切断されるので、他の機器が通信(通話)中ではないことを確認してから回線ケーブルを抜いてください。



Atermのデータポートから発信(ダイヤル)したときに、発信先が話中などのときには再発信は、次のように制限されています。

「最初の発信から3分間で2回以内」

この制限をこえるとAtermは、再発信しません。3分間後に発信してください。







# Windows 98 Windows 95

## 4 Windows 98/Windows 95で アナログ機能・TA機能・ルータ機能を利用する

### 4-4 ルータ機能を利用してインターネットへ ダイヤルアップ接続する

ルータ機能を利用して、インターネットへ接続するまでを説明しています。

- 4-4-1 ルータ機能を利用する上での基礎知識
- 4-4-2 ルータ機能で接続をはじめる前の確認
- 4-4-3 ルータ機能でインターネットへ接続するための設定
- 4-4-4 LAN上に2台目のパソコンを追加する
- 4-4-5 USBポートのさまざまな使い方

Windows®98はMicrosoft® Windows®98 operating system の略です。  
Windows®95はMicrosoft® Windows®95 operating system の略です。  
Windows NT®4.0はMicrosoft® Windows NT® operating system version 4.0の略です。  
Windows®3.1はMicrosoft® Windows® operating system version 3.1 の略です。

# 4-4-1 ルータ機能を利用する上での基礎知識

ここではAtermのルータ機能を利用する上で、知っておいていただきたいことを説明しています。

## IPアドレスについて

IPアドレスとは、IPによる通信(IPネットワーク)を行う際、ネットワーク上の通信機器を識別するためのものです。特にインターネットでは、世界中がネットワークに接続されているため、これらの中でそれぞれ異なった番号を持たなければなりません。IPアドレスの表記は、通常「192.168.0.1」のように、ピリオドをはさんだ4つの数字(0~255)で表します。

## グローバルIPアドレスとプライベートIPアドレス

グローバルIPアドレスとは、インターネットに接続され通信機器に一意に割り当てられるIPアドレスのことです。インターネットの中では住所にあたり、インターネット上で通信を行うためには必ず必要となります。

グローバルIPアドレスに対して、インターネットに直接接続することのない、各組織内部の閉じたネットワークでは、プライベートIPアドレスを使うことになっています。

プライベートIPアドレスの範囲はRFC1918で以下のように定義されています。

10.0.0.0 ~ 10.255.255.255

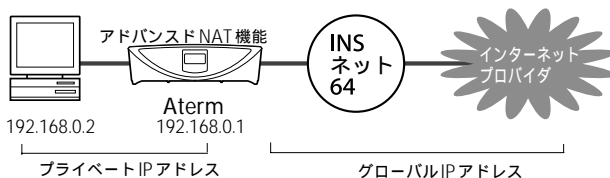
172.16.0.0 ~ 172.31.255.255

192.168.0.0 ~ 192.168.255.255

## アドバンスドNAT

アドバンスドNAT機能とは、インターネットに直接接続することができないプライベートIPアドレスを、インターネットへ接続するために、複数のプライベートIPアドレスと1つのグローバルIPアドレスを変換してインターネットに接続できる機能です。

これにより、本来、インターネットに接続できなかったプライベートIPアドレスを使用したLANをインターネットに接続できるようになります。



アドバンスドNAT機能を利用すると、ネットワークゲームなど一部の通信アプリケーションがご利用になれない場合があります。詳細は、活用マニュアル「2 WWWブラウザを利用した設定」の「アドバンスドNATオプション」を参照してください。

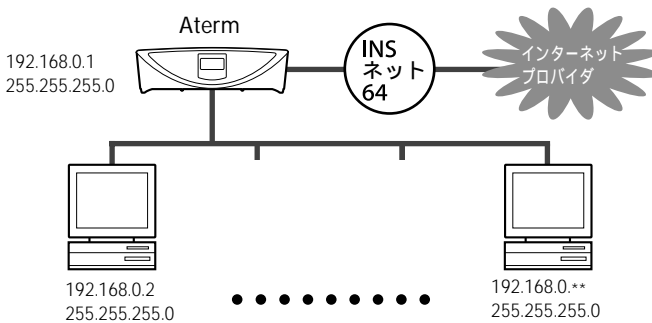
## DHCP( Dynamic Host Configuration Protocol )について

覚えにくく、また設定しにくいIPアドレスの設定を簡素化するため、Atermでは各パソコンに対して、自動的にこのIPアドレスを割り当てる機能があります。

この機能を、DHCP機能といいます。

Atermのように、IPアドレスをパソコン等に割り当てる装置を、DHCPサーバと呼びます。また、パソコンのように、IPアドレスをDHCPサーバから割り当てられる装置を、DHCPクライアントと呼びます。

Atermの工場出荷時の設定は、DHCPサーバとして動作するように、設定されています。DHCPクライアントとしては、動作しません。



## DNS( Domain Name System )について

IPアドレスは数字だけのため、覚えにくく実用的ではありません。

例えば、インターネット上のホームページを参照する場合、パソコン上のWWWブラウザからそのホームページを見るためには、WWWブラウザの中に、IPアドレスを直接入力した場合には、わかりにくくなってしまいます。

例 `http://192.168.0.1`

そこで、このIPアドレスとその他の文字列とを、下記のように関連づける機能が、利用されるようになりました。この関連づけられたデータを提供する装置をDNSサーバといいます。

192.168.0.1 = `www.xxx.nec.co.jp`

この関連付けは例であり、実際の値とは異なります。

インターネットに接続するパソコンやAtermなどは、このDNSサーバを利用してより簡単にWWWブラウザからインターネットのホームページを見ることができるようになっています。

## インターネットのさまざまな接続形態...

インターネットに接続するために、プロバイダとの間で契約する接続形態には、代表的なものとして「端末型ダイヤルアップ接続」「LAN型ダイヤルアップ接続」があります。また、NTTコミュニケーションズ株式会社が提供する常時接続型のOCNエコノミーなどもあります。以下にそれぞれの特徴を説明します。

### 端末型ダイヤルアップ接続

端末型ダイヤルアップ接続は、接続するたびに異なるIPアドレス(グローバルIPアドレス)が1つ割り当てられます。この接続形態がもっとも一般的です。

Atermでは端末型ダイヤルアップ接続で契約していても、アドバンスドNAT機能により、LAN上の複数のパソコンからインターネットに接続することができます。

### LAN型ダイヤルアップ接続

LAN型ダイヤルアップ接続は、LAN(ネットワーク)全体を、ルータを使って接続する接続形態です。端末型ダイヤルアップと違い、ネットワーク全体を接続し、複数のIPアドレス(グローバルIPアドレス)が割り当てられます。そのIPアドレス(グローバルIPアドレス)を使い複数のパソコンから同時にインターネットに接続できます。

### OCNエコノミー

OCNエコノミーは、NTTコミュニケーションズ株式会社が提供するデータ通信の回線サービスの一部です。常時接続型でインターネットに接続されます。

OCNエコノミーでの接続の詳細は、活用マニュアルの「7-10 ルータ機能を利用したその他の接続」を参照してください。

Atermでは、上記接続形態すべてに対応していますが、このマニュアルでは、上記の「端末型ダイヤルアップ接続」で接続できるように設定します。

端末型ダイヤルアップ以外の接続をするには、活用マニュアルの「7-10 ルータ機能を利用したその他の接続」を参照してください。

## 4-4-2 ルータ機能で接続をはじめる前の確認

Atermでは、パソコンをインターネットに接続する方法として、以下の2つの方法を使用することができます。

TA機能による接続

ルータ機能による接続

ここではルータ機能による接続について説明します。

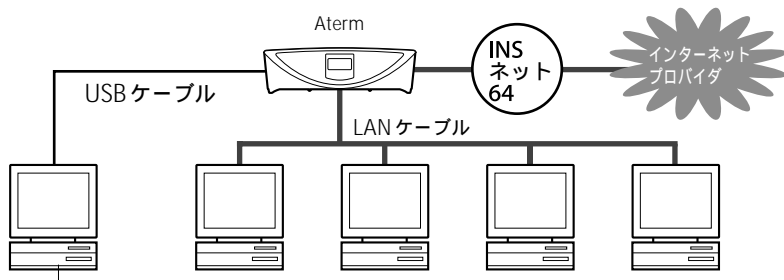
TA機能の詳細は、「4-3 TA機能を利用してインターネットへダイヤルアップ接続する」79ページを参照してください。

TA機能では、AtermのデータポートとパソコンをRS232Cケーブルで接続してインターネットに接続します。これに対し、ルータ機能では、AtermとパソコンをLANケーブルまたは、USBケーブルで接続(Windows98/Windows95のみ)して、インターネットに接続します。

Atermの10BASE-Tポートには、直接4台までのパソコンを同時にインターネットに接続することができます。

また、AtermのUSBポートには、さらに1台のパソコン(Windows98/Windows95のみ)を追加することもできます。

Atermのルータ機能では、4台の10BASE-Tで接続されたパソコン、またはUSBで接続されたパソコン(Windows98/Windows95のみ)をインターネットに接続することができます。



(Windows98/Windows95のみ)



Atermの10BASE-TポートとUSBポートに接続されたパソコン同士の「ファイルとプリンタの共有」では、TCP/IPによる通信のみ可能です。詳しくは「USBポートと10BASE-Tポートを通して「ファイルとプリンタの共有」機能を使う...」132ページを参照してください。

4 Windows98  
Windows95

1 準備

2 アナログ機能

3 TA機能

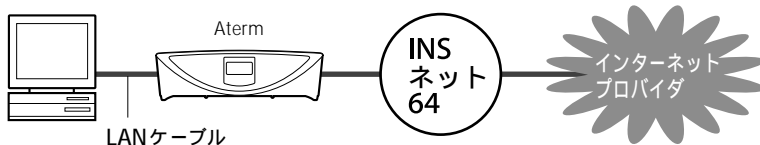
4 ルータ機能

## 4-4-3 ルータ機能でインターネットへ接続するための設定

ここでは、らくらくウィザードを使って、下図のようなWindows98/Windows95の一台のパソコンから、10BASE-Tまたは、USBポートを使用して端末型ダイアルアップ接続でインターネットに接続できるようにします。

### 10BASE-Tポートを使用して1台目のパソコンをインターネットへ接続する

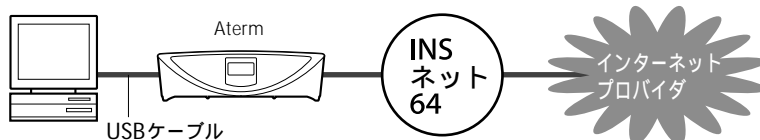
インターネットへの接続先を1つ、Aterm1台、パソコン(Windows98/Windows95)1台



Atermの10BASE-Tポートを利用するには、パソコンに10BASE-Tポートがある必要があります。10BASE-Tポートがないパソコンの場合は、別途LANカード/アダプタ等を取り付ける必要があります。取り付け時は、パソコンやLANカード/アダプタ等の取扱説明書に従って正しく取り付け、設定してください。

### USBポートを使用して1台目のパソコンをインターネットへ接続する

インターネットへの接続先を1つ、Aterm1台、パソコン(Windows98/Windows95)1台



Atermとパソコンとの間をUSBケーブルで接続する場合、らくらくウィザードによって、自動的にUSBドライバをインストールします。

らくらくウィザードでは、インターネットへの接続先を1つ、または2つ以上をAtermに登録し、Atermを1台とパソコン(Windows98/Windows95)1台のLAN環境を構築するように作られています。

## 10BASE-Tケーブル、またはUSBケーブルを接続するタイミングについて ...

らくらくウィザードで設定する場合、接続するケーブルは、次のようになりますので注意してください。

- 10BASE-Tケーブル らくらくウィザードでAtermにルータ機能を設定後、接続してください。
- USBケーブル らくらくウィザードでUSBドライバをインストールする際に指示に従って接続してください。

## 2台目以降のパソコンを追加するには ...

「4-4-4 LAN上に2台目のパソコンを追加する」130ページを読んで接続してください。

## 端末型ダイヤルアップ接続以外でインターネットへ接続するための設定は ...

下記のページを参照してください。

LAN型ダイヤルアップ接続の方

OCNエコノミーサービス接続の方

●●参照●● 活用マニュアル「7-10 ルータ機能を利用したその他の接続」

## 既存のLANに導入するには ...

Atermを既存のLANに導入する場合には、活用マニュアル「7-2 既存のLANにAtermを導入する」を読んで接続してください。

### Windows 98/Windows95の設定手順

インターネットへ接続するための手順は、次の通りです。

- ① プロバイダの確認
- ② パソコンのネットワークプロトコル(TCP/IP)の確認
- ③ らくらくウィザードでUSBドライバをインストールする
- ④ らくらくウィザードでルータ機能を設定する
- ⑤ パソコンのネットワークプロトコル(TCP/IP)の設定
- ⑥ パソコンとAtermとの通信を確認する
- ⑦ ルータ機能でインターネットに接続する

## ① プロバイダの確認(らくらくウィザードの起動の前に)...

インターネットへ接続するには、接続サービスを提供するプロバイダへの加入が必要です。

詳しくは「2-5 インターネットについて」28ページで確認してください。

また、接続するアクセスポイントと、通信速度(回線速度)をプロバイダの案内で確認してください。

プロバイダへ加入されていない方は、らくらくウィザードの中でBIGLOBEへ加入することもできます。ぜひこの機会にBIGLOBEへ加入してください。

らくらくウィザードのルータ機能の設定では、「端末型ダイヤルアップ接続」の契約している場合について対応しています。それ以外の方は活用マニュアル「7-10 ルータ機能を利用したその他の接続」を参照してください。



## ② パソコンのネットワークプロトコル(TCP/IP)の確認

(らくらくウィザードの起動の前に)...

LAN 接続するパソコンに、TCP/IP がインストールされていることを確認します。

らくらくウィザードを起動する前には、TCP/IPが事前にパソコンにインストールされている必要があります。

**手順** 以下の手順で確認します。

- 1 タスクバーの **スタート** [設定] [コントロールパネル] [ネットワーク] の順に選択します。
- 2 [ネットワーク]画面が表示されます。  
[ネットワークの設定]タグをクリックして選択します。  
[現在のネットワークの構成]欄に[ TCP/IP ]または[ TCP/IP ##### (LANカード / アダプタの種類) ]が表示されているか確認します。  
##### に表示される内容は、LAN カード / アダプタにより異なります。



ネットワークプロトコル(TCP/IP)が

表示されている場合 : **OK** ボタンをクリックして終了させ、以下のページに進んでください。

Atermの10BASE-Tポートを使用する場合

「④ らくらくウィザードでルータ機能を設定する」110ページ

AtermのUSBポートを使用する場合

「⑤ らくらくウィザードでUSBドライバをインストールする」106ページ

表示されていない場合 : 次の「ネットワークプロトコルのインストール」を行ってください。

## ネットワークプロトコルのインストール

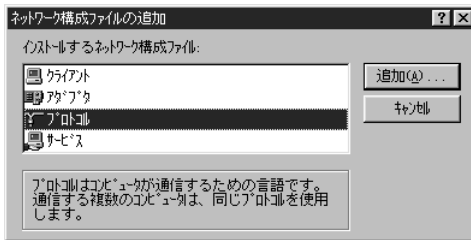
LAN 接続したパソコンに、TCP/IP を追加します。

すでにTCP/IPプロトコルがインストール済みの方は、ここでのTCP/IPの追加は不要です。

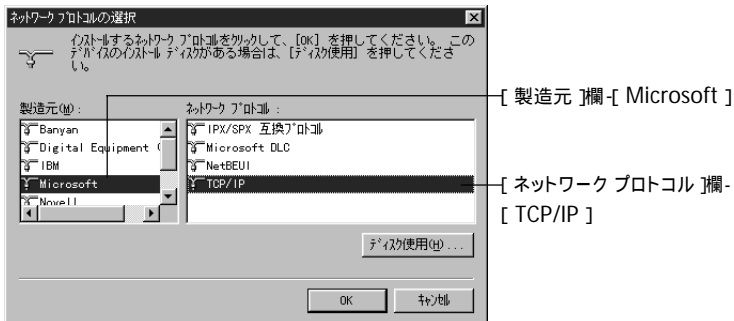
手順

以下の手順で追加します。

- 1 「ネットワークプロトコル(TCP/IP)の確認」で手順2の[ ネットワークの設定 ] タグより、**追加** ボタンをクリックします。
- 2 [ ネットワーク構成ファイル追加 ] 画面が表示されます。  
[ プロトコル ] を選択し、**追加** ボタンをクリックします。



- 3 [ ネットワークプロトコルの選択 ] 画面が表示されます。  
[ 製造元 ] のボックスで [ Microsoft ] を選択し、[ ネットワークプロトコル ] のボックスで [ TCP/IP ] を選択し、**OK** ボタンをクリックします。  
[ ネットワークの設定 ] 画面に戻ります。



4  
Windows98  
Windows95

1  
準備

2  
アナログ機能

3  
T A機能

4  
ルータ機能

4 [ ネットワークの設定 ]画面が表示されます。

**OK** ボタンをクリックすると、パソコンの再起動を求められますので、パソコンを再起動させます。

以上でネットワークプロトコルのインストールは完了です。

#### Atermの10BASE-Tポートを使用する場合

「**4**らくらくウィザードでルータ機能を設定する」110ページに進んでください。

#### AtermのUSBポートを使用する場合

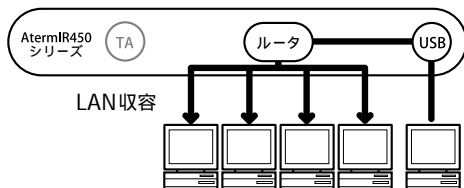
「**3**らくらくウィザードでUSBドライバをインストールする」次ページに進んでください。

## ③らくらくウィザードでUSBドライバをインストールする...

らくらくウィザードを使用して、Windows98/Windows95にAtermのUSBポートを使用するためのUSBドライバのインストールのしかたを説明します。

USBポートを使用されない方は、「④らくらくウィザードでルータ機能を設定する」110ページに進んでください。

Atermは、新方式「Aterm USB LAN Driver」の採用により、パソコンにUSBポートがあれば、LANに収容することができます。この機能を利用すると、LANボードのないパソコンでもLANに接続可能になります。



USBケーブルを接続するタイミングは、らくらくウィザードの指示に従ってください。USBポートと10BASE-Tポートとの間で、「ファイルとプリンタの共有」を行う際には、USBドライバのインストール終了後、「USBポートと10BASE-Tポートを通して、「ファイルとプリンタの共有」機能を使う」132ページを参照して行ってください。



USBポートは、TAのデータポートとしては利用できません。  
 サスペンドモード・MS-DOSモードは使用不可能です。  
 USBポートに接続されたパソコンと10BASE-Tポートに接続されたパソコンの間では、IPパケットによる通信のみ可能です。  
 停電モードでは使用できません。  
 PC-9821シリーズとのUSB接続はできません。PC-9821シリーズで使用する場合は、別途LANカード/アダプタ等を用意して、10BASE-Tポートを使用してください。

AtermのUSBポートに接続するためのパソコンの条件は次のとおりです。

- ・ USBポートを備えたパソコンであること
- ・ Windows98/Windows95をインストールしたパソコンであること
- ・ Windows95のバージョンは、4.00.950C( OSR2.5 )以降であること

**注意**

Aterm専用のUSBドライバソフトウェアは、Windows98 Second Editionをサポートしていません。(平成11年10月現在)

今後のサポート状況につきましては、インターネットのホームページ「AtermStation」(<http://aterm.cplaza.ne.jp/>)などで確認してください。

**注意**

Windows98またはWindows95でUSB接続を使用する場合、Aterm USB LAN Driverは、他のLANボードまたはLANカード等との同時使用はできません。Aterm USB LAN Driverを使用する際は、他のLANボードまたはLANカードのドライバを「使用しない」にしてください。設定を変更する手順は、次のとおりです。

タスクバーの  [設定] [コントロールパネル]の順に選択します。

[システム]をダブルクリックします。

[デバイスマネージャ]タグ内の[ネットワークアダプタ]をクリックし、他のLANボードまたはLANカードを選択します。

[プロパティ]をクリックします。

[情報]タグ内の[このハードウェア環境で使用不可にする]のチェックをはずします。

をクリックし、[システムのプロパティ]画面で をクリックします。

パソコンをUSB接続からLANボード(カード)接続に変更する場合、上記の「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」の設定画面で「Aterm USB LAN Driver」を無効にし、LANボード(カード)を有効にしてください。

4  
Windows98  
Windows95

1 準備

2 アナログ機能

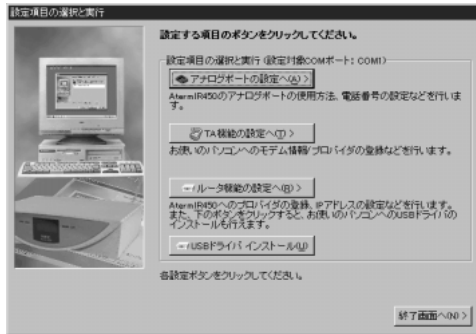
3 TA機能

4 ルータ機能

## 手順

以下の手順でインストールします。

- 1 らくらくウィザードを起動する前には必ず、RS232CケーブルをAtermとパソコンとの間で接続してください。  
接続方法は、「パソコンのシリアルポートと接続する」45ページを参照してください。
- 2 **スタート** [プログラム] [AtermIR450ユーティリティ] [AtermIR450らくらくウィザード]を選択します。



- 3 **USBドライバインストール** ボタンをクリックします。

- 4 USBドライバの確認をします。

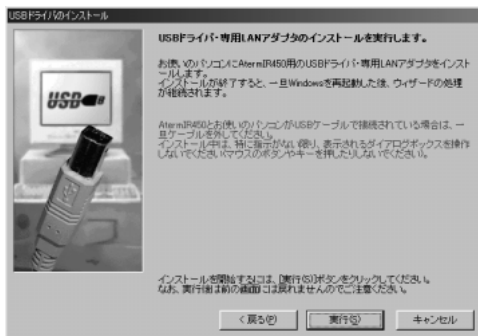
パソコンの「USB.D.SYS」ファイルバージョンがAtermシリーズで動作確認済みのものであることを確認します。

確認の方法は、インターネットホームページ「AtermStation」やFAX情報サービスで紹介している、動作確認済みパソコンリストの中のUSBソフトウェアのバージョンを参考にしてください。

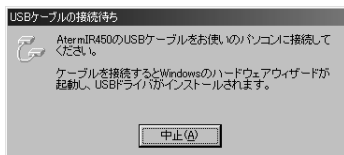


## 5 AtermIR450用USBドライバをインストールします。

**実行** ボタンをクリックします。



## 6 USBケーブルを接続します。



自動的にUSBドライバがインストールされパソコンの再起動を行います。

## 7 パソコンを再起動後、次のような画面が表示されます。

以上でUSBドライバのインストールは終了です。

ルータ機能の設定を引き続き行う場合は、「引き続き他の機能設定を行う」にチェックマークをつけ、**次へ** ボタンをクリックし、次ページ以降を行ってください。



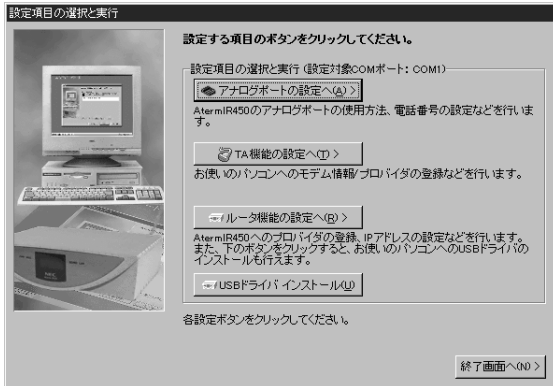
## ④らくらくウィザードでルータ機能を設定する...

ネットワークプロトコル(TCP/IP)の確認をした後、らくらくウィザードで設定を行います。  
らくらくウィザードで、ルータ機能を設定するためには、ネットワークプロトコル(TCP/IP)がパソコンにインストールされている必要があります。

手順

以下の手順で設定します。

- 1 らくらくウィザードを起動する前には必ず、RS232CケーブルをAtermとパソコンとの間で接続してください。  
接続方法は、「パソコンのシリアルポートと接続する」45ページを参照してください。
- 2 **スタート** [プログラム] [AtermIR450ユーティリティ] [AtermIR450らくらくウィザード]を選択します。
- 3 らくらくウィザードが起動されます。  
ここで、**ルータ機能の設定へ** ボタンをクリックします。



4  
Windows98  
Windows95

1  
準備

2  
アナログ機能

3  
TA機能

4  
ルータ機能



ここからの説明は、ルータ機能の設定でポイントとなる画面の説明をします。設定を進めていくと以下の画面が表示されますので、説明に従い設定してください。

**point 1** [プロバイダの選択]画面では、次の通り設定します。

ルータ機能として接続するインターネットのプロバイダを選択します。

[BIGLOBEにオンライン・サインアップする]

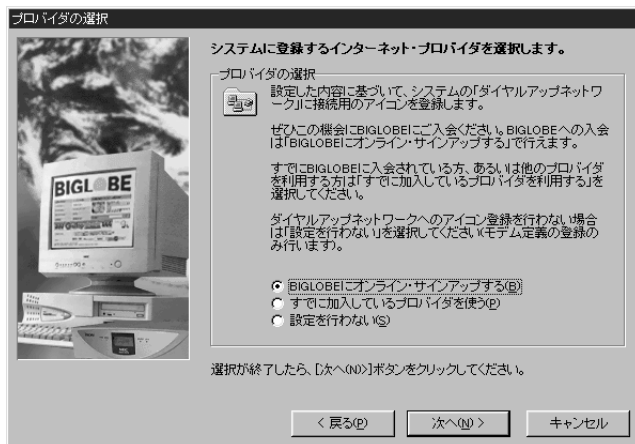
プロバイダに加入されていない方は、ぜひこの機会にBIGLOBEにご加入ください。[BIGLOBEにオンライン・サインアップする]を選択して、画面に従って設定してください。

[すでに加入しているプロバイダを使う]

すでにBIGLOBEに加入されている方、あるいは他のプロバイダを利用する方は、[すでに加入しているプロバイダを使う]を選択してください。

[設定を行わない]

ここで、ルータ機能として接続しない場合は、[設定を行わない]を選択してください。



4  
Windows98  
Windows95

1 準備

2 アナログ機能

3 T A機能

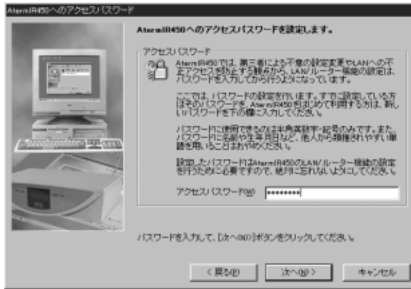
4 ルータ機能

**point 2** [ AtermIR450 へのアクセスパスワード ] では次の通り設定します。

Aterm に「アクセスパスワード」を入力します。

パスワードにしようできる文字は、半角英数字・記号のみ、8 文字以内です。

パスワードには「&」記号は、使用できません。



**注意**

Aterm のルータ機能を設定するには、「アクセスパスワード」を入力してから行うようになっておりますので必ず設定してください。このアクセスパスワードは、らくらくバージョンアップ、コネクションマネージャ、WWW ブラウザを利用した設定などで必要となりますので、忘れないようにしてください。忘れた場合には、Aterm を工場出荷時の状態に戻す必要があります。

●●参照「Aterm を工場出荷時の状態に戻すには」17 ページ

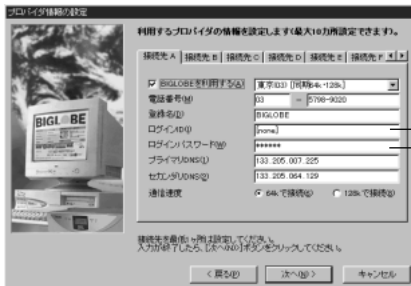
**point 3** [ 接続先の設定 ] 画面では、次の通り設定します。

接続先は複数登録することができます。

[ BIGLOBE を利用する ] を選択した場合

BIGLOBE への「ログインID」、「パスワード」を入力します。

パスワードには「&」記号は、使用できません。



「ログインID」  
「パスワード」

表示されるプロバイダ情報は、すでに変更されている場合があります。その場合、お手持ちのプロバイダの案内に従って設定してください。

4  
Windows98

1  
準備

2  
アナログ機能

3  
T A 機能

4  
ルータ機能

## [ BIGLOBE を利用する ] を選択しない場合

次の項目をプロバイダからの登録証などを参照して入力します。

[ 電話番号 ]: プロバイダの最寄りのアクセスポイントを入力します。

[ 接続先名 ]: プロバイダなどの名称を元に入力してください

[ ログインID ] [ ログインパスワード ]: ダイアルアップ接続用の「ユーザーID」と「パスワード」を入力します。

パスワードには「&」記号は、使用できません。

[ DNS ]: プロバイダの案内に従って設定します。

プライマリDNSは、必ず設定してください。入力しない場合は、接続できません。

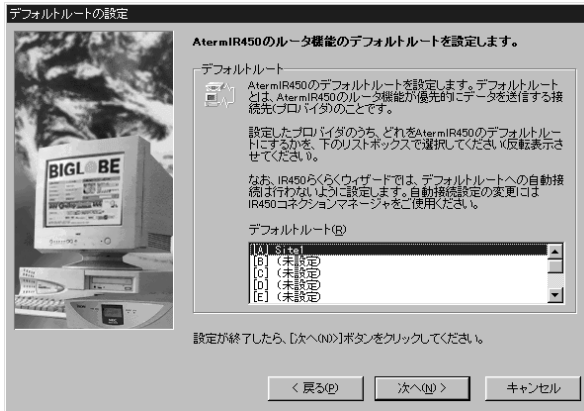
**注意**

プライマリ DNS の設定は必ず行なってください。セカンダリ DNS の設定は必ずしも行なう必要はありません。もし、プライマリ DNS やセカンダリ DNS のアドレスが不明な場合は、お客様が加入したプロバイダに問い合わせてください。または、活用マニュアルの「付録 プロバイダの DNS サーバアドレスの調べ方」を参照してください。

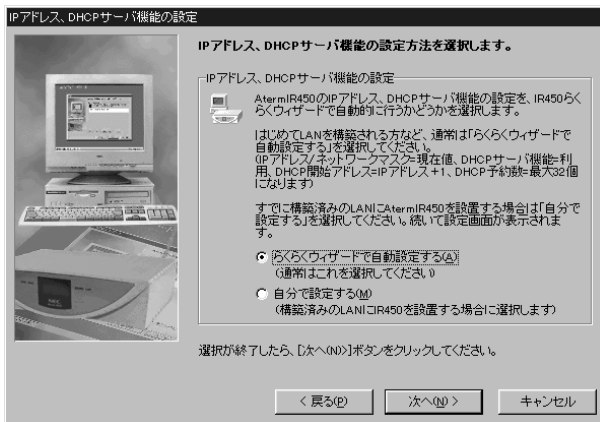
### point 4 [ デフォルトルートの設定 ]画面では、次の通り設定します。

接続先として設定したプロバイダの登録名がデフォルトルート欄に一覧表示されます。これらのうち、デフォルトルートとする接続先を選択して、**[次へ]** ボタンをクリックします。

クリックすると、point5の[ IP アドレス、DHCP サーバ機能の設定 ]画面が表示されます。



### point 5 [ IP アドレス、DHCP サーバ機能の設定 ]画面では、次の通り設定します。



4  
Windows98

1  
準備

2  
アナログ機能

3  
T A機能

4  
ルータ機能

[ らくらくウィザードで自動設定する ] を選択した場合  
はじめて LAN を構築される方など、通常はこちらを選択してください。設定  
される項目は次の通りです。

・ IP アドレス	= 現在値(初期値:192.168.0.1)
・ ネットワークマスク	= 現在値(初期値:255.255.255.0)
・ DHCP サーバ機能	= 利用する
・ DHCP 開始アドレス	= IP アドレス + 1 (初期値:192.168.0.2)
・ DHCP 予約数	= 32 個(初期値)

[ 次へ ] ボタンをクリックすると、[ 設定内容の AtermIR450 への登録 ] 画面が  
表示されます。[ 実行 ] ボタンをクリックして設定内容を登録してください。  
point6 に進んでください。

[ 自分で設定する ] を選択した場合

すでに構築済みの LAN に Aterm を設置する場合など、IP アドレスや DHCP  
機能を個別に設定する必要がある方はこちらを選択して [ 次へ ] ボタンをクリッ  
クしてください。次の [ AtermIR450 の IP アドレス ] 画面が表示されます。

らくらくウィザードでは、プライベート IP アドレスのみ設定できます。グ  
ローバル IP アドレスを設定するには、活用マニュアル「2 WWW ブラウザ  
を利用した設定」を参照してください。

[ AtermIR450 の IP アドレス ] 画面では、次の通り設定します。  
特定の IP アドレスを利用する場合に、そのアドレスを指定してください。



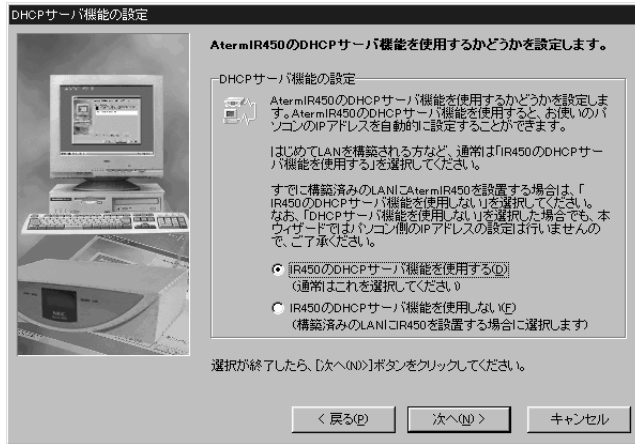
[ 初期値に戻す ] ボタンをクリックすると、以下のように初期値に戻ります。

・ IP アドレス = 192.168.0.1
・ ネットワークマスク = 255.255.255.0

[ 次へ ] ボタンをクリックすると次の [ DHCP サーバ機能の設定 ] 画面が表示さ  
れます。

[ DHCP サーバ機能の設定 ]画面では、次の通り設定します。

AtermのDHCP サーバ機能を使用するかどうかを設定します。DHCP サーバ機能を使用すると、お使いのパソコンに自動的にIP アドレスを設定することができます。



[ IR450 の DHCP サーバ機能を使用しない ]を選択した場合

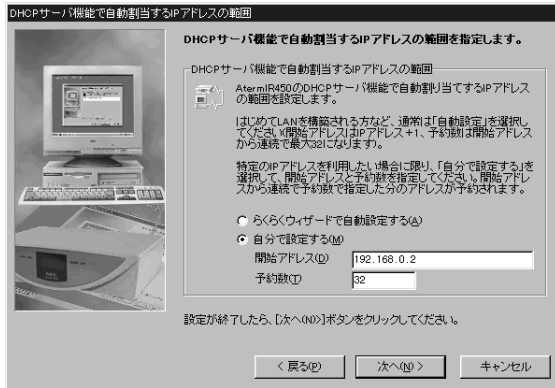
構築済みのLAN にすでにDHCP サーバが存在する場合やお使いのパソコンに特定のIPアドレスを設定する場合などは、こちらを選択してください。引き続き **次へ** ボタンをクリックすると、[ 設定内容のAtermIR450 への登録 ]画面が表示されます。**実行** ボタンをクリックして設定内容を登録してください。point6に進んでください。

[ IR450 の DHCP サーバ機能を使用する ]を選択した場合

**次へ** ボタンをクリックすると次ページの[ DHCP サーバ機能で自動割当するIPアドレスの範囲 ]画面が表示されます。ここではDHCP サーバ機能で自動割当する開始IPアドレスと割当予約数を設定します。[ らくらくウィザードで自動設定する ]を選択すると、これらは以下のとおりとなります。

- ・ 開始アドレス = IP アドレス + 1 (初期値 192.168.0.2)
- ・ 予約数 = 32 個(初期値)

特定のIPアドレスを利用したい場合に、[自分で設定する]を選択して、開始アドレスと予約数を指定してください。予約数は1～40の範囲で設定してください。[次へ] ボタンをクリックすると、[設定内容のAtermIR450への登録]画面が表示されます。[実行] ボタンをクリックして設定内容を登録してください。



ルータ機能に関する設定内容のAtermへの登録が終了すると[設定の終了]画面が表示されます。

**point 6** 「設定の終了」画面では、次のように進んでください。

Atermの10BASE-Tポート、またはUSBポートに接続するパソコンのネットワークに関する設定を行う場合は、[ここでらくらくウィザードの実行を終了する]を選択して、[次へ] ボタンをクリックしてください。[IR450らくらくウィザードの終了]画面に進みます。終了後、「**5** パソコンのネットワークプロトコル(TCP/IP)の設定」次ページへ進んでください。

## ⑤ パソコンのネットワークプロトコル(TCP/IP)の設定...

パソコンのTCP/IPの設定を行います。ここでは、AtermのDHCPサーバを利用する場合の設定を行います。AtermのDHCPサーバを利用しない場合は、「活用マニュアル」7-6「パソコン本体のIPアドレスの変更方法」を参照してください。

手順

以下の手順で設定します。

- 1 **スタート** [設定] [コントロールパネル] [ネットワーク]の順に選択します。
- 2 [ネットワーク]画面が表示されます。  
[ネットワーク設定]画面より、[TCP/IP ##### (LANカード/アダプタの種類)]または、USBを使用する場合は、[TCP/IP Aterm USB LAN Driver]を選択します。  
#####に表示される内容は、LANカード/アダプタにより異なります。  
**プロパティ** ボタンをクリックします。



LANカード/アダプタの例



Aterm USB LAN Driver

注意

「TCP/IP ダイヤルアップアダプタ」を選択しないでください。

4 Windows98

1 準備

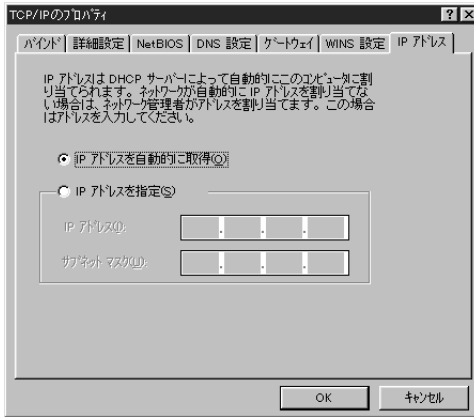
2 アナログ機能

3 T A 機能

4 ルータ機能



- 3 [TCP/IPのプロパティ]画面が表示されます。  
 [IPアドレス]タグをクリックします。  
 IPアドレスを自動的に取得]をクリックしてチェックマークを付けます。



- 4 [DNS設定]タグをクリックします。  
 DNSを使わない]をクリックしてチェックマークを付けます。



- 5 [ゲートウェイ]タグをクリックします。  
[インストールされているゲートウェイ]の欄が空欄になっていることを確認します。空欄でない場合、すべてのIPアドレスを削除してください。



- 6 **[OK]** ボタンをクリックします。[ ネットワーク ]画面に戻ります。
- 7 **[OK]** ボタンをクリックします。
- 8 ネットワークの設定を変更した場合は、パソコンを再起動するメッセージが表示されます。Atermとパソコンが、10BASE-Tケーブル又はUSBケーブルで接続されていることを確認し、**[はい]** ボタンをクリックして、パソコンを再起動してください。

以上でTCP/IPの設定は終了です。

## ⑥ パソコンとAtermとの通信を確認する...

らくらくウィザードでの設定と、TCP/IPの設定が正しく行われたかを確認します。

らくらくウィザードによるルータ機能の設定を行っていない方は、「らくらくウィザードでルータ機能を設定する...」110ページを参照してください。

パソコンのTCP/IPの設定を行っていない方は、「パソコンのネットワークプロトコル(TCP/IP)の設定...」118ページを参照してください。

AtermのDHCPサーバによって、パソコンのIPアドレスなどが正しく割当てられたかを確認します。これにより、パソコンとAtermの通信が確認できます。

ここでは、Atermを新規のLANに接続するように説明しています。

ここでは、インターネットへの接続先を1つ、Atermを1台、パソコン(Windows98/Windows95)1台の環境を動作させることの説明しています。

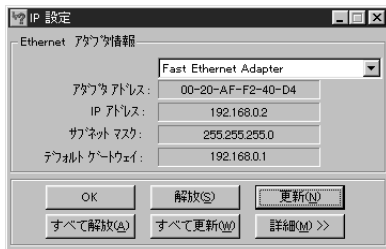
手順

次の手順に従ってLAN上のパソコンの確認をしてください。

- 1 **スタート** [ファイル名を指定して実行]を選択します。
- 2 [名前]欄に「winipcfg.exe」と入力して **OK** ボタンをクリックします。
- 3 [IP設定]が表示されます。

プルダウンメニューから使用しているLANカード/アダプタの種別を選択します。IPアドレスとデフォルトゲートウェイが、パソコンに正しく設定されているかを確認します。

ここで、パソコンに割り当てられたIPアドレスを確認します。この場合は、192.168.0.2となっています。



画像は、Windows95を使用した例です。

4  
Windows98  
Windows95

1  
準備

2  
アナログ機能

3  
T A機能

4  
ルータ機能

出荷時の状態では、IPアドレスは192.168.0.\*が割り当てられます。「\*」の部分には、10～41までのいずれか1つの番号が、自動的に割り当てられます。これは、工場出荷時のAtermがDHCPサーバ機能を利用できる状態であり、その割当開始アドレスが192.168.0.10、予約数が32個であることを示しています。ただし、らくらくウィザードを利用してルータ機能の設定を行うと、割当開始アドレス192.168.0.2、予約数32個が初期値として設定されます。

出荷時の状態では、デフォルトゲートウェイには、192.168.0.1が割り当てられます。

パソコンのIPアドレスとデフォルトゲートウェイの設定が

正しいとき

次ページに進んでください。

正しくないとき

接続ケーブルや、手順をもう一度確かめてください。

## ⑦ ルータ機能でインターネットに接続する...

ここでは実際に、コネクションマネージャを使ってインターネットに接続するための設定をして、インターネットのホームページを参照後、回線を切断する方法を説明します。



コネクションマネージャは、Atermの以下のような設定をWWWブラウザを開くことなしに簡単に変更できる便利なユーティリティです。

- ・自動接続の許可 / 禁止の設定
- ・回線の全切断
- ・フィルタリングの設定
- ・自動接続の許可時間の設定

コネクションマネージャの詳細な説明は、活用マニュアルの「3 コネクションマネージャ」を参照してください。

### コネクションマネージャを使って接続する

ここでは、実際にプロバイダのアクセスポイントに電話をかけてインターネットに接続します。

手順

以下の手順で接続します。

1

**[スタート]** 「Aterm IR450 ユーティリティ」 「IR450 コネクションマネージャ」を選択します。

コネクションマネージャをはじめて起動した場合、らくらくウィザード、またはWWWブラウザでAtermに設定したアクセスパスワードと、どのポートにお使いのパソコンをLAN接続しているかを入力する必要があります。

IR450のIPアドレス: AtermのIPアドレス(工場出荷時: 192.168.0.1)を入力します。

ユーザ名: 半角で「Admin」固定となっています。(AdminのAは大文字です。)  
パスワード: らくらくユーティリティ、またはWWWブラウザで設定したAtermへのアクセスパスワードを入力します。

**[OK]** ボタンをクリックします。

**[配線]** タグをクリックしてAtermのどのポートに、お使いのパソコンをLAN接続しているかを選択し、**[設定の登録]** ボタンをクリックします。

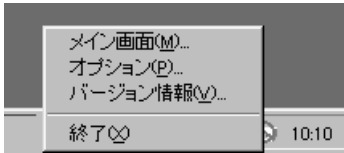


コネクションマネージャが起動すると、自動的にタスクトレイにアイコン化して常駐します。



コネクションマネージャアイコン

アイコンを右クリックしてコネクションマネージャの各設定画面を表示させることができます。各設定画面の詳細は活用マニュアル「3-2 コネクションマネージャ (Windows)」を参照してください。



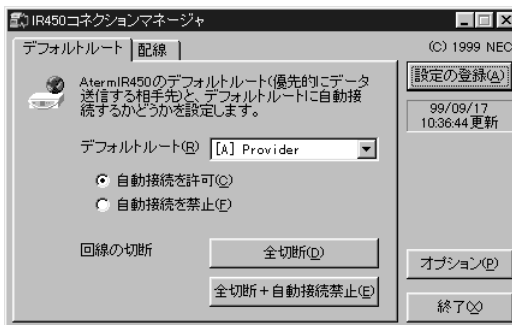
## 2 コネクションマネージャを使って設定し、実際にプロバイダに接続します。

☑ [自動接続を許可] をクリックしてチェックマークをつけます。

デフォルトルートをらくらくウィザードで設定した接続先にして、**設定の登録** ボタンをクリックします。

設定の登録を行わないと設定が有効になりませんので注意してください。

タスクトレイのコネクションマネージャアイコンをダブルクリックすることで、この画面を開かずに、許可と禁止を切り替えることができます。



**注意**

「自動接続を許可」と設定した場合は、「意図しない発信」が行われ、通信料金が発生することがあります。これらを防止するためには、コネクションマネージャにて通常は「自動接続を禁止」と設定し、通信を行うときにだけ「自動接続を許可」と設定して使用してください。

詳しくは活用マニュアル「3-4 ルータ機能による自動接続を使用する場合の注意」を参照してください。

### 3 WWWブラウザを起動します。

「インターネットエクスプローラ」や「ネットスケープナビゲータ」などのアイコンをダブルクリックします。

**注意**

ブラウザの接続設定が、LANになっていないとホームページが表示されません。

- 4 見たいホームページのアドレス(URL)たとえば<http://aterm.cplaza.ne.jp/>を入力し、リターンキーを押します。  
ホームページを見ることができます。



上記のように設定しても接続出来ない場合は、活用マニュアルの「10 お困りのときには」を参照してください。



Atermをお買い上げいただいたお客様を対象にユーザ登録を行なっています。登録していただいたお客様には、Atermをご使用のお客様へのサービスの一環といたしまして、電子メールによる新製品情報、バージョンアップの案内を中心に、さまざまな情報提供やキャンペーン、イベントなどの特典・サービスを提供して参ります。

是非ユーザ登録を行なってください。

登録はインターネットホームページ「AtermStation」にて行なっています。

事前にご用意いただくもの

1. Aterm本体(機種名、製造番号)
2. 電子メールアドレス(最も一般的に使用しているアドレス)
3. Atermを使用するINSネット64の契約者回線番号



## コネクションマネージャを使って回線を切断する

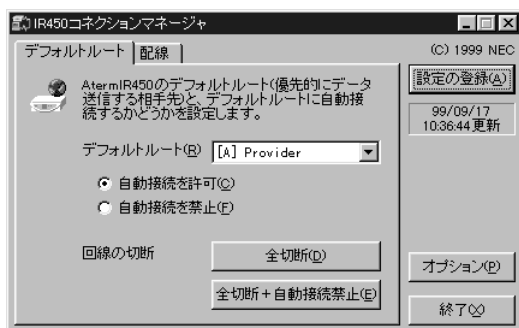
コネクションマネージャによって切断します。

次ページのように、WWW ブラウザを使用して切断することもできます。

手順

以下の手順で切断します。

- 1 ファイルメニューから [ 終了 ] を選んで WWW ブラウザを終了します。
- 2 **スタート** 「プログラム」 「Aterm IR450 ユーティリティ」 「IR450 コネクションマネージャ」を選択します。  
コネクションマネージャが常駐している場合は、タスクトレイのアイコンをダブルクリックします。
- 3 **全切断** ボタンをクリックします。  
ルータ機能によって接続されている回線がすべて切断されます。  
正常に切断されると、Aterm の液晶ディスプレイに「データセツダン」が5秒間表示されます。



上記の切断方法は、手動による切断方法です。

他に、無通信監視や強制切断による切断機能があります。

活用マニュアルの「2 WWW ブラウザを利用した設定」をお読みください。

ルータ機能によって通信中にタスクトレイのアイコンをダブルクリックすると、ルータ機能によって接続されている回線がすべて切断され、自動的に自動接続禁止の設定となります。(全切断 + 自動接続禁止ボタンも同様です。)

## WWWブラウザを使って回線を切断する

WWWブラウザによって切断をすることもできます。



コネクションマネージャを利用するときには、AtermのWWWブラウザの設定画面「回線の切断」は、使用しないでください。

### 手順

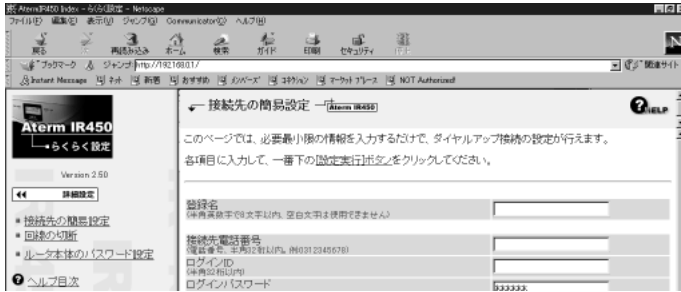
以下の手順で接続します。

- 1 WWWブラウザを起動します。
- 2 WWWブラウザのURL入力欄に「http://192.168.0.1」と入力します。
- 3 「ユーザ名」と「パスワード」を入力する画面が表示されます。  
 「ユーザ名」は、半角で「Admin」と入力します。  
 「Admin」は、固定となっています。(AdminのAは大文字です。)  
 「パスワード」は、らくらくウィザードで設定した「アクセスパスワード」を入力します。  
**OK** ボタンをクリックします。



ここでは、「Netscape Navigator」を使用しています。お使いのWWWブラウザによっては画面が異なりますが、設定方法は同じです。

- 4 [AtermIR450らくらく設定]ページが表示されます。  
左フレーム内の「回線の切断」の文字をクリックします。



- 5 [回線の切断]の画面が表示されます。  
[回線の切断]で、**全回線の切断**ボタンをクリックします。  
ルータ機能によって接続されている回線がすべて切断されます。  
正常に切断されると、Atermの液晶ディスプレイに「データセツダン」が5秒間表示されます。

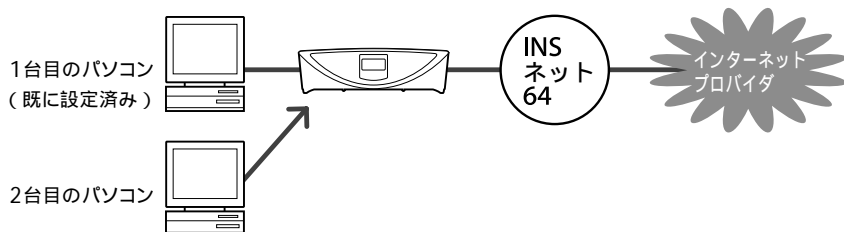
回線の「全切断」と「自動接続の禁止」の設定を同時にすることもできます。  
詳しくは活用マニュアルの「3 コネクションマネージャ」を参照してください。



## 4-4-4 LAN上に2台目のパソコンを追加する

ここではパソコンをもう1台追加する場合について説明します。すでに、Atermは、1台目のパソコンから「らくらくウィザード」などを使って、インターネットへ接続するための設定が終わっているとします。

1台目のパソコンは、USBまたは10BASE-TポートでAtermと接続しているとします。環境をまだ、構築されていない方は、「4-4-3 ルータ機能でインターネットへ接続するための設定」100ページを参照してください。



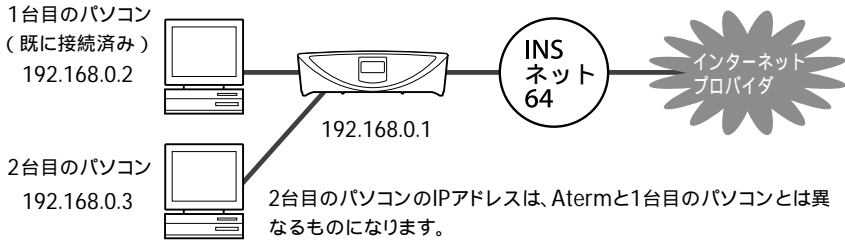
2台目から4台目までは同様な手順によりパソコンをAtermの10BASE-Tポートに追加できます。

10BASE-Tポートの4番目のポートに、パソコンを接続する場合は、「カスケード切り替えスイッチ」を「PC」側にする必要があります。

既にAtermとパソコンとをUSBケーブルで接続する環境を、ウィザードで設定済みのお客様が2台目のパソコンを10BASE-Tポートに追加し、ファイルとプリンタの共有を行う場合には、「USBポートと10BASE-Tポートを通して、「ファイルとプリンタの共有」機能を使う...」132ページもあわせてお読みください。

## 2台目のパソコンを追加する手順...

2台目のパソコンのIPアドレスは、AtermのDHCPサーバにより、自動的に割り当てます。1台目のパソコンの設定と同様にすることで簡単に追加できます。



### 手順

以下の手順で設定します。

- 1 事前にあらかじめ用意していたLANカード/アダプタを2台目のパソコンに組み込み、そのLANカード/アダプタ用のLANドライバを、2台目のパソコンにインストールしておきます。
- 2 Atermと2台目のパソコンを10BASE-Tで接続します。
- 3 2台目のパソコンのネットワークの設定をします。  
 ●●参照 ●「パソコンのネットワークプロトコル(TCP/IP)の設定」118ページ
- 4 Atermと2台目のパソコンとのLAN上でのデータ通信の確認を行います。  
 ●●参照 ●「パソコンとAtermとの通信を確認する」121ページ

以上でAtermと2台目のパソコンとの接続が完了です。

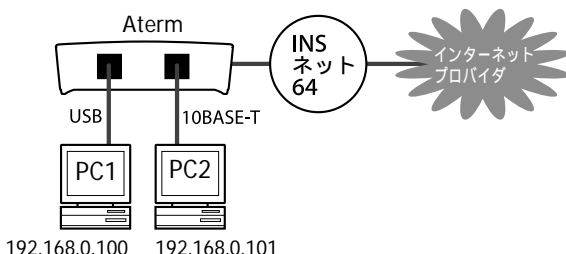
インターネットへの接続・切断は、1台目と同じ手順で行います。1台目のパソコンを設定したときの、各OSのページを参照してください。

## 4-4-5 USBポートのさまざまな使い方

### USBポートと10BASE-Tポートを通して、 「ファイルとプリンタの共有」機能を使う...

AtermのUSBポートと10BASE-Tポートを通して、「ファイルとプリンタの共有」機能を使うための設定方法について説明します。

下図のような構成でPC1とPC2との間で「ファイルとプリンタの共有」を行うときには次のように設定してください。



PC1と、PC2のそれぞれに「Lmhosts」というファイル名のファイルを作成し、ある決められたディレクトリに置く必要があります。

#### ファイルとプリンタの共有設定手順

「ファイルとプリンタの共有」機能を使うための手順は、次の通りです。

#### ① Aterm の設定

- コネクションマネージャで配線を変更する
- AtermのDHCPサーバ機能を「使用しない」にする
- Atermを再起動する

#### ② パソコンの設定

- パソコンのIPアドレスを手動で設定する
- 「Microsoft ネットワーク共有サービス」、「Microsoft ネットワーククライアント」を確認する
- 「Lmhosts」ファイルを作成する

#### ③ 「ファイルとプリンタの共有」をする

- ファイルとプリンタの共有設定をする
- 共有設定されたファイルとプリンタへのアクセス

## ① Atermの設定

コネクションマネージャで配線を変更する

コネクションマネージャの[配線]タグで、 10BASE-TポートとUSBポートを使用]をクリックしてチェックマークを付け **設定の登録** ボタンをクリックします。

AtermのDHCPサーバ機能を「使用しない」にする

WWWブラウザを使用してAtermのDHCPサーバ機能を「使用しない」にします。

詳しくは、活用マニュアル「2-2 WWW設定リファレンス」を参照してください。

Atermを再起動する

Atermを再起動させます。

## ② パソコンの設定

パソコンのIPアドレスを手動で設定する

パソコンのIPアドレスをそれぞれ次のように設定します。

・PC1	・PC2
IPアドレス : 192.168.0.100	IPアドレス : 192.168.0.101
サブネットマスク : 255.255.255.0	サブネットマスク : 255.255.255.0

詳しくは、活用マニュアル「7-6 パソコン本体のIPアドレスの変更方法」を参照してください。

「Microsoftネットワーク共有サービス」、「Microsoftネットワーククライアント」を確認する  
 「Microsoftネットワーク共有サービス」と「Microsoftネットワーククライアント」をそれぞれのパソコンにインストールされているかを確認します。

手順

以下の手順で確認します。

1

**スタート** [設定] [コントロールパネル] [ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

4  
Windows98  
Windows95

1 準備

2 アナログ機能

3 T A機能

4 ルータ機能

## 2 「Microsoft ネットワーク共有サービス」と「Microsoft ネットワーククライアント」がインストールされていることを確認します。

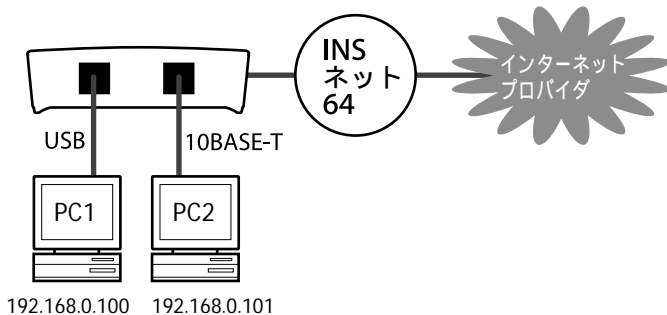


インストールされていない場合には、OSのマニュアルなどを参考にインストールしてください。

## 3 [優先的にログオンするネットワーク]欄をプルダウンして[Microsoft ネットワーククライアント]を選択します。

「Lmhosts」ファイルを作成する

パソコンに「Lmhosts」ファイルを作成します。



192.168.0.100 192.168.0.101

手順

以下の手順で作成します。

1

**スタート** [設定] [コントロールパネル] [ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

4  
Windows98  
Windows95

1 準備

2 アナログ機能

3 T A 機能

4 ルータ機能



- 2 [識別情報]タグ(または,[ユーザ情報]タグ)をクリックして、コンピュータ名を確認します。



コンピュータ名は「Lmhosts」ファイルを作成するために必要ですので、書き留めておいてください。このマニュアルでは、前ページの図のPC1のコンピュータ名を、「PC1」、PC2のコンピュータ名を「PC2」として説明しています。またコンピュータ名はすべてのパソコンで違う名前にしてください。ワークグループはすべてのパソコンで同じ名前にしておきます。ネットワークの設定を行った場合はパソコンを再起動する必要があります。



Windows98/Windows95/WindowsNT4.0では、各パソコンに「ワークグループ」と「コンピュータ名」を定義する必要があります。この「コンピュータ名」はネットワーク上で各パソコンを区別するために使用されるものです。Windowsでは、「コンピュータ名」として使用できる文字には制限があり、以下の命名表記法に従う必要があります。また、「ワークグループ」もこの命名表記法に従います。

コンピュータ名に使用できる文字

長さ15文字以内で、スペースは使えません。

英数字、全角文字、および次の特殊文字だけです。

!@#\$%^&()\_`{|}~

- 3 タスクバーの **スタート** [プログラム] [アクセサリ] [メモ帳]を選択して、起動します。

- 4 134 ページの図の例では、次のように「メモ帳」に入力します。

```
192.168.0.100 PC1
192.168.0.101 PC2
```

—スペース

- 5 入力したらメモ帳の[ ファイル ] [ 名前を付けて保存 ]を選択して、「名前を付けて保存」と表示された「ファイル名」に、次のように入力して、**[OK]** ボタンをクリックします。

C:¥Windows¥Lmhosts

「C:¥Windows」の名前は使用しているパソコンによって異なる場合があります。上記で指定する「C:¥Windows」には、Windowsがインストールされているディレクトリを入力する必要があります。



ここで入力する「Lmhosts」というファイル名は、必ず、この名前のファイル名を指定してください。メモ帳で保存すると拡張子がつくので拡張子は削除してください。



#### Lmhosts ファイルとは

Windows98/Windows95/Windows NT4.0などでは、各パソコンに「コンピュータ名」という名前がついています。この「コンピュータ名」というのは、ネットワーク上で各パソコンを区別するのに使用されるものです。一方、これらのパソコンをLAN上で、TCP/IP プロトコルを使用する場合には、各パソコンを区別するために、それぞれ異なるIPアドレスもあわせて使用されます。従って、LAN上の1台のWindowsパソコンは、そのLAN上で一意の「コンピュータ名」と一意の「IPアドレス」が同じパソコンで使用されることになります。この組み合わせを記載するデータファイルが、Lmhosts ファイルです。

Lmhostsファイルは、記載方法が決まっていて、次のような順序で記載することになっています。

「IPアドレス」「コンピュータ名」

複数台のコンピュータがある場合は、行を追加していきます。

Windowsでは、記入方法とその記入例を書いた「Lmhosts.sam」ファイルが、Windowsがインストールされているディレクトリーに置かれています。このファイルを参考にして、お客様の環境にあったLmhostsファイルを作成することもできます。

- 6 PC1とPC2に手順1～6を行った後、それぞれ再起動します。  
Atermを再起動する必要はありません。

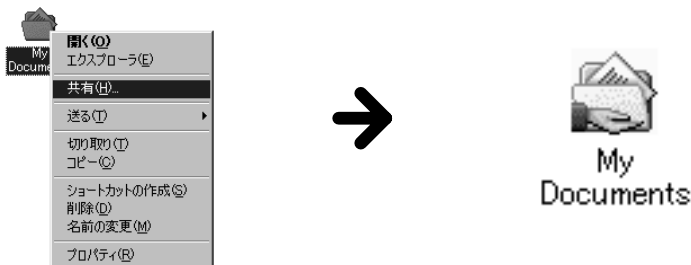
### ③「ファイルとプリンタの共有」をする

ファイルとプリンタの共有の確認をします。

ファイルとプリンタの共有設定をする

共有したいフォルダ名、またはプリンタ名をPC1、またはPC2に設定します。

例 PC1の「My Documents」フォルダを共有する場合、右クリック「共有」共有設定  
(アクセスの種類や共有名、パスワードを設定) **適用**ボタンで行います。



詳しくは、パソコンのマニュアル等を参照してください。

共有設定されたファイルとプリンタへのアクセス

手順

以下の手順で設定と確認をします。

- 1 **スタート** [検索] [ほかのコンピュータ]をクリックします。
- 2 [検索: コンピュータ]の画面の名前の欄に、「PC1」または「PC2」を入力して、**検索開始**ボタンをクリックします。共有指定したフォルダ名、またはプリンタ名が表示されます。  
コンピュータ名を入力しても表示されない場合は、直接IPアドレス「192.168.0.100」または、「192.168.0.101」を指定します。  
ネットワークコンピュータを開くことで「PC1」、「PC2」が表示されます。表示には、数分かかる場合もあります。

以上でファイルとプリンタの共有ができます。

4  
Windows98

1 準備

2 アナログ機能

3 T A機能

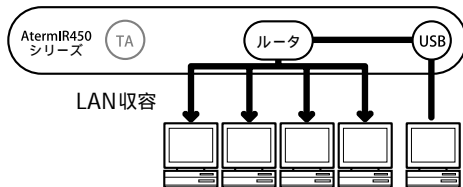
4 ルータ機能

## ユーティリティによる USBドライバのインストール/アップデート...

ユーティリティを使用して、Windows98/Windows95にAtermのUSBポートを使用するためのUSBドライバのインストール/アップデートのしかたを説明します。

インストールにRS232Cケーブルを接続する必要はありません。

Atermは、新方式「Aterm USB LAN Driver」の採用により、パソコンにUSBポートがあれば、LANに収容することができます。この機能を利用すると、LANボードのないパソコンでもLANに接続可能になります。



USBケーブルを接続するタイミングは、ユーティリティの指示に従ってください。  
USBポートと10BASE-Tポートとの間で、「ファイルとプリンタの共有」を行う際には、「USBポートと10BASE-Tポートを通して、「ファイルとプリンタの共有」機能を使う」132ページを参照してください。



USBポートは、TAのデータポートとしては利用できません。

サスペンドモード・MS-DOSモードは使用不可能です。

USBポートに接続されたパソコンと10BASE-Tポートに接続されたパソコンの間では、IPパケットによる通信のみ可能です。

停電モードでは使用できません。

PC-9821シリーズとのUSB接続はできません。PC-9821シリーズで使用する場合は、別途LANカード/アダプタ等を用意して、10BASE-Tポートを使用してください。

4  
Windows98  
Windows95

1 準備

2 アナログ機能

3 TA機能

4 ルータ機能

AtermのUSBポートに接続するためのパソコンの条件は次のとおりです。

- USBポートを備えたパソコンであること
- Windows98/Windows95をインストールしたパソコンであること
- Windows95のバージョンは、4.00.950C( OSR2.5 )以降であること



Aterm専用のUSBドライバソフトウェアは、Windows98 Second Editionをサポートしていません。(平成11年10月現在)

今後のサポート状況につきましては、インターネットのホームページ「AtermStation」(<http://aterm.cplaza.ne.jp/>)などで確認してください。



Windows98またはWindows95でUSB接続を使用する場合、Aterm USB LAN Driverは、他のLANボードまたはLANカード等との同時使用はできません。Aterm USB LAN Driverを使用する際は、他のLANボードまたはLANカードのドライバを「使用しない」にしてください。設定を変更する手順は、次のとおりです。

タスクバーの **スタート** [設定] [コントロールパネル]の順に選択します。

[システム]をダブルクリックします。

[デバイスマネージャ]タグ内の[ネットワークアダプタ]をクリックし、他のLANボードまたはLANカードを選択します。

[プロパティ]をクリックします。

[情報]タグ内の[このハードウェア環境で使用不可にする]のチェックをはずします。

**OK**をクリックし、[システムのプロパティ]画面で **OK**をクリックします。

パソコンをUSB接続からLANボード(カード)接続に変更する場合、上記の「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」の設定画面で「Aterm USB LAN Driver」を無効にし、LANボード(カード)を有効にしてください。

手順

以下の手順でインストール/アップデートします。

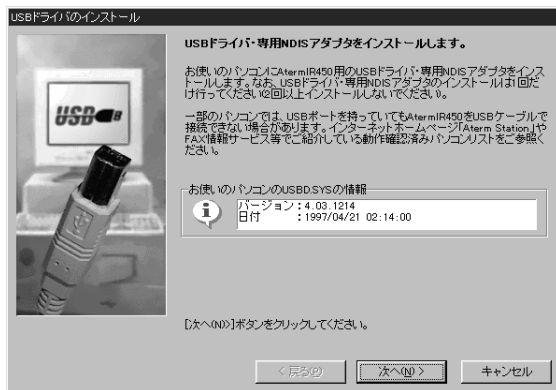
- 1 **スタート** [プログラム] [AtermIR450ユーティリティ] [USB-LANドライバのインストール/アップデート]を選択します。
- 2 ユーティリティの指示に従って、AtermIR450用USBドライバをインストールします。

### インストール

(パソコンにAtermIR450用USBドライバがインストールされていない場合)

ご使用のパソコンの「USB.DSYS」ファイルバージョンがAtermシリーズで動作確認されているものであることを確認します。

確認の方法は、インターネットホームページ「AtermStation」やFAX情報サービスで紹介している、動作確認済みパソコンリストの中のUSBソフトウェアのバージョンを参考にしてください。



4 Windows98  
Windows95

1 準備

2 アナログ機能

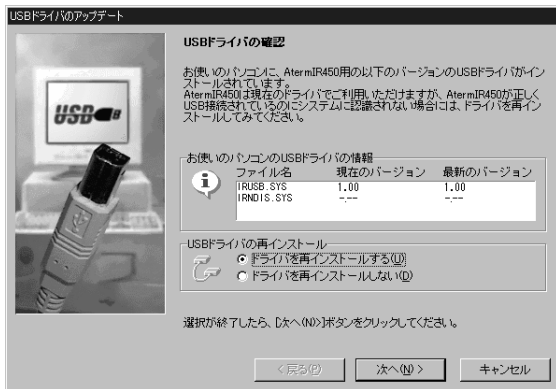
3 T A機能

4 ルータ機能

## アップデート

(パソコンにAtermIR450用USBドライバがインストールされている場合)

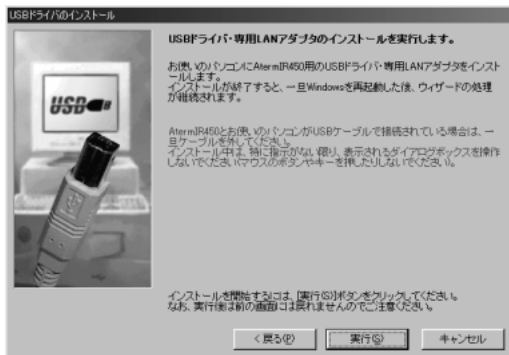
- ・ [現在のバージョン] と [最新のバージョン] を比べ、[現在のバージョン] の方が古い場合やAtermが正しくシステムに認識されていない場合は、[ドライバを再インストールする] を選択します。
- ・ 現在のドライバをそのまま使用する場合は、[ドライバを再インストールしない] を選択します。



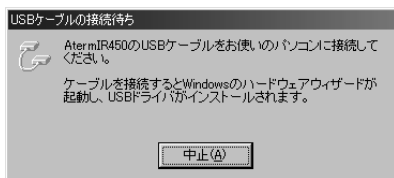
「IRNDIS.SYS」の現在のバージョンが、「-、-」と表示される場合がありますがその場合は、1.00がインストールされていますので問題はありません。

## 3 AtermIR450用USBドライバをインストールします。

**実行** ボタンをクリックします。



## 4 USBケーブルを接続します。



自動的に USB ドライバがインストールされパソコンの再起動を行います。

## 5 パソコンを再起動後、次のような画面が表示されます。



以上で USB ドライバのインストールは完了です。



## ユーティリティを使わないUSBドライバのインストール...

ここでは、ユーティリティを使用しないでUSBドライバをインストールする方法について説明します。

Atermには、USBドライバの確認やインストールの設定が自動的にされるユーティリティが添付されています。ユーティリティを使用した設定は、「ユーティリティによるUSBドライバのインストール/アップデート」138ページを参照してください。

USBポートと10BASE-Tポートとの間で、「ファイルとプリンタの共有」を行う際には、「USBポートと10BASE-Tポートを通して、「ファイルとプリンタの共有」機能を使う」132ページを参照してください。



USBポートは、TAのデータポートとしては利用できません。  
 サスペンドモード・MS-DOSモードは使用不可能です。  
 USBポートに接続されたパソコンと10BASE-Tポートに接続されたパソコンの間では、IPパケットによる通信のみ可能です。  
 停電モードでは使用できません。  
 PC-9821シリーズとのUSB接続はできません。PC-9821シリーズで使用する場合は、別途LANカード/アダプタ等を用意して、10BASE-Tポートを使用してください。

AtermのUSBポートに接続するためのパソコンの条件は次のとおりです。

- USBポートを備えたパソコンであること
- Windows98/Windows95をインストールしたパソコンであること
- Windows95のバージョンは、4.00.950C(OSR2.5)以降であること



Aterm専用のUSBドライバソフトウェアは、Windows98 Second Editionをサポートしていません。(平成11年10月現在)  
 今後のサポート状況につきましては、インターネットのホームページ「AtermStation」(<http://aterm.cplaza.ne.jp/>)などで確認してください。

**注意**

Windows98またはWindows95でUSB接続を使用する場合、Aterm USB LAN Driverは、他のLANボードまたはLANカード等との同時使用はできません。Aterm USB LAN Driverを使用する際は、他のLANボードまたはLANカードのドライバを「使用しない」にしてください。設定を変更する手順は、次のとおりです。

タスクバーの  [設定] [コントロールパネル]の順に選択します。

[システム]をダブルクリックします。

[デバイスマネージャ]タグ内の[ネットワークアダプタ]をクリックし、他のLANボードまたはLANカードを選択します。

[プロパティ]をクリックします。

[情報]タグ内の[このハードウェア環境で使用不可にする]のチェックをはずします。

をクリックし、[システムのプロパティ]画面で をクリックします。

パソコンをUSB接続からLANボード(カード)接続に変更する場合、上記の「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」の設定画面で「Aterm USB LAN Driver」を無効にし、LANボード(カード)を有効にしてください。

4  
Windows98  
Windows95

1 準備

2 アナログ機能

3 TA機能

4 ルータ機能

## ユーティリティを使わないUSBドライバのインストール手順

らくらくウィザードまたはユーティリティを使わないUSBドライバのインストールは、以下の手順で行います。

- ① ソフトウェアの確認
  - Windows95のバージョンを確認する
  - USBソフトウェアを確認する
- ② Windows98/Windows95へUSBポート用アダプタをインストール
  - ユニバーサルシリアルバスコントローラをインストールする
  - ネットワークアダプタをインストールする

## ① ソフトウェアの確認

### Windows95のバージョンを確認する

Windows98 を使用している場合には、確認の必要はありません。「Windows98/Windows95へUSBポート用アダプタをインストールする」149ページに進んでください。



USBをサポートしているWindows95のバージョンは、「4.00.950C」です。これ以外のバージョンでは、インストールしてもAtermは動作しません。また、「4.00.950C」以降のバージョンにおける動作については、インターネットホームページ「AtermStation」やFAX情報サービスで紹介します。インターネットへ接続後に確認してください。  
URL : <http://aterm.cplaza.ne.jp/>

#### 手順

以下の手順で確認します。

- 1 タスクバーの **スタート** [設定] [コントロールパネル]の順に選択します。
- 2 コントロールパネルの中の[システム]をダブルクリックします。  
[システムのプロパティ]画面でバージョンの確認をします。



バージョン確認  
4.00.950C以降

## USBソフトウェアを確認する

### USBソフトウェアのインストールの確認

USBソフトウェアがパソコンにインストールされているかを確認します。

手順

以下の手順で確認します。

- 1 タスクバーの **スタート** [設定] [コントロールパネル]の順に選択します。
- 2 コントロールパネルの **アプリケーションの追加と削除** ボタンをダブルクリックします。
- 3 [アプリケーション追加と削除のプロパティ]画面が表示されます。  
USBソフトウェアが表示されていることを確認します。
  - ・ [セットアップと削除]タグ内に[USB Supplement to OSR2]と表示されていればUSBソフトウェアはインストールされています。
  - ・ [USB Supplement to OSR2]が表示されない場合、パソコン製造メーカーに問い合わせてください。
 また、NEC製PC98-NXシリーズの場合、[USB Supplement to OSR2]は表示されませんが、USBソフトウェアはインストールされています。



[ USB Supplement to OSR2 ]



- ・ [ USB Supplement to OSR2]がインストールされていても、BIOS設定を行わないとUSBポートが使用できない場合があります。BIOS設定の方法はパソコンによって異なりますので、パソコンの取扱説明書を参照してください。
- ・ 上の画面で[ USB Supplement to OSR2]をダブルクリックしないでください。ダブルクリックするとUSBソフトウェアが削除されてしまいます。

4 Windows98  
Windows95

1 準備

2 アナログ機能

3 T A機能

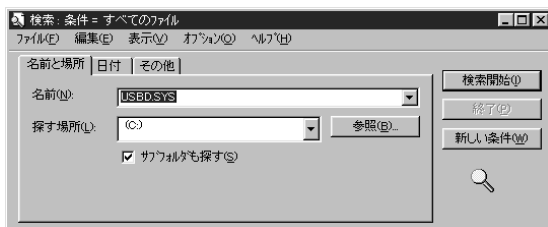
4 ルータ機能

## USBソフトウェアのバージョンの確認

USBソフトウェアがインストールされていることを確認したら、USBソフトウェアのバージョンを確認します。

### 手順

- 1 タスクバーの **スタート** [ 検索 ]の順に選択し、[ ファイルやフォルダ ]を起動します。
- 2 USBソフトウェアを検索します。  
 [ 名前 ]欄に「USB.D.SYS」を入力します。  
 [ 探す場所 ]欄で、Windows95がインストールされているハードディスクドライブを選択し、 サブフォルダも探す ]をクリックしてチェックマークを付けます。  
 内容を確認し、**検索開始** ボタンをクリックします。



- 3 ファイルの場所が分かったら、検索されたファイル[ USB.D.SYS ]を右クリックし、プルダウンメニューから[ プロパティ ]を選択します。



**注意**

パソコンの製造メーカーで動作保証がされていないUSBソフトウェアを、下記のWindows95のバージョンがインストールされているパソコンにインストールしないでください。Windows95が動作しなくなることがあります。

4.00.950    4.00.950a    4.00.950b

- 4 [バージョン情報]タグをクリックし、ファイルバージョンがAtermシリーズで動作確認されているものであることを確認します。

**注意**

インターネットホームページ「AtermStation」や「FAX情報サービス」で紹介している、動作確認済みパソコンリストの中のUSBソフトウェアのバージョンを参考にしてください。

4  
Windows98  
Windows95

1 準備

2 アナログ機能

3 T A機能

4 ルータ機能

## ② Windows98/Windows95へUSBポート用アダプタをインストールする

USBポート用アダプタを使用するには、Windows98/Windows95で「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」としてのインストールと、「ネットワークアダプタ」としてのインストールの両方を行う必要があります。

インストールにはAtermに添付のCD-ROMが必要です。

インストールの際には、Windows98/Windows95のプラグアンドプレイ機能によってAtermを検出します。

パソコンによっては、Windows98/Windows95で表示される画面が本書で説明している画面と異なる場合があります。

### ユニバーサルシリアルバスコントローラのインストール

手順

以下の手順でインストールします。

- 1 起動中のアプリケーションがあれば、すべて終了させます。
- 2 USBケーブルを使って、AtermをUSBポートに接続します。



USBケーブルをパソコンに接続するときには、ケーブルの向きに注意してしっかりと差し込みます。

- 3 [デバイスドライバウィザード]が表示されます。

[次へ] ボタンをクリックします。

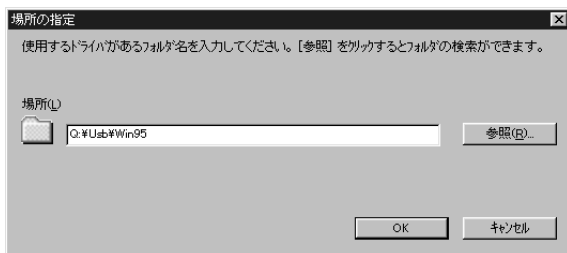


- 4 デバイスドライバウィザードでインストールを行います。  
 「このデバイス用のドライバが見つかりませんでした」と表示されたら、Aterm  
 に添付のCD-ROMを入れ、**場所の指定** ボタンをクリックします。



- ・ 誤って **キャンセル** ボタンをクリックしたときは、手順1からインストールをやりなおしてください。
- ・ ドライバを指定するまで **完了** ボタンをクリックしないで下さい。ドライバを指定しないで **完了** ボタンをクリックすると、インストールされていないのにデバイスドライバウィザードが起動しなくなります。この場合、アンインストールを行い、手順1からインストールをやりなおしてください。

- 5 **参照** ボタンをクリックし、CD-ROMを入れたドライブ内にある[ Usb¥Win95 ] フォルダを選択します。フォルダ選択後、**OK** ボタンをクリックします。(パソコンがWindows98の場合は[ Usb¥Win98 ]フォルダを選択します。)





- 6 **[完了]** ボタンをクリックし、画面の指示にしたがって[ NEC IRUSB Driver device: NEC\_ATERM\_IR ]関連ファイルのコピーを行います。



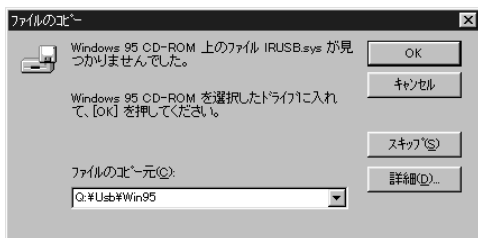
- 7 [ ディスクの挿入 ]画面が表示された場合は、**[OK]** ボタンをクリックします。



- 8 [ ファイルのコピー ]画面で **[参照]** ボタンをクリックし、CD-ROMを入れたドライブ内にある[ Usb¥Win95 ]フォルダを選択します。フォルダ選択後、**[OK]** ボタンをクリックします。

パソコンがWindows98の場合は[ Usb¥Win98 ]フォルダを選択します。

ユニバーサルシリアルバスコントローラのドライバがインストールされます。



- 9 インストールの確認を行います。

タスクバーの **[スタート]** [ 設定 ] [ コントロールパネル ]の順に選択します。

[ システム ] をダブルクリックします。

[ デバイスマネージャ ] タグ内の [ ユニバーサル シリアルバス コントローラ ] をクリックし、[ NEC IRUSB Driver device: NEC\_ATERM\_IR ] が表示されていることを確認します。



[ NEC IRUSB Driver device: NEC\_ATERM\_IR ] に ! が表示される場合、インストールが失敗した可能性があります。この場合、アンインストールを実行した後、インストールをやりなおします。

以上でユニバーサルシリアルバスコントローラのインストールは完了です。  
続いてWindows98/Windows95のネットワークアダプタのインストールを行います。

## ネットワークアダプタのインストール

ユニバーサルシリアルバスコントローラのインストールが終わったら、ネットワークアダプタのインストールを行います。

### 手順

- 1 タスクバーの **スタート** [設定] [コントロールパネル]の順に選択し、[ハードウェア]をダブルクリックします。  
ハードウェアウィザードが起動します。
- 2 ハードウェアウィザードで[ Aterm USB LAN Driver ]をネットワークヘインストールします。  
**次へ** ボタンをクリックします。



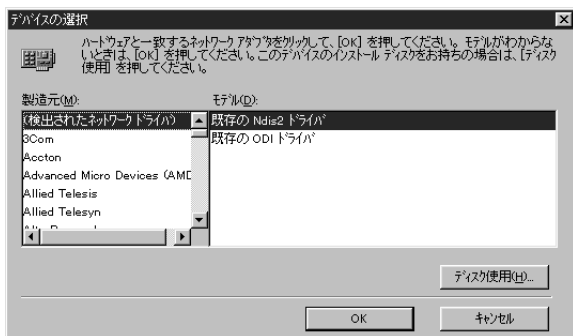
- 3 **いいえ** をクリックしてチェックマークを付け、**次へ** ボタンをクリックします。



#### 4 [ネットワークアダプタ]を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。

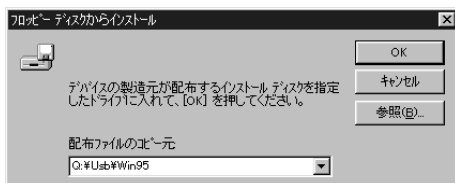


#### 5 **ディスク使用** ボタンをクリックします。

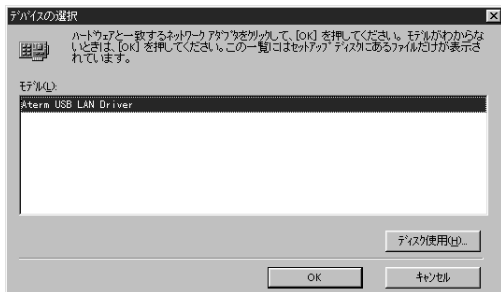


#### 6 **参照** ボタンをクリックし、CD-ROMを入れたドライブ内にある[Usb¥Win95]フォルダを選択します。フォルダ選択後、**OK** ボタンをクリックします。

パソコンがWindows98の場合は[Usb¥Win98]フォルダを選択します。



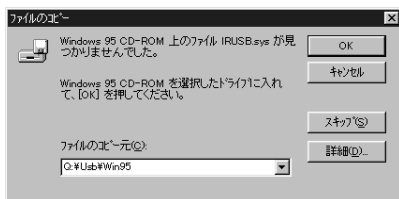
- 7 [Aterm USB LAN Driver]と表示されていることを確認して、**OK** ボタンをクリックします。



- 8 「ハードウェアのインストールを正常に続行できます。」と表示されたら、**完了** ボタンをクリックします。



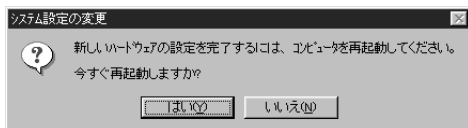
- 9 次のような画面が表示される場合があります。これは[Aterm USB LAN Driver]がWindows98/Windows95のネットワークのドライバを使用するからです。



Windows98/Windows95のCD-ROMを入れ、**OK** ボタンをクリックしてインストールを続けます。

## 10 ドライバのインストールが始まります。

「システム設定の変更」が表示された場合は「はい」ボタンをクリックして再起動を行います。



## 11 インストールの確認をします。

再起動後、インストールの確認を行います。

タスクバーの「スタート」 [設定] [コントロールパネル] を起動します。

[ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。

[ネットワーク] 画面が表示されます。

[現在のネットワーク構成] 欄に [Aterm USB LAN Driver] が表示されていることを確認します。



以上でAtermのUSBドライバのインストールは完了です。

## USBポートの利用...

インストールが終了した「Aterm USB LAN Driver」を「LANカード / アダプタ」として利用することにより、USBポートをLANに収容することができます。

ここからの設定は、「パソコンのネットワークプロトコル(TCP/IP)の設定...」118ページより、設定を行ってください。



## ユーティリティによるUSBドライバのアンインストール方法...

Atermのインストールが正常に行えなかった場合や、パソコンをUSBソフトウェアのインストール前の状態に戻したい場合、アンインストール作業を行ないます。

ユーティリティによるUSBドライバのアンインストールのしかたを説明します。

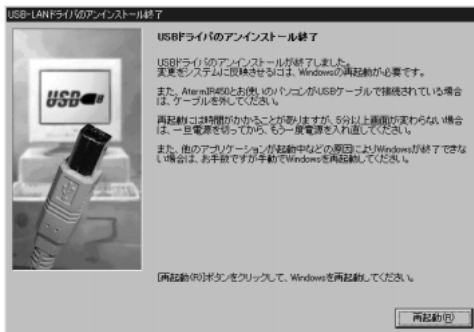
手順

以下の手順でアンインストールします。

- 1 **スタート** [プログラム] [AtermIR450ユーティリティ] [USB-LANドライバのアンインストール]を選択します。
- 2 ユーティリティの指示に従って、AtermIR450用USBドライバをアンインストールします。



- 3 [USB-LANドライバのアンインストールの終了]の画面が表示されます。USBケーブルを取り外し、**再起動** ボタンをクリックしパソコンを再起動させます。



以上でUSBドライバのアンインストールは終了です。

4  
Windows98  
Windows95

1  
準備

2  
アナログ機能

3  
T A機能

4  
ルータ機能



## ユーティリティを使わないUSBドライバのアンインストール方法...

Atermのインストールが正常に行えなかった場合や、パソコンをUSBソフトウェアのインストール前の状態に戻したい場合、アンインストール作業を行いません。

ユーティリティを使わないUSBドライバのアンインストールのしかたを説明します。

### 手順

- 1 タスクバーの **スタート** [設定] [コントロールパネル]の順に選択します。
- 2 [システム]アイコンをダブルクリックします。
- 3 [システムのプロパティ]画面が表示されます。  
[デバイスマネージャ]タグ内の[ユニバーサルシリアルバスコントローラ]をクリックした後、[NEC IRUSB Driver device: NEC\_ATERM\_IR]をクリックし選択します。



- 4 **削除** ボタンをクリックした後、**OK** ボタンをクリックしてデバイスを削除します。



4 Windows98  
Windows95

1 準備

2 アナログ機能

3 T A機能

4 ルータ機能

- 5 [ デバイスマネージャ ] タグ内の [ ネットワークアダプタ ] をクリックした後、  
[ Aterm USB LAN Driver ] をクリックし選択します。



- 6 **削除** ボタンをクリックした後、**OK** ボタンをクリックしてデバイスを削除します。



- 7 ここで、Aterm から USB ケーブルを抜いてください。
- 8 コンピュータを再起動するメッセージが表示されたら、再起動してください。
- 9 タスクバーの **スタート** [ プログラム ] [ エクスプローラ ] の順に選択し、次のファイルを削除します。

- ・¥Windows¥System¥Irndis.sys
- ・¥Windows¥System¥Irusb.sys
- ・¥Windows¥Inf¥Other¥Necirusb.inf

または、

- ・¥Windows¥System¥Irndis.sys
- ・¥Windows¥System¥Irusb.sys
- ・¥Windows¥Inf¥Irndis.inf
- ・¥Windows¥Inf¥Irusb.inf

以上で USB ドライバのアンインストールは完了です。

## USBについてのQ&A...

### 1. インストール前

Q : Windows3.1、Windows NT3.51、Windows NT4.0、Macintoshでの利用は可能ですか？

A : 利用できません。Windows98またはWindows95で使用してください。

Q : Windows98またはWindows95での制限条件はありますか？

A1 : AtermのUSBポートは、Windows95のバージョンがOEM Service Release 2.5 (OSR2.5)以降、またはWindows98の場合でなければ使用できません。Windows95のバージョンOSR2.5の確認方法は、次のとおりです。

- ・ コントロールパネルの中の[システム]をダブルクリックし、[システムのプロパティ]画面で「Microsoft Windows 95 4.00.950C」が表示されていること。
- ・ コントロールパネルの中の **アプリケーションの追加と削除** ボタンをダブルクリックし、ソフトウェアの一覧に「USB Supplement to OSR2」が表示されていること。

パソコンによっては「USB Supplement to OSR2」が表示されない場合があります。この場合、USBが使えるかどうかをパソコンの取扱説明書等で確認してください。

A2 : USBソフトウェア(USB.D.SYS)のバージョンが4.03.1212の場合は使用できません。

A3 : USBケーブルの抜き差しでパソコンが停止することがあります。

Q : システムのプロパティに[デバイスマネージャ]のタグがありません。または、コントロールパネルに[モデム]のアイコンがありません。

A : パソコンがPC98-NXシリーズの場合、誤操作による設定の変更からパソコンを守るための仕組みとして、CyberTrio-NXが入っています。CyberTrio-NXのモードを「アドバンスモード」に切り替えて使用してください。切り替え方法はNXシリーズの取扱説明書を参照してください。

Q : PC-9821シリーズとUSB接続できますか？

A : PC-9821シリーズとのUSB接続はサポートしておりません。LANカードを使用してください。

Q : USBポートはCOMポート(シリアルポート)として使用することはできますか？

A : COMポート(シリアルポート)として使用することはできません。USBポートは付属のUSBLANドライバを使用してLANポートとして動作します。

## 2. インストール中

Q :「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」への組み込み時に誤ってデバイスドライバウィザードを[キャンセル]してしまったためAtermが「不明なデバイス」として認識されてしまいました。

A :次の手順で、「不明なデバイス」を削除してください。

タスクバーの **スタート** [設定] [コントロールパネル]の順に選択し、[システム]をダブルクリックします。[デバイスマネージャ]タグ内の[不明なデバイス]を選択し、**削除** ボタンをクリックします。

Q :インストール中にパソコンの動作が不安定になりました。

A :パソコン、ドライバ及び周辺機器によって動作が異なることがあります。インターネットホームページ「AtermStation」で紹介している、動作確認済みパソコンリストを参照してください。使用しているパソコンが記載されている場合は、USBソフトウェアのバージョンを確認してください。

Q :添付のCD-ROMを入れるとパソコンの画面にメニューが表示されてしまいます。

A1 :添付のCD-ROMは、自動的にメニューが表示されるようになっています。必要でない場合は、メニューを終了してください。

A2 :次の手順でCD-ROMを入れてもメニューが表示されなくなります。

コントロールパネルの中の[システム]をダブルクリックした後、[デバイスマネージャ]タグ内の[CD-ROM]をダブルクリックします。

認識されているCD-ROMドライブが表示されるので、[CD-ROMドライブ]をクリックし、**プロパティ** ボタンをクリックします。

[CD-ROMドライブ]のプロパティ画面で、[設定]タグをクリックします。

[オプション]の[自動挿入]のチェックをはずします。

**OK** ボタンをクリックした後、Windowsを再起動します。

## 3. インストール後

Q :USBを使用した通信アプリケーションを動作させた状態でAtermのUSBケーブルを抜き差し(プラグアウト・プラグイン)やAtermの電源をOFF ONにするとWindowsが不安定になりました。

A :USBを使用した通信中にUSBケーブルの抜き差し(プラグアウト・プラグイン)またはAtermの電源をOFF ONにするとパソコンが不安定になることがあります。こ

の現象が発生する場合には、通信を終了してからUSBの操作(ケーブル抜き差し、Aterm電源OFF ON)をしてください。万一、パソコンがフリーズした場合には、「CTRL」キー、「ALT(またはGRPH)」キー、「DEL」キーを同時に押してWindowsを終了させ、パソコンの電源をOFF ONしてWindowsが正常に起動することを確認してからパソコンを使用するようにしてください。

Q :パソコンからAtermへデータを送っているとき、SD/RD( Send Data/Receive Data)ランプが点滅しません。

A :USBポートを使用しているときには、SD/RDランプは点滅しません。

Q :スタンバイ、サスペンド機能を使用すると例外エラーが発生します。

A :スタンバイ、サスペンドを実行しないでください。

Q :[ Windowsの終了 ]-[ MS-DOSモードでパソコンを再起動する ]を実行するとパソコンがフリーズします。

A :パソコンによっては、[ Windowsの終了 ]-[ MS-DOSモードでパソコンを再起動する ]を実行するとパソコンがフリーズすることがあります。この場合、終了前に一旦USBケーブルを抜いてから[ MS-DOSモードでパソコンを再起動する ]を実行してください。

Q :通信中にパソコンの画面表示が遅くなったり、マウスポインタの矢印表示が画面に貼りつきます。

A1 :次の手順で画面の設定を変更することにより、なおる場合があります。

コントロールパネルの中の[ システム ]をダブルクリックし、[ パフォーマンス ]タグをクリックします。

[ グラフィックス ]をクリックして、[ グラフィックスの詳細設定 ]画面を表示します。ハードウェアアクセラレータのスライダーを[ なし ]に動かして、 ボタンをクリックします。

ボタンをクリックした後、Windowsを再起動します。

A2 :パソコンによっては、3Dマウスを使用すると、画面表示が遅くなったり、マウスポインタの矢印表示が画面に貼りつきます。標準のマウスを使用することによりなおる場合があります。

コントロールパネルの中の[ マウス ]をダブルクリックし、[ ポインタ ]タグをクリックします。

デザインを[ なし ]にして、 ボタンをクリックします。

- Q :通信中にファイルをダウンロードしている状態で長時間放置したら、ダウンロードが止まってしまいます。
- A :パソコンの機種によっては、省電力機能によりUSBの使用が制限されることがあります。コントロールパネルのパワーマネージメント、あるいは電源の管理で示される省電力機能を停止させてください。また、パソコンによっては起動時のBIOS設定にて省電力設定を行うものもありますので、使用しているパソコンの取扱説明書を参照して、省電力の機能を停止させてください。

#### 4. ユーティリティ

- Q :「らくらくバージョンアップ」は使用できますか？
- A :「らくらくバージョンアップ」は、データポートにRS-232Cケーブルを接続して使用できます。現在のところUSBポートからの「らくらくバージョンアップ」はサポートしておりません。

#### 5. その他

- Q :1台のパソコンにUSBポートを使って何台までAtermを接続できますか？
- A :1台です。
- Q :USBにはUHCI対応パソコン、OHCI対応パソコンという区別があるそうですが、Atermを使用する場合、何か違いがありますか？
- A :差分はありません。
- Q :他のUSBデバイスと同時に使用できますか？
- A :1台のパソコンにAtermと他のUSBデバイスを同時に接続した場合、両デバイスが一つのUSBバスを共用することになります。個々のデバイスの特性、制御方法の違いにより、お互いが影響し合い、Atermの通信速度が遅くなったり、使用できなくなる可能性があります。このような場合には、他のデバイスと同時に接続を行わないようにお願いします。

# Windows NT 4.0

## 5 Windows NT 4.0で アナログ機能・TA機能・ルータ機能を利用する

### 5-1 設定をはじめる前の準備

Atermのアナログ機能、TA機能、ルータ機能を利用する前の準備について説明しています。

5-1-1 設定をはじめる前に

5-1-2 CD-ROMの使い方

5  
Windows NT 4.0

1  
準備

2  
アナログ機能

3  
TA機能

4  
ルータ機能

Windows®98はMicrosoft® Windows®98 operating system の略です。  
Windows®95はMicrosoft® Windows®95 operating system の略です。  
Windows NT®4.0はMicrosoft® Windows NT® operating system version4.0の略です。

## 5-1-1 設定をはじめる前に

Atermの各機能を利用するには設定が必要です。設定にはパソコンのOSにより異なりますので、使用するOSに従って設定を行います。ここでは、Window NT4.0について説明します。



Atermは、アナログ機能、TA機能、ルータ機能の3つの機能を持っています。  
アナログ機能は、Atermの購入後に特別な設定をしなくてもAtermのアナログポートが動作するように設定されています。

TA機能とルータ機能を利用するためには、次ページのような手順でAtermを設定する必要があります。



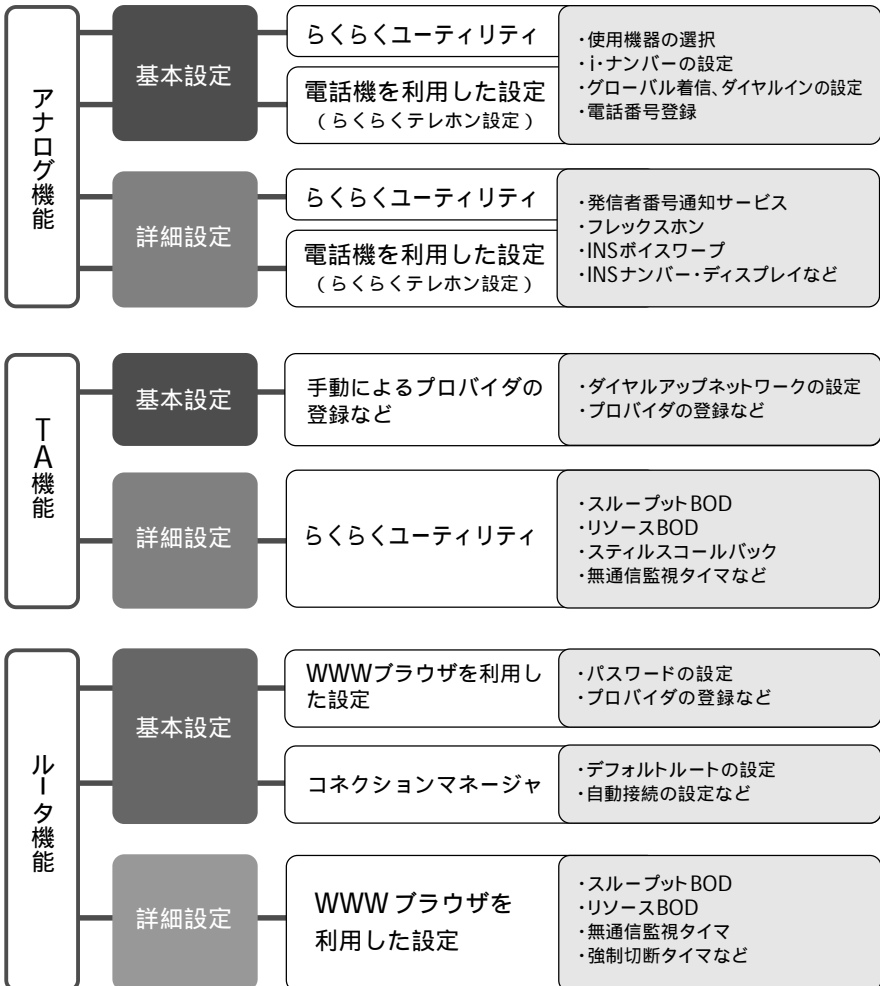
## 各機能を利用するための設定の流れ...

インターネットへダイヤルアップ接続するには手でプロバイダの登録などを行います。アナログ機能を使う場合や、各機能を詳細に設定したい場合は、らくらくユーティリティやWWWブラウザを利用した設定で行います。

アナログ機能の設定は電話機を使った設定(らくらくテレホン設定)でもできます。

らくらくユーティリティは添付のCD-ROMに入っています。次ページ「5-1-2 CD-ROMの使い方」で、ユーティリティをインストールしてください。

基本設定はパソコン1台からインターネットへダイヤルアップ接続するための設定です。まずは、基本設定でインターネットへの接続を確認してください。



## 5-1-2 CD-ROMの使い方

添付のCD-ROMの使い方について説明します。

添付のCD-ROMには、次のようなソフトウェアが収録されています。

### CD-ROMに入っているもの

- ・ IR450 らくらくウィザード  
(Windows98/Windows95)
- ・ IR450 らくらくユーティリティ  
(Windows98/Windows95、Windows NT4.0、Macintosh 対応)
- ・ IR450 コネクションマネージャ  
(Windows98/Windows95、Windows NT4.0、Macintosh)
- ・ IR450 らくらくバージョンアップ
- ・ モデム定義ファイル  
(Windows98/Windows95、Windows NT4.0)
- ・ CCL ファイル  
(ARA/Open Transport 対応)
- ・ UUI メールEX ユーティリティまたは、  
電子メール着信通知・UUI メールユーティリティ
- ・ IR450 USB-LAN ドライバ  
(Windows98/Windows95 OSR2.5 対応) など

### ユーティリティのインストール...

ここでは、添付のCD-ROMに入っているWindows NT4.0で使用するユーティリティのインストールを行います。

インストールされるユーティリティは、下記の通りです。

IR450 らくらくユーティリティ

IR450 らくらくバージョンアップ

IR450 コネクションマネージャ

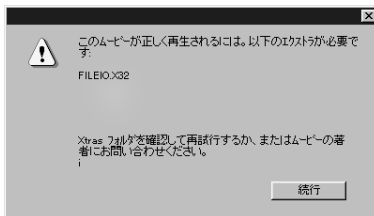
## 手順

以下の手順でインストールします。

- 1 Windows NT4.0がインストールされているパソコンの電源を入れます。
- 2 添付の「AtermIR450ユーティリティ集」CD-ROMをドライブにセットします。「AtermIR450ユーティリティ集」の案内画面が自動的に表示されます。

CD ROM をパソコンのCD ROM ドライブにセットすると、お客様のパソコンによっては、以下のエラーメッセージが表示される場合がありますが、ユーティリティの動作に問題はありません。**続行** ボタンを押すと、「AtermIR450 ユーティリティ集」の案内画面が表示されます。

CD-ROMを入れても案内画面が表示されないときは、次ページの「ファイル名を指定してインストールする」の操作を行ってください。



## 注意

1度インストールした後で、新たに再インストールするときは、[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]で[AtermIR450ユーティリティ]を削除してから行ってください。

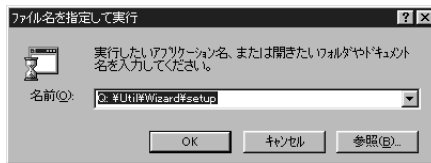
- 3 **らくらくユーティリティ(Windows95/98/NT4.0用のインストール)** ボタンをクリックします。  
しばらくすると「ようこそ」画面が表示されます。
- 4 **次へ** ボタンをクリックします。
- 5 [製品ライセンス契約]画面が表示されますので、内容をよく読んだあと、同意された場合は、**はい** ボタンをクリックします。以降は、[セットアップ]の内容に従ってインストールを行ってください。

## ファイル名を指定してインストールする

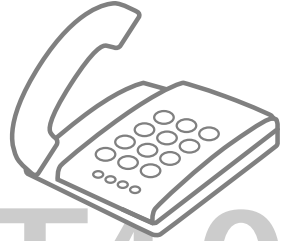
メニュー画面が表示されない場合は、次の操作を行ってください。

### 手順 Windows NT4.0の場合

- 1 Atermに添付のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。
- 2 タスクバーの **スタート** [ファイル名を指定して実行]の順に選択します。
- 3 [ファイル名を指定して実行]の画面が表示されます。  
名前(①)の入力欄に、半角の文字で次のように入力します。  
Q: ¥Util ¥Wizard ¥setup  
Q:はCD-ROMのドライブ名です。(ドライブ名は機種によって異なります)  
**OK** ボタンをクリックします。



- 4 セットアップ画面が表示されます。  
**OK** ボタンをクリックします。
- 5 **セットアップ** ボタンをクリックします。  
インストール先を変更するときは、**ディレクトリ変更** ボタンをクリックして画面の指示に従って入力してください。  
インストールが始まります。
- 6 インストールが終了したら **OK** ボタンをクリックします。  
[AtermIR450 ユーティリティ]というグループが作成されます。  
各ユーティリティを起動する場合には、**スタート** [プログラム]  
[AtermIR450 ユーティリティ]の中から、選択して起動します。



# Windows NT 4.0

## 5 Windows NT 4.0で アナログ機能・TA機能・ルータ機能を利用する

### 5-2 アナログ機器(電話機)を利用する

Atermのアナログポートの設定、ならびに接続した電話機の使い方について説明しています。

- 5-2-1 電話機を使う前の確認
- 5-2-2 アナログポートの設定
- 5-2-3 電話機を使う

## 5-2-1 電話機を使う前の確認

Atermのアナログポートに接続した電話機を、使う前に確認する内容について説明します。  
電話機の接続方法は、「電話やファクスを接続する...」43ページを参照してください。



ナンバー・ディスプレイ対応の電話機は、アナログAポートに接続する必要があります。その他のアナログポートに接続した場合、ナンバー・ディスプレイ機能は利用できません。

停電時にも使いたい電話機は、アナログAポートに接続する必要があります。この場合、あらかじめAtermに乾電池をセットし、停電モード切替スイッチを「ON」側にしておく必要があります。

乾電池のセットや停電モード切替スイッチに関しては、「3-2 停電時のための準備」34ページを参照してください。

### 接続したアナログ機器を確認する...

アナログポートに接続した機器を確認します。次の場合には設定が必要です。

すべてのアナログポートに電話機が接続されている場合は、あらかじめAtermを設定する必要はありません。

接続するアナログ機器の中にファクスやモデムが含まれる場合

接続するアナログ機器が1～2台の場合

i・ナンバーやダイヤルインサービスをご利用の場合

Atermのアナログ機能を設定するためには、次の方法を利用します。

パソコンのデータポートが使えるとき

らくらくユーティリティで設定する

次ページに進んでください。

パソコンのデータポートが使えないとき

電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)で設定する

●●参照 活用マニュアル「4 電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)」

Atermのアナログポート着信の工場出荷時設定は、すぐに電話を使用できるように、「すべてのアナログポートに電話機が接続されている」ことを想定して設定されています。

## 5-2-2 アナログポートの設定

アナログポートに接続する機器について設定を行います。

すべてのお客様が、必要な操作ではありません。詳しくは前ページを参照してください。

### らくらくユーティリティで設定する...

らくらくユーティリティでは、次のような環境のアナログ機能の設定をします。

- ・アナログ機器を接続していないアナログポートが1つでもある場合
- ・アナログポートにファクス/モデムを接続した場合
- ・INS ネット64のi・ナンバーを申し込み、i・ナンバー情報で機器を呼び分ける場合
- ・INS ネット64のダイヤルインサービスを申し込み、電話番号での機器を呼び分ける場合

上記に該当する場合は、らくらくユーティリティを起動しアナログ機能の設定をします。

上記以外のアナログ機能の変更をする場合、らくらくユーティリティまたは、電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)を使って設定値を変更します。

手順

以下の手順で設定します。

1

らくらくユーティリティを起動する前には必ず、RS232CケーブルをAtermとパソコンとの間で接続してください。

接続方法は、「パソコンのシリアルポートと接続する」45ページを参照してください。

2

**スタート** [プログラム] [AtermIR450ユーティリティ] [IR450らくらくユーティリティ]を選択します。

3

らくらくユーティリティが起動し、[IR450らくらくユーティリティ]画面が表示されます。

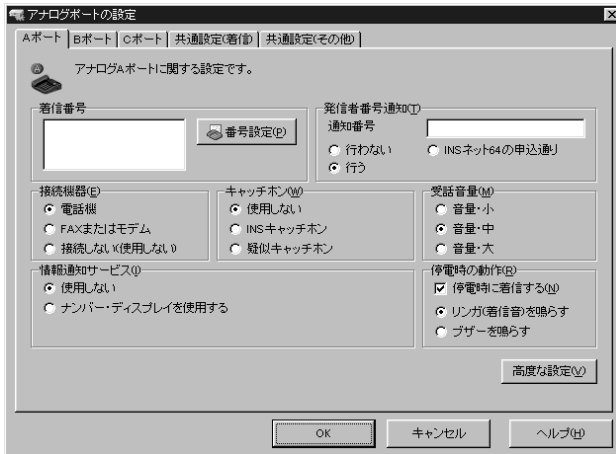
**アナログポート** ボタンをクリックします。



4

[アナログポートの設定]画面が表示されます。

ここからアナログポートの設定をします。(Aポートを例に説明します)



## 5 接続機器を選択

電話機を接続しているポートは、[ 電話機 ]を選択します。

ファクス、モデム、ファクス付き電話機を接続しているポートは、[ FAXまたはモデム ]を選択します。

接続していないポートは、[ 接続しない(使用しない) ]を選択します。

同様の手順でBポート、Cポートをそれぞれ設定します。

## 6 電話番号を設定(i・ナンバーまたは、ダイヤルインサービス契約時)

[ 着信番号 ]にある **番号設定** ボタンをクリックして表示される[ 電話番号テーブル ]画面で設定を行います。

i・ナンバーを契約している場合と、INSネット64のダイヤルインサービスを契約している場合で設定方法が異なります。

i・ナンバーを契約している場合は次ページへ進んでください。

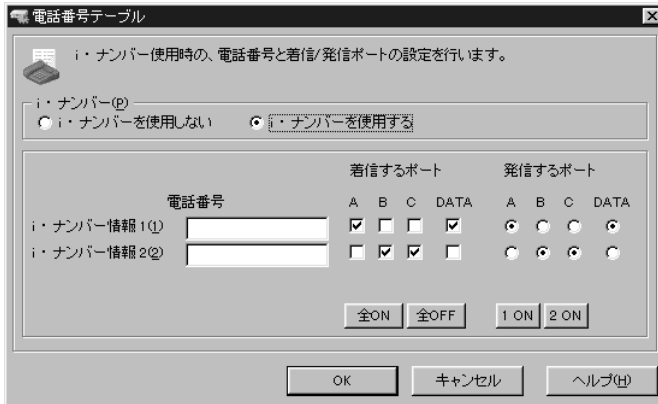
ダイヤルインサービスを契約している場合は176ページへ進んでください。

i・ナンバーまたは、ダイヤルインサービスを契約していない場合は特に設定の必要はありません。**OK** ボタンをクリックし、起動画面で **OK** ボタンをクリックすると設定は終了です。



## i・ナンバーでアナログ機器の呼び分けをする場合

INS ネット 64 の i・ナンバーを契約した場合に設定を行います。



[電話番号テーブル]画面で[ i・ナンバーを使用する ]を選択します。

i・ナンバー情報欄にそれぞれの電話番号を入力し、着信するポートを選択します。また、発信する i・ナンバーをポートごとに設定します。

[OK] ボタンをクリックします。

アナログポート設定画面に戻り、[OK] ボタンをクリックします。

起動画面に戻り、[閉じる] ボタンをクリックします。

**注意**

[閉じる] ボタンをクリックしないで終了させた場合、設定内容はAtermに登録されません。

5  
Windows NT4.0

1  
準備

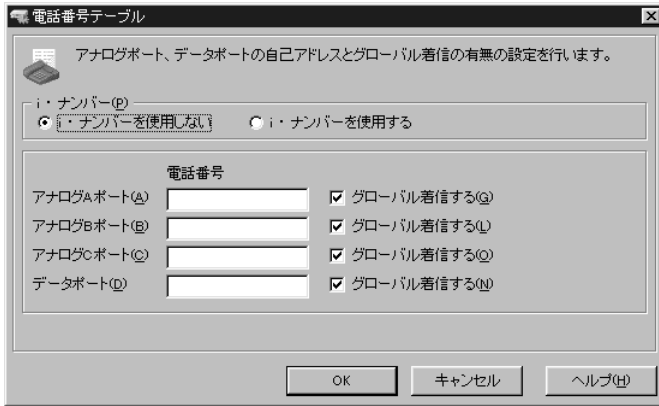
2  
アナログ機能

3  
T A 機能

4  
ルータ機能

## ダイヤルインサービスでアナログ機器の呼び分けをする場合

INS ネット 64 のダイヤルインサービスを契約した場合に設定を行います。



[ 電話番号テーブル ] 画面で [ i・ナンバーを使用しない ] を選択します。

ダイヤルイン番号で着信させたいアナログポート、データポートの電話番号欄にダイヤルイン番号を入力します。

グローバル着信 ( 契約者回線番号 ) で着信させたいアナログポート、データポートにチェックをつけます。



ダイヤルイン番号を設定したポートの [ グローバル着信する ] にチェックマークをつけた場合、そのポートは、契約者回線番号、ダイヤルイン番号の両方で着信します。

[ OK ] ボタンをクリックします。

アナログポート設定画面に戻り、 [ OK ] ボタンをクリックします。

起動画面に戻り、 [ OK ] ボタンをクリックします。



[ OK ] ボタンをクリックしないで終了させた場合、設定内容は Aterm に登録されません。

## 5-2-3 電話機を使う

Atermをアナログポートに接続された電話機でよく使われる以下の機能について説明します。

- 外線電話をかける・うける
- 内線電話をかける・うける
- 疑似キャッチホン

ここで説明されないアナログポートの機能は、活用マニュアルの「5 電話機(アナログ通信機器)を使う」を参照してください。

### 外線電話をかける...

アナログポートに接続された電話機から、外線電話へのかけかたを説明します。

アナログポートに接続した電話機についての詳細は、電話機の説明書をご覧ください。

手順

以下の手順で外線電話で通話します。

**1** 受話器をあげます  
「ツー」という発信音が聞こえ液晶ディスプレイに使用しているアナログポート名が表示されます。

**2** 相手の電話番号をダイヤルします  
ダイヤル後、約5秒後(ダイヤル桁間タイムの設定によります)に発信します。

電話番号の後に続けて $\#$ を押すと待たずにすぐ発信できます。

**3** 通話が終わったら受話器をおきます。


番号を間違えたときは

受話器を置いて、手順1からやりなおしてください。

Atermの液晶ディスプレイ

  
AtermIR450

アナログAポートに接続した電話機の受話器をあげた場合

  
アナログ A ハッシン  
0312345678

アナログAポートから発信した場合の例

アナログ A セツダン  
016 10円

切断理由を表示 今かけた通話料金を表示

液晶ディスプレイに表示される切断理由の詳細は、活用マニュアルの「10-6 切断理由表示・診断情報表示・生成源表示一覧」を参照してください。

5 WindowsNT4.0

1 準備

2 アナログ機能

3 T A機能

4 ルータ機能

## 外線電話をうける...

外線電話を受けるときの手順を説明します。

### 手順

以下の手順で外線電話と通話します。

- 1 電話がかかってきたら、受話器をあげて通話します。

Atermに外から電話がかかってくると、Atermの液晶ディスプレイに情報が表示されます。

相手先電話番号は、相手先の環境によっては、表示されないことがあります。詳細は、活用マニュアルの「5-3 発信者番号通知サービスの利用」を参照してください。

- 2 通話が終わったら受話器をおきます。

### Atermの液晶ディスプレイ

アナログ チャクシン  
03 × × × × × × × ×

アナログポートに着信があった場合

アナログ A セツダン  
016

アナログAポートに接続した電話機の受話器を置いた場合

## 内線電話をかける...

3つのアナログポートに接続した電話機のうち、2台の電話機間で通話することができます。

手順

以下の手順で通話します。

1

受話器をあげます。

2

Ⓜ Ⓝ 「呼び出す電話機の番号」を続けて押します。

アナログAポートの電話機：①

アナログBポートの電話機：②

アナログCポートの電話機：③

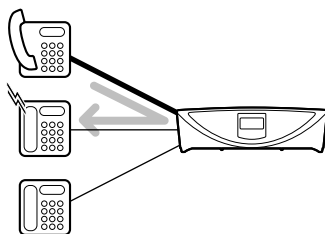
例  
アナログAポートに接続されている電話機からアナログBポートに接続されている電話機を呼び出す場合

Ⓜ Ⓝ ②と押します。

アナログAポート  
の電話機

アナログBポート  
の電話機

アナログCポート  
の電話機



3

呼び出し音が鳴り、相手が受話器をあげれば通話ができます。

4

通話が終わったら受話器をおきます。

注意

- ・呼び出したいアナログポートが使われているときは、利用できません。
- ・停電時は利用できません。

参考

- ・INSネット64に接続していない状態でも、内線通話機能は利用できます。
- ・内線通話中に外線から着信があると、プップツと音がして着信を通知します。フッキングをすると外線通話ができます。
- ・ダイヤル後、すぐに発信させるには最後にⓂを押します。

## 内線電話をうける...

外線電話をうける場合と同じです。「外線電話をうける...」前のページを参照してください。

5  
Windows NT4.0

1  
準備

2  
アナログ機能

3  
T A機能

4  
ルータ機能

## 通信中の外線電話を他の内線電話へ転送する...

外線からかかってきた電話やファクスを、他のアナログポートの電話機またはファクスに転送することができます。

### 転送先の相手と通話してから転送を開始する場合

手順

以下の手順で通話します。

- 1 外線と通話中に1回フッキングします。
- 2 **#** **\*** 「呼び出す電話機の番号」を続けて押します。  
「呼び出す電話機の番号」は、アナログポート毎に次のように決まっています。  
アナログAポートの電話機 : ①  
アナログBポートの電話機 : ②  
アナログCポートの電話機 : ③
- 3 転送先では呼び出し音が鳴り、転送先の相手が受話器をあげたら、外線電話を転送することを伝えます。
- 4 転送元の受話器をおきます。  
これにより、外線相手と転送相手が通話できます。

### 転送先の相手と通話しないで転送を開始する場合

手順

以下の手順で通話します。

- 1 外線と通話中に1回フッキングします。
- 2 **#** **\*** 「呼び出す電話機の番号」を続けて押します。  
「呼び出す電話機の番号」は、アナログポート毎に次のように決まっています。  
アナログAポートの電話機 : ①  
アナログBポートの電話機 : ②  
アナログCポートの電話機 : ③
- 3 電話機の受話器から、転送先の呼び出し音が聞こえたら受話器をおきます。  
転送先の相手が受話器をあげると、話していた外線相手が、転送先の相手と通話できます。

5  
Windows NT4.0

1 準備

2 アナログ機能

3 T A 機能

4 ルータ機能




- ・ 転送する先のアナログポートが使われているときは利用できません。
- ・ 同一回線にバス接続されている、別のTAに接続された電話機への転送はできません。
- ・ 停電時には、転送機能は利用できません。
- ・ 転送中(相手を呼出中)にフッキングすると、Atermは相手の呼出を中断し、元の通話状態にします。
- ・ 転送手順の途中(例えばフッキング 【#】をダイヤル)で受話器を置くと誤操作と判断し「呼び返し」が起こります。いったん受話器を上げて転送しなおしてください。
- ・ フッキング後、次の操作をしないでしばらくすると自動的に元の通話状態に戻ります。



フッキングとは、電話機のフックを軽く押しはなすことをいいます。フッキング検索時間より長くフッキングを行うと、通話中にその通話が切断されます。

## 疑似キャッチホンを使う...

 Atermの設定必要

INS ネット 64 の付加サービスの契約なしで、疑似的にINS キャッチホン(話し中にかかってきた電話を受ける)ができます。月々の付加使用料はかかりませんが、Bチャンネルを2本使用するため、下記の制限があります。


- ・INS ネット 64 の B1、B2 チャンネルを両方使うので、その間、他のポートは使用できません。
- ・疑似キャッチホン中は、内線通話以外の通信はできません。

疑似キャッチホンを使うためには、次のいずれかの方法で、Aterm を設定する必要があります。それぞれの設定方法を説明します。



### 電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)

(Atermと接続したプッシュ式電話機から受話器をあげてダイヤルします)

	* * ① *	アナログ A ポート	①	* ① ② *	② # #
受話器を		アナログ B ポート	②		
あげる		アナログ C ポート	③		

### らくらくユーティリティでの設定

タスクバーの **スタート** [プログラム] [AtermIR450 ユーティリティ] [IR450 らくらくユーティリティ] の順に選択  
 [IR450 らくらくユーティリティ] 画面のアナログポートボタン 設定したいポートのタグ  
 疑似キャッチホンにチェック

設定の詳細は、活用マニュアルの「1 らくらくユーティリティ」、「4 電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)」を参照してください。

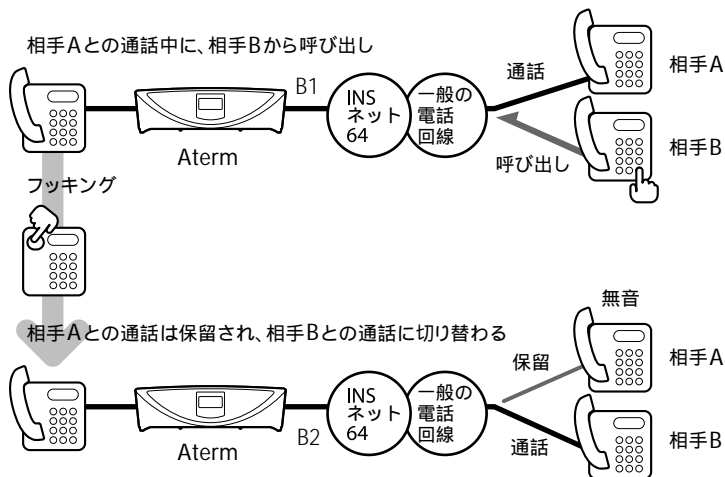


疑似キャッチホンの操作手順は、次の通りです。

### 手順

以下の手順で通話します。

- 1 相手Aと通話中に新たな相手Bから着信があると、受話器から、「ブブツ」という音が聞こえます。
- 2 電話機から1回フッキングすると、相手Bとの通話ができます。相手Aは、保留されます。(無音となります。)



- 3 通話相手を切り替えるときは、もう一度フッキングします。





# Windows NT 4.0

## 5

### Windows NT4.0で

### アナログ機能・TA機能・ルータ機能を利用する

## 5-3 TA機能を利用してインターネットへダイヤルアップ接続する

TA機能を利用して、インターネットへ接続するまでを説明しています。

5-3-1 TA機能で接続をはじめる前の確認

5-3-2 TA機能でインターネットへ接続するための設定

## 5-3-1 TA機能で接続をはじめる前の確認

Atermは、インターネットにパソコンを接続する方法として、以下の2つの方法を使用することができます。

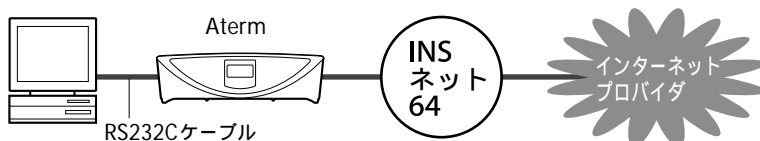
TA機能による接続

ルータ機能による接続

ここではTA機能について説明します。

ルータ機能の詳細は、「5-4 ルータ機能を利用してインターネットダイヤルアップ接続する」207ページを参照してください。

AtermのTA機能では、1台のパソコンをインターネットに接続することができます。



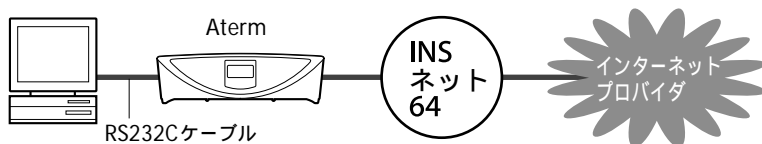
### Atermとパソコンとの接続を確認

TA機能は、AtermのデータポートとパソコンをRS232Cケーブルで接続してインターネットに接続します。

接続の方法は、「パソコンのシリアルポートと接続する」45ページを参照してください。

## 5-3-2 TA機能でインターネットへ接続するための設定

AtermのTA機能とWindows NT4.0のダイヤルアップネットワークを使って、1台のパソコンから、インターネットに接続できるようにする手順について説明します。



### Windows NT4.0の設定手順

インターネットへ接続するための手順は、次の通りです。

- ① プロバイダの確認
- ② Atermをモデムとしてセットアップ
- ③ リモートアクセスサービスの設定
- ④ プロバイダの設定
- ⑤ TA機能でインターネットに接続する

### ① プロバイダの確認...

インターネットへ接続するには、接続サービスを提供するプロバイダへの加入が必要です。詳しくは「2-5 インターネットについて」28ページで確認してください。

また、接続するアクセスポイントと、通信速度(回線速度)をプロバイダの案内で確認してください。

## ② Atermをモデムとしてセットアップ...

Atermを初めて使用するときは、Atermを「使用するモデム」としてセットアップする必要があります。この操作は、最初に一度行えば、そのあとは必要ありません。

手順

以下の手順で設定します。

- 1 タスクバーの **スタート** [設定] [コントロールパネル]の順に選択します。
- 2 [コントロールパネル]の[モデム]アイコンをダブルクリックします。
- 3 [新しいモデムのインストール]画面が表示されます。



WindowsNT4.0を使用している環境によっては、[モデムのプロパティ]画面が表示される場合があります。この場合、[モデムのプロパティ]画面から、**追加**ボタンをクリックします。

[モデムを一覧から選択するので検出しない]をクリックしてチェックマークを付けます。

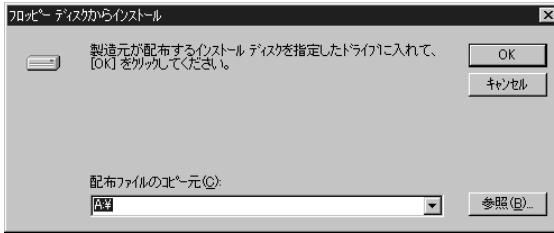
**次へ** ボタンをクリックします。

- 4 モデムの[製造元]と[モデル]の選択画面が表示されます。

**ディスク使用** ボタンをクリックします。



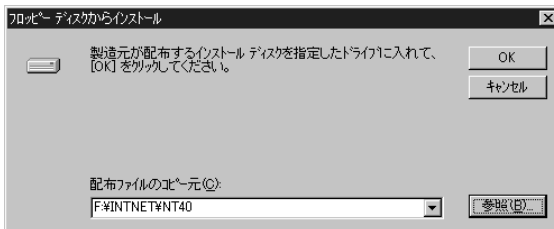
- 5 [フロッピーディスクからインストール]画面が表示されます。CD-ROMドライブに、添付のCD-ROMをセットし、**参照** ボタンをクリックします。



- 6 [ファイルを見つけます]画面が表示されます。  
 [ファイルの場所]プルダウンメニューから、添付のCD-ROMをセットしたCD-ROMドライブを選択します。  
 [Intnet]をダブルクリックし、さらに[Nt40]をダブルクリックします。  
 [ファイル名]欄に[Mdmnir]が表示されます。  
**開く** ボタンをクリックします。



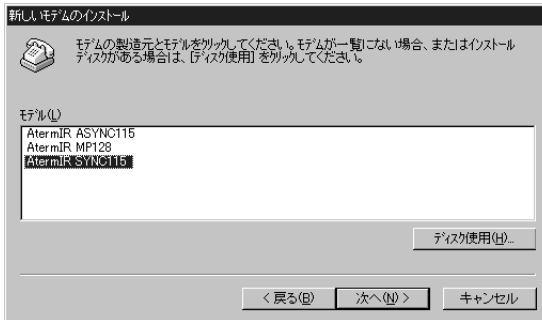
- 5 [フロッピーディスクからインストール]画面に戻ります。  
**OK** ボタンをクリックします。



## 8 [新しいモデムのインストール]画面が表示されます。

通信する相手先に合わせて使用するモデムを選んでクリックします。

**次へ** ボタンをクリックします。



アクセスポイントの条件	選択するモデム
非同期	AtermIR ASYNC115
64Kbps 同期	AtermIR SYNC115
128Kbps マルチリンク PPP	AtermIR MP128



選択するモデムは、プロバイダのアクセスポイントにより異なります。不明な場合は、加入したプロバイダに問い合わせてください。

## 9 手順8で選択したモデムが表示された画面が表示されます。

[ 選択したポート ] をクリックしてチェックマークを付けます。

Atermが接続されているポートをクリックします。

**次へ** ボタンをクリックします。





- 10 「モデムは正常にセットアップされました。」というメッセージを確認し、**完了** ボタンをクリックします。



- 11 [モデムプロパティ]画面が表示されます。

選択したモデムが表示され、選択されていることを確認(選択されていない場合は、クリックして選択してください)し、**プロパティ** ボタンをクリックします。

このメッセージが表示される前に、所在地を設定する画面が表示されることがあります。その場合は必要な設定を行って、**OK** ボタンをクリックします。



- 12 [最高速度]プルダウンメニューから、次の表に合わせた最高速度を選択します。  
[OK] ボタンをクリックします。



[最高速度]プルダウンメニュー

モデム情報	最高速度
AtermIR ASYNC115	57600または115200
AtermIR SYNC115	115200
AtermIR MP128	230400

「230400」に設定するには、市販の高速シリアルボードが必要になります。詳細はパソコンの取扱説明書を参照してください。



最高速度とは、パソコンとAterm間の最高速度のことで、インターネットの通信速度のではありません。通常、インターネットの速度より高く設定します。

- 13 [モデムプロパティ]画面に戻ります。

[閉じる] ボタンをクリックして[モデムプロパティ]画面を終了します。  
続けて別のモデム情報をインストールする場合は、[追加] ボタンをクリックし、手順3～13を行ってください。  
「モデムのセットアップ」メッセージが表示される場合には、[いいえ] をクリックしてください。

### ③ リモートアクセスサービスの設定...

インターネットに接続するために必要なリモートアクセスサービスの設定をします。

手順

以下の手順で設定します。

- 1 タスクバーの **スタート** [設定] [コントロールパネル]の順に選択します。  
[コントロールパネル]画面が表示されます。
- 2 [コントロールパネル]画面の **ネットワーク** アイコンをダブルクリックします。
- 3 [ネットワーク]画面が表示されます。  
[サービス]タグをクリックします。  
[リモートアクセスサービス]を選択します。  
[リモートアクセスサービス]がインストールされていない場合は、**追加** ボタンをクリックしてリモートアクセスサービスを選択し、**OK** ボタンをクリックしてインストールしてください。  
**プロパティ** ボタンをクリックします。



5 Windows NT 4.0

1 準備

2 アナログ機能

3 TA機能

4 ルータ機能

#### 4 [リモートアクセスセットアップ]画面が表示されます。

[追加] ボタンをクリックします。



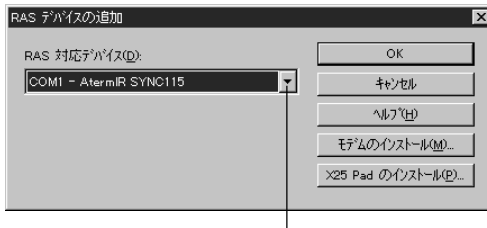
追加 ボタン

#### 5 [RAS デバイスの追加]画面が表示されます。

[RAS 対応デバイス]プルダウンメニューから、アクセスポイントに対応した Aterm を選択します。

[OK] ボタンをクリックします。

すでに同一ポートに別のデバイスが設定されている場合に、[追加] のボタンをクリックするとメッセージが表示されることがあります。この場合には、一度そのデバイスを削除した上で再度 [追加] ボタンをクリックしてください。



[RAS対応デバイス]  
プルダウンメニュー

アクセスポイントの条件	選択するモデム
非同期	AtermIR ASYNC115
64Kbps 同期	AtermIR SYNC115
128Kbps マルチリンク PPP	AtermIR MP128

5  
Windows NT4.0

1  
準備

2  
アナログ機能

3  
TA機能

4  
ルータ機能

## 6 [リモートアクセスセットアップ]画面に戻ります。

**構成** ボタンをクリックします。

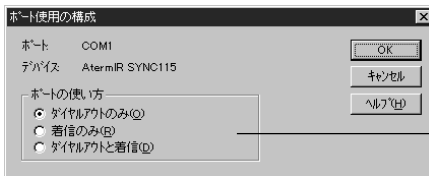


構成 ボタン

## 7 [ポート使用の構成]画面が表示されます。

[ポートの使い方]欄で  **ダイヤルアウトのみ** をクリックしてチェックマークを付けます。

**OK** ボタンをクリックします。



[ポートの使い方]欄 -  
 [ダイヤルアウトのみ]



参考

[ダイヤルアウトのみ]にすると発信専用になります。着信もしたい場合には  **ダイヤルアウトと着信** をクリックしてチェックマークを付けてください。

ただし [ダイヤルアウトと着信]にすると、COMポートを専有するため、「らくらくユーティリティ」が起動できなくなります。「らくらくユーティリティ」での設定変更などを行うときは、いったん [ダイヤルアウトのみ]に切り替えてから行ってください。

設定変更後、[ダイヤルアウトと着信]に戻してください。

COMポートをあけるためのその他の方法として、「リモートアクセスサービス」を停止させる方法もあります。詳しくは、Windows NT4.0のヘルプ等を参照してください。

8 [リモートアクセスセットアップ]画面に戻ります。

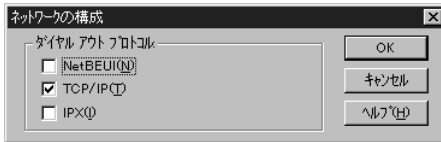
**ネットワーク** ボタンをクリックします。



9 [ネットワークの構成]画面が表示されます。

[ダイヤルアウトプロトコル]欄の[TCP/IP]を選択します。

**OK** ボタンをクリックします。

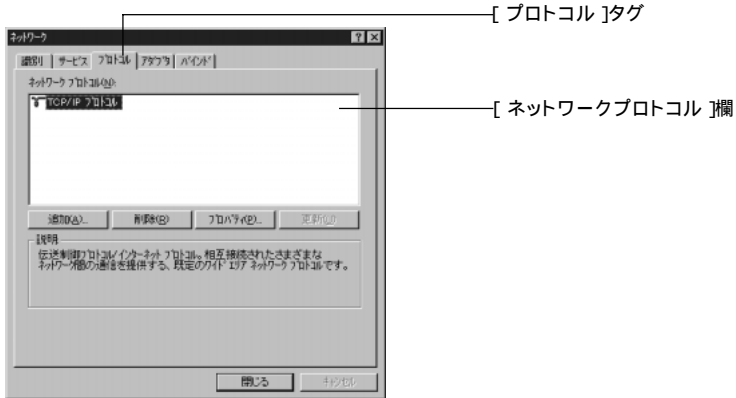


10 [リモートアクセスセットアップ]画面に戻ります。

**続行** ボタンをクリックします。



- 11 [ ネットワーク ]画面に戻ります。  
 [ プロトコル ]タグをクリックします。  
 [ ネットワークプロトコル ]欄に、[ TCP/IPプロトコル ]が追加されていることを確認します。  
 [ 閉じる ] ボタンをクリックします。



- 12 [ ネットワーク設定の変更 ]画面が表示されます。  
 [ はい ] ボタンをクリックします。  
 Windows NT4.0を再起動させると、リモートアクセスサービスのインストール作業が完了します。

## ④ プロバイダの設定...

プロバイダに接続するための設定を行います。設定の内容はプロバイダごとに異なりますので、詳細は加入したプロバイダにお問い合わせください。

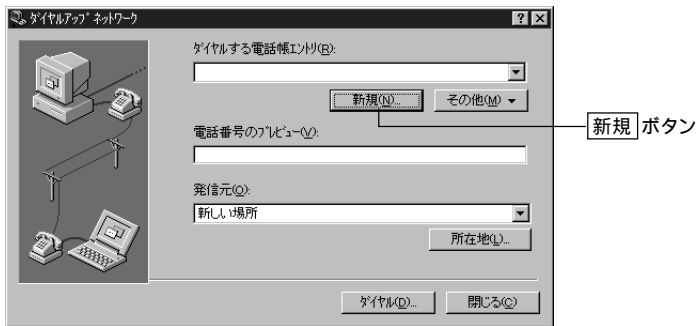
この操作は、1度行えばそれ以降は、必要ありません。

### アクセスポイントを設定する

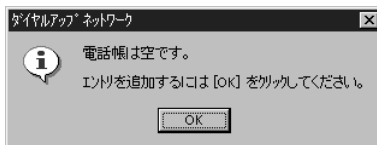
手順

以下の手順で設定します。

- 1 デスクトップの[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。  
マイコンピュータ画面が開きます。  
[ダイヤルアップネットワーク]アイコンをダブルクリックします。
- 2 [ダイヤルアップネットワーク]画面が表示されます。  
[新規] ボタンをクリックします。



Windows NT4.0の使用環境によっては下のような画面が表示される場合があります。その場合は[OK]ボタンをクリックして次の手順に進んでください。



5 Windows NT4.0

1 準備

2 アナログ機能

3 TA機能

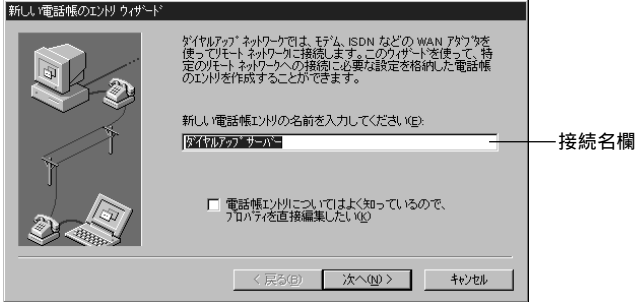
4 ルータ機能



### 3 [新しい電話帳のエントリウィザード]画面が表示されます。

[新しい電話帳エントリの名前を入力してください]欄に、わかりやすい接続名(プロバイダ名や通信速度など)を入力します。

**次へ** ボタンをクリックします。

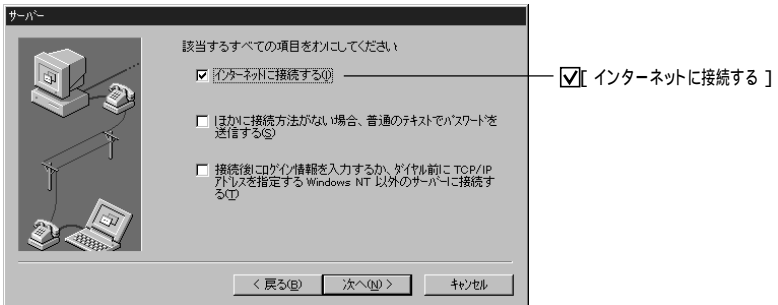


接続名欄

### 4 サーバー画面が表示されます。

インターネットに接続する ] をクリックしてチェックマークを付けます。

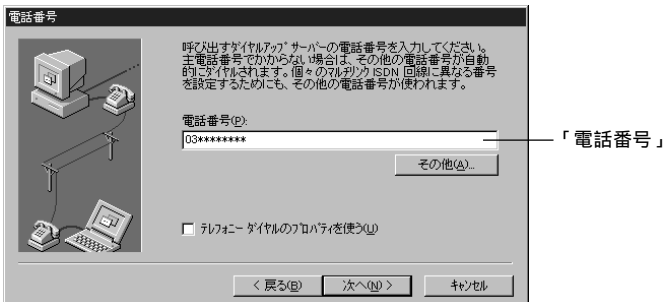
**次へ** ボタンをクリックします。



インターネットに接続する ]

### 5 アクセスポイント先の「電話番号」を入力します。

**次へ** ボタンをクリックします。



「電話番号」

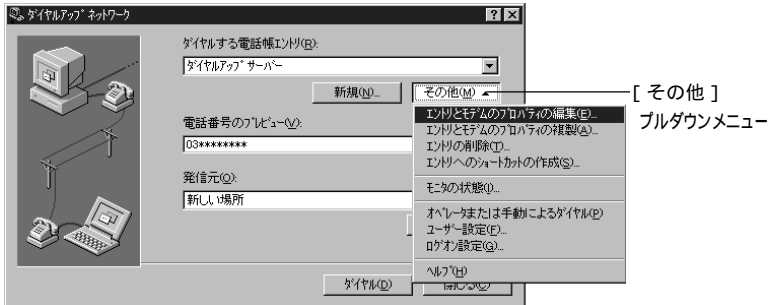
## 6 [新しい電話帳のエントリウィザード]画面に戻ります。

**[完了]** ボタンをクリックします。



## 7 [ダイヤルアップネットワーク]画面に戻ります。

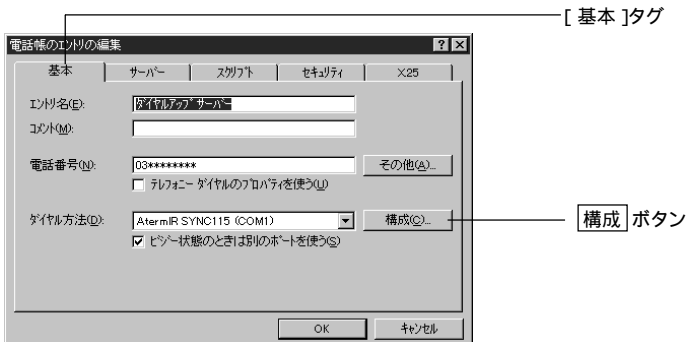
[その他]プルダウンメニューから[エントリとモデムのプロパティの編集]を選択します。



## 8 [電話帳のエントリの編集]画面が表示されます。

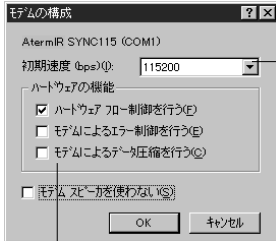
[基本]タグをクリックして開きます。

設定内容を確認し、間違いがなければ、**[構成]** ボタンをクリックします。



## 9 「モデムの構成」画面が表示されます。

- [ 初期速度 ]プルダウンメニューから下の表に合わせた最高速度を選択します。
- [ ハードウェアの機能 ]欄の  [ ハードウェアフロー制御を行う ]にクリックしてチェックマークを付けます。他のチェックマークはすべて解除します。
- [OK]** ボタンをクリックします。



[ 初期速度 ]プルダウンメニュー

モデム情報	最高速度
AtermIR ASYNC115	57600または115200
AtermIR SYNC115	115200
AtermIR MP128	230400

「230400」に設定するには、市販の高速シリアルボードが必要になります。詳細はパソコンの取扱説明書を参照してください。

- [ ハードウェアの機能 ]欄
- [ ハードウェアフロー制御を行う ]

## 10 [ 電話帳のエントリの編集 ]画面に戻ります。

- [ サーバー ]タグをクリックして開きます。
- [ダイヤルアップサーバーの種類]プルダウンメニューから [ PPP:Windows NT,Windows95 Plus, インターネット ]を選択します。
- [ ネットワークプロトコル ]欄の、 [ TCP/IP ]にクリックしてチェックマークを付けます。
- [ ソフトウェアによる圧縮を行う ]と[ PPP LCP拡張を使う ]は、プロバイダの案内に従ってください。通常は、初期値のままでもかまいません。
- サーバの内容を設定したら、**[TCP/IPの設定]** ボタンをクリックします。



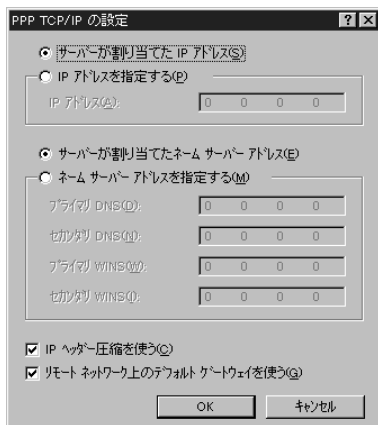
[ サーバー ]タグ

[ダイヤルアップサーバーの種類]プルダウンメニュー

[ ネットワークプロトコル ]欄

**[TCP/IPの設定]** ボタン

- 11 プロバイダの案内に従って設定します。  
設定を終了したら **OK** ボタンをクリックします。



- 12 [電話帳のエントリの編集]画面に戻ります。  
**OK** ボタンをクリックします。
- 13 [ダイヤルアップネットワーク]画面に戻ります。  
**閉じる** ボタンをクリックします。

以上でプロバイダの設定は終了です。  
次にインターネットに実際に接続してみます。

## ⑤ TA機能でインターネットに接続する...

### プロバイダとの接続を確認する

ここでは、実際にプロバイダのアクセスポイントに電話をかけてインターネットに接続します。

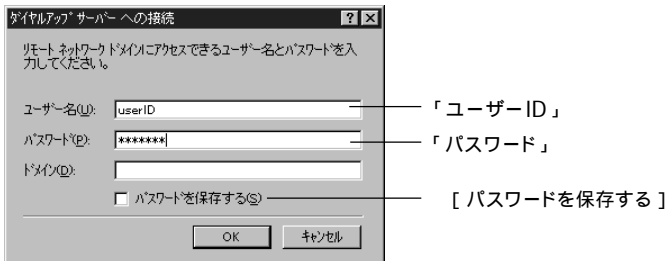
手順

以下の手順でインターネットに接続します。

- 1 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップネットワーク]アイコンをダブルクリックします。
- 2 [ダイヤルアップネットワーク]画面が表示されます。  
[ダイヤル] ボタンをクリックします。



- 3 アイコンの名前の[接続]画面が表示されます。  
「ユーザ名」と「パスワード」を入力します。  
プロバイダから指定された、ダイヤルアップ接続用の「ユーザー ID」と「パスワード」を入力します。  
入力には、半角英数字を使います。大文字、小文字の区別もプロバイダからの情報等の資料にあわせてください。

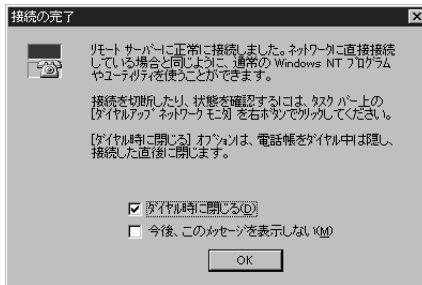


[パスワードの保存]をクリックしてチェックマークをつけると、次回から入力する必要はありません。

[ドメイン]欄は、空欄にしておきます。LAN環境で使っている場合は自動的にドメインが表示されますが、プロバイダに接続するときには、空欄にします。

4 **OK** ボタンをクリックします。

5 認証が正常に終了すると「接続の完了」の画面が表示されます。これで接続が完了しました。



6 WWWブラウザを起動します。

「インターネットエクスプローラ」や「ネットスケープナビゲータ」などのアイコンをダブルクリックします。

7 見たいホームページのアドレス(URL)たとえばhttp://aterm.cplaza.ne.jp/を入力し、リターンキーを押します。ホームページを見ることができます。





Atermをお買い上げいただいたお客様を対象にユーザ登録を行なっています。登録していただいたお客様には、Atermをご使用のお客様へのサービスの一環といたしまして、電子メールによる新製品情報、バージョンアップの案内を中心に、さまざまな情報提供やキャンペーン、イベントなどの特典・サービスを提供して参ります。

是非ユーザ登録を行なってください。

登録はインターネットホームページ「AtermStation」にて行なっています。

事前にご用意いただくもの

1. Aterm 本体 (機種名、製造番号)
2. 電子メールアドレス (最も一般的に使用しているアドレス)
3. Aterm を使用する INS ネット 64 の契約者回線番号

## 接続を切断する

切断したいときは、タスクバーに表示された[ダイヤルアップネットワークモニタ]アイコンを右クリックし、[切断]を選択します。



[ダイヤルアップネットワークモニタ]アイコン

通信回線が正常に切断されると、Atermの液晶ディスプレイに「データセツダン」が5秒間表示されます。



[切断]を選択しないと、WWWブラウザを終了しても電話はつながったままになっています。インターネットの接続をやめるときは、必ず[ダイヤルアップネットワーク]画面の[切断]を選択してください。



[切断]を選択してもAtermの液晶ディスプレイにデータ送信中のピクトグラム(≡ B1B2)のどちらかが表示されているときは、通信回線がつながったままになっています。そのまま放置すると通信費用がかかり続けます。このようなときは、AtermとINSネット64を接続している回線ケーブルを一度抜いて通信回線を強制的に切断してください。

回線ケーブルを抜くとAtermのすべての通信が切断されるので、他の機器が通信(通話)中ではないことを確認してから回線ケーブルを抜いてください。



Atermのデータポートから発信(ダイヤル)したときに、発信先が話中などのときには再発信は、次のように制限されています。

「最初の発信から3分間で2回以内」

この制限をこえるとAtermは、再発信しません。3分間後に発信してください。





# Windows NT 4.0

## 5 Windows NT4.0で アナログ機能・TA機能・ルータ機能を利用する

### 5-4 ルータ機能を利用してインターネットへ ダイヤルアップ接続する

ルータ機能を利用して、インターネットへ接続するまでを説明しています。

5-4-1 ルータ機能を利用する上での基礎知識

5-4-2 ルータ機能で接続をはじめる前の確認

5-4-3 ルータ機能でインターネットへ接続するための設定

5-4-4 LAN上に2台目のパソコンを追加する

Windows®98はMicrosoft® Windows®98 operating system の略です。  
Windows®95はMicrosoft® Windows®95 operating system の略です。  
Windows NT®4.0はMicrosoft® Windows NT® operating system version4.0の略です。

# 5-4-1 ルータ機能を利用する上での基礎知識

ここではAtermのルータ機能を利用する上で、知っておいていただきたいことを説明しています。

## IPアドレスについて

IPアドレスとは、IPによる通信( IPネットワーク )を行う際、ネットワーク上の通信機器を識別するためのものです。特にインターネットでは、世界中がネットワークに接続されているため、これらの中でそれぞれ異なった番号を持たなければなりません。IPアドレスの表記は、通常「192.168.0.1」のように、ピリオドをはさんだ4つの数字( 0 ~ 255 )で表します。

## グローバルIPアドレスとプライベートIPアドレス

グローバルIPアドレスとは、インターネットに接続され通信機器に一意に割り当てられるIPアドレスのことです。インターネットの中では住所にあたり、インターネット上で通信を行うためには必ず必要となります。

グローバルIPアドレスに対して、インターネットに直接接続することのない、各組織内部の閉じたネットワークでは、プライベートIPアドレスを使うことになっています。

プライベートIPアドレスの範囲はRFC1918 で以下のように定義されています。

10.0.0.0 ~ 10.255.255.255

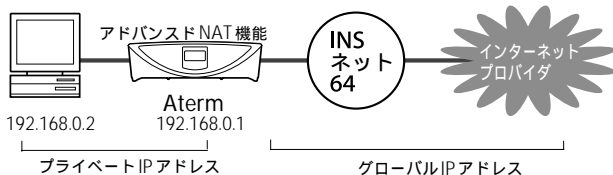
172.16.0.0 ~ 172.31.255.255

192.168.0.0 ~ 192.168.255.255

## アドバンスドNAT

アドバンスドNAT機能とは、インターネットに直接接続することができないプライベートIPアドレスを、インターネットへ接続するために、複数のプライベートIPアドレスと1つのグローバルIPアドレスを変換してインターネットに接続できる機能です。

これにより、本来、インターネットに接続できなかったプライベートIPアドレスを使用したLANをインターネットに接続できるようになります。



アドバンスドNAT機能を利用すると、ネットワークゲームなど一部の通信アプリケーションがご利用になれない場合があります。詳細は、活用マニュアル「2 WWWブラウザを利用した設定」の「アドバンスドNATオプション」を参照してください。

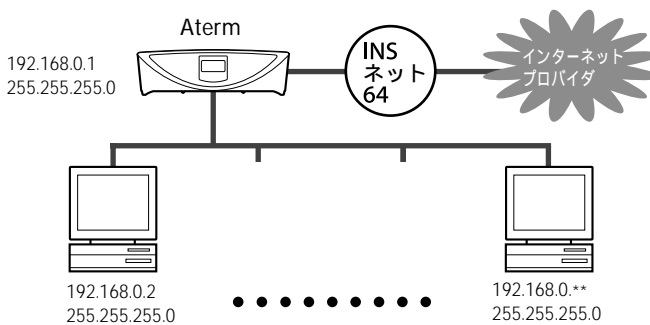
## DHCP( Dynamic Host Configuration Protocol )について

覚えにくく、また設定しにくいIPアドレスの設定を簡素化するため、Atermでは各パソコンに対して、自動的にこのIPアドレスを割り当てる機能があります。

この機能を、DHCP機能といいます。

Atermのように、IPアドレスをパソコン等に割り当てる装置を、DHCPサーバと呼びます。また、パソコンのように、IPアドレスをDHCPサーバから割り当てられる装置を、DHCPクライアントと呼びます。

Atermの工場出荷時の設定は、DHCPサーバとして動作するように、設定されています。DHCPクライアントとしては、動作しません。



## DNS( Domain Name System )について

IPアドレスは数字だけのため、覚えにくく実用的ではありません。

例えば、インターネット上のホームページを参照する場合、パソコン上のWWWブラウザからそのホームページを見るためには、WWWブラウザの中に、IPアドレスを直接入力した場合には、わかりにくくなってしまいます。

例 `http://192.168.0.1`

そこで、このIPアドレスとその他の文字列とを、下記のように関連づける機能が、利用されるようになりました。この関連づけられたデータを提供する装置をDNSサーバといいます。

192.168.0.1 = `www.xxx.nec.co.jp`

この関連付けは例であり、実際の値とは異なります。

インターネットに接続するパソコンやAtermなどは、このDNSサーバを利用してより簡単にWWWブラウザからインターネットのホームページを見ることができるようになっています。

## インターネットのさまざまな接続形態...

インターネットに接続するためにプロバイダと契約する接続形態には、代表的なものとして「端末型ダイヤルアップ接続」「LAN型ダイヤルアップ接続」があります。また、NTTコミュニケーションズ株式会社が提供する常時接続型のOCNエコノミーなどもあります。

以下にそれぞれの特徴を説明します。

### 端末型ダイヤルアップ接続

端末型ダイヤルアップ接続は、接続するたびに異なるIPアドレス(グローバルIPアドレス)が1つ割り当てられます。この接続形態がもっとも一般的です。

Atermでは端末型ダイヤルアップ接続で契約していても、アドバンスドNAT機能により、LAN上の複数のパソコンからインターネットに接続することができます。

### LAN型ダイヤルアップ接続

LAN型ダイヤルアップ接続は、LAN(ネットワーク)全体を、ルータを使って接続する接続形態です。端末型ダイヤルアップと違い、ネットワーク全体を接続し、複数のIPアドレス(グローバルIPアドレス)が割り当てられます。そのIPアドレス(グローバルIPアドレス)を使い複数のパソコンから同時にインターネットに接続できます。

### OCNエコノミー

OCNエコノミーは、NTTコミュニケーションズ株式会社が提供するデータ通信用の回線サービスの一部です。常時接続型でインターネットに接続されます。

OCNエコノミーでの接続の詳細は、活用マニュアルの「7-10 ルータ機能を利用したその他の接続」を参照してください。

Atermでは、上記接続形態すべてに対応していますが、このマニュアルでは、上記の「端末型ダイヤルアップ接続」で、接続できるように設定します。

端末型ダイヤルアップ以外の接続をするには、活用マニュアルの「7-10 ルータ機能を利用したその他の接続」を参照してください。

## 5-4-2 ルータ機能で接続をはじめる前の確認

Atermは、パソコンをインターネットに接続する方法として、以下の2つの方法を使用することができます。

TA機能による接続

ルータ機能による接続

ここではルータ機能による接続について説明します。

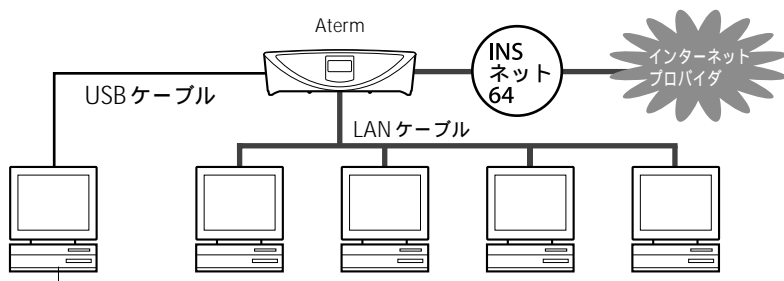
TA機能の詳細は、「5-3 TA機能を利用してインターネットヘダイアルアップ接続する」185ページを参照してください。

TA機能では、AtermのデータポートとパソコンをRS232Cケーブルで接続してインターネットに接続します。これに対し、ルータ機能では、AtermとパソコンをLANケーブルまたは、USBケーブルで接続(Windows98/Windows95のみ)して、インターネットに接続します。

Atermの10BASE-Tポートには、直接4台までのパソコンを同時にインターネットに接続することができます。

また、AtermのUSBポートには、さらに1台のパソコン(Windows98/Windows95のみ)を追加することもできます。

Atermのルータ機能では、4台の10BASE-Tで接続されたパソコンとUSBで接続されたパソコン(Windows98/Windows95のみ)をインターネットに接続することができます。



(Windows98/Windows95のみ)



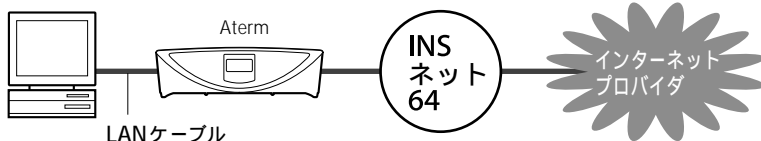
10BASE-TポートとUSBポートに接続されたパソコン同士の共有では、TCP/IPによる通信のみ可能です。詳しくは「4-4-5 USBポートのさまざまな使い方」132ページを参照してください。

## 5-4-3 ルータ機能でインターネットへ接続するための設定

下図のようなWindows NT4.0のパソコン1台からインターネットに接続できるようにします。

### 10BASE-Tポートを使用して1台目のパソコンをインターネットへ接続する

インターネットへの接続先を1つ、Aterm1台、パソコン(WindowsNT4.0)1台



接続は、パソコンとAtermの10BASE-TポートをLANケーブルで接続してください。

ここでの説明は、インターネットへの接続先を1つ、Atermを1台、パソコン(WindowsNT4.0)1台の環境を動作させることができますようにします。

ここでの説明は、Atermを新規のLANに設置することとします。

2台目以降は...

Atermの10BASE-Tポートに、2台目以降のパソコンを接続する場合には、はじめにパソコン1台でインターネットの接続を確認してください。

その後、2台目以降のパソコンを「5-4-4 LAN上に2台目のパソコンを追加する」227ページを読んで接続してください。

既存のLANに導入するには...

Atermを既存のLANに導入する場合には、活用マニュアルの「7-2 既存のLANにAtermを導入する」を読んで接続してください。

### Windows NT4.0の設定手順

インターネットへ接続するための手順は、次の通りです。

- ① プロバイダの確認
- ② ネットワークプロトコル(TCP/IP)の設定
- ③ パソコンとAtermとの通信を確認する
- ④ WWWブラウザでAtermを設定する
- ⑤ ルータ機能でインターネットに接続する

## ① プロバイダの確認...

インターネットへ接続するには、接続サービスを提供するプロバイダへの加入が必要です。詳しくは「2-5 インターネットについて」28ページで確認してください。

また、接続するアクセスポイントと、通信速度(回線速度)をプロバイダの案内で確認してください。

## ② ネットワークプロトコル(TCP/IP)の設定...

LAN 接続したパソコンのTCP/IPを設定します。

手順

以下の手順で設定します。

1 [マイコンピュータ] [コントロールパネル] [ネットワーク]の順に選択します。

2 [ネットワーク]画面が表示されます。

[プロトコル]タグをクリックします。

[ネットワークプロトコル]欄に[ TCP/IPプロトコル ]が表示されていることを確認します。

表示されない場合は、Windows NT4.0のCD-ROMからインストールする必要があります。

Windows NT4.0のヘルプなどを参照して、インストールしてください。

Windows NT4.0では、管理者としてログオンしないとセットアップが行えません。詳しくはWindows NT4.0のヘルプなどを参照してください。



3 [ネットワークプロトコル]から[TCP/IPプロトコル]を選択します。

**プロパティ** ボタンをクリックします。

4 [Microsoft TCP/IPのプロパティ]画面が表示されます。

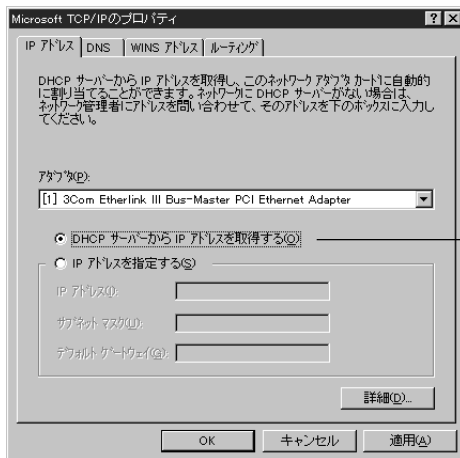
[IPアドレス]タグをクリックします。

[アダプタ]欄にAtermと接続したLANカード/アダプタの種別が表示されているか確認します。

表示されていない場合は、プルダウンメニューよりAtermと接続したLANカード/アダプタの種別を選択してください。

プルダウンメニューよりAtermと接続したLANカード/アダプタの種別が表示されない場合は、LANカード/アダプタが正しくインストールされていません。LANカード/アダプタの説明書を参考にインストールしてください。

[DHCPサーバーからIPアドレスを取得する]をクリックしてチェックマークを付けます。



[DHCPサーバーからIPアドレスを取得する]

5  
Windows NT4.0

1  
準備

2  
アナログ機能

3  
T A機能

4  
ルータ機能

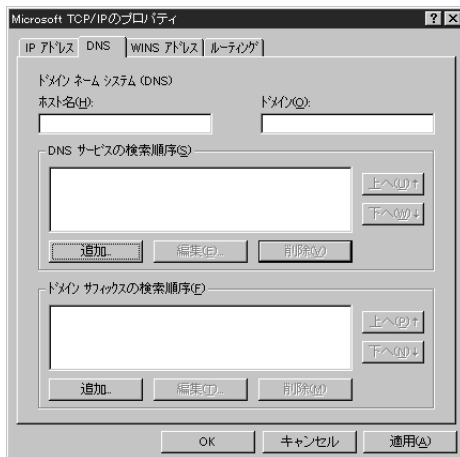


## 5 [DNS]タグをクリックします。

ホスト名以外のすべての入力欄に入力されている文字を削除します。

ホスト名に使える文字は、半角英数字およびハイフン( )です。

**[OK]** ボタンをクリックします。



## 6 ネットワークの設定を変更した場合は、パソコンを再起動するメッセージが表示されます。**[はい]** ボタンをクリックして、パソコンを再起動してください。

以上でTCP/IPの設定は終了です。

## ⑤ パソコンとAtermとの通信を確認する...

TCP/IP の設定が正しく行われたかを確認します。

AtermのDHCPサーバにより、パソコンのIPアドレスなどが自動割当されているかを確認します。これにより、パソコンとAtermの通信が確認できます。

手順

次の手順に従ってLAN上のパソコンの確認をしてください。

- 1 **スタート** [プログラム] [コマンドプロンプト]を選択します
- 2 「ipconfig」と入力し、[Enter]キーを押します。  
C:¥>ipconfig
- 3 IPアドレスとデフォルトゲートウェイが、パソコンに正しく設定されているかを確認します。

IPAddress : 192.168.0.10 ~ 192.168.0.41

SubnetMask : 255.255.255.0

Default Gateway : 192.168.0.1

出荷時の状態では、IPアドレスは192.168.0.\*が割り当てられます。「\*」の部分には、10～41までのいずれか1つの番号が、自動的に割り当てられます。これは、工場出荷時のAtermがDHCPサーバ機能を利用できる状態であり、その割当開始アドレスが192.168.0.10、予約数が32個であることを示しています。

出荷時の状態では、デフォルトゲートウェイには、192.168.0.1が割り当てられます。

パソコンのIPアドレスとデフォルトゲートウェイの設定が

正しいとき  
次ページに進んでください。

正しくないとき  
接続ケーブルや、手順をもう一度確かめてください。

5  
Windows NT4.0

1  
準備

2  
アナログ機能

3  
TA機能

4  
ルータ機能

## ④ WWWブラウザでAtermを設定する...

WWWブラウザの「AtermLR450らくらく設定」のページを開いて接続先の設定を登録します。

手順

以下の手順で設定します。

- 1 WWWブラウザを起動します。
- 2 WWWブラウザのURL入力欄に「http://192.168.0.1」と入力します。
- 3 [アクセスパスワードの入力]画面が表示されます。

Atermは、アクセスパスワードにより、ルータ機能の設定ができるようになっています。はじめての設定では、アクセスパスワードを入力する必要があります。以下の手順で入力してください。

新しいパスワードを入力します。入力された文字は\*に置き換えて表示します。

パスワード確認に、もう一度新しいパスワードの文字を入力します。同様に、入力された文字は\*に置き換えて表示します。

**設定実行** ボタンをクリックします。

WWWブラウザを終了させます。

もう一度、WWWブラウザを起動し、URL入力欄に「http://192.168.0.1」と入力します。

アクセスパスワードは、半角英数字・記号、8文字以内で入力してください。

新しいパスワード (半角8文字以内。&は使用できません)	*****
パスワードの確認 (新しいパスワードを再入力)	*****

次回からのWWWブラウザの起動では、この操作の必要は無くなります。

5  
WindowsNT4.0

1  
準備

2  
アナログ機能

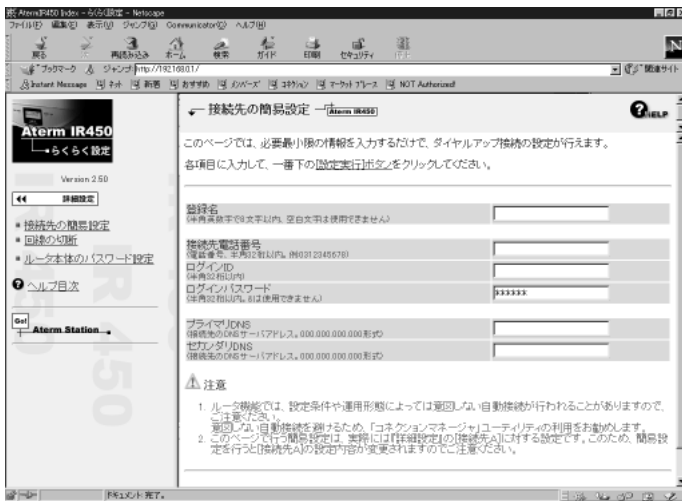
3  
TA機能

4  
ルータ機能

- 4 [ ユーザ名とパスワードの入力 ]画面が表示されます。
- [ ユーザ名 ]欄には、半角で「Admin」と入力します。
- 「Admin」は、固定となっています。(AdminのAは大文字です。)
- [ パスワード ]欄には、Atermに設定してある「アクセスパスワード」を入力します。
- OK** ボタンをクリックします。



- [ AtermIR450らくらく設定 ]ページが表示されます。



5 WindowsNT4.0

1 準備

2 アナログ機能

3 T A機能

4 ルータ機能

## 5 右フレーム内の[ 接続先の簡易設定 ]に以下の設定をします。

登録名欄にプロバイダ名など接続先の名称を半角8文字以内で入力します。  
接続先電話番号欄にアクセスポイント先の電話番号を半角32桁以内で入力します。

例 0312345678

[ ログインID ]欄、[ ログインパスワード ]欄にプロバイダから指定された、ダイヤルアップ接続用の「ユーザーID」と「パスワード」を半角32桁以内で入力します。

[ プライマリDNS ]欄、[ セカンダリDNS ]欄にプロバイダから指定された「DNSサーバのIPアドレス」を入力します。

セカンダリDNSが指定されていない場合は入力の必要はありません。

**注意**

プライマリDNSは必ず入力してください。プロバイダの指定するDNSサーバが不明な場合、活用マニュアル「付録 プロバイダのDNSサーバアドレスの調べ方」を参照して、DNSサーバのIPアドレスを入力してください。

登録名 (半角英数字で8文字以内、ブランク不可)	<input type="text"/>
接続先電話番号 (電話番号、半角32桁以内、例:0312345678)	<input type="text"/>
ログインID (半角32桁以内)	<input type="text"/>
ログインパスワード (半角32桁以内、*は使用できません)	<input type="password" value="*****"/>
プライマリDNS (接続先のDNSサーバアドレス、000.000.000.000形式)	<input type="text"/>
セカンダリDNS (接続先のDNSサーバアドレス、000.000.000.000形式)	<input type="text"/>

## 6 すべての項目を入力したら、画面下の **設定実行** ボタンをクリックします。 **設定実行** ボタンをクリックすると、設定した内容がAtermに書き込まれます。

以上で設定は終了です。

5  
WindowsNT4.0

1  
準備

2  
アナログ機能

3  
TA機能

4  
ルータ機能

## ⑤ ルータ機能でインターネットに接続する...

ここでは、コネクションマネージャを使ってインターネットに接続するための設定をし、接続する方法とコネクションマネージャを使って回線を切断する方法と、WWWブラウザを使って回線を切断する方法を説明します。



コネクションマネージャは、Atermの以下のような設定をWWWブラウザを開くことなしに簡単に変更できる便利なユーティリティです。

- ・自動接続の許可 / 禁止の設定
- ・回線の全切断
- ・フィルタリングの設定
- ・自動接続の許可時間の設定

コネクションマネージャの詳細な説明は、活用マニュアルの「3 コネクションマネージャ」を参照してください。

### コネクションマネージャを使って接続する

ここでは、実際にプロバイダのアクセスポイントに電話をかけてインターネットに接続します。

手順

以下の手順で接続します。

1

[ Aterm IR450ユーティリティ ] [ IR450 コネクションマネージャ ] を選択します。

コネクションマネージャをはじめて起動した場合、らくらくウィザード、またはWWWブラウザでAtermに設定したアクセスパスワードを入力する必要があります。

IR450のIPアドレス: AtermのIPアドレス(工場出荷時: 192.168.0.1)を入力します。

ユーザ名: 半角で「Admin」固定となっています。(AdminのAは大文字です。) パスワード: らくらくユーティリティ、またはWWWブラウザで設定したAtermへのアクセスパスワードを入力します。

ボタンをクリックします。

5  
Windows NT4.0

1  
準備

2  
アナログ機能

3  
T A機能

4  
ルータ機能

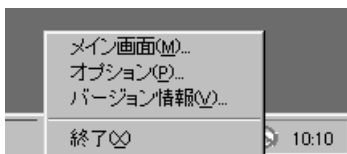


コネクションマネージャが起動すると、自動的にタスクトレイにアイコン化して常駐します。



コネクションマネージャアイコン

アイコンを右クリックしてコネクションマネージャの各設定画面を表示させることができます。各設定画面の詳細は活用マニュアル「3-2 コネクションマネージャ (Windows)」を参照してください。

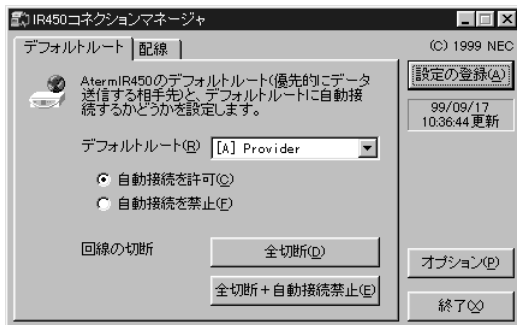


## 2 コネクションマネージャを使って設定し、実際にプロバイダに接続します。

[自動接続を許可] をクリックしてチェックマークをつけます。

デフォルトルートをらくらくウィザードで設定した接続先にして、**設定の登録** ボタンをクリックします。

設定の登録を行わないと設定が有効になりませんので注意してください。タスクトレイのコネクションマネージャアイコンをダブルクリックすることで、この画面を開かずに、許可と禁止を切り替えることができます。



**注意**

「自動接続を許可」と設定した場合は、「意図しない発信」が行われ、通信料金が発生することがあります。これらを防止するためには、コネクションマネージャにて通常は「自動接続を禁止」と設定し、通信を行うときにだけ「自動接続を許可」と設定して使用してください。

詳しくは活用マニュアル「3-4 ルータ機能による自動接続を使用する場合の注意」を参照してください。

### 3 WWW ブラウザを起動します。

「インターネットエクスプローラ」や「ネットスケープナビゲータ」などのアイコンをダブルクリックします。

**注意**

ブラウザの接続設定が、LAN になっていないとホームページが表示されません。

- 4 見たいホームページのアドレス( URL )たとえば <http://aterm.cplaza.ne.jp/> ) を入力し、リターンキーを押します。  
ホームページを見ることができます。



上記のように設定しても接続出来ない場合は、活用マニュアルの「10 お困りのときには」を参照してください。

5 Windows NT4.0

1 準備

2 アナログ機能

3 T A 機能

4 ルータ機能





Atermをお買い上げいただいたお客様を対象にユーザ登録を行なっています。登録していただいたお客様には、Atermをご使用のお客様へのサービスの一環といたしまして、電子メールによる新製品情報、バージョンアップの案内を中心に、さまざまな情報提供やキャンペーン、イベントなどの特典・サービスを提供して参ります。

是非ユーザ登録を行なってください。

登録はインターネットホームページ「AtermStation」にて行なっています。

事前にご用意いただくもの

1. Aterm本体(機種名、製造番号)
2. 電子メールアドレス(最も一般的に使用しているアドレス)
3. Atermを使用するINSネット64の契約者回線番号

## コネクションマネージャを使って回線を切断する

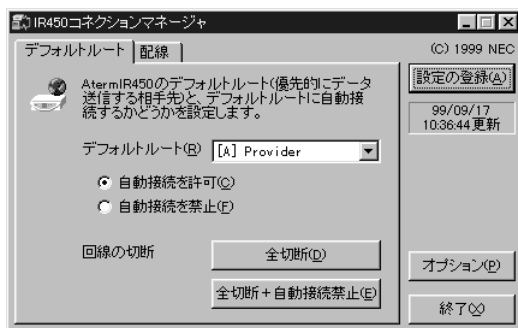
コネクションマネージャによって切断します。

次ページのように、WWWブラウザを使用して切断することもできます。

手順

以下の手順で切断します。

- 1 ファイルメニューから[終了]を選んでWWWブラウザを終了します。
- 2 **スタート** 「プログラム」 「Aterm IR450ユーティリティ」 「IR450コネクションマネージャ」を選択します。  
コネクションマネージャが常駐している場合は、タスクトレイのアイコンをダブルクリックします。
- 3 **全切断** ボタンをクリックします。  
ルータ機能によって接続されている回線がすべて切断されます。  
正常に切断されると、Atermの液晶ディスプレイに「データセツダン」が5秒間表示されます。



上記の切断方法は、手動による切断方法です。

他に、無通信監視や強制切断による切断機能があります。

活用マニュアルの「2 WWWブラウザを利用した設定」をお読みください。

ルータ機能によって通信中にタスクトレイのアイコンをダブルクリックすると、ルータ機能によって接続されている回線がすべて切断され、自動的に自動接続禁止の設定となります。(全切断 + 自動接続禁止ボタンも同様です。)

5  
WindowsNT4.0

1  
準備

2  
アナログ機能

3  
T A機能

4  
ルータ機能

## WWWブラウザを使って回線を切断する

WWW ブラウザによって切断をする事もできます。



コネクションマネージャを利用するときには、AtermのWWWブラウザの設定画面「回線の切断」は、使用しないでください。

### 手順

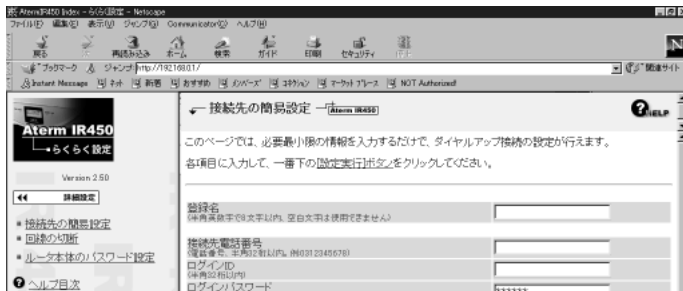
以下の手順で切断します。

- 1 WWW ブラウザを起動します。
- 2 WWW ブラウザの URL 入力欄に「http://192.168.0.1」と入力します。
- 3 「ユーザ名」と「パスワード」を入力する画面が表示されます。  
「ユーザ名」は、半角で「Admin」と入力します。  
「Admin」は、固定となっています。(AdminのAは大文字です。)  
「パスワード」は、らくらくウィザードで設定した「アクセスパスワード」を入力します。  
**OK** ボタンをクリックします。



ここでは、「Netscape Navigator」を使用しています。お使いのWWWブラウザによっては画面が異なりますが、設定方法は同じです。

- 4 [AtermIR450らくらく設定]ページが表示されます。  
左フレーム内の「回線の切断」の文字をクリックします。



- 5 [回線の切断]の画面が表示されます。  
[回線の切断]で、**全回線の切断** ボタンをクリックします。

正常に切断された場合には、Atermの液晶ディスプレイに「データセットダウン」が5秒間表示されます。

回線の「全切断」と「自動接続の禁止」の設定を同時にすることもできます。詳しくは活用マニュアルの「3 コネクションマネージャ」を参照してください。



5 Windows NT4.0

1 準備

2 アナログ機能

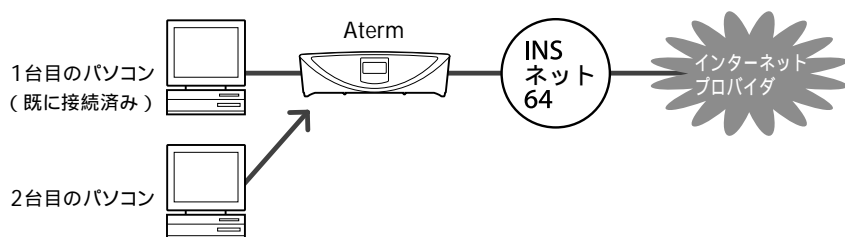
3 T A機能

4 ルータ機能

## 5-4-4 LAN上に2台目のパソコンを追加する

ここではパソコンをもう1台追加する場合について説明します。既にインターネットへの接続先を1つ、Atermを1台、パソコン1台の環境を動作させることの環境ができていることとします。

環境をまだ、構築されていないかたは、「5-4 ルータ機能を利用してインターネットへダイアルアップ接続する」207ページを参照してください。



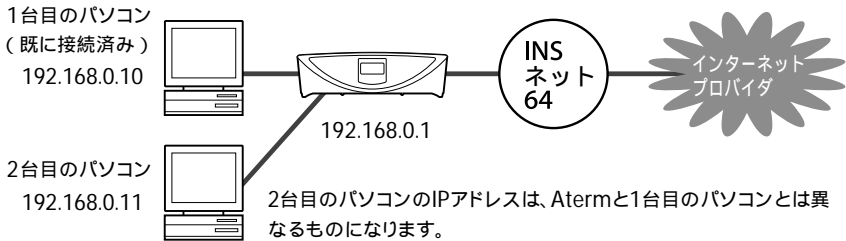
2台目から4台目までは同様な手順によりパソコンをAtermの10BASE-Tポートに追加できます。

10BASE-Tポートの4番目のポートに、パソコンを接続する場合は、「カスケード切り替えスイッチ」を「PC」側にする必要があります。

既にAtermとパソコンとをUSBケーブルで接続する環境を、ウィザードで設定済みのお客様が2台目のパソコンを10BASE-Tポートに追加し、ファイルとプリンタの共有を行う場合には、「USBポートと10BASE-Tポートを通して、「ファイルとプリンタの共有」機能を使う」132ページもあわせてお読みください。

## 2台目のパソコンを追加する手順...

2台目のパソコンのIPアドレスは、AtermのDHCPサーバにより、自動的に割り当てます。  
1台目のパソコンの設定と同様にすることで簡単に追加できます。



### 手順

以下の手順で設定します。

- 1 事前にあらかじめ用意していたLANカード/アダプタを2台目のパソコンに組み込み、そのLANカード/アダプタ用のLANドライバを、2台目のパソコンにインストールしておきます。
- 2 Atermと2台目のパソコンを10BASE-Tで接続します。
- 3 2台目のパソコンのネットワークの設定をします。
  - 参照「ネットワークプロトコル(TCP/IP)の設定」213ページ
- 4 Atermと2台目のパソコンとのLAN上でのデータ通信の確認を行います。
  - 参照「パソコンとAtermとの通信を確認する」216ページ

以上でAtermと2台目のパソコンとの接続が完了です。

インターネットへの接続・切断は、1台目と同じ手順で行います。1台目のパソコンを設定したときの、各OSのページを参照してください。

# Macintosh

## 6 Macintoshで アナログ機能・TA機能・ルータ機能を利用する

---

### 6-1 設定をはじめる前の準備

Atermのアナログ機能、TA機能、ルータ機能を利用する前の準備について説明しています。

6-1-1 設定をはじめる前に

6-1-2 CD-ROMの使い方

Windows®98はMicrosoft® Windows®98 operating system の略です。  
Windows®95はMicrosoft® Windows®95 operating system の略です。  
Windows NT®4.0はMicrosoft® Windows NT® operating system version4.0の略です。

## 6-1-1 設定をはじめる前に

Atermの各機能を利用するには設定が必要です。設定にはパソコンのOSにより異なりますので、使用するOSに従って設定を行います。ここでは、Macintoshについて説明します。



Atermは、アナログ機能、TA機能、ルータ機能の3つの機能を持っています。アナログ機能は、Atermの購入後に特別な設定をしなくてもAtermのアナログポートが動作するように設定されています。

TA機能とルータ機能を利用するためには、次ページのような手順でAtermを設定する必要があります。



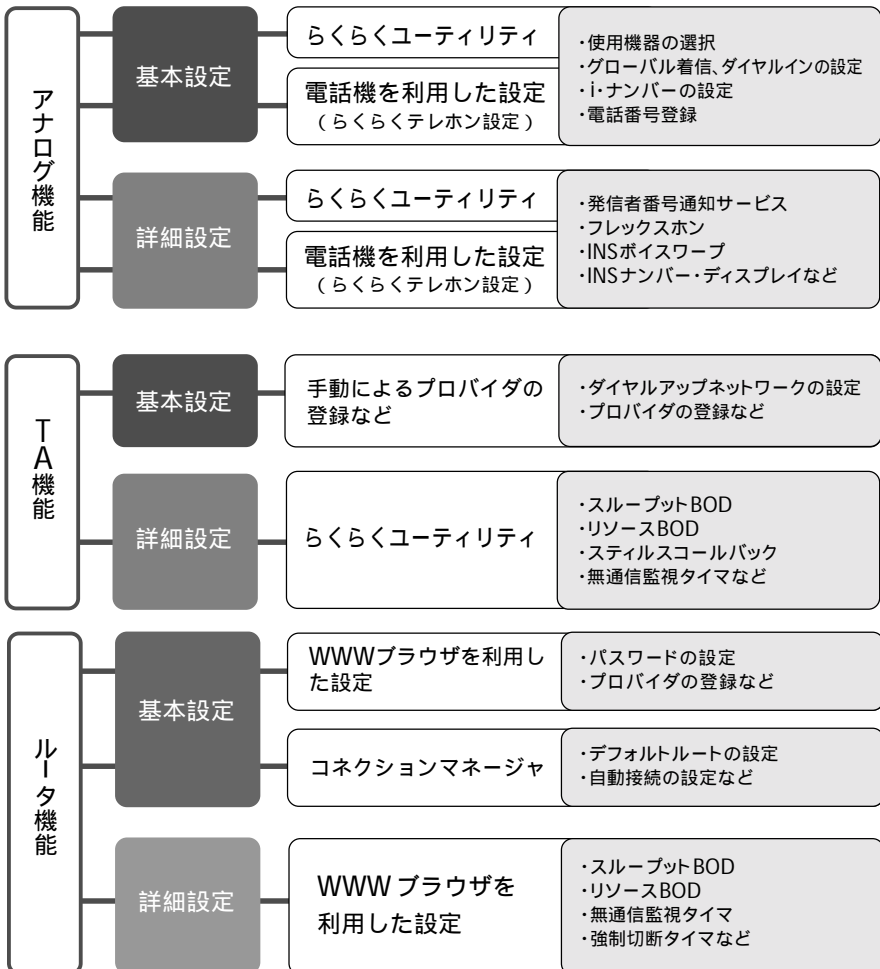
## 各機能を利用するための設定の流れ...

インターネットへダイヤルアップ接続するには手でプロバイダの登録などを行います。アナログ機能を使う場合や、各機能を詳細に設定したい場合は、らくらくユーティリティやWWWブラウザを利用した設定で行います。

アナログ機能の設定は電話機を使った設定(らくらくテレホン設定)でもできます。

らくらくユーティリティは添付のCD-ROMに入っています。次ページ「6-1-2 CD-ROMの使い方」で、ユーティリティをインストールしてください。

基本設定はパソコン1台からインターネットへダイヤルアップ接続するための設定です。まずは、基本設定でインターネットへの接続を確認してください。



## 6-1-2 CD-ROMの使い方

添付のCD-ROMの使い方について説明します。

添付のCD-ROMには、次のようなソフトウェアが収録されています。

### CD-ROMに入っているもの

- ・ IR450 らくらくウィザード  
(Windows98/Windows95)
- ・ IR450 らくらくユーティリティ  
(Windows98/Windows95、Windows NT4.0、Macintosh対応)
- ・ IR450 コネクションマネージャ  
(Windows98/Windows95、Windows NT4.0、Macintosh)
- ・ IR450 らくらくバージョンアップ
- ・ モデム定義ファイル  
(Windows98/Windows95、Windows NT4.0)
- ・ CCL ファイル  
(ARA/Open Transport対応)
- ・ UUI メールEXユーティリティまたは、  
電子メール着信通知・UUIメールユーティリティ
- ・ IR450 USB-LAN ドライバ  
(Windows98/Windows95 OSR2.5対応)など

### ユーティリティのインストール...

ここでは、添付のCD-ROMに入っているMacintoshで使用するユーティリティのインストールを行います。

インストールされるユーティリティは、下記の通りです。

IR450 らくらくユーティリティ

IR450 らくらくバージョンアップ

IR450 コネクションマネージャは、別途インストールしてください。

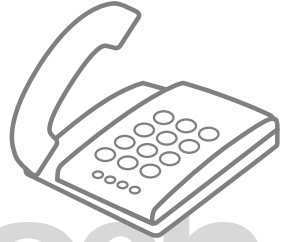
●●**参照**▶活用マニュアル「3-3 コネクションマネージャ(Macintosh)」

## 手順

以下の手順でインストールします。

- 1 Aterm に添付のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。
- 2 CD-ROMのアイコンが表示されます。  
CD-ROMのアイコンをダブルクリックします。
- 3 「IR450らくらくユーティリティ」フォルダをハードディスクにドラッグ&ドロップして、コピーします。  
  
これでインストールは完了です。





# Macintosh

## 6 Macintoshで アナログ機能・TA機能・ルータ機能を利用する

---

### 6-2 アナログ機器(電話機)を利用する

Atermのアナログポートの設定、ならびに接続した電話機の使い方について説明しています。

- 6-2-1 電話機を使う前の確認
- 6-2-2 アナログポートの設定
- 6-2-3 電話機を使う

## 6-2-1 電話機を使う前の確認

Atermのアナログポートに接続した電話機を、使う前に確認する内容について説明します。  
電話機の接続方法は、「電話やファクスを接続する...」43ページを参照してください。



ナンバー・ディスプレイ対応の電話機は、アナログAポートに接続する必要があります。その他のアナログポートに接続した場合、ナンバー・ディスプレイ機能は利用できません。

停電時にも使いたい電話機は、アナログAポートに接続する必要があります。この場合、あらかじめAtermに乾電池をセットし、停電モード切替スイッチを「ON」側にしておく必要があります。

乾電池のセットや停電モード切替スイッチに関しては、「3-2 停電時のための準備」34ページを参照してください。

### 接続したアナログ機器を確認する...

アナログポートに接続した機器を確認します。次の場合には設定が必要です。

すべてのアナログポートに電話機が接続されている場合は、改めてAtermを設定する必要はありません。

接続するアナログ機器の中にファクスやモデムが含まれる場合

接続するアナログ機器が1～2台の場合

i・ナンバーやダイヤルインサービスをご利用の場合

Atermのアナログ機能を設定するためには、次の方法を利用します。

パソコンのデータポートが使えるとき

らくらくユーティリティで設定する

次ページに進んでください。

パソコンのデータポートが使えないとき

電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)で設定する

●●**参照** 活用マニュアル「4 電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)」

Atermのアナログポート着信の工場出荷時設定は、すぐに電話を使用できるように、「すべてのアナログポートに電話機が接続されている」ことを想定して設定されています。

## 6-2-2 アナログポートの設定

アナログポートに接続する機器について設定を行います。

すべてのお客様が、必要な操作ではありません。詳しくは前ページをお読みください。

### らくらくユーティリティで設定する...

ここでは、次のような環境でのアナログ機能の設定をします。

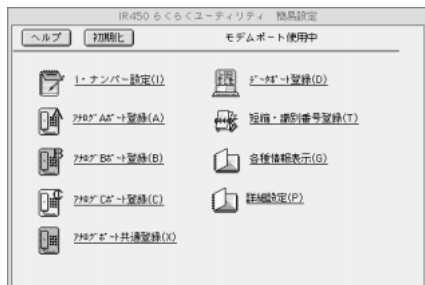
- ・ アナログ機器を接続していないアナログポートが1つでもある場合
- ・ アナログポートにファクス/モデムを接続した場合
- ・ INS ネット 64 の i・ナンバーを申し込み、i・ナンバー情報で機器を呼び分ける場合
- ・ INS ネット 64 のダイヤルインサービスを申し込み、電話番号での機器を呼び分ける場合

上記以外のアナログ機能の変更をする場合、活用マニュアル「1 らくらくユーティリティ」または、「4 電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)」を参照して設定を変更してください。

手順

以下の手順で設定します。

- 1 らくらくユーティリティを起動する前には必ず、RS232CケーブルをAtermとパソコンとの間で接続してください。  
接続方法は、「パソコンのシリアルポートと接続する」45ページを参照してください。
- 2 「AtermIR450 ユーティリティ」フォルダをダブルクリックし、表示された「IR450 らくらくユーティリティ」のアイコンをダブルクリックします。
- 3 ユーティリティが起動し、[ IR450 らくらくユーティリティ 簡易設定 ]画面が表示されます。  
[ i・ナンバー設定 ]アイコンをクリックします。



6  
Macintosh

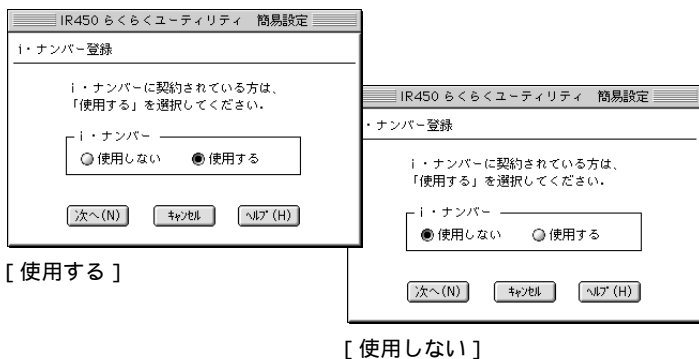
1  
準備

2  
アナログ機能

3  
T A 機能

4  
ルータ機能

## 4 i・ナンバー契約の有無を選択する画面が表示されます。



i・ナンバー契約の有無を選択します。

i・ナンバーを契約している場合は[ 使用する ]をクリックしてチェックマークをつけ、**次へ** ボタンをクリックします。次ページに進んでください。

i・ナンバーを契約していない場合は[ 使用しない ]をクリックしてチェックマークをつけ、**次へ** ボタンをクリックします。240ページに進んでください。

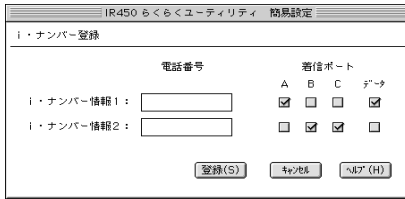


らくらくユーティリティの各画面で **登録** ボタンをクリックしないで終了させた場合、設定内容はAtermに登録されません。



## i・ナンバーを使用する場合のアナログポートの設定

### 5 電話番号(i・ナンバー情報1、2)を登録する画面が表示されます。



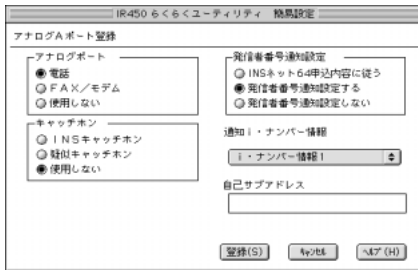
#### 電話番号を設定

INS ネット64で契約したi・ナンバーを登録します。

i・ナンバー情報の電話番号欄にそれぞれの電話番号を入力し、着信するポートをクリックしてチェックマークをつけます。

設定が終わったら **[登録]** ボタンをクリックします。

### 6 起動画面にもどる[アナログAポート登録]アイコンをクリックします。アナログAポートを登録する画面が表示されます。



#### 接続したアナログ機器を選択

電話機を接続しているポートは、[電話]を選択します。

ファクス、モデム、ファクス付き電話機を接続しているポートは、[FAX/モデム]を選択します。

接続していないポートは、[使用しない]を選択します。

設定が終わったら **[登録]** ボタンをクリックします。

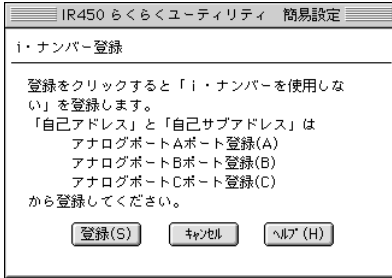
同様の手順でアナログBポート、アナログCポートをそれぞれ設定します。

### 7 起動画面を閉じると「設定値をAtermIR450の不揮発性メモリに書き込みますか?」の画面が表示されるので、**[はい]** ボタンをクリックします。これでi・ナンバーを使用したアナログポートの設定は終了しました。

## i・ナンバーを使用しない場合のアナログポートの設定

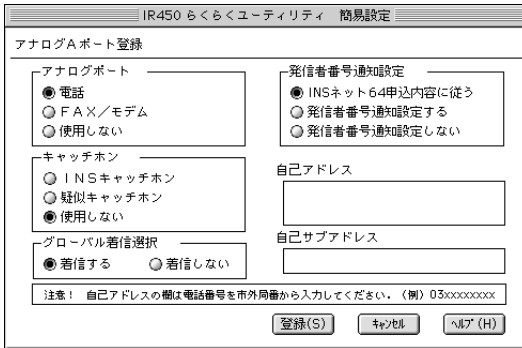
### 5 「i・ナンバーを使用しない」設定をします。

**登録** ボタンをクリックします。



### 6 起動画面にもどり[アナログAポート登録]アイコンをクリックします。

アナログAポートを登録する画面が表示されます。



### 接続したアナログ機器を選択

電話機を接続しているポートは、[電話]を選択します。

ファクス、モデム、ファクス付き電話機を接続しているポートは、[FAX/モデム]を選択します。

接続していないポートは、[使用しない]を選択します。

同様の手順でアナログBポート、アナログCポートをそれぞれ設定します。

### 電話番号を設定(ダイヤルインサービス契約時)

[自己アドレス]に契約者回線番号または、ダイヤルイン番号を「INS ネット 64のお申込票」などで確認し、入力します。

ダイヤルインサービスを契約していない場合は特に設定の必要はありません。

### グローバル着信をする/しないを選択

[グローバル着信選択]で契約者回線番号で呼び出すポートは[着信する]を選択します。ダイヤルイン番号で呼び出すポートは、[着信しない]を選択します。



ダイヤルインサービスを契約していない場合、[グローバル着信選択]で[着信しない]を選択したポートは着信しません。



ダイヤルイン番号を設定したポートに[グローバル着信する]にチェックマークをつけた場合、そのポートは、契約者回線番号、ダイヤルイン番号の両方で着信します。

7 設定が終わったら **登録** ボタンをクリックします。

8 起動画面を閉じると「設定値を AtermIR450 の不揮発性メモリに書き込みますか?」の画面が表示されるので、**はい** ボタンをクリックします。  
これでi・ナンバーを使用しないアナログポートの設定は終了しました。

## 6-2-3 電話機を使う

Atermをアナログポートに接続された電話機でよく使われる以下の機能について説明します。

- 外線電話をかける・うける
- 内線電話をかける・うける
- 疑似キャッチホン

ここで説明されないアナログポートの機能は、活用マニュアル「5 電話機(アナログ通信機器)を使う」を参照してください。

### 外線電話をかける...

アナログポートに接続された電話機から、外線電話へのかけかたを説明します。

アナログポートに接続した電話機についての詳細は、電話機の説明書をご覧ください。

手順

以下の手順で外線電話と通話します。

**1** 受話器をあげます  
「ツー」という発信音が聞こえ液晶ディスプレイに使用しているアナログポート名が表示されます。

**2** 相手の電話番号をダイヤルします  
ダイヤル後、約5秒後(ダイヤル桁間タイマの設定によります)に発信します。


電話番号の後に続けて $\#$ を押すと待たずにすぐ発信できます。

**3** 通話が終わったら受話器をおきます。


番号を間違えたときは

受話器を置いて、手順1からやりなおしてください。

Atermの液晶ディスプレイ

  
AtermIR450

アナログAポートに接続した電話機の受話器をあげた場合

  
アナログ A ハッシン  
0312345678

アナログAポートから発信した場合の例

アナログ A セツダン  
016 10円

切断理由を表示 今かけた通話料金を表示

液晶ディスプレイに表示される切断理由の詳細は、活用マニュアルの「10-6 切断理由表示・診断情報表示・生成源表示一覧」を参照してください。

6  
Macintosh

1  
準備

2  
アナログ機能

3  
T A機能

4  
リータ機能

## 外線電話をうける...

外線電話を受けるときの手順を説明します。

### 手順

以下の手順で外線電話と通話します。

- 1 電話がかかってきたら、受話器をあげて通話します。

Atermに外から電話がかかってくると、Atermの液晶ディスプレイに情報が表示されます。

相手先電話番号は、相手先の環境によっては、表示されないことがあります。詳細は、活用マニュアルの「5-3 発信者番号通知サービスの利用」を参照してください。

- 2 通話が終わったら受話器をおきます。

### Atermの液晶ディスプレイ

アナログ チャクシン  
03 × × × × × × × ×

アナログポートに着信があった場合

アナログ A セツダン  
016

アナログAポートに接続した電話機の受話器を置いた場合

## 内線電話をかける...

3つのアナログポートに接続した電話機のうち、2台の電話機間で通話することができます。

### 手順

以下の手順で通話します。

- 1 受話器をあげます。
- 2 **#** **\*** 「呼び出す電話機の番号」を続けて押します。

アナログAポートの電話機 : ①  
 アナログBポートの電話機 : ②  
 アナログCポートの電話機 : ③

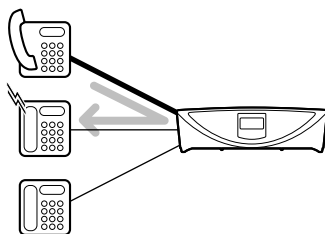
例  
 アナログAポートに接続されている電話機からアナログBポートに接続されている電話機を呼び出す場合

**#** **\*** **②**と押します。

アナログAポートの電話機

アナログBポートの電話機

アナログCポートの電話機



- 3 呼び出し音が鳴り、相手を受話器をあげれば通話ができます。

- 4 通話が終わったら受話器をおきます。

### 注意

- ・ 呼び出したいアナログポートが使われているときは、利用できません。
- ・ 停電時は利用できません。



### 参考

- ・ INS ネット64に接続していない状態でも、内線通話機能は利用できます。
- ・ 内線通話中に外線から着信があると、プップと音がして着信を通知します。フッキングをすると外線通話ができます。
- ・ ダイヤル後、すぐに発信させるには最後に **#** を押します。

## 外線電話をうける...

外線電話をうける場合と同じです。「外線電話をうける...」前ページを参照してください。

## 通信中の外線電話を他の内線電話へ転送する...

外線からかかってきた電話やファクスを、他のアナログポートの電話機またはファクスに転送することができます。

### 転送先の相手と通話してから転送を開始する場合

手順

以下の手順で通話します。

- 1 外線と通話中に1回フッキングします。
- 2 **#** **\*** 「呼び出す電話機の番号」を続けて押します。  
 「呼び出す電話機の番号」は、アナログポート毎に次のように決まっています。  
 アナログAポートの電話機 : ①  
 アナログBポートの電話機 : ②  
 アナログCポートの電話機 : ③
- 3 転送先では呼び出し音が鳴り、転送先の相手が受話器をあげたら、外線電話を転送することを伝えます。
- 4 転送元の受話器をおきます。  
 これにより、外線相手と転送相手が通話できます。

### 転送先の相手と通話しないで転送を開始する場合

手順

以下の手順で通話します。

- 1 外線と通話中に1回フッキングします。
- 2 **#** **\*** 「呼び出す電話機の番号」を続けて押します。  
 「呼び出す電話機の番号」は、アナログポート毎に次のように決まっています。  
 アナログAポートの電話機 : ①  
 アナログBポートの電話機 : ②  
 アナログCポートの電話機 : ③
- 3 電話機の受話器から、転送先の呼び出し音が聞こえたら受話器をおきます。  
 転送先の相手が受話器をあげると、話していた外線相手が、転送先の相手と通話できます。

6  
Macintosh

1 準備

2 アナログ機能

3 T A機能

4 リータ機能




- ・ 転送する先のアナログポートが使われているときは利用できません。
- ・ 同一回線にバス接続されている、別のTAに接続された電話機への転送はできません。
- ・ 停電時には、転送機能は利用できません。
- ・ 転送中(相手を呼出中)にフッキングすると、Atermは相手の呼出を中断し、元の通話状態にします。
- ・ 転送手順の途中(例えばフッキング 【#】をダイヤル)で受話器を置くと誤操作と判断し「呼び返し」が起こります。いったん受話器を上げて転送しなおしてください。
- ・ フッキング後、次の操作をしないでしばらくすると自動的に元の通話状態に戻ります。



フッキングとは、電話機のフックを軽く押しはなすことをいいます。フッキング検索時間より長くフッキングを行うと、通話中にその通話が切断されます。



## 疑似キャッチホンを使う...

 Atermの設定必要

INS ネット 64 の付加サービスの契約なしで、疑似的にINS キャッチホン(話し中にかかってきた電話を受ける)ができます。月々の付加使用料はかかりませんがBチャンネルを2本使用するため、下記の制限があります。


- ・INS ネット 64 の B1、B2 チャンネルを両方使うので、その間、他のポートは使用できません。
- ・疑似キャッチホン中は、内線通話以外の通信はできません。

疑似キャッチホンを使うためには、次のいずれかの方法で、Aterm を設定する必要があります。それぞれの設定方法を説明します。



### 電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)

(Atermと接続したプッシュ式電話機から受話器をあげてダイヤルします)

	* * ① *	アナログ A ポート	①	* ① ② *	②	# #
受話器を		アナログ B ポート	②			
あげる		アナログ C ポート	③			

### らくらくユーティリティでの設定

- [ AtermIR450ユーティリティ ]フォルダ [ IR450らくらくユーティリティ ]アイコンの順にダブルクリック
- [ IR450らくらくユーティリティ簡易設定 ]画面の設定したいアナログポートのボタン
  - 疑似キャッチホンにチェック

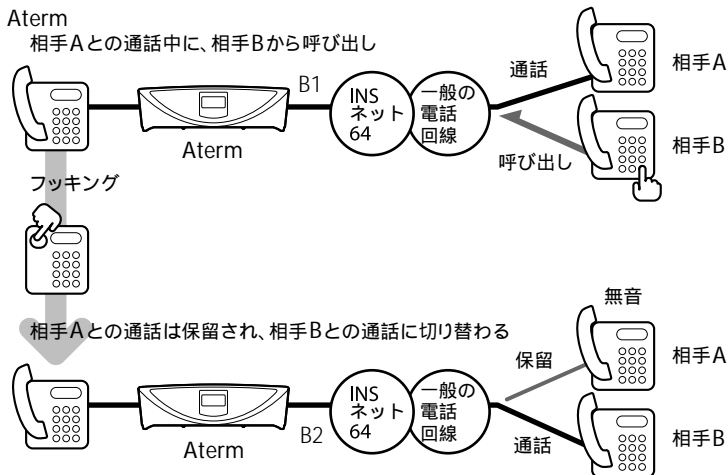
設定の詳細は、活用マニュアルの「1 らくらくユーティリティ」、「4 電話機を利用した設定(らくらくテレホン設定)」を参照してください。

疑似キャッチホンの操作手順は、次の通りです。

手順

以下の手順で通話します。

- 1 相手Aと通話中に新たな相手Bから着信があると、受話器から、「ブブツ」という音が聞こえます。
- 2 電話機から1回フッキングすると、相手Bとの通話ができます。相手Aは、保留されます。(無音となります。)



- 3 通話相手を切り替えるときは、もう一度フッキングします。



# 6 Macintosh

## Macintoshで アナログ機能・TA機能・ルータ機能を利用する

### 6-3 TA機能を利用してインターネットへ ダイヤルアップ接続する

TA機能を利用して、インターネットへ接続するまでを説明しています。

6-3-1 TA機能で接続をはじめる前の確認

6-3-2 TA機能でインターネットへ接続するための設定

6  
Macintosh

1  
準備

2  
アナログ機能

3  
TA機能

4  
ルータ機能

## 6-3-1 TA機能で接続をはじめる前の確認

Atermは、インターネットにパソコンを接続する方法として、以下の2つの方法を使用することができます。

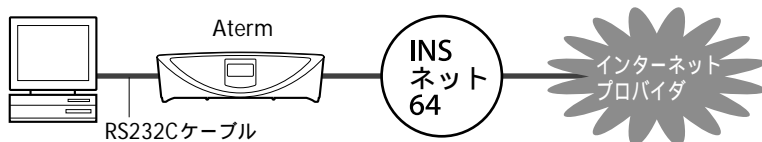
TA機能による接続

ルータ機能による接続

ここではTA機能について説明します。

ルータ機能の詳細は、「6-4 ルータ機能を利用してインターネットヘダイアルアップ接続をする」269ページを参照してください。

AtermのTA機能では、1台のパソコンをインターネットに接続することができます。



### Atermとパソコンとの接続を確認

TA機能は、AtermのデータポートとパソコンをRS232Cケーブルで接続してインターネットに接続します。

接続の方法は、「パソコンのシリアルポートと接続する」45ページを参照してください

6  
Macintosh

1  
準備

2  
アナログ機能

3  
TA機能

4  
ルータ機能

## 6-3-2 TA機能でインターネットへ接続するための設定

MacintoshのPPPソフトウェア(リモートアクセス Mac OS8.5)を使って、1台のパソコンからインターネットに接続できるようにします。

### Macintosh の設定手順

インターネットへ接続するための手順は、次の通りです。

- ① プロバイダの確認
- ② ソフトウェアの確認
- ③ TCP/IPソフトウェアの設定(TCP/IPまたはMac TCP)
- ④ PPPソフトウェアの設定(Open Transport PPPまたはFreePPP2.6)
- ⑤ TA機能でインターネットに接続する

### ① プロバイダの確認...

インターネットへ接続するには、接続サービスを提供するプロバイダへの加入が必要です。詳しくは「2-5 インターネットについて」28ページで確認してください。

また、接続するアクセスポイントと、通信速度(回線速度)をプロバイダの案内で確認してください。

### ② ソフトウェアの確認...

ここでは、インターネットへダイヤルアップ接続するために必要なソフトウェアの確認をします。パソコンのOSのバージョンにより、使用できるソフトウェアが異なりますので、設定する前に確認してください。

#### TCP/IPソフトウェア

システムソフトウェアが漢字Talk7.5以降、または、MacOS7.6以降のMacintoshは、TCP/IPソフトウェア(「TCP/IP」または「Mac TCP」)が添付されています。コントロールパネルの中にTCP/IPソフトウェア表示されない場合は、システムCD-ROM等からカスタムインストールでインストールしてください。

## PPPソフトウェア

PPPソフトウェアは、Open Transport PPP(システムソフトウェアがMacOS7.6以降に付属)や、フリーウェアの「FreePPP」などを使用します。

PPPソフトウェアをインストールしていない場合は、PPPソフトウェアの説明書などを参照してインストールしてください。

「FreePPP」は、雑誌などに添付されている場合があります。別途入手してください。

## Open Transport PPPを使用する場合

PPPソフトウェアとして「Open Transport PPP」を使用する場合は、Atermに付属のCD-ROMに収録されているCCLファイルを使用します。次のCCLファイルのうち、必要なファイルを「機能拡張」フォルダの「Modem Scripts」フォルダにコピーしてください。

非同期通信用CCLファイルには次の2種類があります。

「NEC AtermIR 57.6K」 非同期速度 57.6Kbpsで通信します。

「NEC AtermIR 38.4K」 非同期速度 38.4Kbpsで通信します。

非同期/同期PPP変換64Kbps通信用CCLファイルは、次の名称です。

「NEC AtermIR 64KPPP」 パソコン速度は、115.2Kを指定しています。

マルチリンクPPP用CCLファイルは、次の名称です。

「NEC AtermIRMP」



Macintoshによっては、通信ポートが57,600bpsまでしか出力できないものがあります。この場合オーバーフローを起こす可能性があるため、「同期64Kbps」や「マルチリンク 128Kbps」による接続はしないでください。



標準でモデムを内蔵しているパソコンは、モデムポートを内蔵モデムが論理的に占有しているため、モデムポートが使用できません。この場合は、プリンタポートを使用してください。

## ③ TCP/IPソフトウェアの設定...

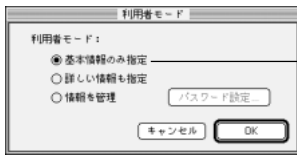
TCP/IPソフトウェアの設定をします。TCP/IPまたはMacTCPのどちらかを設定します。

### TCP/IPの場合

手順

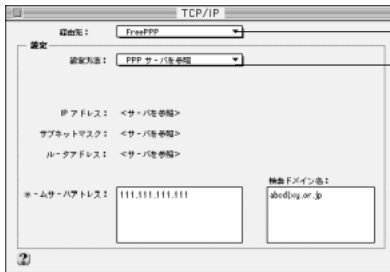
以下の手順で設定します。

- 1 [コントロールパネル]の[TCP/IP]のアイコンをダブルクリックします。
- 2 [TCP/IP]の画面が開きます。  
メニューバーの[編集]メニューから[利用者モード]を選択します。
- 3 [利用者モード]画面が表示されます。  
 基本設定のみ指定 をクリックしてチェックマークを付け、**OK** ボタンをクリックします。



基本設定のみ指定

- 4 [TCP/IP]の画面が表示されます。  
次の設定をします。  
 [経路先]プルダウンメニューから[FreePPP][Open Transport PPPの場合は[PPP])を選択します。  
 [設定方法]プルダウンメニューから[PPPサーバーを参照]を選択します。  
 [ネームサーバアドレス]と[検索ドメイン名]は、プロバイダの案内に従って設定します。



[経路先]プルダウンメニュー

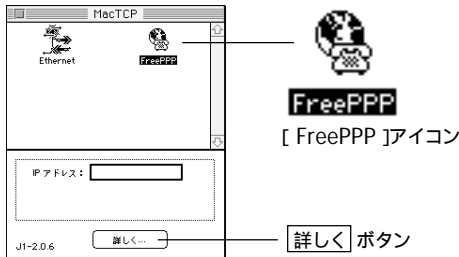
[設定方法]プルダウンメニュー

- 5 設定が終了したら、[TCP/IP]画面を閉じます。「変更内容を現在の設定に保存しますか?」のメッセージで**保存**ボタンをクリックします。

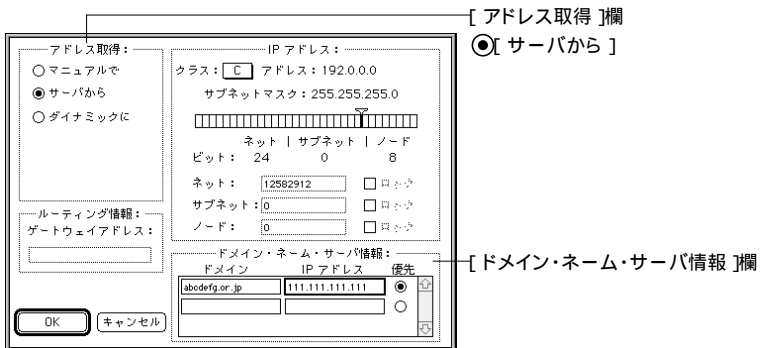
## MacTCPの場合

手順 以下の手順で設定します。

- 1 [コントロールパネル]から[MacTCP]のアイコンをダブルクリックします。
- 2 [MacTcp]画面が表示されます。  
[FreePPP]アイコンを選択し、**詳しく** ボタンをクリックします。



- 3 [アドレス取得]欄の  [サーバから] をクリックしてチェックマークを付けます。  
[ドメイン・ネーム・サーバ情報]欄はプロバイダの案内に従って設定します。  
[IPアドレス]と、[ゲートウェイアドレス]は、設定不要です。  
**OK** ボタンをクリックします。



- 4 設定が終了したら、[MacTCP]画面を閉じます。「変更内容を現在の設定に保存しますか？」のメッセージで **保存** ボタンをクリックします。



## ④ PPPソフトウェアの設定...

PPPソフトウェアを設定します。ここではOpen Transport PPPとFreePPP2.6の設定方法を説明します。Open Transport PPPとFreePPP2.6どちらかを設定します。

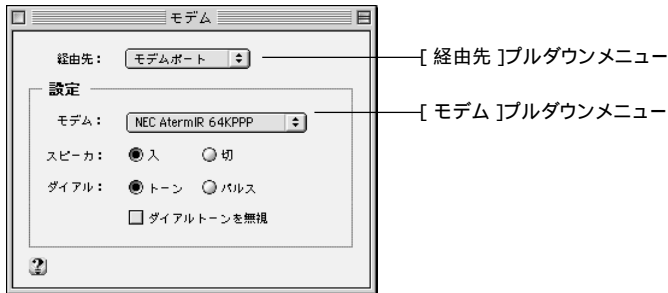
PPPソフトウェアによって設定方法が異なります。詳しくは、PPPソフトウェアの説明書などを参照してください。

### Open Transport PPPの場合

手順

以下の手順で設定します。

- 1 [コントロールパネル]の[モデム]のアイコンをダブルクリックします。
- 2 [モデム]の画面が開きます。  
次の項目を設定します。  
[経由先]プルダウンメニューより、Atermが接続されているポートを選択します。  
[モデム]プルダウンメニューより、下記の表に示すモデムを選択します。



アクセスポイントの条件	モデム
非同期	NEC AtermIR 57.6K
非同期 / 同期 64kbps	NEC AtermIR 64KPPP

- 3 設定が終了したら、[モデム]画面を閉じます。「変更内容を現在の設定に保存しますか?」のメッセージで[保存]ボタンをクリックします。

## PPPを設定する

手順

以下の手順で設定します。

1 [コントロールパネル]の[PPP]のアイコンをダブルクリックします。

2 [PPP]の画面が表示されます。

次の項目を設定します。

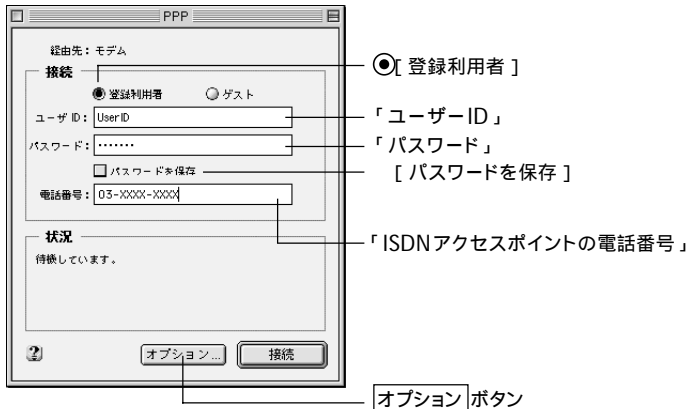
[登録利用者] にチェックマークが付いていることを確認します。

[ユーザID]欄にダイヤルアップ接続用の「ユーザID」を入力します。

[パスワード]欄にダイヤルアップ接続用の「パスワード」を入力します。

[パスワード保存]をクリックしてチェックマークを付けると、次回から入力する必要がありません。

[電話番号]欄に「ISDNアクセスポイントの電話番号」を入力します。

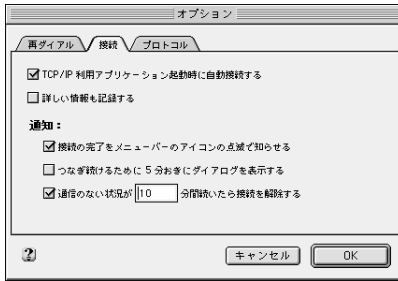


3 [オプション]ボタンをクリックすると、より詳細な設定ができる画面が表示されます。

[再ダイヤル]タブ: プロバイダからビジーの応答があったときに、自動的に再ダイヤルする設定などができます。

6  
Macintosh1  
準備2  
アナログ機能3  
TA機能4  
ルータ機能

[ 接続 ] タブ : 接続中に接続時間の経過報告、通信の無い状態により、切断を行う時間などが設定できます。



[ プロトコル ] タブ :  [ モデム内蔵のエラー訂正と圧縮を使う ] と  [ TCP ヘッド圧縮を使う ] をクリックしてチェックマークを付けます。



4 設定が終了したら、[ PPP ] 画面を閉じます。「変更内容を現在の設定に保存しますか？」のメッセージで **保存** ボタンをクリックします。

## FreePPP2.6の場合

FreePPP2.6以外のバージョンは、画面が異なります。

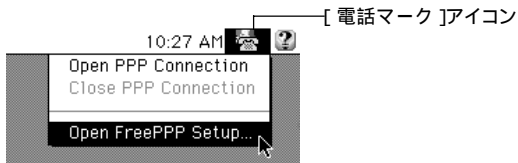
FreePPP2.6の詳細設定については、FreePPP2.6収録のRead Meに書かれています。

Open Transport PPPを設定した方は設定する必要はありません。

手順

以下の手順で設定します。

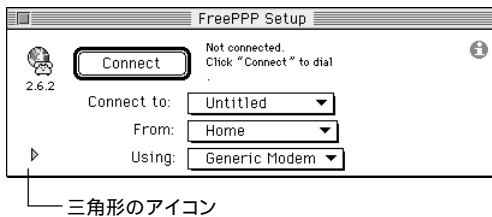
- 1 メニューバーの右上にある[電話マーク]アイコンをクリックし、[Open FreePPP Setup...]を選択します。



- 2 [FreePPP Setup]画面が表示されます。

画面左下の三角形のアイコンをクリックします。

マークになっていて、手順3の画面が表示されている場合は、手順3に進んでください。



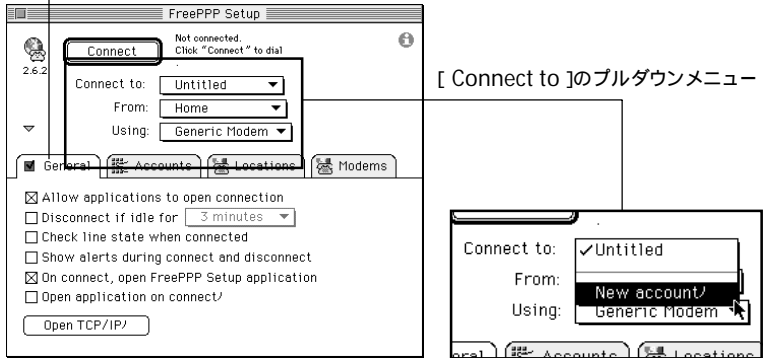
- 3 [ General ] タグをクリックし、次の設定項目にチェックマークがついていることを確認します。

- Allow applications to open connection
- On connect, open FreePPP Setup application

チェックマークがついていない場合は、チェックマークを付けてください。

[ Connect to ] のプルダウンメニューより、[ New account ] を選択します。

[ General ] タグ



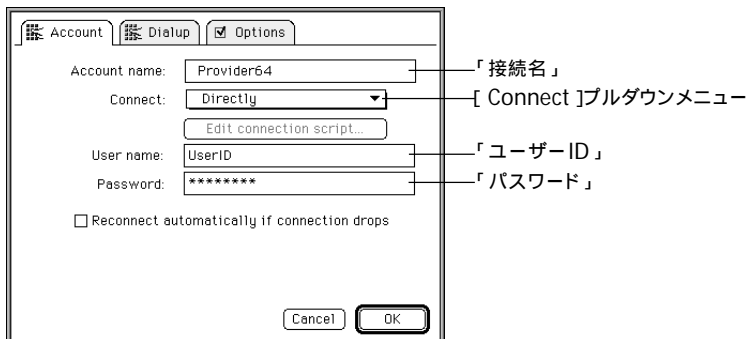
- 4 [ Account ] 画面が表示されます。

次の項目を設定します。

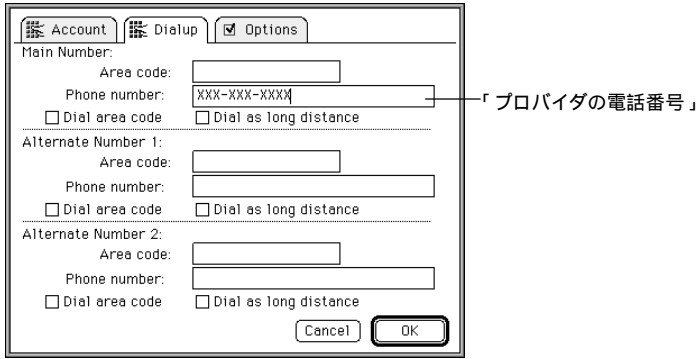
[ Account name ] 欄にわかりやすい「接続名」(プロバイダ名や通信速度など)を入力します。

[ Connect ] プルダウンメニューが [ Directly ] になっていることを確認します。

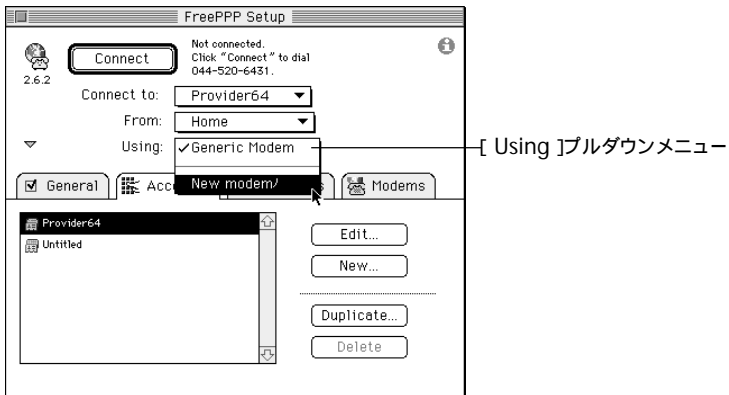
[ User name ] と [ Password ] 欄にプロバイダから指定された、ダイヤルアップ接続用の「ユーザー ID」と「パスワード」を入力します。



- 5 [Dialup] タグをクリックします。[Dialup] 画面が表示されます。  
 [Phone number] 欄に接続する「プロバイダの電話番号」を入力します。  
 [OK] ボタンをクリックします。



- 6 FreePPP setup 画面が表示されます。  
 [Using] のプルダウンメニューより、[New modem] を選択します。



## 7 [FreePPP Modem Configuration]画面が表示されます。

次の項目を設定します。

[Modem Config name]欄に「モデム名」を入力します。

[Connected to]のプルダウンメニューから、Atermを接続したポートを選択します。

[Port Speed]のプルダウンメニューから、プロバイダのアクセスポイントに合わせたPort Speedを選択します。

[Flow Control]のプルダウンメニューから、[CTS & RTS (DTR)]を選択します。

[Dial Type]のプルダウンメニューから、[Tone]を選択します。

[Modem init string settings]の  [Use] をクリックしてチェックマークを付け、下記の表から、プロバイダのアクセスポイントの条件に合わせた「初期設定コマンド」を選び、半角英文字で入力します。

・アクセスポイントの条件

ISDN アクセスポイント	Port Speed	初期設定コマンド
非同期	アクセスポイントの速度	ATX3 \$ N1=0&D1 ¥ Q3
同期 64kbps	115200bps	ATX3 \$ N1=1&D1
128kbps マルチリンク PPP	230400bps	ATX3 \$ N11=1&D1

必ず半角英大文字または半角英小文字を使用してください。

## 8 ボタンをクリックします。

これで設定は完了です。[Free PPP Setup]画面に戻りますので、画面を閉じてください。

## ⑤ TA機能でインターネットに接続する...

ここでは、インターネットに接続、切断について、Open Transport PPPとFree PPP2.6それぞれの方法を説明します。

### Open Transport PPPの場合

#### プロバイダとの接続を確認する

ここでは、実際にプロバイダのアクセスポイントに電話をかけてインターネットに接続します。

手順

以下の手順でインターネットに接続します。

- 1 [コントロールパネル]の[PPP]のアイコンをダブルクリックします。
- 2 [PPP]の画面が開きます。  
 ボタンをクリックします。



パソコンからプロバイダに電話をかけ、接続されると「ユーザ名」と「パスワード」の確認が行われます。確認が正常に終了するとプロバイダのホストコンピュータに接続されます。

- 3 WWWブラウザを起動します。

「インターネットエクスプローラ」や「ネットスケープナビゲータ」などのアイコンをダブルクリックします。



- 4 見たいホームページのアドレス(URL)たとえばhttp://aterm.cplaza.ne.jp/)を入力し、リターンキーを押します。  
ホームページを見ることができます。



#### 参考

Atermをお買い上げいただいたお客様を対象にユーザ登録を行なっています。登録していただいたお客様には、Atermをご使用のお客様へのサービスの一環といたしまして、電子メールによる新製品情報、バージョンアップの案内を中心に、さまざまな情報提供やキャンペーン、イベントなどの特典・サービスを提供して参ります。

是非ユーザ登録を行なってください。

登録はインターネットホームページ「AtermStation」にて行なっています。

事前にご用意いただくもの

1. Aterm本体(機種名、製造番号)
2. 電子メールアドレス(最も一般的に使用しているアドレス)
3. Atermを使用するINSネット64の契約者回線番号

## 接続を切断する

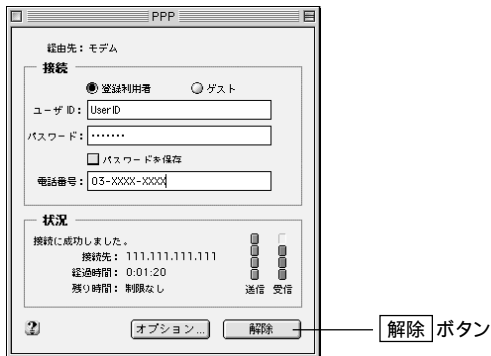
## 手順

以下の手順で切断します。

- 1 ファイルメニューから[終了]を選んでWWWブラウザを終了します。
- 2 [PPP]画面の、**解除** ボタンをクリックします。



**解除** ボタンをクリックしないと、WWWブラウザを終了しても通信中のままになっています。  
インターネットの接続をやめるときは、必ず **解除** ボタンをクリックしてください。



インターネットの接続が切断されます。

通信回線が正常に切断されると、Atermの液晶ディスプレイに「データセツダ  
ン」が5秒間表示されます。



**解除** ボタンをクリックしてもAtermの液晶ディスプレイにデータ送信中のピクトグラム(≡ B1 B2)のどちらかが表示されているときは、通信回線がつながったままになっています。そのまま放置すると通信費用がかかり続けます。このようなときは、AtermとINSネット64を接続している回線ケーブルを一度抜いて通信回線を強制的に切断してください。  
回線ケーブルを抜くとAtermのすべての通信が切断されるので、他の機器が通信(通話)中ではないことを確認してから回線ケーブルを抜いてください。



Atermのデータポートでは自動発信をする場合、通信相手が話中のときには再発信の回数は最初の発信から3分間で2回以内に制限しています。  
この制限をこえる再発信は受け付けません。

## FreePPP2.6の場合

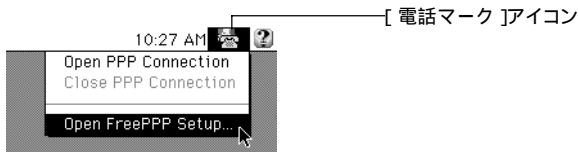
### プロバイダとの接続を確認する

ここでは、実際にプロバイダのアクセスポイントに電話をかけてインターネットに接続します。

手順

以下の手順でインターネットに接続します。

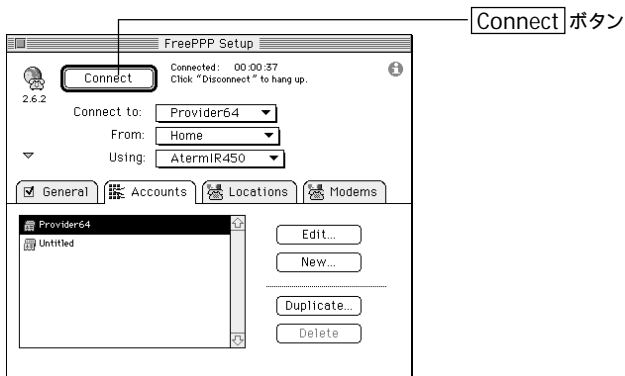
- 1 メニューバーの右上にある[電話マーク]アイコンをクリックし、[Open FreePPP Setup... ]を選択します。(FreePPP2.6の設定からそのまま続けている方は手順2に進んでください。)



- 2 [FreePPP Setup]画面が表示されます。

[Connect] ボタンをクリックします。

複数の接続先を登録している場合は、[Connect to]プルダウンメニューから登録先を選択した後、[Connect] ボタンをクリックします。



パソコンからプロバイダに電話をかけ、接続されると「ユーザ名」と「パスワード」の確認が行われます。確認が正常に終了するとプロバイダのホストコンピュータに接続されます。

- 3 WWWブラウザを起動します。

「インターネットエクスプローラ」や「ネットスケープナビゲータ」などのアイコンをダブルクリックします。

- 4 見たいホームページのアドレス(URL)たとえばhttp://aterm.cplaza.ne.jp/)を入力し、リターンキーを押します。  
ホームページを見ることができます。



Atermをお買い上げいただいたお客様を対象にユーザ登録を行なっています。登録していただいたお客様には、Atermをご使用のお客様へのサービスの一環といたしまして、電子メールによる新製品情報、バージョンアップの案内を中心に、さまざまな情報提供やキャンペーン、イベントなどの特典・サービスを提供して参ります。  
是非ユーザ登録を行なってください。  
登録はインターネットホームページ「AtermStation」にて行なっています。

事前にご用意いただくもの

1. Aterm本体(機種名、製造番号)
2. 電子メールアドレス(最も一般的に使用しているアドレス)
3. Atermを使用するINSネット64の契約者回線番号

## 接続を切断する

## 手順

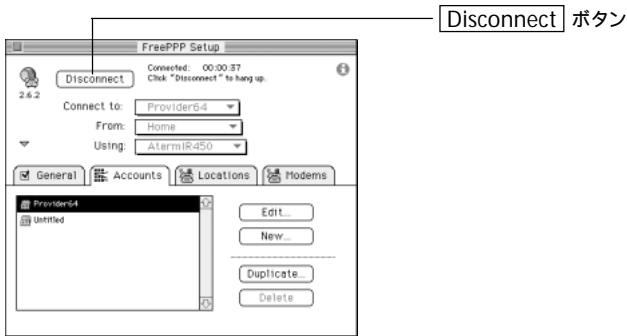
以下の手順で切断します。

- 1 ファイルメニューから[終了]を選んでWWWブラウザを終了します。
- 2 [FreePPP Setup]画面の、**Disconnect** ボタンをクリックします。



**Disconnect** ボタンをクリックしないと、WWWブラウザを終了しても通信回線はつながったままになっています。


インターネットの接続をやめるときは、必ず **Disconnect** ボタンをクリックしてください。



インターネットの接続が切断されます。

通信回線が正常に切断されると、Atermの液晶ディスプレイに「データセツダ」が5秒間表示されます。



**Disconnect** ボタンをクリックしてもAtermの液晶ディスプレイにデータ送信中のピクトグラム(  B1B2 )のどちらかが表示されているときは、通信回線がつながったままになっています。そのまま放置すると通信費用がかかり続けます。このようなときは、AtermとINSネット64を接続している回線ケーブルを一度抜いて通信回線を強制的に切断してください。

回線ケーブルを抜くとAtermのすべての通信が切断されるので、他の機器が通信(通話)中ではないことを確認してから回線ケーブルを抜いてください。



Atermのデータポートでは自動発信をする場合、通信相手が話中のときには再発信の回数は最初の発信から3分間で2回以内に制限しています。

この制限をこえる再発信は受け付けません。





# Macintosh

## 6 Macintoshで アナログ機能・TA機能・ルータ機能を利用する

### 6-4 ルータ機能を利用してインターネットへ ダイヤルアップ接続する

ルータ機能を利用して、インターネットへ接続するまでを説明しています。

- 6-4-1 ルータ機能を利用する上での基礎知識
- 6-4-2 ルータ機能で接続をはじめる前の確認
- 6-4-3 ルータ機能でインターネットへ接続するための設定
- 6-4-4 LAN上に2台目のパソコンを追加する

Windows®98はMicrosoft® Windows®98 operating system の略です。  
Windows®95はMicrosoft® Windows®95 operating system の略です。

# 6-4-1 ルータ機能を利用する上での基礎知識

ここではAtermのルータ機能を利用する上で、知っておいていただきたいことを説明しています。

## IPアドレスについて

IPアドレスとは、IPによる通信(IPネットワーク)を行う際、ネットワーク上の通信機器を識別するためのものです。特にインターネットでは、世界中がネットワークに接続されているため、これらの中でそれぞれ異なった番号を持たなければなりません。IPアドレスの表記は、通常「192.168.0.1」のように、ピリオドをはさんだ4つの数字(0~255)で表します。

## グローバルIPアドレスとプライベートIPアドレス

グローバルIPアドレスとは、インターネットに接続され通信機器に一意に割り当てられるIPアドレスのことです。インターネットの中では住所にあたり、インターネット上で通信を行うためには必ず必要となります。

グローバルIPアドレスに対して、インターネットに直接接続することのない、各組織内部の閉じたネットワークでは、プライベートIPアドレスを使うことになっています。

プライベートIPアドレスの範囲はRFC1918で以下のように定義されています。

10.0.0.0 ~ 10.255.255.255

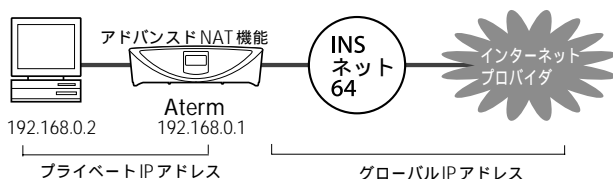
172.16.0.0 ~ 172.31.255.255

192.168.0.0 ~ 192.168.255.255

## アドバンスドNAT

アドバンスドNAT機能とは、インターネットに直接接続することができないプライベートIPアドレスを、インターネットへ接続するために、複数のプライベートIPアドレスと1つのグローバルIPアドレスを変換してインターネットに接続できる機能です。

これにより、本来、インターネットに接続できなかったプライベートIPアドレスを使用したLANをインターネットに接続できるようになります。



アドバンスドNAT機能を利用すると、ネットワークゲームなど一部の通信アプリケーションがご利用になれない場合があります。詳細は、活用マニュアル「2 WWWブラウザを利用した設定」の「アドバンスドNATオプション」を参照してください。



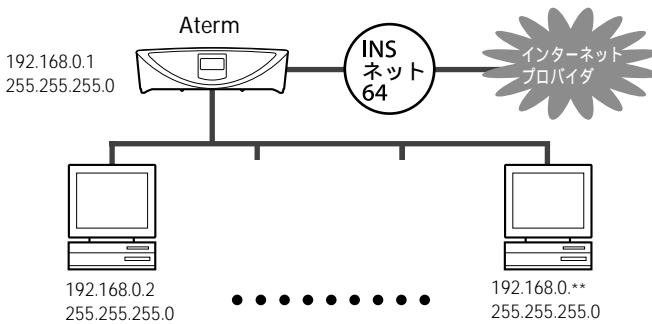
## DHCP( Dynamic Host Configuration Protocol )について

覚えにくく、また設定しにくいIPアドレスの設定を簡素化するため、Atermでは各パソコンに対して、自動的にこのIPアドレスを割り当てる機能があります。

この機能を、DHCP機能といいます。

Atermのように、IPアドレスをパソコン等に割り当てる装置を、DHCPサーバと呼びます。また、パソコンのように、IPアドレスをDHCPサーバから割り当てられる装置を、DHCPクライアントと呼びます。

Atermの工場出荷時の設定は、DHCPサーバとして動作するように、設定されています。DHCPクライアントとしては、動作しません。



## DNS( Domain Name System )について

IPアドレスは数字だけのため、覚えにくく実用的ではありません。

例えば、インターネット上のホームページを参照する場合、パソコン上のWWWブラウザからそのホームページを見るためには、WWWブラウザの中に、IPアドレスを直接入力した場合には、わかりにくくなってしまいます。

例 `http://192.168.0.1`

そこで、このIPアドレスとその他の文字列とを、下記のように関連づける機能が、利用されるようになりました。この関連づけられたデータを提供する装置をDNSサーバといいます。

192.168.0.1 = `www.xxx.nec.co.jp`

この関連付けは例であり、実際の値とは異なります。

インターネットに接続するパソコンやAtermなどは、このDNSサーバを利用してより簡単にWWWブラウザからインターネットのホームページを見ることができるようになっています。

## インターネットのさまざまな接続形態...

インターネットに接続するためにプロバイダと契約する接続形態には、代表的なものとして「端末型ダイヤルアップ接続」「LAN型ダイヤルアップ接続」があります。また、NTTコミュニケーションズ株式会社が提供する常時接続型のOCNエコノミーなどもあります。

以下にそれぞれの特徴を説明します。

### 端末型ダイヤルアップ接続

端末型ダイヤルアップ接続は、接続するたびに異なるIPアドレス(グローバルIPアドレス)が1つ割り当てられます。この接続形態がもっとも一般的です。

Atermでは端末型ダイヤルアップ接続で契約していても、アドバンスドNAT機能により、LAN上の複数のパソコンからインターネットに接続することができます。

### LAN型ダイヤルアップ接続

LAN型ダイヤルアップ接続は、LAN(ネットワーク)全体を、ルータを使って接続する接続形態です。端末型ダイヤルアップと違い、ネットワーク全体を接続し、複数のIPアドレス(グローバルIPアドレス)が割り当てられます。そのIPアドレス(グローバルIPアドレス)を使い複数のパソコンから同時にインターネットに接続できます。

### OCNエコノミー

OCNエコノミーは、NTTコミュニケーションズ株式会社が提供するデータ通信用の回線サービスの一部です。常時接続型でインターネットに接続されます。

OCNエコノミーでの接続の詳細は、活用マニュアルの「7-10 ルータ機能を利用したその他の接続」を参照してください。

Atermでは、上記接続形態すべてに対応していますが、このマニュアルでは、上記の「端末型ダイヤルアップ接続」で、接続できるように設定します。

端末型ダイヤルアップ以外の接続をするには、活用マニュアルの「7-10 ルータ機能を利用したその他の接続」を参照してください。

## 6-4-2 ルータ機能で接続をはじめる前の確認

Atermは、パソコンをインターネットに接続する方法として、以下の2つの方法を使用することができます。

TA機能による接続

ルータ機能による接続

ここではルータ機能による接続について説明します。

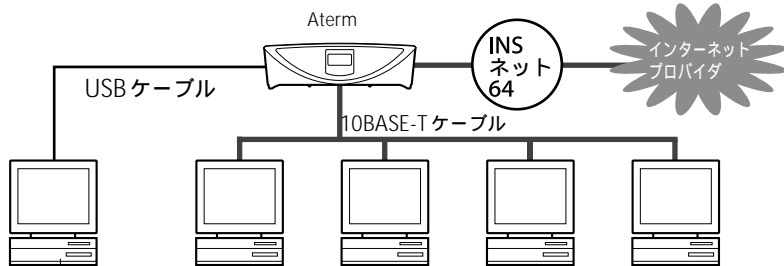
TA機能の詳細は、「6-3 TA機能を利用してインターネットヘダイアルアップ接続する」249ページを参照してください。

TA機能では、AtermのデータポートとパソコンをRS232Cケーブルで接続してインターネットに接続します。これに対し、ルータ機能では、Atermとパソコンを10BASE-Tケーブルまたは、USBケーブルで接続して、インターネットに接続します。

Atermの10BASE-Tポートには、直接4台までのパソコンを同時にインターネットに接続することもできます。

また、AtermのUSBポートには、さらに1台のパソコン(Windows98/Windows95のみ)を追加することもできます。

Atermのルータ機能では、4台の10BASE-Tで接続されたパソコンとUSBで接続されたパソコン(Windows98/Windows95のみ)をインターネットに接続することができます。



(Windows98/Windows95のみ)

6  
Macintosh

1  
準備

2  
アナログ機能

3  
TA機能

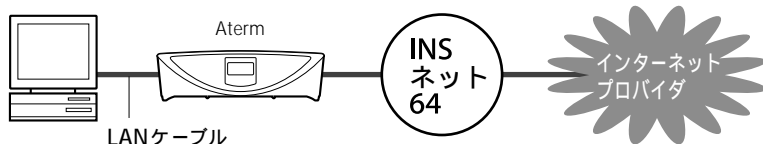
4  
ルータ機能

## 6-4-3 ルータ機能でインターネットへ接続するための設定

WWWブラウザを使って、下図のようなMacintoshのパソコン1台からインターネットに接続できるようにします。

### 10BASE-Tポートを使用して1台目のパソコンをインターネットへ接続する

インターネットへの接続先を1つ、Aterm1台、パソコン( Macintosh )1台



接続は、パソコンとAtermの10BASE-TポートをLANケーブルで接続してください。

ここでの説明は、インターネットへの接続先を1つ、Atermを1台、パソコン( Macintosh )1台の環境を動作させることができますようにします。

ここでの説明は、Atermを新規のLANに設置することとします。

2台目以降は...

Atermの10BASE-Tポートに、2台目以降のパソコンを接続する場合には、はじめにパソコン1台でインターネットの接続を確認してください。

その後、2台目以降のパソコンを「6-4-4 LAN上に2台目のパソコンを追加する」282ページを読んで接続してください。

既存のLANに導入するには...

Atermを既存のLANに導入する場合には、活用マニュアルの「7-2 既存のLANにAtermを導入する」を読んで接続してください。

### Macintoshの設定手順

インターネットへ接続するための手順は、次の通りです。

- ① プロバイダの確認
- ② ネットワークプロトコル(TCP/IP)の設定
- ③ WWWブラウザでAtermを設定する
- ④ ルータ機能でインターネットに接続する

## ① プロバイダの確認...

インターネットへ接続するには、接続サービスを提供するプロバイダへの加入が必要です。詳しくは「2-5 インターネットについて」28ページで確認してください。

また、接続するアクセスポイントと、通信速度(回線速度)をプロバイダの案内で確認してください。

## ② ネットワークプロトコル(TCP/IP)の設定...

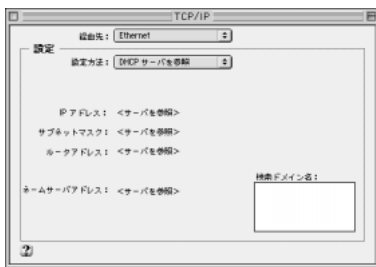
システムソフトウェアが漢字Talk7.5以降、または、MacOS7.6以降のMacintoshは、TCP/IPソフトウェア(TCP/IP)が添付されています。コントロールパネルの中にTCP/IPソフトウェア表示されない場合は、システムCD-ROM等からカスタムインストールでインストールしてください。

MacOS8以降のシステムソフトウェアを使用する場合には、MacOSに添付のインターネット接続アシスタントを使用して設定を行ってください。MacOS8より前のシステムソフトウェアを使用する場合には、下記手順に従い設定を行ってください。

手順

以下の手順で設定してください。

- 1 [コントロールパネル]の[TCP/IP]のアイコンをダブルクリックします。
- 2 [TCP/IP]画面が表示されます。  
[経由先]プルダウンメニューから[Ethernet]を選択します。  
[設定方法]プルダウンメニューから[DHCPサーバを参照]を選択します。



- 3 設定が終了したら、TCP/IP画面を閉じます。「変更内容を現在の設定に保存しますか?」のメッセージで「保存」ボタンをクリックします。  
以上で、TCP/IPの設定は終了です。

6  
Macintosh

1  
準備

2  
アナログ機能

3  
T A  
機能

4  
ルータ機能

## ⑥ WWWブラウザでAtermを設定する...

WWWブラウザの「AtermIR450らくらく設定」のページを開いて接続先の設定を登録します。

手順

以下の手順で設定します。

- 1 WWWブラウザを起動します。
- 2 WWWブラウザのURL入力欄に「http://192.168.0.1」と入力します。
- 3 [アクセスパスワードの入力]画面が表示されます。  
Atermは、アクセスパスワードにより、ルータ機能の設定ができるようになっています。はじめての設定では、アクセスパスワードを入力する必要があります。以下の手順で入力してください。  
新しいパスワードを入力します。入力された文字は\*に置き換えて表示します。パスワード確認に、もう一度新しいパスワードの文字を入力します。同様に、入力された文字は\*に置き換えて表示します。  
**設定実行** ボタンをクリックします。  
WWWブラウザを終了させます。  
もう一度、WWWブラウザを起動し、URL入力欄に「http://192.168.0.1」と入力します。  
アクセスパスワードは、半角英数字・記号、8文字以内で入力してください。

新しいパスワード (半角8文字以内。&は使用できません)	*****
パスワードの確認 (新しいパスワードを再入力)	*****

次回からのWWWブラウザの起動では、この操作の必要は無くなります。

6  
Macintosh

1  
準備

2  
アナログ機能

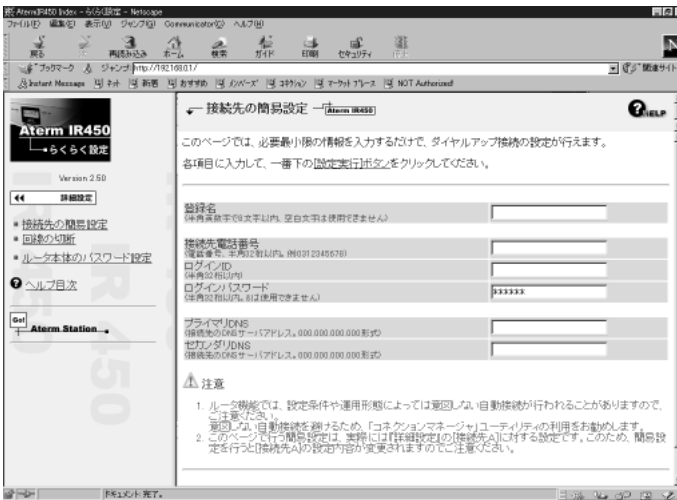
3  
T A機能

4  
ルータ機能

- 4 [ ユーザ名とパスワードの入力 ]画面が表示されます。
- [ ユーザ名 ]欄には、半角で「Admin」と入力します。
- 「Admin」は、固定となっています。AdminのAは大文字です。
- [ パスワード ]欄には、Atermに設定してある「アクセスパスワード」を入力します。
- OK** ボタンをクリックします。



[ AtermIR450らくらく設定 ]ページが表示されます。



## 5 右フレーム内の[ 接続先の簡易設定 ]に以下の設定をします。

登録名欄にプロバイダ名など接続先の名称を半角8文字以内で入力します。  
接続先電話番号欄にアクセスポイント先の電話番号を半角32桁以内で入力します。

例 0312345678

[ ログインID ]欄、[ ログインパスワード ]欄にプロバイダから指定された、ダイヤルアップ接続用の「ユーザーID」と「パスワード」を半角32桁以内で入力します。

[ プライマリDNS ]欄、[ セカンダリDNS ]欄にプロバイダから指定された「DNSサーバのIPアドレス」を入力します。

セカンダリDNSが指定されていない場合は入力の必要はありません。

登録名 (半角英数字で8文字以内、ブランク不可)	<input type="text"/>
接続先電話番号 (電話番号、半角32桁以内、例:0312345678)	<input type="text"/>
ログインID (半角32桁以内)	<input type="text"/>
ログインパスワード (半角32桁以内、@は使用できません)	<input type="password" value="*****"/>
プライマリDNS (接続先のDNSサーバアドレス、000.000.000.000形式)	<input type="text"/>
セカンダリDNS (接続先のDNSサーバアドレス、000.000.000.000形式)	<input type="text"/>

## 6 すべての項目を入力したら、画面下の **設定実行** ボタンをクリックします。 **設定実行** ボタンをクリックすると、設定した内容がAtermに書き込まれます。

6  
Macintosh

1  
準備

2  
アナログ機能

3  
T A機能

4  
ルータ機能



## ④ ルータ機能でインターネットに接続する...

### WWWブラウザを使ってインターネットに接続する

前ページから引き続き、インターネットに接続・切断について、WWWブラウザを使う方法を説明します。

ここでは、実際にプロバイダのアクセスポイントに電話をかけてインターネットに接続します。

#### 手順

以下の手順で接続します。

- 1 WWWブラウザを起動します。
- 2 見たいホームページのアドレス(URL)たとえばhttp://aterm.cplaza.ne.jp/)を入力し、リターンキーを押します。  
ホームページを見ることができます。



Atermをお買い上げいただいたお客様を対象にユーザ登録を行なっています。登録していただいたお客様には、Atermをご使用のお客様へのサービスの一環といたしまして、電子メールによる新製品情報、バージョンアップの案内を中心に、さまざまな情報提供やキャンペーン、イベントなどの特典・サービスを提供して参ります。

是非ユーザ登録を行なってください。

登録はインターネットホームページ「AtermStation」にて行なっています。

事前にご用意いただくもの

1. Aterm本体(機種名、製造番号)
2. 電子メールアドレス(最も一般的に使用しているアドレス)
3. Atermを使用するINSネット64の契約者回線番号

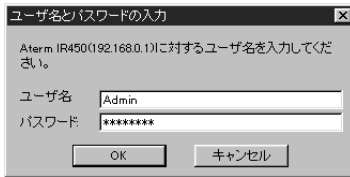
## WWWブラウザを使って回線を切断する

WWWブラウザによって切断をすることもできます。

手順

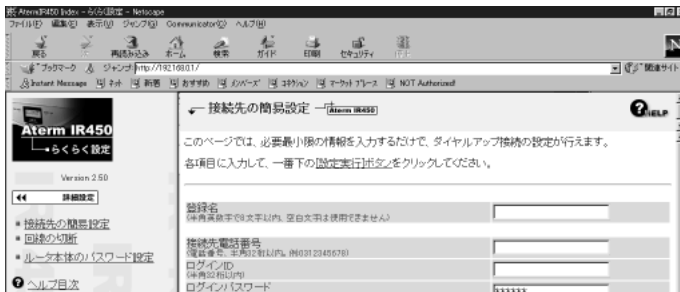
以下の手順で接続します。

- 1 WWWブラウザを起動します。
- 2 WWWブラウザのURL入力欄に「http://192.168.0.1」と入力します。
- 3 「ユーザ名」と「パスワード」を入力する画面が表示されます。  
 「ユーザ名」は、半角で「Admin」と入力します。  
 「Admin」は、固定となっています。(AdminのAは大文字です。)  
 「パスワード」は、らくらくウィザードで設定した「アクセスパスワード」を入力します。  
 [OK] ボタンをクリックします。



ここでは、「Netscape Navigator」を使用しています。お使いのWWWブラウザによっては画面が異なりますが、設定方法は同じです。

- 4 [AtermIR450らくらく設定] ページが表示されます。  
左フレーム内の「回線の切断」の文字をクリックします。



6  
Macintosh

1  
準備

2  
アナログ機能

3  
T/A機能

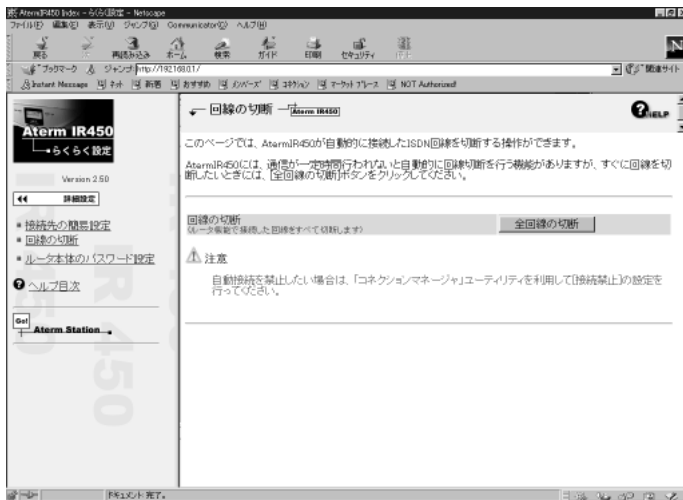
4  
ルータ機能

5 [ 回線の切断 ]の画面が表示されます。

[ 回線の切断 ]で、**全回線の切断** ボタンをクリックします。

ルータ機能によって接続されている回線がすべて切断されます。

正常に切断されると、Atermの液晶ディスプレイに「データセツダン」が5秒間表示されます。



6  
Macintosh

1  
準備

2  
アナログ機能

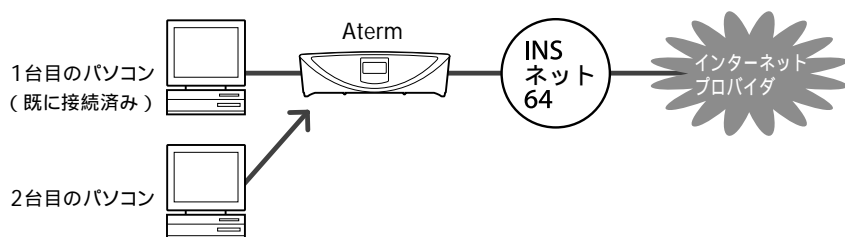
3  
T A機能

4  
ルータ機能

## 6-4-4 LAN上に2台目のパソコンを追加する

ここではパソコンをもう1台追加する場合について説明します。既にインターネットへの接続先を1つ、Atermを1台、パソコン1台の環境を動作させることの環境ができていることとします。

環境をまだ、構築されていないかたは、「6-4 ルータ機能を利用してインターネットへダイアルアップ接続する」269ページを参照してください。

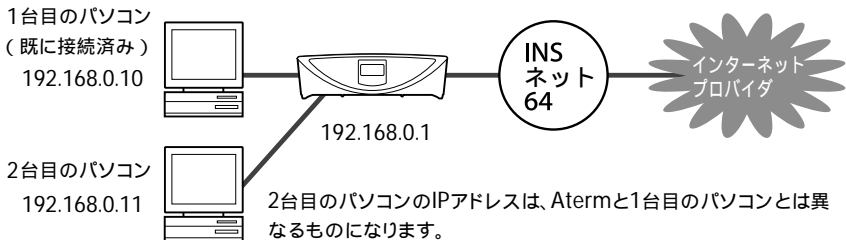


2台目から4台目までは同様な手順によりパソコンをAtermの10BASE-Tポートに追加できます。

10BASE-Tポートの4番目のポートに、パソコンを接続する場合は、「カスケード切り替えスイッチ」を「PC」側にする必要があります。

## 2台目のパソコンを追加する手順...

2台目のパソコンのIPアドレスは、AtermのDHCPサーバにより、自動的に割り当てます。  
1台目のパソコンの設定と同様にすることで簡単に追加できます。



### 手順

以下の手順で設定します。

- 1 Atermと2台目のパソコンを10BASE-Tで接続します。
- 2 2台目のパソコンのネットワークの設定をします。  
 ●●参照 「ネットワークプロトコル(TCP/IP)の設定」275ページ

以上で、Atermと2台目のパソコンとの接続が完了です。

インターネットへの接続・切断は、1台目と同じ手順で行います。1台目のパソコンを設定したときの、各OSのページを参照してください。

## 用語解説

### Bチャンネル

ISDN で使用される通信速度が64Kbpsの情報チャンネルのことです。INSネット64に契約すると、1契約回線で2本のBチャンネルを使用することができるようになります。

### CHAP(Challenge Handshake Authentication Protocol)

PPP接続の際に相手確認を行なうためのユーザ認証方法です。PPP接続の際のユーザ認証方法には、いくつか種類がありますが、CHAPによる認証は他のユーザ認証方法(PAPなど)に比較してより安全なユーザ認証方法とされています。

### DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)

TCP/IPプロトコルを使用して通信するシステムにおいては、TCP/IPプロトコルを使用する各通信機器には固有のIPアドレスを持つ必要があります。このIPアドレスを各通信機器に設定させるためのプロトコルがDHCPです。DHCPプロトコルを使用して、各通信機器がIPアドレスを取得する際には、IPアドレスに加えて、デフォルトゲートウェイやドメイン名などのその他の情報も一緒に取得することができ、ネットワークの設定、管理を容易にすることができます。

### DNS(Domain Name System)

TCP/IPプロトコルを使用して通信するシステムにおいては、各通信機器との間の通信をIPアドレスをお互いに指定して通信を行ないます。このIPアドレスに代わりに人が覚えやすい文字を使えるようにするためのシステムを、DNS(ドメインネームシステム)といいます。DNSでは、通信機器を指定するために入力された文字(名前解決要求)からその文字に対応したIPアドレスを調べてくれます。これにより、人がIPアド

レスを直接指定してTCP/IP通信する代わりに、各通信機器などを名前で指定して通信することが可能になっています。

### Dチャンネル

ISDN で使用される通信速度が16Kbpsの制御用チャンネルです。このチャンネルは、主にデータ通信を制御するための情報を取り交わすことを行なっています。また、AtermのUUIメールもこれを使用しています。

### Ethernet

ゼロックス社、DEC社、インテル社によって開発された通信方法をいいます。この通信で使用されるケーブルとして代表的なものとして「10BASE-T」があります。

### INSネット64

「INSネット64について」19ページ

### IPアドレス

「IPアドレスについて」96ページ

### LAN型ダイヤルアップ接続

LAN型ダイヤルアップ接続は、契約するプロバイダから複数個のグローバルIPアドレスをもらい、必要に応じて回線を接続してインターネットに接続する形態です。プロバイダから指定された複数個のIPアドレスがいずれもグローバルIPアドレスであるため、アドバンスドNATを使用しなくても各パソコンにそのグローバルIPアドレスを指定すれば、それぞれのパソコンがインターネットに接続することができます。

### MP(Multilink PPP)

複数のBチャンネルを使用してPPP通信することをいいます。Atermでは2つのBチャンネルを同時に利用して128KbpsのMP通信を行なうことができます。

## OCN(Open Computer Network)エコノミーサービス

OCNエコノミーサービスは、NTTコミュニケーションズ株式会社が提供するデータ通信用の回線の中の1つのサービスです。常時インターネットに接続される形態となります。OCNエコノミーサービスでは、サービスの契約時にグローバルIPアドレスを複数個もらうことができます。もらえる個数などによって、使用料金が異なります。

## PAP(Password Authentication Protocol)

PPP接続の際に使用される認証プロトコルの1つです。CHAPによる認証では、認証データが暗号化されるのに対して、PAPではユーザ名とパスワードが暗号化されません。

## PPP(Point to Point Protocol)

お互いに離れたている2点間をデータ通信で結ぶ際の通信プロトコルで、このプロトコルを使用することで、お互いにどんな通信手段(TCP/IP、IPX、NetBEUIなど)で通信するかを取り決めて通信を開始することができるようになっていきます。

## TCP/IP

インターネットで接続するための基本的な通信プロトコルです。このプロトコルを用いてさまざまなアプリケーションが使われています。ファイル転送アプリケーション(ftp)、電子メールアプリケーション、そしてホームページなどを参照するWWWブラウザアプリケーションなどで、このTCP/IPが使われています。

## WAN(Wide Area Network)

お互いに離れた場所を通信回線で結んだネットワークのことをいいます。この接続には、一般的ISDNや専用線を使うことが多いですが、公衆回線を使うこともできます。

## アドバンスドNAT

Atermの10BASE-TポートとUSBポートで使用しているプライベートIPアドレスを、端末型ダイヤルアップ接続の際にプロバイダからもらったグローバルIPアドレスに1:1に変換する機能をいいます。

## インターネットサービスプロバイダ

インターネットへの接続サービスを提供している会社のことをいいます。プロバイダと省略して呼ばれることも多いです。

## グローバルIPアドレス

インターネット上の通信相手を特定するために使用されるアドレスのことをいいます。このアドレスは、インターネット上で重複することは許されていません。IPアドレスの種類の一つです。これとは別にプライベートで使用に限定して利用できるプライベートIPアドレスというものもあります。

## ダイヤルインサービス

INSネット64の付加サービスの1つで、契約したINSネット64に複数の通信機器がつながっている場合に、各機器に対してダイヤルイン番号(契約者回線番号とは異なる)を設定することができます。このサービスを利用することにより、ダイヤルイン番号を相手が指定してダイヤルすれば、その指定した通信機器に直接接続することができます。

## 端末型ダイヤルアップ接続

プロバイダとの接続形態の一つです。プロバイダに接続した際に、1個のグローバルIPアドレスがもらえる接続形態です。このままでは、パソコン1台しかインターネットに接続できないのですが、アドバンスドNAT機能を使うことにより、複数台のパソコンもインターネットに接続できるようになります。

## ドメイン名

インターネット上の通信機器はそのIPアドレスによって区別されます。このIPアドレスと対に

なった文字を使用することができます。IPアドレスが数字の羅列で覚えにくいに対して、インターネット上の通信機器を覚えるのに、文字のほうが覚えやすいので、インターネット上の通信機器を指定するときには、IPアドレスで指定する場合と、文字で指定する場合があります。このIPアドレスと対になった文字のことを、ドメイン名といいます。例としてNECの場合には、次のようになります。

例:nec.co.jp

#### パケット

ネットワーク上を通るデータの特定のかたまりのことです。そのデータのかたまりは、さまざまな情報が埋め込まれており、埋め込み方や大きさなどはまちまちです。使用されている通信方法やプロトコルによってデータのかたまりの構造は異なります。

#### バス接続

INS ネット 64 では、同一回線上に ISDN 通信機器を最大 8 台まで設置することができます。このような接続形態をバス接続といいます。

#### ハブ(HUB)

10BASE-Tケーブルを使用してLANを構築するとき使用します。Aterm ではこのハブ(HUB)ポートを 4 つ持っています。

#### ファームウェア

Atermの本体内部に埋め込まれているソフトウェアのことをいいます。

#### プライベートIPアドレス

プライベートなLANで使用することのできるIPアドレスのことをいいます。プライベートIPアドレスで直接インターネットに接続することはできません。インターネットに接続する際には、AtermのアドバンスドNAT機能を使用する必要があります。

#### フラッシュメモリ

AtermのファームウェアやAtermの設定情報が保存されているメモリのことです。このメモリは一度データを書き込んだ後でも、それらのデータを書き換えることができます。ファームウェアや設定情報を更新することができます。また本体の電源を切断してもこれらのデータは保持されるようになっています。

#### プロトコル

通信機器やコンピュータとの間でデータ通信するための規約(取り決め)のことをいいます。このプロトコルをお互いに理解できる環境を持っているときに正しく通信できます。

#### リモートアクセス

離れた地点のパソコンからINS ネット 64 や公衆回線などを通じてLANなどのネットワークにアクセスすることをいいます。リモートアクセスすることにより遠く離れた場所から特定のパソコンなどへの接続が可能になります。SOHO環境やモバイル環境ではよく利用されます。

#### ルータ

複数のネットワークを接続し、そのネットワーク上のデータを事前に決めてある配信ルールに従って配信する機能を持つ装置をいいます。ルータではそのプロトコルや送付アドレスなどを読み取り適切なネットワークへそのデータを送り出します。



# 索引

## 記号

10BASE-T ポート 15, 47  
10BASE-T ポート状態表示 LED 15

## A

AtermStation  
Macintosh 279  
Windows98/Windows95 125  
WindowsNT4.0 222

## B

BIGLOBE 81, 102  
Bチャンネル  
用語 284

## C

CCL ファイル 252  
CD-ROM の使い方  
Macintosh 232  
Windows98/Windows95 56  
WindowsNT4.0 168  
CHAP  
用語 284

## D

D-SUB25 ピン変換コネクタ 10, 46  
DHCP 97, 209, 271  
用語 284  
DNS 28  
プライマリ DNS 113  
用語 284  
DNS について  
Windows98/Windows95 97, 209, 271  
DSU 32, 39  
Dチャンネル  
用語 284

## E

Ethernet  
用語 284

## F

FreePPP 252  
FreePPP2.6 258, 265

## I

i・ナンバー 24  
Macintosh 237  
Windows98/Windows95 67  
WindowsNT4.0 174  
INS ネット 64 19, 38  
INS 回線コネクタ 14  
INS 回線リバーススイッチ 14, 38  
IP アドレスについて  
Windows98/Windows95 96, 208, 270

## L

LAN 型ダイヤルアップ接続  
用語 284  
LAN ランプ 12  
Lmhosts 136

## M

Mac 変換ケーブル 10, 46  
MP  
用語 284  
MSG (MESSAGE) ランプ 12

## O

OCN  
用語 285  
OCN エコノミー 17, 98, 210, 272  
Open Transport PPP 252, 262

## P

PAP  
用語 285  
PPP  
用語 285  
PPP ソフトウェア 252  
PWR (POWER) ランプ 12

## R

RS232C ケーブル 10

## S

S/T 回線コネクタ 15

SD/RD (Send Data/Receive Data)ランプ 12

S 点ユニットカバー 14

## T

TCP/IP 213

用語 285

TCP/IP ソフトウェア 251

TCP/IP の設定 118

TCP/IP を追加 85, 104

## U

USB ケーブル 10, 14, 51

USB ドライバ

インストール 106

インストール/アップデート 138

USB ポート 14, 50, 107, 157

USB ポートと接続 50

USB ポート用アダプタ 145, 149

UII メール 20

## W

WAN

用語 285

WWW ブラウザ 29

## ア

アース線接続端子 14, 41

アクセスポイント 28

アドバンスド NAT

Macintosh 270

Windows98/Windows95 96

WindowsNT4.0 208

用語 285

アナログポート 15, 43

アナログポートの設定

Macintosh 237

Windows98/Windows95 65

WindowsNT4.0 173

## イ

インターネットサービスプロバイダ  
用語 285

## エ

液晶ディスプレイ 12

絵文字 12, 13

## カ

回線ケーブル 11

カイセンショウガイ 42

各部の名称 12

カスケード切替スイッチ 15

漢字 Talk 251

## キ

疑似キャッチホン

Macintosh 247

Windows98/Windows95 76

WindowsNT4.0 182

## ク

グローバル IP アドレス

Windows98/Windows95 96, 208, 270

用語 285

グローバル着信とは 26, 69

## ケ

契約者回線番号 24, 26

## コ

工場出荷時 17, 18

## シ

終端抵抗切替スイッチ 15

初期化する 17

## セ

節電モード 35

## タ

ダイヤルアップネットワーク 82  
ダイヤルアップネットワークモニタ 91, 206  
ダイヤルインサービス 26  
用語 285  
端末型ダイヤルアップ接続 29  
用語 285

## テ

データポート 14  
停電モード切替スイッチ 14  
ディップスイッチ 16, 17  
電源 14, 41  
電子メール着信通知 20

## ト

ドメイン名  
用語 285

## ナ

ナンバー・ディスプレイ  
Macintosh 236  
Windows98/Windows95 64  
WindowsNT4.0 172

## ハ

バケット  
用語 286  
バス接続  
用語 286  
ハブ (HUB)  
用語 286

## ヒ

ピクトグラム 12, 13

## フ

ファームウェア  
用語 286  
フッキング

Macintosh 246  
Windows98/Windows95 75  
WindowsNT4.0 181  
プライベート IP アドレス  
Windows98/Windows95 96, 208, 270  
用語 286  
フラッシュメモリ  
用語 286  
フレックスホン 22  
プロトコル  
用語 286

## ユ

ユーティリティ  
インストール  
Macintosh 232  
Windows98/Windows95 56  
WindowsNT4.0 168

## ラ

らくらくウィザードとは 59  
らくらくユーティリティ 169

## リ

リモートアクセス  
用語 286

## ル

ルータ  
用語 286

## ロ

ローゼット 43



# C&C for Human Potential



この取扱説明書は、エコマーク認定の再生紙を使用しています。